

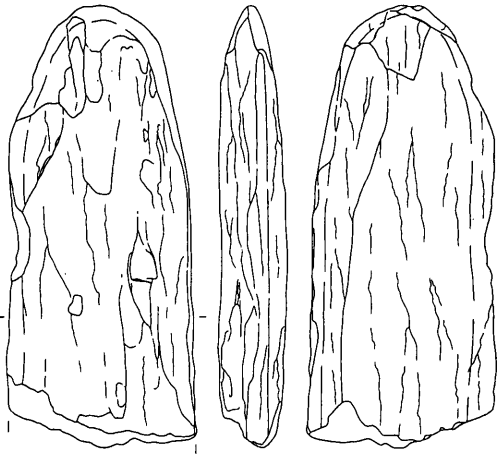
<結晶片岩製石剣・石棒類> (第255図)

凸帯文系土器が少量出土した溝 S D 34からは、土器に伴って「石剣」と報告された結晶片岩製の石製品 2 片 (第255図 2, 3) が出土している。また同様な破片が S R 04 下層で出土しており (第255図 1) 龍川五条 I 式期 (前期前半) にほぼ限定できる遺物である。「石剣」として報告されているように器体は幅 6 ~ 7.5cm の扁平な菱形を呈し、下端部に長さ 11.5cm, 幅 4.4cm の柄を作り出すものである。断面菱形とはいっても鑄は不明瞭で、刃部の研ぎ出しもきわめて粗雑。切先の破片 (3) も先端は尖っていない。それに対して柄の下端部は丸く丁寧に仕上がっている。S R 04 出土例は先端部の形状が 3 と類似することから上半部の破片と考えられるが、一方の刃部のみがやや鋭く研磨されるのみで全体的に粗雑な作りである。石材はいずれも石英結晶や節理の空隙が目立つ質の悪い結晶片岩で、石斧や石庖丁に使用される節理が顕著な粗質の緑泥片岩とくらべてもさらに質は劣る。このような石材は、近畿地方を中心として縄文時代晩期後半の凸帯文期に発達する長さ 40 ~ 50 cm, 幅 5 cm ほどの石棒によく見られるもので、瀬戸内沿岸においてもその種の石棒は兵庫県口酒井遺跡第 11 次調査 (南 1988), 同県大開遺跡 (前田 1993), 徳島県三谷遺跡 (勝浦 1997), 香川県井手東 II 遺跡 (山元 1995) など凸帯文期から弥生前期前半の遺跡で出土している。この石製品の全長がどれほどのものか推測する材料には乏しいが、2 の上端の厚みが 3 cm あるのに対して、同一個体と推定される 3 の下端の厚みが 2 cm と薄くなっており、先端に向かってスムーズに薄くなるものとすれば全長 50 cm 程と見込まなければ不自然である。

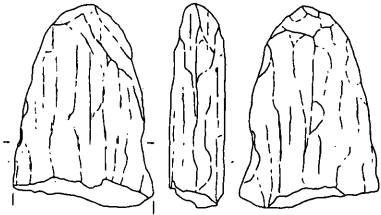
この種の石製品が先の磨製石剣のような北部九州や朝鮮半島南部に遡源する大陸系磨製石器、あるいは青銅武器を模倣した武器形石製品の系譜に直接関与しないのは明かであるが、唐古遺跡などで出土する前期の剣形木製品には全長が 60 cm を越える断面が扁平な菱形を呈するものがあり (中村 1980), 石材や素材あるいは形態的にも変容を来した武器形祭器が各地域で個別的に展開した可能性も十分に考えられる。石英結晶や節理の空隙が目立つ質の悪い結晶片岩を、それも敲打成形後に十分な研磨を施さない状態で製品とする特徴は、石材選択、技術的系譜そしてそのサイズの面でも先に指摘した凸帯文期の粗製の石棒類に類似しており、在来の祭祀遺物との系譜関係にも注意を払う必要がある*²¹。もっとも大陸系磨製石器の未製品である可能性も全く否定することはできない。しかし最終研磨したとしても石材からみて実用に耐えうる武器にはなり得ない。

4 ~ 8 は粗質の結晶片岩や緑泥片岩を素材とする石製品である。4 は幅 4 cm, 厚さ 2 cm

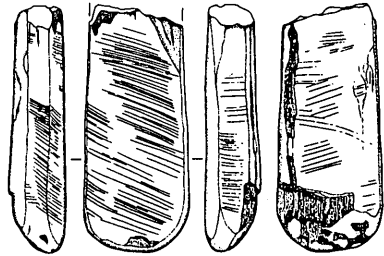
の基部片で研磨は1～3より丁寧である。5～8は形態や大きさにバラツキがあるが断面を円～楕円形に仕上げる共通性もある。このような棒状の石製品が祭祀具として機能したかどうかはわからない。石器・石材流通における付属的な交換財であった可能性もあり、しばしば「搬入石材」として一括して他の石材と一緒に取り扱われることも多い。しかし石材が共通する1～3の祭器と絡めた型式学的研究も進める必要を提起させる一群である。



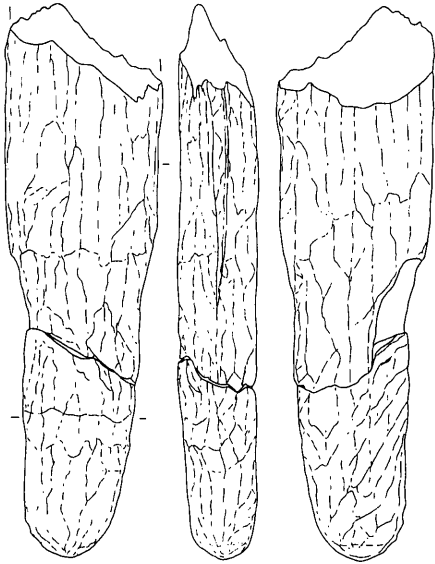
1 (1099)



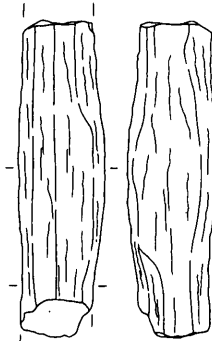
3 (231)



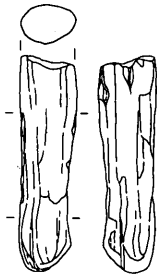
4 (3463)



2 (232)



5 (1120)



6 (246)



7 (3351)



8 (2520)

- 1 · 5 S R 04下層
- 2 · 3 S D 34
- 4 S R 06
- 6 S D 50
- 7 S R 05
- 8 S D 49最下層



第255図 結晶片岩系石剣・石棒類の諸例

(2) 摩滅痕のある打製刃器 (第26表)

当地域に特徴的な金山産サヌカイトを使用した打製石庖丁は、長さ10~15cm、幅3~6cmほどの横長剥片の両側縁に抉りを入れ、背部を敲打して潰し、下縁部に調整加工を施すものを定型的なものとして器種が認定される。しかし、かねてから指摘されている通り打製石庖丁が定型化するのには前期末ごろ(佐原1964)であり、それ以前から存在する当遺跡出土資料中には典型的な打製石庖丁がきわめて少ない。かつて近隣の五条遺跡で出土した抉りの無い剥片石器について、縄文時代後期に系譜をたどれる「異形石庖丁」として報告され(松本1961)、「紫雲出山」報告において「定型化以前の打製石庖丁」と評価された(佐原1964)ものについても、その後の善通寺市永井遺跡出土のスクレイパー類に少なからず含まれる状況(渡部1990)が判明してきており、縄文時代後期以前に遡るイネ資料の増加に連動して、定型化以前の石庖丁が「石庖丁状石器」などとして縄文時代後期まで遡る可能性が指摘される(平井1994)ようになった。

ところがスクレイパーのすべてが定型化以前の石庖丁と認められる訳ではなく、その分類の基準は非常に曖昧である*²²。一方で指摘されているように、これらを使用痕の観察・分析に基づき客観的に評価する方法が求められている(佐原1964)。近年では、型式学的研究に加えて使用痕を顕微鏡で観察・分類し、これらの不定形石器あるいは定形石器においても具体的な機能推定を進める手法も開発されている(御堂島1989・阿子島1989)。それらの使用痕分析は、金属顕微鏡による摩滅面の観察で使用痕自体の分類を行い、土掘りやイネ科植物の切断のみならず皮革や肉類の切断や木材加工など多くの類型を設定しているが、残念ながら今回それを援用できる筆者自身の経験的知識がなく、観察する器具類も揃っていないために、不十分な状態での使用痕の判断を行わざるを得ない。しかし、今回使用した80倍を限度とする実体顕微鏡下でも使用痕は少なくとも肉眼より良好に見ることができ、典型的な打製石庖丁の使用痕と比較検討した結果、多くの剥片石器にも同様かあるいはそれに類似する使用痕と考えられる「摩滅痕」を認めることができた*²³。

もちろん器表面の摩滅がすべて穂摘み(イネ科植物の収穫)による使用痕とは限らず、除草やイネ藁の調整などさまざまな用途が各地域で検討されている(斎野1993・1994)。それらを含めて、ここでは「定型化以前の打製石庖丁」の実態を追究するために、特にスクレイパー類、さらに楔形石器などに転用されたものを含めて、使用痕と考えられる「摩滅痕」をもつものを「摩滅痕のある打製刃器」として、それを形態や素材剥片の選択等によって分類し、摩滅痕との関係をみることにした。

なおイネ科植物の収穫等と同様、石器に摩滅を及ぼす行為に「土掘り」がある。打製石斧の使用痕と石庖丁の使用痕は次のような違いがある。

打製石斧は器体が肉厚で短辺を中心に比較的広い範囲に強い摩滅痕をもち、ほぼ例外なく刃縁部に線状痕が観察できる。器体中央部では剥離の稜線を境にして上下、あるいは左右で摩滅度に違いがある。顕微鏡で観察すると、器面の皺の凹凸に関わらず摩滅が及ぶものが多く、それがより強くなると完全な平坦面を形成するのがわかる。

これに対して、打製石庖丁はあまり強い摩滅痕をとどめるものはなく、刃縁部を中心として剥離の稜線自体が摩滅するものが多い。器体は全体的にロウを塗ったような滑りがみられ、顕微鏡で観察すると器面の皺の凸部が摩滅するが凹部にまでは摩滅が及ばないものが多い。器体の厚みが中間的で、刃縁部が残らないものはこのような器面の皺の顕微鏡の観察に基づいて両者の摩滅痕を区分している。

摩滅痕のある打製刃器の分類（第256図）

摩滅痕が確認できるものを、形態と素材に基づき次の3種に区分する。

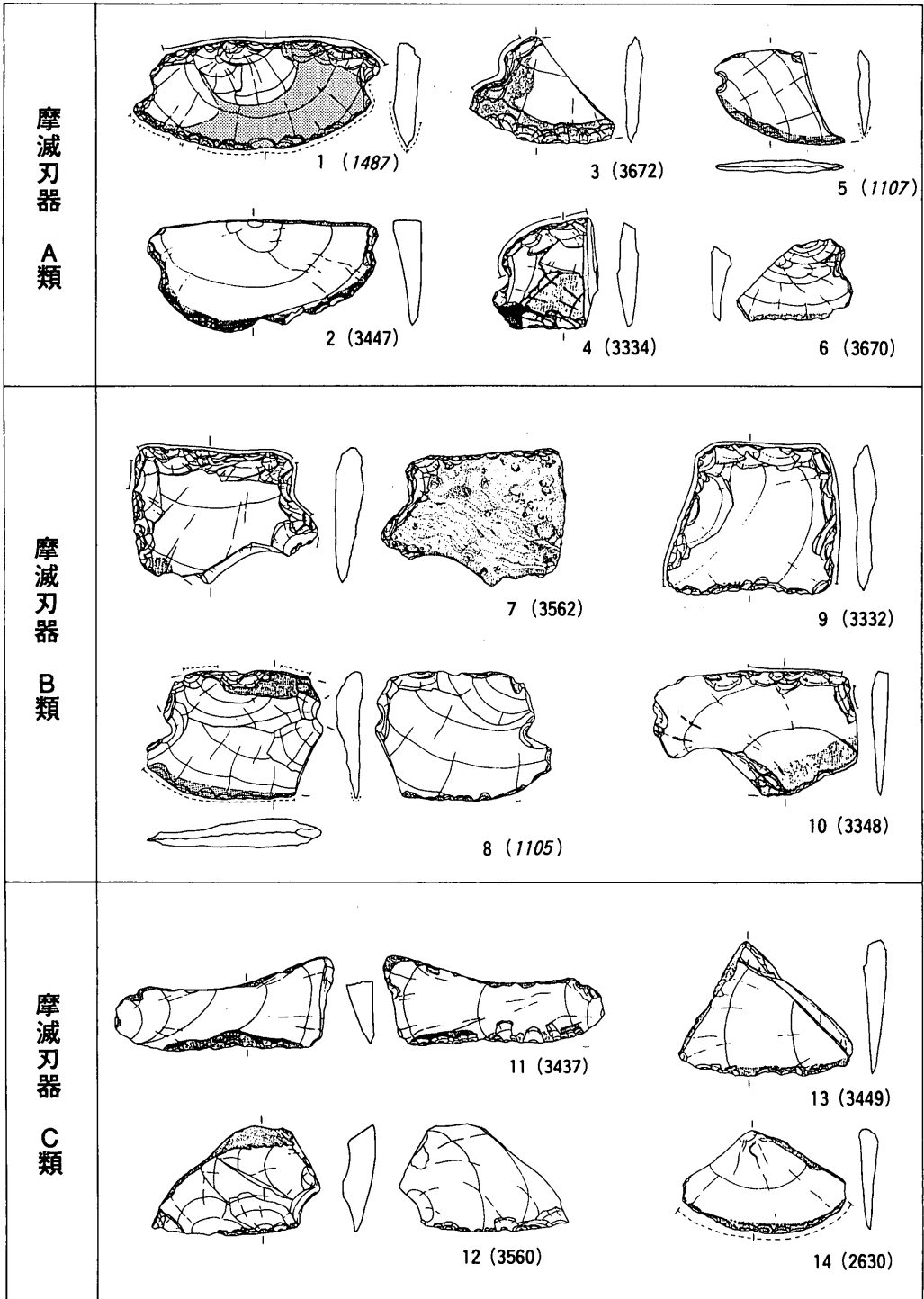
刃器A 典型的な打製石庖丁を含む長さ10～15cm、幅4～5cmのものを標準とし、その相似形のものを含む。剥片の上部を敲打して形状を整えており、両側縁に抉りを入れるものが多いが、同様な法量で抉りをもたないものもある。

刃器B 長さ8～10cm、幅5～7cmの幅広のものを標準とし、その相似形のものを含む。上縁を丁寧な敲打して稜線を潰すものが多い。両側縁あるいは一側縁に抉りを入れるものを含む。

刃器C 長さ7～10cm、幅3～8cmと法量や形状にバラツキがあり、上縁や側縁に素材の自然面を残すものが多い。不定形な剥片の下縁部に長さ5～7cmの調整加工を施し、それ以外の部分は若干敲打するものもあるが、多くは未調整のままである。

使用痕との関係（第257図）

刃器A 刃縁部に例外なく摩滅がみられ、特に強い摩滅がある。体部も1点を除いて強弱はあるが摩滅がみられる。抉りの有無と使用痕は無関係である。



第256図 摩滅刃器の分類

第26表 摩滅刃器一覽表

刃器A		図版		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況		備考
番号	挿図	(拡大写真)								刃縁部	体部	
2808	51	86	S D50	最下層	8.55	5.5	1.3	71.38	○	△		
3334	93	121(257)	S R05		4.75	4.6	0.9	21.05	◎	○		
3444	110	130	S R06		10	4.7	1.2	54.38	○			
3445	110	131	S R06		7.2	4.15	0.8	32.52	△	△		
3670	168	148	S R07		5.05	3.35	0.9	13.23	△	○		
3672	168	148	S R07		6.4	4.5	7.5	19.18	○	○		

刃器B		図版		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況		備考
番号	挿図	(拡大写真)								刃縁部	体部	
2922	58	91	S D50	下層	6.5	4.75	0.9	32.09	△	△		
2990	65	96	S D50	不明	7.6	5.4	0.6	31.33		△		
3141	79	107	S R04	下層	5.1	6.1	1	24.18	△			
3332	92	120(257)	S R05		7.3	6.5	1	60.45	△			
3448	111	131	S R05		8.9	5.45	0.75	41.09	○	△		
3562	152	142	S D61		8.1	5.9	1.5	64.08	○			

刃器C		図版		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況		備考
番号	挿図	(拡大写真)								刃縁部	体部	
2517	27	62	S D49	最下層	5	4.3	1.05	21.12	○			
2630	34	73(257)	S D49	中～下層	7.1	4.4	0.8	20.17	○			
3142	79	108	S R04	下層	5.85	4.4	0.7	18.87	△			
3144	79	108	S R04	下層	5.6	5.9	1.75	52.49		○	打製石斧の可能性あり	
3155	81	110	S R04	下層	5.6	4.3	1.2	28.16	○			
3437	109	129	S R06		9.5	4	1.3	44.9	○			
3438	109	130	S R06		5.6	5.1	0.9	23.32	○			
3439	109	129	S R06		5.2	3.65	0.5	10.98	○			
3440	109	130	S R06		3.9	3.4	1	10.4	○			
3449	111	131	S R06		7.6	6	1	37.25	○			
3450	111	131	S R06		5.7	3.7	0.8	44.47	○			
3451	111	131	S R06		5.4	2.8	0.7	10.69	○			
3452	111	131	S R06		2.7	4.6	1.3	12.83	○	○		
3453	111	131	S R06		2.4	4.1	0.8	9.73	◎	○		
3458	114	133	S R06		7.3	4.5	1.8	60.06	○			
3560	151	142	S D61		7.3	4.6	2	47.89	△			
3674	168	149	S R07		6.25	3.35	1.1	33.52		◎	打製石斧の可能性あり	

刃部片		図版		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況		備考
番号	挿図	(拡大写真)								刃縁部	体部	
2518	27	62(257)	S D49	最下層	4.8	1.3	0.55	3.86	◎	◎	再調整あり	
2519	27	62	S D49	最下層	3.2	3.8	0.7	7.99		△		
2769	46	83	S D49	不明	2.95	2.4	0.7	4.05	◎	◎	再調整あり	
2923	58	91	S D50	下層	4.65	2.1	0.8	6.83	○	○		
2924	58	91(257)	S D50	下層	6.05	2.35	0.8	9.08	○			
2993	65	96	S D50	不明	3.7	2.4	0.35	3.28	○			
3333	93	121	S R05		4.5	3.1	0.6	7.21	◎	○		

体部片		図版		出土遺構	層位	長さ	幅	厚さ	重量	使用痕付着状況		備考
番号	挿図	(拡大写真)								刃縁部	体部	
2639	36	73	S D49	中～下層	2.6	3.2	0.9	9.11		○		
2640	36		S D49	中～下層	2.7	3.45	0.95	10.44		○		
2938	61	94	S D50	下層	2.9	2.9	5.5	6.18		△		
2987	64	96	S D50	不明	4.7	1.7	0.9	8.15		○		
2991	65	96	S D50	不明	3.6	5.2	1.1	18.4	△			
3013	70		S D51		4.9	3.4	1.2	25.24		△		
3146	80	108(257)	S R04	下層	4.6	2.4	0.7	8.46		○		
3343	94	123	S R05		4.4	4.3	1.1	21.5		△		
3344	94	123	S R05		4.8	3	0.9	17.78		◎		
3446	110	131	S R06		7	4.5	0.8	36.64	△			
3447	110	131	S R06		5.6	4.6	0.95	28.04	○	○		
3520	147	138	S D60		5	2.3	0.8	13.28	△	○		
3671	168	148	S R07		3.7	4.3	0.8	17.02	△	○		
3673	168	149	S R07		6.6	2.9	1.95	23.61		○		

◎…強い摩滅 ○…弱い摩滅 △…僅かな摩滅

刃器B 刃縁部に1点を除いて摩滅がみられるが、摩滅の範囲が狭いか部分的で弱いものが多い。体部が摩滅するものは半数あるが、すべて弱い。抉りをもつものは少ない。

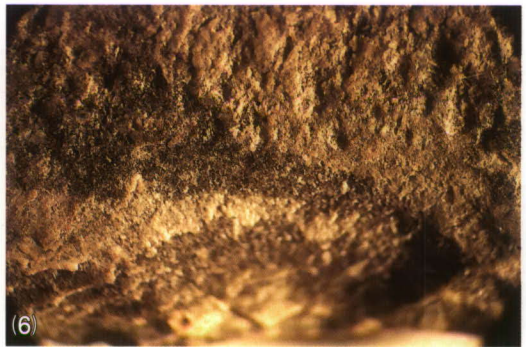
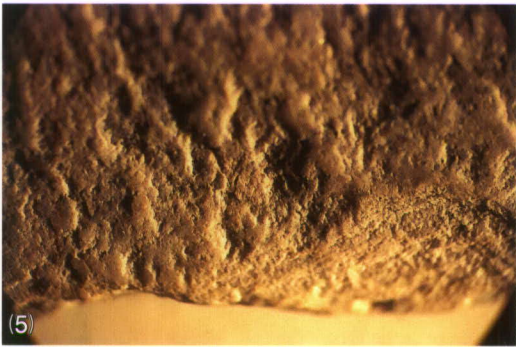
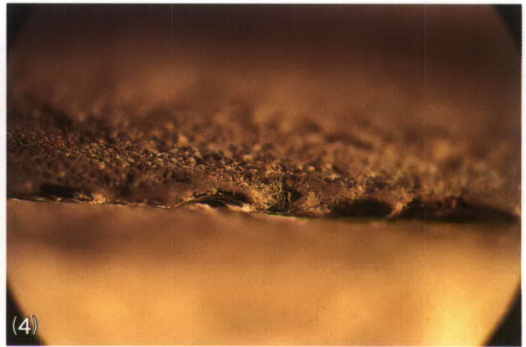
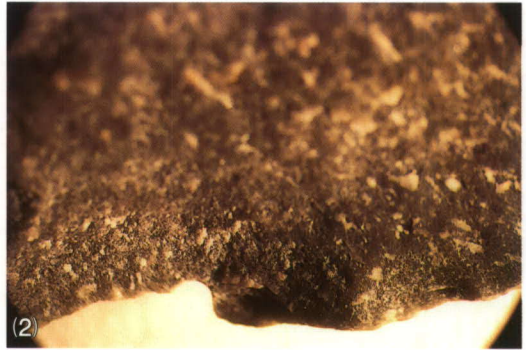
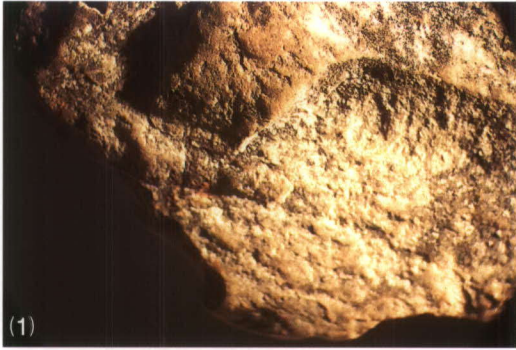
刃器C 刃縁部の摩滅は幅が4mm以下で、刃部幅全体に広がるものが多い。体部に摩滅が見られるものは多くないが、図化できないような微妙な摩滅をもつものは多い。

以上の分類・集計の結果、刃器Aについては形態的には従来の「打製石庖丁」としての概念に合致するもので、それに相当する使用痕が確認できた。抉りをもたない「異形石庖丁」とされた五条遺跡の一群（松本1961）もこの類型に該当しよう。これに対して、刃器Bは刃部の長さの割に器体の幅が大きいという刃器Aとの形態差が使用痕のあり方に影響している可能性がある。部分的に使用痕がみられる状況を加味して、今後検討を要しよう。

刃器Cは自然面を残すものが多く、サヌカイト素材石核から初期に剥離された剥片を利用している。そのために形状にバラツキがあり、きわめて便宜的に準備される道具という印象をもつ。それにもかかわらず、刃縁部に一様な摩滅をとどめるものが多く、むしろ刃器A類とは使用方法や使用期間の安定度の差として位置づけることが可能ではないだろうか。

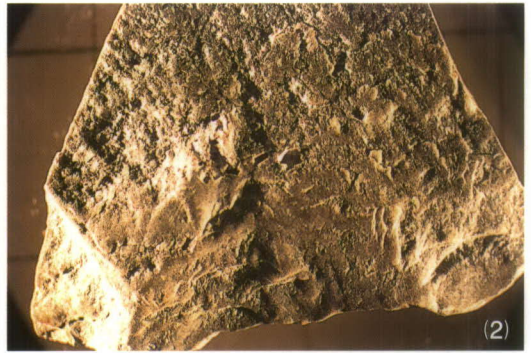
ここで「摩滅痕のある打製刃器」として区分したものは、特に刃器Cについては同様の形態で使用痕が付着しないものも多く、それらはスクレイパーとして一括せざるをえない。使用痕が認識できないほどの少ない回数しか使用に供されなかった可能性、あるいは全く異なる使用痕をとどめない使用方法の可能性などが考えられるが、素材の準備が便宜的である以上それ以上の推測は成しえない。

一方では刃器Aの形状や使用頻度の安定性が注目されるであろう。3444のように上縁に自然面をとどめるものはあるが、多くは器体の全長の少なくとも1.5倍程度の横長剥片を素材として、またそれらを連続的に剥離した先行するネガ面などをもって、打面を丁寧に敲打する技術的な安定性も兼ね備えている。刃器Cのように便宜的に準備される道具と併存することからみると、石器の製作工程においては目的剥片として剥取されて然るべき特徴と条件が存在する。これらが板状素材を母岩とする遺跡内における剥片剥離工程のなかで自給的に位置づけることが可能かどうか、生産・流通にかかわる側面についても問題を提起する。



- | | | |
|-----|-------------|------------|
| (1) | 3334摩滅刃器A類 | 刃部摩滅痕 |
| (2) | 2518摩滅刃器刃部片 | 摩滅痕を切る刃部調整 |
| (3) | 3332摩滅刃器B類 | 刃部摩滅痕 |
| (4) | 2630摩滅刃器C類 | 刃部摩滅痕 |
| (5) | 2924摩滅刃器刃部片 | 刃部摩滅痕 |
| (6) | 3146摩滅刃器体部片 | 体部摩滅痕 |

第257図 摩滅刃器使用痕拡大写真



- (1) 3138 石錘刃部の摩滅痕・線状痕
- (2) 2712 打製石斧刃部の "
- (3) 3339 " "
- (4) 3336 " "
- (5) 3337 打製石斧体部の摩滅痕・線状痕
- (6) 3338 打製石斧刃部の "

第258図 石錘・打製石斧使用痕拡大写真

(3) 土掘具

土掘具である打製石斧は今回報告するもので合計19点を数えた。使用痕が判別しにくい安山岩・流紋岩系石材のものは形態から認定したが、サヌカイト製のものについては使用痕が確実に確認できるものに限定して器種を認定した数量である。「龍川五条I」では56点を打製石斧として報告しているが、使用痕が観察できないものを含んでいるために、同一基準で認定すればもう少し数量は減少する可能性がある。なお、今回報告する中で背面あるは打面部にのみ使用痕をとどめる刃部再調整剥片が6点出土している。

形態（第259図）

長さは最小が7cm、最大が15cmで、13～15cmサイズのもの（1～4）と長さ7～11cmサイズのもの（5・6）がある。永井遺跡の縄文晩期前半に見られる長さ20cmを越える大型のものではなく、後期中葉以来継続的に組成する中型・小型の短冊形の打製石斧を引き継いでいる。最大幅は3.5～8cmとバラツキがある。ただし、着柄部付近で計測すると幅5cm前後に概ね収束し、一部小形のものは3～4cmにまとまる傾向にある。厚さは0.6cmが最小、2.7cmが最大で、2cmほどの厚みをもつものが一般的である。7・8は刃部幅が広い割に薄い一群である。重量は小型のものは30～80gに収まり、通常サイズは130～250gとなる。

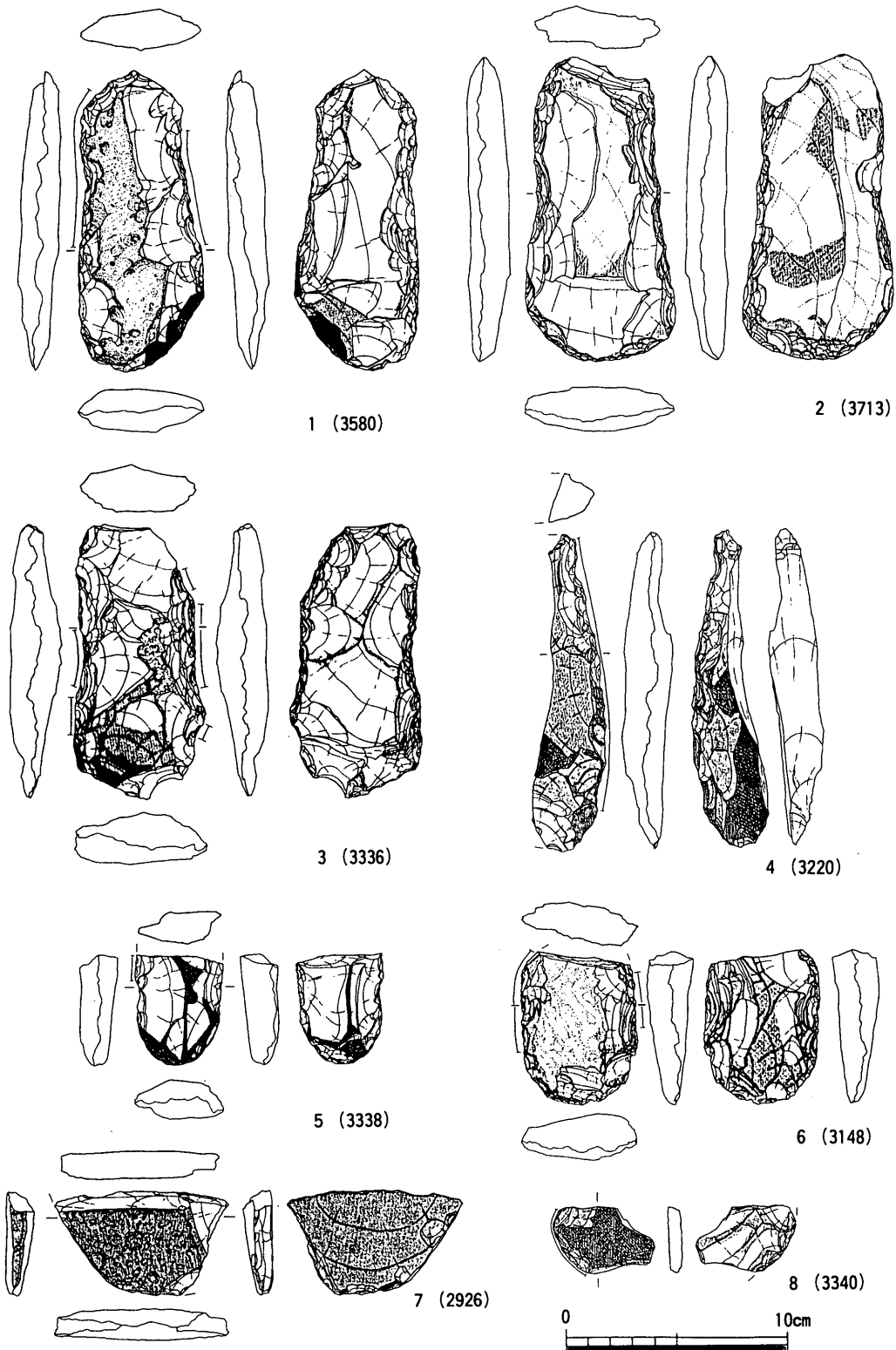
使用痕（第258図）

使用痕は刃部を中心に強い摩滅が確認できる。1のように刃縁部付近の狭い範囲に偏るものあれば、4のように器体のほぼ全面にわたって摩滅がみられるものもある。また、基部の上端にも刃部と同様の摩滅が見られる個体もある（1～4）。これは永井遺跡でも指摘されたように天地を逆転して使用する（渡部1990）こともあったことを示している。ただ刃部に比べて基部の摩滅は概して弱い。

顕微鏡下では摩滅箇所にはほぼ例外なく線状痕が観察できる。ほとんどは器体に平行する垂直方向のものであるが、20°ほど左右に振った方向の線状痕も少量観察できる。これは中間的な方向のものが介在せず、2方向の線状痕として認識できるものが多いことから、器体を斜めに傾けて使用するか、あるいは着柄方法に2種類あったかを考える必要がある。

折損・転用

刃部から上3～5cmのところでは横方向に折損する破片（5・7・8など）が圧倒的に多い。4のように上下方向の強い衝撃によって裁断面を形成するものはきわめて稀で、折損した後に楔形石器に転用されるものは多いが、使用に際しては裁断面を形成するほどの上



第259図 土掘具の諸形態

下の衝撃は加わっていなかった可能性が高い。

以上の土掘具の諸属性を検討した結果を踏まえ、使用された場と使用方法を推定した場合、裁断面をもつ個体が少ない点で礫混じりの微高地上を恒常的に掘り込む状況は想定しにくい。細かな線状痕が観察され、きわめて平滑化した摩滅をもつ点で砂分を多く含む河川埋没層などの湿潤地における使用が考えられよう。また、線状痕の観察についてはもう少し細かな観察や分析が必要であろうが、複数の着柄状況が想定される。使用実験などを行い検証することも重要である。

(4) 石器組成とその背景について

石器組成の概要（第27・28表）

以上の確認事項を踏まえて石器組成を検討する。集計に当たって、次の条件を定めた。

- ① 転用石器については元の器種がわかる場合に限って両方に含めており、総数は個体数とは一致しない。
- ② 摩滅痕のある打製刃器については、刃器A～Cが収穫に使用された局面が少なからず推定できるものと考え、打製石庖丁や石鎌と一括して「収穫具」として集計することとした。これには、本文あるいは観察表でスクレイパーとしたものの一部を含む。
- ③ 未製品は組成に加え、また上記摩滅刃器や打製石庖丁の刃部片、打製石斧の再調整剥片も含めない。
- ④ 結晶片岩製の實用に耐えない武器形祭器などの祭祀具は除外した。
- ⑤ 石器製作に関わる石核、剥片、素材類は除外した。なお楔形石器は小型石器に対応する石核として考え、これも除外した。
- ⑥ 遺跡全体の組成を考えるために、器種認定にやや差はあるが「龍川五条Ⅰ」で報告された石器をそこで認定された器種に含めた。変動する余地としては収穫具がもう少し増える可能性があり、土掘具が逆に減少する可能性がある。

その結果、石鏃が214点で最も多く、全体の39%に相当する。収穫具、スクレイパー、土掘具はそれぞれ60～75点が出土しており、いずれも10～15%である。土掘具が若干減少することはあっても、10%前後までと予想され、前期前半から継続する遺跡として縄文後期以来の系譜を色濃く残している。

磨製石斧類は加工斧が18点とやや多いが、その内訳は柱状片刃石斧の刃部片が7点、基部片が4点、扁平片刃石斧が5点である。しかし、全体から見ると3%にすぎず、伐採斧も8点（1%）で決して多くはない。木工に特に偏重する傾向はこの遺跡では見られない。

第27表 石器組成算出基礎表

種別	器種	SD49最下層	SD49下層	SD49中(下)層	SD49上層	SD49層位不明	SD50最下層	SD50下層	SD50層位不明	SK87	SD51	SR04下層	SR04中層	SR05	SX07	SD52	SR06	前池地区中世遺構	SD60	SD61	SD62	SD64	SR07	IVB区近世遺構	包含層	小計	I区、IVA区	合計	
武器類	石鏃			2	1	1	2	4	2				1	8		1	2	2	2	10	3		26	1	12	80	134	214	
	(未製品)	4				1						2							2				11		10	30		30	
加工具	磨製石剣											1											7		2	23	21	44	
	(未製品)			1												1	2	1								3		3	
	石靴																1	1								1		1	
收穫具	スクレイパー	1	1	1	4	3	1	3	3			4	2	1			1	1					1			30	45	75	
	摩滅刃器A						1						1				2	2					2			6	18	24	
	摩滅刃器B							1	1			1	1				1	1					1			6		6	
	摩滅刃器C	1		1							3						10	10					1			17		17	
	磨製石砲丁		1	1								1					1	1								3	19	22	
土掘具	(未製品)	1										1													1	5	5		
	石鏃	1																								1	1	2	
木工・伐採具	打製石斧			2	1			1				2	1	5									1		2	15	56	71	
	磨製伐採斧																								1	2	2	6	8
	柱状片刃石斧			1	1																					2	11	13	
	扁平片刃石斧								1						1										1	3	2	5	
	砥石	1	1	1			2																			5	6	11	
	叩石		1			1		1										2								5		5	
	台石・石皿	1	1	1	1	2	2					2							1							11	2	13	
その他	使用痕剥片	2			2		3	3				1	4												1	16		16	
	穂摘具刃部	2				1	2	1					1													7		7	
	穂摘具体部片			2			1	1	2		1	1	2				2	2					2			14		14	
	打製石斧刃部																		1							6		6	
	再調製剥片							1				1	1	2												4		4	
	打製石斧体部片	1			1							2						1								4		4	
	石棒類													1				1								3	3	6	
楔形石器		1	4	3	2	7	2	1	2		1	4	1	3			4	2	2	4	1		6	1	2	50	3	53	
サスカイト石核									1																	1	2	3	
山岩・流紋岩剥片								4	2							1							1			8		8	
安山岩素材														1										2		3		3	

第28表 石器組成一覽表

種別	器種	数量合計			比率合計 (%)		
		I	II	I + II	I	II	I + II
武器類	石鏃	80	134	214	35.4	41.6	39.1
	磨製石剣	0	1	1	0.0	0.3	0.2
加工具	石錐	23	21	44	10.2	6.5	8.0
	石匙	1	0	1	0.4	0.0	0.2
	スクレイパー	30	45	75	13.3	14.0	13.7
	穂摘具	32	37	69	14.2	11.5	12.6
収穫具	石鎌	1	1	2	0.4	0.3	0.4
土掘具	打製石斧	15	56	71	6.6	17.4	13.0
木工・伐採具	磨製伐採斧	2	6	8	0.9	1.9	1.5
	柱状片刃石	2	11	13	0.9	3.4	2.4
	扁平片刃石	3	2	5	1.3	0.6	0.9
その他	砥石	5	6	11	2.2	1.9	2.0
	叩石	5	0	5	2.2	0.0	0.9
	台石・石皿	11	2	13	4.9	0.6	2.4
	使用痕剥片	16	0	16	7.1	0.0	2.9
合計		226	322	548	100.0	100.0	100.0

※ I…「龍川五条」 II…本書

石器組成の特性と背景

他の遺跡の組成等と比較して、当地域の石器組成の特性とその背景について触れておきたい。

<生業>

まず、打製石斧については縄文時代の石器というイメージに反して、少なくとも10%を越える組成（実点数で71点）を示す点は重要である。遺跡の下層、あるいは近辺に縄文期の遺構等（自然河川はあるが、人工遺物は出土しない）がないことから、混在品とは考えられず、弥生時代前期段階において型的にも従前と変わらない打製石斧が使用されていたことを示すものである。この現象は決して例外的ではなく、前期I a期から開始される坂出市下川津遺跡で79点（10%ほど）出土しており、また当遺跡に隣接する前期II b期から開始される五条遺跡でも8点（6%ほど）見られることから、縄文後期段階の永井遺跡で見られる50%近い組成から、次第に減少しつつ、弥生中期以降に消滅する器種であることがわかる。つまり弥生時代に至って突然消滅するといったような現象は生じていない。

ところで、下川津遺跡では長さ20cmを越える大形の有肩打製石斧が出土している。この

ような大形の打製石斧は徳島県や島根県などで散見されるものであるが、弥生文化における畑作系譜の要素の一つではないかとの見方もある。ともすると、香川県の弥生期の石器に打製石斧が多いのはこのような畑作系譜の弥生文化の一派が定着したことによるものと考え方もできないことはない。しかしながら、少なくとも当地域では縄文時代後期以来短冊形の打製石斧が主体で、弥生期に至っても同様の型式が継続する。つまり、前期 I a 期に開始される下川津遺跡において仮に新たな文化要素としての大形有肩打製石斧が製作されたとしても、少なくともその後当地域には定着することなく、旧態前とした短冊形打製石斧を使用し続けている。

収穫具は71点（15%）が出土した。これには磨製石鎌2点、磨製石庖丁22点が含まれる。西日本の弥生時代の収穫具の比率は、前期段階で10～20%、中期以降に30%を越える地域が多い。香川県においても高松市浴長池遺跡で中期前半で20%を越える比率を示す。当遺跡の組成はそのような上昇傾向の収穫具の数量と見てよいであろう。ただし他の50点あまりは在地のサヌカイトを石材とする打製の収穫具である。すでに記したが、刃部等の摩滅の観察を通して、今回はスクレイパーとの区分を試みた。しかし形態的に同じでも、摩滅が観察されるものもあれば、確認されないものもある。型式学的な区分が難しく、いわば万能刃器に供されるサヌカイトの特殊性を示している。

当遺跡出土の打製収穫具は、両端に抉りをもつ「打製石庖丁」が丁度定型化し始める段階に相当するものと考えられる。それは両端に抉りをもつ個体の形態的なバラツキが大きいことによる。摩滅刃器分類のAの多くは通常サイズと形態を備えているが、Aでも小形のものや、Bに分類した幅の広いもの等においても両端、あるいは一方だけに抉りを入れるものがある。これは、縄文時代後期段階からすでに不定型な刃器に抉りを入れるものが少量であるが認められることからみて、複数存在したであろう刃器の使用法の一つが、後に定型化した打製石庖丁の形態として採用されたものと推測される。一方で瀬戸内海対岸の岡山県では、石器の終末まで同じ金山のサヌカイトを石材としていながら、抉りを入れない打製石庖丁が多く見られ、香川県の様相とは全く異なっている。これは作物の収穫にあたっての具体的な使用方法について地域毎にバラツキがあり、それぞれ独自の機能性を追求する方向で定型化したことを反映している。つまり、定型化の過程は石材産地ではなく石材消費地で個別に進行した訳で、素材となる石材が縄文期以来連綿と続く流通網を媒介として安定して入手可能であったことが前提となる。ここにも縄文期からの連続性を認め

ることができる。

また、今回のような摩滅痕に基づいて縄文後晩期のスクレイパーを観察すると、収穫具として認定できるものも多く含まれている。ただ全体として摩滅の度合いが弱く、摩滅刃器Aと同様の形態のものが多いが、当遺跡出土例ほど顕著な摩滅は見られない。刃部付近が少し摩滅する程度のものが圧倒的に多く、摩滅の状況からすると、当遺跡の摩滅刃器B、Cの刃部付近の摩滅に近いようである。つまり当遺跡出土の摩滅刃器との違いは、一定の形態を備えた摩滅の度合いが強い一群（摩滅刃器Aの一部）の有無にある。これには、一定の形態を備えた刃器を特に長期間使用する機会が多くなったか、あるいは特に強い摩滅を伴う新たな作物（この場合は水稻と限定してよいただろう）を収穫するようになったか、という複数の回答例が想定できる。また、入手される石材の総量が弥生期に至って減少し、一個体の刃器の使用頻度が増したためという考え方もあろう。ただ、そうであれば当遺跡に摩滅の度合いが低い刃器B、Cが多く出土する点の説明が付きにくい。つまり、2つの回答例の内、前者は弥生期以降の収穫具の定型化の傾向と整合し、後者は現段階で遡りうる水田遺構（坂出市川津下樋遺跡の弥生前期水田）の上限と合致する。いずれとも判断のしようがないが、少なくとも比較論的に推定すれば縄文後期段階では区画された集約的な水田を想定するのは困難で水稻以外の収穫作物の栽培を想定すべきであり、弥生前期に至ってもそのような水稻以外の収穫作物の栽培は、集約的な水稻耕作と並行して一定程度それが継続していたといえる。先にみた打製石斧の動向とも一致する点である。

堅果類等の調理具と推定される石皿については、13点（5%）が出土している。しかし、その多くはアバタ状の敲打痕が多く見られ、磨面はさほど顕著でないもので、主として石器製作時の台石として使用された可能性が高いと考える。永井遺跡で出土している縄文時代後期～晩期の石皿もやはり敲打痕を留めるものは多いが、磨面が特に顕著で往々にして中央部に使用による窪みをもつものが目立っている。そのような形態の石皿は当遺跡においては、SR06で出土した3456が唯一のもので、遺跡内での製粉作業が縄文時代後期～晩期ほどの頻度で行われたとは考えにくい。永井遺跡では縄文時代後期中葉および後葉の河川から出土する石皿類が非常に多く、その後晩期前半の打製石斧の盛行に伴って減少傾向にあるとされる（渡部1990）。同時に収穫具と考えられる先の刃器類も一旦減少する傾向にあるが、弥生期に至ると当遺跡含めて収穫具が増加する傾向には、石皿類の動向は一致していない。つまり、石皿、打製石斧、刃器類は各々が別個の収穫具を対象とした生産・

調理用具として機能した可能性が高いのではないだろうか。石皿類は永井遺跡出土の多数の堅果類を根拠として堅果類の製粉に、打製石斧は同じく永井遺跡の晩期前半の組成比率において、調理具・収穫具を圧倒するように組成を伸ばしている点からみて、堅果類や雑穀類とは異なる地下植物の収穫（鈴木1975）*24に、そして刃器類は弥生前期段階に比率を伸ばす点から見て水稻を含めた雑穀類の収穫に対応する可能性が考えられる（森下1996）。水稻耕作は刃器類に反映される雑穀類の獲得を下地として、前代から部分的に存在した可能性はあるが、ある段階において集約的な農法を伴って貫入するといった印象が強い。

<社会>

武器の組成は、石鏃と磨製石剣を合計して40%をしめる。ただし、磨製石剣は1点のみの出土であり、主として石鏃で占められている。形態的な特性は大形のものほとんどなく、縄文時代後期以来継続する小形の石鏃で占められる。石鏃の増加傾向は凸帯文期から弥生前期段階に特徴的な傾向にあるとされる。これについて、いわゆる「縄文人」と「弥生人」との接触期の緊張関係を反映するとの見方がある。しかし、これまでの当遺跡あるいは周辺遺跡における石器の連続的要素を基に考えた場合、そのような両系譜集団の対立的な構図が描けるかどうか、やや疑問に思う。他の石器と併せて比較する組成の相対比較では判断しにくい部分もあろう。そこで武器の絶対量について検討する材料として、遺跡の面積当たりの保有量を算出する方法を試みた。

石鏃の量を遺跡面積で算出して100㎡あたりの絶対量を求めた結果が第30表である。これによれば、縄文時代後期～晩期、凸帯文期、前期前半の遺跡の保有量は概ね1個以下に収まっており、前期中葉以降の遺跡が1～4個である点と比べ決して多くなっている訳ではない。むしろ鴨部川田、五条といった環濠集落は、その前後と比べて高い数値を示す。すなわち、弥生前期に関しては、後半になるほど武器の保有量が次第に増加し、それに併せて環濠も掘開されるようになる。「縄文人」と「弥生人」との対立関係ではなく、弥生時代の展開に応じて、緊張関係が生じてその比率が増加していると考えられよう。

なお、中期後半以降の平野部の遺跡では平均で1個以下の遺跡が多く、それに対して紫雲出山や烏帽子山などの高地性集落は桁違いにその数量が多い。絶対数の比較は常に調査箇所性格や調査精度そして集落の継続期間など比較以前の問題があるので、一概にこのグラフをもって武器装備の状況を復元するのは難しいが、環濠集落や高地性集落といった緊張状態を反映した集落構成に適合する推移を示している。

第29表 石鏃保有量の比較

遺跡名	時期	調査面積	対象	石鏃数	単位保有量	環濠	立地
永井	縄文後期～晩期	27,000	調査面積	134	0.5	×	低地
林坊城	凸帯文	約4,000	B地区	12	0.3	×	低地
下川津	前期前半	約24,000	第1・第2微高地	37	0.2	×	低地
龍川五条	前期中葉	約15,000	I～IV区・前池	214	1.4	○	低地
中の池	前期後半	700	調査面積	11	1.6	○	低地
五条	前期後半	500	調査面積	23	4.6	○	低地
鴨部川田	前期後半	5,000	調査面積	146	2.9	○	低地
川津一ノ又	中期前半	12,220	調査面積	285	2.3	×	低地
裕長池	中期前半	14,920	調査面積	22	0.1	×	低地
平岡	中期前半	11,000	調査面積	77	0.7	×	丘陵上
矢ノ塚	中期後半	11,800	調査面積	230	1.9	×	傾斜地
紫雲出山	中期後半	約1,000	面調査は276㎡	284	28.4	×	山頂
烏帽子山	中期後半	200	調査面積	23	11.5	×	山頂
久米池南	中期後半	10,000	調査面積	66	0.7	×	丘陵上
北原	後期初頭	600	調査面積	3	0.5	×	丘陵上
太田下須川	後期初頭	25,000	調査面積	14	0.1	×	低地
上天神	後期初頭	24,800	調査面積	29	0.1	×	低地

(㎡)

(個) (個/100㎡)

ただ、10m四方に数個の違いでしかない前期後半のピークは、集落面積が例えば6,000㎡であったとしても、全体で100本の矢が200本に増えた程度の違いであり、倍増する点に意義を見いだすことも不可能ではないが、紫雲出山のように20倍もの差を考えると、環濠集落という集落形態自体に強く、かつ恒常的な緊張状態を想定するのは難しい。

今回のデータのように複数の環濠の掘削に時間差が想定されたり、あるいは掘削後未管理で早期に埋没したりする状況は、集落規模に応じた個別の一時的な緊張状態が反映されたものと考えられ、石鏃の絶対量が倍増する意義を認めるにしてもいわば日常的な武器装備の延長として、時にその装備をやや強める必要が生じた結果と考えるのが妥当であろう。その意味で前代と変わらない形状、重量の石鏃を使用することも理解できるものといえる。

一方で中期後半から後期初頭期に県内に多く出現する丘陵頂部に位置する高地性集落は、平地の集落とはかけ離れた絶対量を保有していることは明かで、日常的な武器装備とは異なる性格をもつ装備として改めて評価すべきものであろう。

第 5 節 龍川五条遺跡の変遷

—まとめと今後の課題—

以上、土器編年や土器の胎土・付着物、石器の組成等について断片的な特論を記述した。このほかにも遺跡内における石器生産の具体的な検証手段としての「サヌカイト素材の剥片剥離技術」の問題や、「流紋岩・安山岩系磨製石器生産技術」の問題、さらに他地域に産出する石材を素材とした石器の遺跡への搬入形態とその再加工の状況など、弥生時代前期段階の生産と流通を巡る問題について言及しようと試みながら、果たせなかった事柄も多い。これらは機会を改めて提示することとしたいが、最後に弥生時代前期段階の先の土器編年に基づいた当遺跡全体の遺構の細かな変遷を辿り、加えてその後の遺跡内の概略的変遷を記述してまとめとしておきたい。

(1) 弥生前期前半（龍川五条Ⅰ式）

遺構分布の概要

当遺跡の初現は、「龍川五条Ⅰ」で報告された凸帯文土器が出土した溝 *SD34* が最も古い様相をもつ。ただ、*SD34* と同一溝と推定される *SD40* から弥生前期に属す土器（甕か？）底部片が出土していることから、*SD34* にみられる凸帯文土器が弥生時代前期に残存する「凸帯文系土器」であることが知られる。同様の凸帯文系土器は微高地縁辺を流れる河川 *SR04* や、2 条の環濠のうち内側に相当する *SD50* や環濠内をさらに方形に区画する *SD48* などにおいても、それに後出する土器群とともに出土していることから、未だ凸帯文系土器を組成する段階（龍川五条Ⅰ式）から微高地を中心に集落の営みが開始されたことがわかる。

この段階に所属する遺構は、今回の調査区においては外側の環濠のさらに外側に位置する *SK87* が該当する。また、内側の環濠 *SD50* は、今回の調査では出土していないが「龍川五条Ⅰ」では凸帯文系が少量ながら報告されている。当該環濠はⅡ式に掘開される *SD49* と異なり、数度の掘り直しが確認されることから考えても、この段階では *SD49* に先行して内側の環濠 *SD50* のみが掘開されていた可能性が高い。

環濠

環濠は微高地の南西部で河川 *SR04* に取り付くことが明らかとなった。自然地形を取り込んだ集落設定が行われているが、人工的に環濠を掘削した範囲については北側と東側が

直線的で、東西に長い隅丸方形に近いものとなる。卵形か円形の平面形をもつこの時期の一般的な環濠とは形状がやや異なっている。内側の環濠の立ち上がりを基準に環濠に囲まれた範囲を推定すると、南北45m、東西約70mとなる。北西側の状況が不明瞭であるが、少なくとも延長約200mの環濠に囲まれた3,200㎡の面積が居住域と推定することができる。また、自然河川SR04を介して西側対岸で検出されたSR03は、これらの環濠の延長として掘開されたL字状の溝の可能性が考えられる。

なお、今回検出した不定形な落ち込みSX07は環濠と河川SR04の合流部に相当し、2条の環濠間で検出した唯一の遺構である。環濠には基盤層ブロックの流入があることから環濠の両側に土堤状隆起があったことが推定されるが、SX07部分ではそのような土堤状隆起が環濠に直交する方向で途切れていたことを示唆する。河川岸の管理のための機能も推定されるが、同時に環濠で囲まれた居住域と外域とを繋ぐ通路としての機能も併せ持った可能性もあろう。環濠全体のプランからみて南西部分に相当する。これは後述する環濠内部の方形区画の出入口と推定される方向と同じ位置である。

環濠内部の方形区画

環濠の内側は「龍川五条I」において報告されたように、溝SD48でさらに方形に区画された区域が隣接して2カ所で見られる。西側の区画は東西にやや長く43mをはかり、南北は約35mである。東側の区画は区画溝の合流位置からみて、西側区画に後出して設置された可能性が高く、東西32m、南北30mをはかる。区画の内部は削平が著しいために、浅い柱穴や土坑が部分的に遺存するのみで、特別な遺構が存在したような形跡はない。「龍川五条I」で指摘されたように居住区域の一部として理解するのが適当であろう。遺存する柱穴の配置を検討すると、区画外で住居跡と推定された柱穴列ほど明確ではないものの、直径10m前後のやや大きめの円形柱穴列がそれぞれ1基ずつ存在するようにも推定される。この方形区画で注目されるのは、区画方位性と入り口部の位置づけである。区画はほぼ正確に正方位に合致した方向性を持っており、近年報告された、県内志度町の鴨部川田遺跡の方形区画においても正方位を採用するものが多い点（森1997）も偶然の一致とは思われない。入り口については西側区画が区画溝の南西隅が途切れてやや開き気味となること、東側区画についてはその南西隅が途切れていることから、いずれも南西隅に推定できる。環濠の両側に盛り上げられたと推定される土堤状隆起が途切れていたと推定されるSX07も環濠全体のプランからみた場合に南西隅に相当する点でこれに共通する。つまり、内部区画と環濠のいずれもが方形を意識した平面観と正方位性、入り口部分の規定などにおい

て、何らかの規格性のもとに配置された可能性が考えられる。

居住遺構

区画の外側は3棟の円形住居と1棟の掘立柱建物が復元されている。これらは内側の環濠に囲まれた範囲の東西の中央付近に比較的密に分布しており、それより東には遺構が全くみられず、それに対して西側には土坑が多く分布する。このように環濠の内側についてはある程度の利用区分が存在したことを示唆する遺構分布状況である。ただ土坑については所属時期が判明するものの、住居跡についてはそれを示す材料が乏しく、それ以上の細かな分布を把握することはできない。

墓域

河川SR04を挟んで居住域より西側に存在する3基の周溝墓（ST01～03）とその他の木棺墓についても、出土遺物は少なく細かな時期比定は難しい。少量の土器片をもとに敢えて述べると、ST01は196の無文で頸部が強く内傾する大形壺、200の1帯の沈線間刺突文甕などの状況から龍川五条I式に所属する可能性が最も高い。また、ST02出土の重弧文施文の壺胴部片（204）、ST03から出土した頸部が強く内傾して口縁部の屈曲が著しい中形壺（211）などはI式段階に位置づけられ、積極的にII式以後に下らせる材料は今のところ見いだせない。当遺跡で居住が開始された初期（前期Ic期）から周溝墓を採用する墓制が存在したものと考えられる。

用水路

微高地東側の低地部においても、用水路と推定されるSD51がI式の土器を含むことから、河川Cの西岸方向への導水もこの段階に行われたものと考えられる。

このように、I式段階（弥生時代前期前半新相）においては河川を取り込む1重環濠とその内側の居住遺構、さらに環濠の外側に若干の土坑と、おそらくは周溝墓などの墳墓も形成され、集落の基本構造は完成していた可能性が高い。さらに周辺の水田開発が用水路の掘開を伴って行われ始めたものと推定される。

(2) 弥生前期後半前葉（龍川五条II式）

外側の環濠SD49がこの段階で掘開され、早い段階で埋没する。環濠は一度に完成したものではなく、またその後SD49が掘り直しされていないことから、一時的な必要性から新たに外側に環濠が掘削されたものと考えられる。また、2重の環濠の間には今回の柱穴

や土坑などの居住関係の遺構は確認できていないが、それだけでなく環濠の内部に流入した土砂が基盤層をブロック状に含みながら、かつ基盤に礫層がある部分では礫が多く、そうでない部分では少ないという関連もみられることから、掘削土はその両側に盛り上げられ、土堤状を呈していた可能性が高いものと考えた。土堤を加えて濠の深さを見積もると、2 m以上になり、かなりの防御性を備えたものとなる。しかし、S D49は外側の環濠という性格上、掘り直しなどの管理がなされることなく早期に埋没したことが埋没土の状況から推定される。

そのほか、今回の調査では検出されなかったが、環濠内外の土坑からこの時期の土器が出土している。また、この時期までS R04の河川機能が継続している。

内側の環濠S D50の恒常的な掘り直しは、居住域に近接する関係上、必ずしも防御的意味合いのみでなく生活残滓の廃棄場としての機能も想定すべきであり、その再生としての再掘削も当然あり得たであろう。

このような水路などの新規掘削や維持管理には、多大な労力を費やしたものと推定される。例えば幅2 m深さ1.5 mの溝を仮に延長200 m分掘削するための土量を算出すると600 m³となり、一日10名が作業に携わったとして、現在の掘削用具で換算すると約2ヶ月の作業量である。他の集団構成員に依存しないとすると、年間1/6の日数を再生産のための基盤整備や維持管理、あるいは防御設備の拡充等に投資することになり、たとえ毎年の工事ではないにしても年間の生活サイクルの中で果たして許容できる範囲であるか、あるいは他集団との協業があり得たか、五条遺跡を含めた周辺の集落の分布とその変遷との関係で追究していく必要がある。

(3) 弥生前期後半中葉～後葉（龍川五条Ⅲ式～）

Ⅲ式まで内環濠S D50に土器投棄が行われているが、それを最後に前期後半後葉期に所属する土器群がきわめて少なくなる。櫛描文施文の段階の土坑等が存在するが数は少なく、断続的あるいは一時的な土地利用にとどまっている。

S R04は河川機能がほぼ停止して後背湿地化し、黒色～褐色の水平堆積層からみて、狭小な水田が営まれていたものと推定される。外側の環濠S D49もほぼ埋没し、浅いくぼみを地表に留める程度であったと推定され、上層で確認された窪地の埋め戻しについてはこれより新しい土器が含まれないことから、この段階で行われた可能性が高い。

環濠内部は方形区画溝S D48出土の土器からこの時期まで居住が継続していたものと考えられ、Ⅲ式の土坑も分布する。大規模に当集落自体が拡大する傾向はみられない。

隣接する五条遺跡においてはこれまで知られた資料からみる限り、Ⅲ式段階から集落が開始されている。龍川五条遺跡が収束に向かう過程で、一部で重複しながらその後五条遺跡で興隆がみられることから、両集団間の密接な関係が推察されるが、今後五条遺跡の調査が進展するに従い、具体的な考察が可能となるものと思われる。

(4) 弥生中期

中期初頭は、内環濠（S D50）の下層より櫛描文をもつ壺が出土している点と、環濠内部に位置するSK45より中期初頭の土器群が出土していることから、一時的な環濠の掘り直しや居住を考える必要があるが、前期段階の土器量と比べるときわめて少量に留まっている。また、SR04上層の後背湿地には均質な粘質土の窪地堆積がみられ、中層の水平堆積層と比較して上層では中央が窪む状態で粘土層が緩やかに堆積していることから、長期の未管理状態が想定される。したがって、微高地上はかなり長期間人々の居住しない空閑地となっていたことが伺われる。またSR04では、そのすでに水流が絶たれ、後背地を利用した水田造作も行われていなかったようである。周辺河川における河川水量あるは河床面の変化などに対応する可能性があり、西日本全体で認められるという「完新世段丘Ⅰ面」（高橋1995）の形成と関わるものであろうか。

一方で調査地東の低地部では依然としてSD51が掘り直しされながら中期初頭までは機能を存続させる。すなわち河川C西岸に推定した水田域には導水が継続していたものと考えられ、龍川五条遺跡における居住は停止しても、主たる生産域は存続していることがわかる。

その後、中期中葉に至ると当遺跡では東低地部を含めて全く土器が出土せず、生活の痕跡が完全に欠落する。五条遺跡においても中期前葉をもって土器資料が欠落しており、縄文時代後期以降継続的にみられた河川後背湿地を中心とした遺跡立地が、平野内の他グループもふくめて大きく変化する時期にあたる。

中期後葉の土器は東低地部やSR04東岸の不明遺構SX04で出土している。SX04は、前期段階と判定されているSX03と組み合わせると、SR04東岸に近接して方形に区画するように配置されており、凹線文をもつ鉢が完形で出土していることからみて、形状や立地が弥生時代後期に多くみられる周溝墓に類似する。明確な証拠はないが方形周溝墓の可能性も考えておく必要があるだろう。またIVB区（東側低地部）で少量ながら中期後半の土器が出土することから、再び中期後葉に土地利用があったことが推定される。しかし

その後の資料は欠落しており、後期後半まで再び空閑地となっている。

(5) 弥生後期後半～古墳時代前半

東低地部のS R06で土器が出土している。出土量は必ずしも多くなく、古墳時代まで土器が少量ずつ出土する状況が継続する。土器の器面の遺存状態が良好なものが多く「龍川五条I」で古墳時代前期の竪穴住居跡が1基検出されていることからみて、小規模集団の居住がこの段階から開始された可能性が考えられる。

生産域は基幹河川Cの後背湿地を中心としたものと考えられるが、平野内の他遺跡ではこの時期から微高地上に掘開された出水状遺構などを補助的な水源とする灌漑方式が採用されており（山下編1991）、一旦高燥化した当地域に再び集落が開始された背景に示唆を与えている。当遺跡において微高地の一部がこの段階から生産域として機能し始めたことを示すものとしてはS D51・S R05上部堆積とそれに取り付く排水路と推定されるS D52がある。S R06はこの時期に河床がかなり低下して主要な自然流路となっており、S D51・S R05上部堆積とは約2mの比高差をもつに至っている。それに伴い東岸（V区）の高燥化が進行したものと考えられる。S D52などは少なくともその微高地縁辺部についての水田化が進行したことを裏付けるもので、河川Cまでの間の微高地への導水をアプローチしていた可能性も、これにより推察可能である。古代末から中世にかけて埋没したS D63が掘開されるまでの間、微高地縁辺の灌漑を担っていたものと考えられる。

(6) 古墳時代後半

東低地部の河川S R06河床部の窪地の埋没が始まるのは出土した須恵器から7世紀中葉ごろと推定される。それに伴って方形埴付田下駄などの木製品が少量出土している

田下駄の出土は下川津遺跡で7世紀代の資料がある（大久保1990）が、今回の資料はそれと同じかあるいはその上部で出土した完形の須恵器を根拠とすると6世紀中葉ごろの資料となる。形態的には近畿地方で弥生時代前期から一般的な形態（秋山1993）に共通し、在地的な変容が認められない。

S R06の流路機能は7世紀中葉ごろまで継続したものと考えられ、上部堆積の粘土層に含まれる須恵器からみて遅くとも7世紀末から8世紀初頭においては後背湿地化していることがわかる。湿田として利用されていたかどうか確認に欠ける。いずれにしても安定した水流はもはや存在せず、穏やかな堆積環境に移行しており、かといって全く土砂供給が

絶たれている訳ではないことから、水田として利用されていたとすれば、人工的な水路の掘開を考える必要があるかもしれない。S D60・S D61で8世紀中葉以降の須恵器が少量ながら出土する点を考慮すると、それら条里型地割に沿った溝が掘開された時期が、S R06の上部堆積の粘土層出土土器が示す8世紀初頭頃まで遡る可能性も考えておく必要がある。

(7) 古代～中世

今回の調査では前池地区において多数の掘立柱建物が検出された。前池地区の北側に位置する「龍川五条Ⅰ」のⅡ・Ⅲ区では少数の掘立柱建物が散在する傾向にあったが、前池地区では同一箇所において数回の建て直しがみられる。

これらの建物は、概ね条里型地割に合致する方向を示すことから、8世紀以降に位置づけられる。このうちS B16が60～70cmクラスの柱穴掘り方をもち、褐色系の埋土をもつことから古代前半と考えられるが、それ以外は出土遺物等からみて11世紀後半から13世紀前半までのものである。床面積は20～30㎡と小規模である。北側に柵列（板塀か？）を伴い、さらに東にも柵列が復元される。建物に付属する区画溝としてはS D57～60が相当する。

東低地部では現状の条里型地割から復元される想定坪界線からやや東に偏った位置に2条で併走するS D60・61の基幹水路が掘開されている。埋没時期は12世紀代に下るが出土遺物は8世紀中葉からみられる。S R06埋没後にその機能を引き継いで掘開された可能性もあるが、正確な掘削時期は明瞭ではない。

両溝で注目すべき点は調査区中程まで走行方位が北を向き、その後両溝とも屈曲して30°西偏する点である。その屈曲部位は現状地割から復元される一町方格のうち南北間の半町部分に概ね一致する。これは、調査区中程より南側については旧河道S R06の走行方向などの自然地形に制約をされるものの、ある地点からは条里型地割に合致する方向に変換し、周辺の条里型水田に導水する基幹水路としての役割をもったことよるものと推定される。同様な事例は善通寺市永井遺跡においても認識（森下1997）され、また善通寺周辺を描いた中世絵図にも同様な表現がある。V区では、S D63についてはS R06やS D51の上部堆積の方向に制約された方向に流れるが、それ以東の溝については地割りに沿った方向性をもつものが多い。これは周辺微高地の開発が自然河川のS R06に依拠して主として河川C後背地を生産域とした段階から、それを積極的に付け替えたかどうかは不明であるものの、基幹水路にその役割を変換して河川C以西の微高地部分の灌漑を積極的に進める

新たな段階に達したことを予測させるものといえる。

しかし、中世後半の14世紀代になると前池地区の居住域や東低地部の基幹水路に変化がみられる。前池地区では建物がほぼすべて廃絶し耕地化したものと考えられる。その際の水路と考えられるSD52は条里型地割とは異なる方向に掘開され、また基幹水路のSD60・61もその時期には完全に埋没して、SR06の後背湿地を開析して流れる河川SR07が新たに出現する。その契機については、前池堤防の複数回の築造の痕跡とSR07河床の土石流のような堆積状況から、前池の前身となる溜池の堤防の決壊などを想定すべきかとの提起を行ったが、必ずしも十分なデータが揃っている訳ではない。現段階では基幹水路の水路底が漸次上昇した結果として、ある段階で一気にSR06後背湿地側にオーバーフローした状況を確認するに留めておきたい。SR07は早々に埋没して上層に水平堆積のシルト層がみられることから、14世紀以降はSD62を導水路とする後背地水田が営まれたものと考えられる。その段階、すなわち14世紀以降、従来SD60・61によって導水していた微高地上の水田はどのような推移をしたか、それを示す材料は残念ながら確認できない。近世段階で現在とほぼ同様な田地割に至るまでの間、荒蕪地であったのか、導水不能のために畑地として存続したのか、あるいは微高地へ導水する水路の水源が変化してSR07後背地水田とは異なる浅い水路網が整備されたか、いずれとも判断が付かない。ちなみに近世から現在までの水路網もSR07後背地水田と微高地上の水田とは系統が異なっており、水源の転換が14世紀段階まで遡る可能性は高いものといえる。

(8) 近世

18世紀後半ごろ、東低地部のSR07後背地西肩付近が整地されて現在の田地割と同様の景観が形成された。SR07後背地東岸のV区微高地上には、柱穴こそ確認できなかったが周辺の土坑に廃棄された生活雑器類から推定して、居住域が分布していた可能性が高い。V区は削平を少なからず被っているが、予備調査等においても柱穴はまったくみることがなく、すなわち礎石かあるいは石列による基礎構造による建物であったことを予想させる。土坑出土の遺物には瓦が多く含まれており、瓦葺き建物への変換を示す可能性が高い。

出土した陶磁器類はその多くが肥前系で、コンニャク印判による施文を施すいわゆる「くらわんか手」や、陶胎染付碗、唐津系刷毛目塗などを含み、18世紀後半から19世紀前半の時期に収まるものである。瀬戸・美濃や、在地系の源内焼、香西焼、富田焼など18世紀後半以降に開始される陶磁器（主として陶器）も含まれていない。一方で、焙烙などの土

師質土器は御厩系や岡本系などが使用されており、陶磁器類との流通事情の差を感じさせる。S E 03やS K 90などの一括廃棄資料は在地の焙烙や羽釜などの系譜分類や編年の枠組みを作成するにあたって良好な資料となろう。

(9) おわりに

瀬戸内海に面した中規模平野が展開する香川県地域は、現在もなお水不足に悩まされることが多いほど、年間降水量が少ない地域である。土地条件的に縄文時代後期から弥生時代前期において、十分な植物性食料が得られる場所は限られていた可能性が高く、また、その時期の遺跡立地は継続していた。

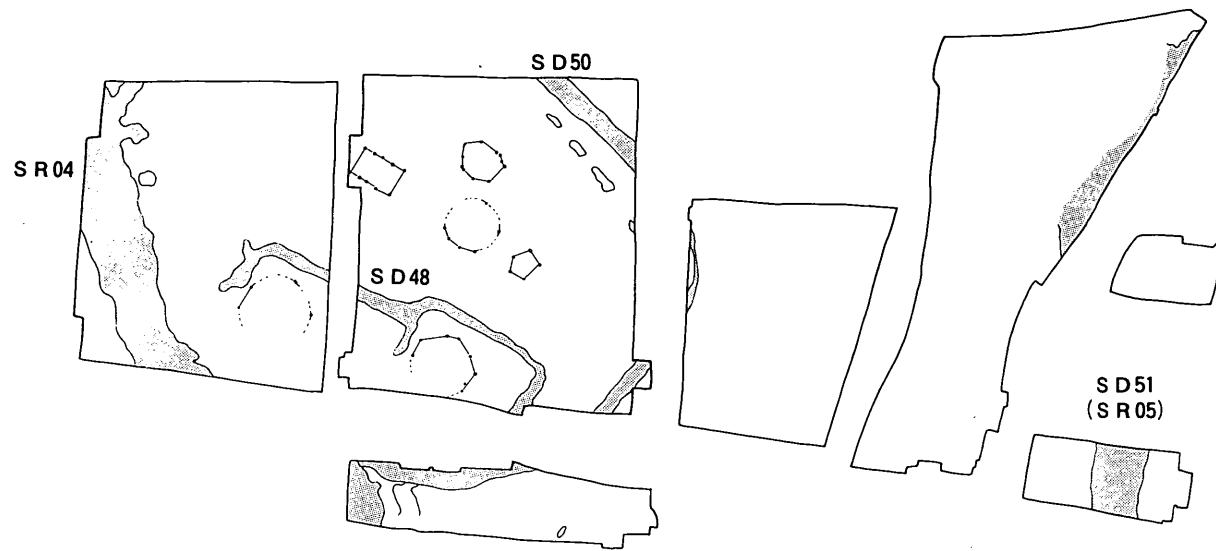
今回、弥生時代前期前半から営みが開始した龍川五条遺跡の土器、石器、その他の遺構等を検討した結果として、土器においては凸帯文段階の特徴を留める凸帯文系土器の残存状況、あるいは石器石材、石器組成における継続的要素、そして遺跡の立地について、縄文時代の在地的様相をあらゆる局面で継承しながら、前期後半段階で瀬戸内甕の出現や収穫具の定型化傾向など新たな展開を見せていることを指摘した。

一方で、当遺跡では円形・方形周溝墓などの新しい要素、また建物の方形区画溝、環濠など、縄文時代に確認されない性格のものが確実に出現していることも事実である。このうち、時間差をおいて2条巡らせた環濠については石鏃の保有量などから防御性を追究した機能的側面を検証したが、周溝墓、方形区画溝、内側の環濠(S D 50)については当初ごろから設営された可能性が高い。これらは前期前半段階の集落内の社会構造を今後検討する上で重要な材料となる。

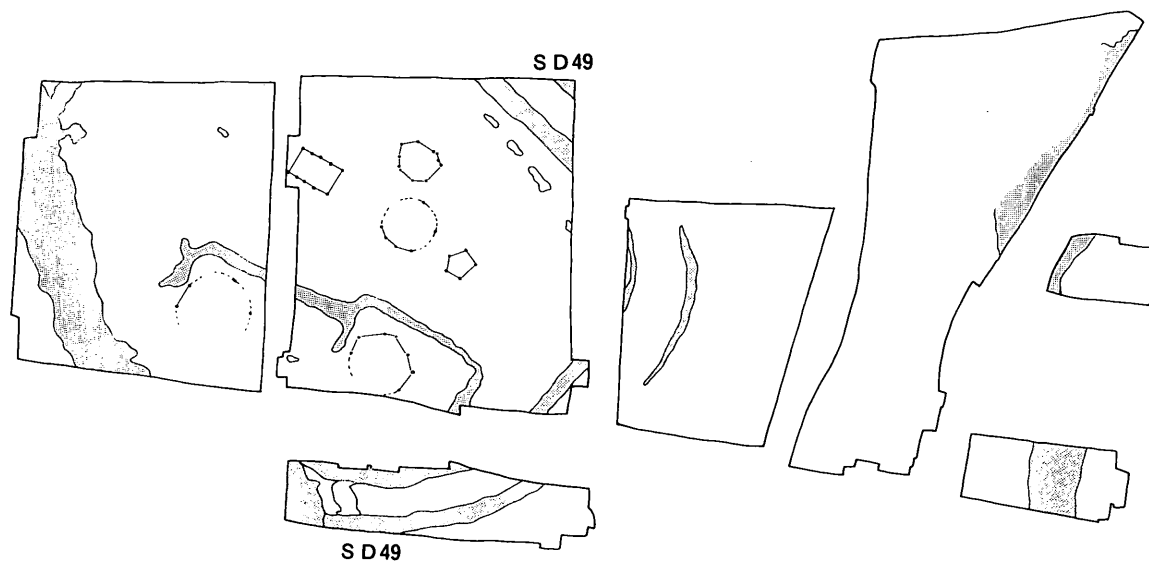
また、積み残すこととなった大陸系磨製石器の製作や流通の問題は下川津遺跡などの前期前半期の遺跡の状況や、他地域の状況とを比較することによって、上記の弥生期以降の新しい要素の定着・推移がたどれる可能性がある。

このように、弥生期に始まる諸要素については今回必ずしも十分に検討できなかったために、当地域における弥生時代の開始に係る諸問題について、未だ確信的な見解を提示するには至っていない。今後、引き続き当遺跡の位置づけに関して検討作業を進めていく必要がある。

なお、「龍川五条I」と今回の報告において、遺構・遺物の所見に一部齟齬がある。また、「龍川五条I」の記載事項を引用した部分について、執筆者の見解とは一致しない箇所もある。それらについての責はすべて当報告の筆者にあり、「龍川五条I」の各執筆者と協議して前書の見解が変更されたものではないという点を付記しておく。

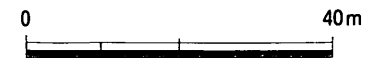
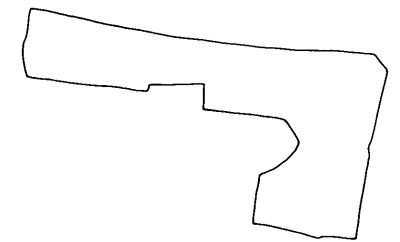
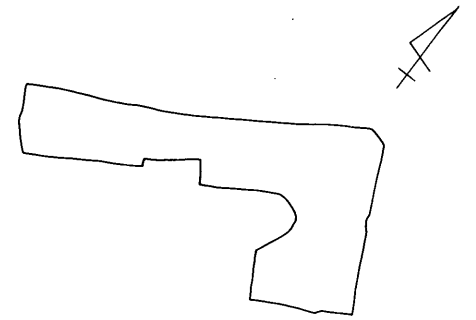


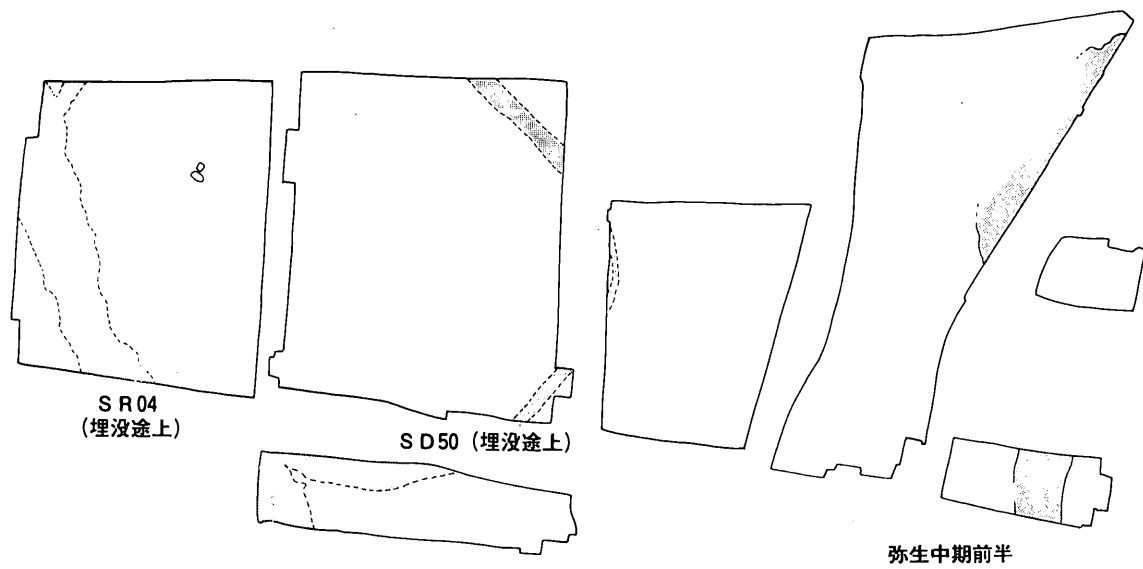
弥生前期前半 (龍川五条 I 式)



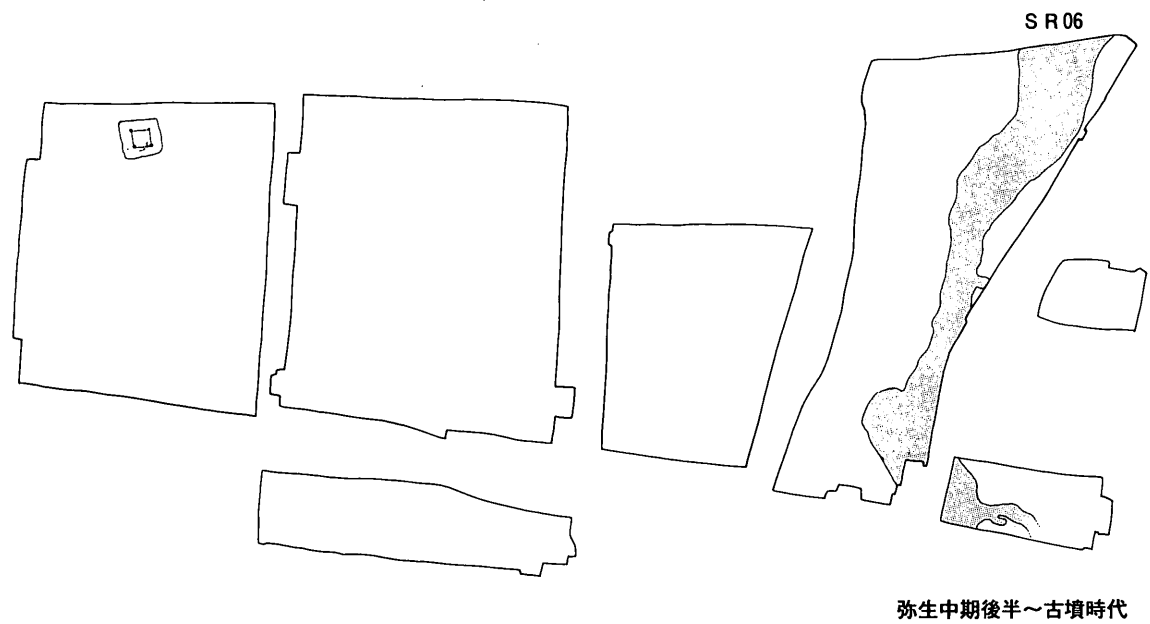
弥生前期後半 (龍川五条 II・III 式)

第260図 遺構変遷図(1)



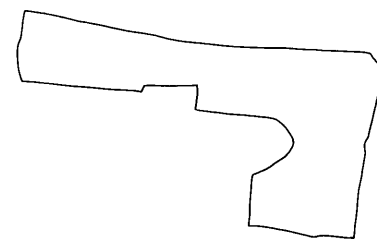
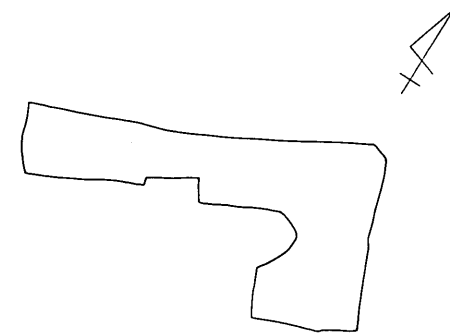


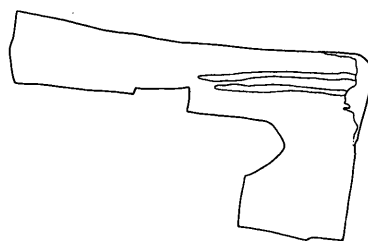
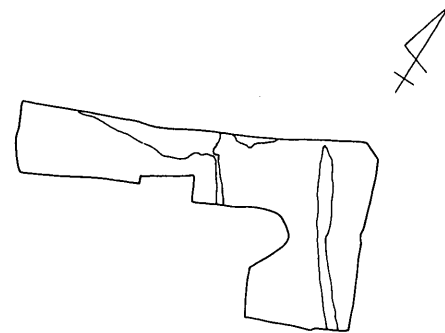
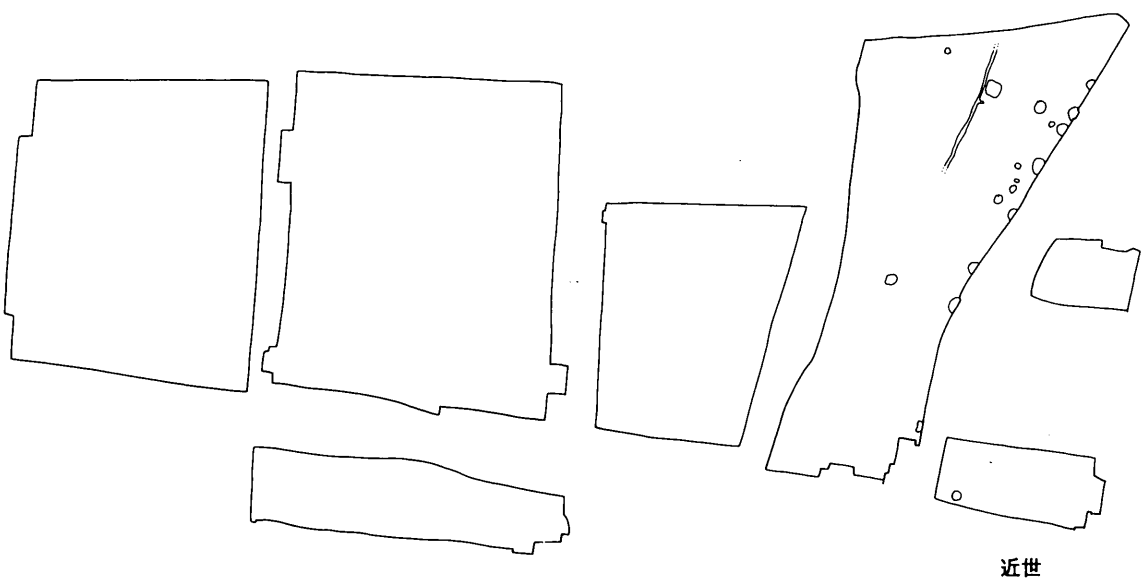
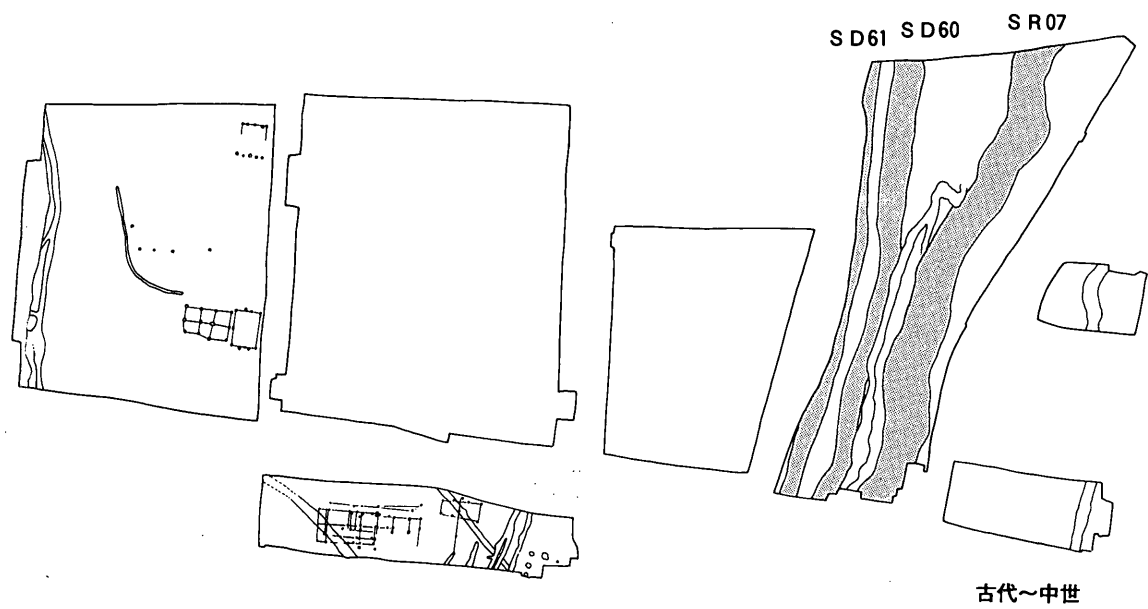
弥生中期前半



弥生中期後半～古墳時代

第261図 遺構変遷図(2)





第262図 遺構変遷図(3)

註

- * 1 佐原1967の分類に従う。
- * 2 この器形変化については、特に西日本に広がる遠賀川系土器の全般的な変化に一致するもので、必ずしも地域的特性とはいえない。ただし、区画文様から脱却した文様帯の内容については、地域性が顕著となる際の重要な属性に展開する（秋山1992）。
- * 3 ヘラ状工具を用いず、半裁竹管状工具で一度に2条の沈線を加える文様（佐原1968）で、播磨、吉備、伊予、東海の各地域で多くみられ、畿内地方には多くない特徴とされる（秋山1992）。
- * 4 S D 49中層～上層あるいはS D 50の最下層にみられる出現当初と目される逆L字甕は、当初より沈線が多条化し、共伴する2～3条の少条沈線甕の口縁部はS D 49と同様な外反度が弱い口縁部である点からみると、少なくとも当遺跡における逆L字形の甕は完成された型式として導入された可能性が高い。S D 50最下層の逆L字甕（2794）がこの地域では決して多くない「凸帯上を刺突する形態」（秋山浩三氏が「口縁端部に文様をもつ甕」とするもの（秋山1992）の一部に相当する）である点は、その系譜を辿る上で興味深い。
- * 5 30（遺物番号2600）は竹管刺突による下向重弧文など顕著な装飾が施され、他の鉢と比べて異質である。福岡県葛川遺跡（酒井・副島1984）では環濠から出土した土器群中にこれと同様な竹管刺突文を施文した如意形口縁の甕があり、また口縁部が細かな波状を呈する凸帯文系鉢がある。
- * 6 S D 49最下層・下層資料とは層位的に時間差を認めるべき資料である。ただし、当該資料より古いと考えられる高松市林坊城遺跡S R 01流路B（宮崎1993）には凸帯の貼り付け手法も共通する同形態の鉢がすでに含まれており、それが混在品でなければ大形鉢については先行して口縁部の逆L字形態が開始していることになる。
- * 7（第231図）の土器は胴部に沈線間の竹管刺突文が2帯巡っており、龍川五条のⅡ式に並行するものと考えられる。
- * 8 後述の下川津遺跡流路下層資料（第230図20）参照
- * 9 一ノ谷遺跡土器溜り資料（第244・245図）参照
- * 10（藤田1982）の第43図9,10
- * 11口縁部に幅広い段をもち、沈線を巡らせる形態のものは、弥生土器集成に掲載された大阪府国府遺跡出土のもの（佐原1968）をはじめ、京都府雲宮遺跡（中川1997）など畿内地方の中段階とされる資料に多くみられる。
- * 12龍川五条遺跡の開始期である龍川五条Ⅰ式の位置づけについて、県内他遺跡出土資料と比較する必要性があり、かつて調査が行われた下川津遺跡の第2低地帯流路1資料を出土層位別に区分することによって前期前半段階の土器編年の整理が可能であるものと考えた。下川津資料の再検討は筆者と同センター信里芳紀氏が共同で行い、すでにその成果を刊行している（森下・信里1998）。ここではその成果のうち上記の理由から必要なもの（流路層位別資料）のみを抽出して掲載するものである。
- * 13福岡県福岡市雀居遺跡や福岡県宗像市大井三倉遺跡などに例がある（森下・信里1998）

- *14大浦浜資料(真鍋1987)は口縁部が水平で、端部の刻目がない。粘土帯の接合部が粗雑な仕上げである点は共通する。また津島南池資料(藤田1982の第50図1)も口縁部は水平であるが、端部に刻目がみられる。
- *15当地域の凸帯文土器の編年は現段階では必ずしも十分でないが、概ね出現期・盛行期とその後に変容深鉢タイプの壺などを伴い、口頸部に多条のヘラ描き文を施文する段階が後続するという見通しをもっている。出現期は高松市竹元遺跡出土資料(國木1994)、盛行期は同市林坊城遺跡出土資料(宮崎1993)が該当する。後続期には前田東中村遺跡(森・古野1994)や上天神遺跡(大久保・森19895)、多肥宮尻遺跡(松本1998)などの資料が該当するものと考えており、川津下種資料はその後続期に並行するものとする。これらについてはまだ十分な検討作業を行っていないために、機会を改めて論じたいが、ここではその概略的3区分を古相、中相、新相として仮称しておく。
- *167の土器は調査報告で別個体(第16図8・11)として報告されているが、幡上敬一氏(当時、愛媛大学学生)が資料を閲覧中に接合を見いだされ、今回改めて接合した状態で筆者が再実測を行ったものである。
- *17資料の提示に当たって、一部の土器の再実測を行った。実測・トレースに関して信里芳紀氏の協力と掲載の承認を得ている。記して謝意を表したい。
- *1834号、67号、72号、83号、87号、110号、116号、144号の各土坑である。
- *19平成7年度大川広域調査。資料の実見にあたっては大川町教育委員会藤井浩氏、大川広域事務組合萬木一郎氏にお世話になった。
- *20今回報告する平成2年度調査分のみを集計したもので、底部片も器種毎に集計に含めている。
- *21徳島県三谷遺跡(勝浦1997)では弥生時代前期前半段階(龍川五条I式に並行するものとする)で、結晶片岩製石棒の製品や粗割段階を含む製作途上と考えられる資料が豊富に出土しており、大開遺跡(前田1993)も同時期の石棒がある。両遺跡は凸帯文系土器が地域的な変容を来しながら残存して一定量組成する特徴が一致しており、祭祀的側面についても残存要素を認めることができる。また、当地域の前期前半大阪湾沿岸の長原遺跡についても同様である。少なくとも瀬戸内海～大阪湾沿岸地域において弥生前期前半古相に並行する凸帯文系土器に伴ってこのような石棒が多出する点で、当遺跡出土の石剣に共通性が認められる。問題は剣形を呈する形状である。この種の石棒が直径5cmほどでやや扁平なものがあるとはいえ、厚みが3cmを下回るのは希であることや側縁を薄く仕上げるものがないことから、形状は異なっている。ところで、縄文時代晩期の山梨県金生遺跡(新津ほか1990)では、大形の石棒とともに剣や刀の形状をもつ石製品が出土している。元来東日本に主要な分布域をもつ有頭石棒が剣や刀状を呈するものについては、大陸の青銅製刀剣の模倣であるという考えもある。しかし金生遺跡で出土している石剣には頭部がないものもあり、縄文的な系譜に当遺跡に似た石剣も出現しうるものと考えられる。
- *22第3章では一般的な分類基準に基づき、側縁に抉りをもつ定型化した打製石庖丁と、刃部の摩滅が肉眼でも判別できるほどの刃部破片について「打製石庖丁」と認定し、それ以外についてはスクレイパーに一括している。
- *23当センターが所有する実体顕微鏡を使用した。ライティングを左右どちらか一方からのみ強く照射すると、石表面の皺の突出部分の摩滅状況が鮮明に見えてくる。ただし、表面の自然風化と摩滅痕が、完全かつ客観的に区分できたという訳ではない。同様の風化度をもつ打製石庖丁の刃部や側面

と比較して類似するものを「摩滅痕」と認定したが、曖昧なものが多く残る結果となった。これらは原則として摩滅痕の認定から除外したが、今後、客観的な認定方法の確立に加え前記の金属顕微鏡等による「使用痕分析」の必要性を感じた。

*24根茎類の収穫を考古学的に検証するのは、種子や花粉を持たないといった生物学的特性からみて、きわめて困難である。縄文後期から弥生前期まで継続する短冊形打製石斧について、「耕起具（石鋏）」として使用されたとの見解もある（平井1994）。陸稻などの播種の際に使用した可能性も指摘されている（広瀬1997）。前者は柄に直交して着装し、後者は柄に平行して着装する。今回観察の対象とした当遺跡の打製石斧は幅について一定の大きさにまとまる傾向にあり、小形のサイズのも含まれている。それらも同様に顕著な摩滅が認められること、また、線状痕に複数の方向をもつものがあることなどから、柄あるいは着装部分の幅には大小の区分があり、また土に対して本体が接する角度、すなわち振り下ろし方にバリエーションがあったものと想定される。これだけのデータでは柄の具体的な形状、機能について結論づけるのは難しい。現段階では刃器類との組成上の相関を十分確認できないことから、雑穀類や水稻などとの関連を積極的に考えることも難しい。現段階では、縄文時代後期において、東日本の文化要素の西漸（渡辺1975）の一環として、他の文化要素とともに理解し、根茎類採取の一時的な盛行期があった可能性を考えておくこととしたい。ただし、先の組成上の問題だけで除外した「陸稻」などの雑穀類の播種具としての機能については、今後遺跡数が増加した段階で改めて組成比率を検証して確認していきたいと考えている。

参考・引用文献

あ～お

- | | | |
|--------|------|---|
| 秋山 浩三 | 1992 | 「弥生前期土器—遠賀川式土器の地域色と吉備—」『吉備の考古学的研究（上）』山陽新聞社 |
| 秋山 浩三 | 1993 | 「「大足」の再検討」『考古学研究』第40巻3号 考古学研究会 |
| 阿子島 香 | 1989 | 『石器の使用痕』考古学ライブラリー56 ニューサイエンス社 |
| 伊藤 実 | 1991 | 「瀬戸内の環濠集落と高地性集落」『児嶋隆人先生喜寿記念論集古文化論叢』児嶋隆人先生喜寿記念会 |
| 岩橋 孝 | 1991 | 「吉原火上山遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報平成2年度』香川県教育委員会 |
| 鶴島 三壽 | 1992 | 「木器」『京都府遺跡調査報告書第16冊千代川遺跡』財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター |
| 大久保 徹也 | 1988 | 「本嶋遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報昭和59～62年度』香川県教育委員会 |
| 大久保 徹也 | 1990 | 「下川津遺跡における地形的変遷」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ下川津遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・財香川県埋蔵文化財調査センター |
| 大久保 徹也 | 1990 | 「木製品」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ下川津遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・財香川県埋蔵文化財調査センター |
| 大久保 徹也 | 1995 | 「讃岐地方における朱関連資料—特に内面朱付着土器について—」『考古学 |

- ジャーナル』394号, ニューサイエンス社
- 大久保徹也 1995 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊上天神遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- ・森格也
- 大山真充 1988 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告V大浦浜遺跡』香川県教育委員会
- ・真鍋昌
- 岡内 三真 1987 「庄・蔵本遺跡」『日本考古学協会年報1986年度』日本考古学協会
- か〜こ
- 香川県教委 1983 『新編香川叢書考古編』香川県教育委員会
- 片桐 孝浩 1992 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第11冊三条番ノ原遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 片桐 孝浩 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第21冊川津下樋遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 片桐 孝浩 1996 『弘田川改修に伴う埋蔵文化財発掘調査概報弘田川西岸遺跡平成7年度』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 片桐孝浩 1998 「弥生時代の墓制について一樋ノ口遺跡の事例を中心に」『(財)香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要VI』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- ・信里芳紀
- 勝浦 康守 1997 『三谷遺跡—徳島市佐古配水場施設増設工事に伴う発掘調査』徳島市埋蔵文化財発掘調査委員会
- 川畑 聡 1996 「讃岐における瓦の展開」『讃岐の古瓦展』高松市歴史資料館
- 神原 英朗 1977 『用木山遺跡』山陽団地埋蔵文化財調査事務所
- 木下 晴一 1995 「10cm等高線による遺跡立地の検討」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第15冊龍川四条遺跡』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 木下 晴一 1995 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第16冊川津二代取遺跡』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 木下 晴一 1995 四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第15冊龍川四条遺跡』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 金田 章裕 1985 『条里と村落の歴史地理学研究』大明堂
- 國木 健司 1988 「ガンド浜遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報昭和62年度』
- 國木 健司 1990 「西又遺跡」『香川県埋蔵文化財発掘調査概報集』香川県教育委員会
- 國木 健司 1996 「竹元遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報平成5年度』香川県教育委員会
- 國木 健司 1993 『生野本町遺跡発掘調査報告書』香川県教育委員会
- 國木 健司 1989 「御産盥山古墳」『香川県埋蔵文化財調査年報昭和63年度』香川県教育委員会
- 工業 善通 1986 「漆工技術」『弥生文化の研究6道具と技術II』雄山閣出版
- 国立歴史民俗 1996 『農耕開始期の石器組成1近畿(大阪・兵庫)・中国・四国』国立歴史民俗博物館資料調査報告7
- 博物館
- 国立歴史民俗 1996 『農耕開始期の石器組成2九州』国立歴史民俗博物館資料調査報告7

博物館

- 小林行雄・佐原真 1964 『紫雲出一香川県三豊郡詫間町紫雲出山弥生式遺跡の研究』
- 薦田 耕作 1987 『矢ノ塚遺跡四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第 7 冊』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- さ～そ
- 斎野 裕彦 1993 「弥生時代の大型直縁刃石器(上)」『弥生文化博物館研究報告』第2集, 大阪府弥生文化博物館
- 斎野 裕彦 1994 「弥生時代の大型直縁刃石器(下)」『弥生文化博物館研究報告』第3集, 大阪府弥生文化博物館
- 酒井仁夫 1984 『葛川遺跡—福岡県京都郡荊田町所在遺跡の調査報告』荊田町文化財調査報告第3集, 荊田町教育委員会
- ・副島邦弘
- 笹川 龍一 1983 『五条遺跡発掘調査説明資料』普通寺市教育委員会
- 笹川 龍一 1984 『仲村廃寺発掘調査報告(旧練兵場遺跡内)』普通寺市教育委員会
- 笹川 龍一 1985 『彼ノ宗遺跡～弘田川河川改修工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告～』普通寺市教育委員会
- 笹川 龍一 1989 『仲村廃寺～旧練兵場遺跡における埋蔵文化財確認調査報告書～』普通寺市教育委員会
- 笹川 龍一 1991a 『月信遺跡 県営畑地帯総合整備事業普通寺西部地区碑殿農道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書』月信遺跡発掘調査団
- 笹川 龍一 1991b 「五条遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報平成2年度』香川県教育委員会
- 佐藤 竜馬 1993 「出水伏遺構について」『空港跡地遺跡発掘調査概報平成4年度』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤 竜馬 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第24冊郡家田代遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 佐藤竜馬 1998 「佐古川・窪田遺跡」『国道バイパス建設に伴う埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度』香川県教育委員会・(財)香川県埋蔵文化財調査センター・建設省四国地方建設局
- ・川井國博・中山尚子
- 佐原 真 1964 「石製武器の発達」『紫雲出』, 詫間町文化財保護委員会
- 佐原 真 1967 「山城における弥生式文化の成立—畿内第Ⅰ様式の細別と雲ノ宮遺跡出土土器の占める位置—」『史林第50巻第5号』史学研究会
- 佐原 真 1968 「畿内地方」『弥生式土器集成本編2』東京考古学会
- 佐原 真 1975 「かつて戦争があった—石鏃の変質—」『古代学研究』第78号
- 塩崎 誠司 1997 『旧練兵場遺跡Ⅳ』香川県教育委員会
- 下條 信行 1982 「石矛の提唱—木葉形磨製石製武器について—」『賀川光夫先生還暦記念論集』賀川光夫先生還暦記念会
- 下條 信行 1993 「西部瀬戸内における出現期弥生土器の様相」『論苑 考古学』坪井清足さんの古稀を祝う会
- 下條 信行 1994 『弥生時代・大陸系磨製石器の編年網の作成と地域間の比較研究』

- 下條 信行 1996 「扁平片刃石斧について」『愛媛大学人文学会創立20周年記念論集』
 下條 信行 1997 「柱状片刃石斧について」『古文化論集—伊達先生古稀記念論集—』
 鈴木 忠司 1975 「石器」『京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書』平安博物館

た～と

- 高橋 学 1995 「臨海平野における地形環境の変貌と土地開発」『古代の環境と考古学』古今書院
 田崎 博之 1988 「土器と集団(一)～(三)」『九州文化史研究所紀要第33～35号』九州大学九州文化史研究施設
 田崎 博之 1994 「夜臼式土器から板付式土器へ」『牟田祐二君追悼論集』
 田崎 博之 1996 「遠賀川式(系)土器のデザイン」『鍋と甕 そのデザイン—第4回東海考古学フォーラム』
 出原 恵三 1994 「四国西南部における弥生文化の成立」『文化財論集』奈良大学文化財学科
 徳島大学埋蔵文化財調査室編 1998 「庄・蔵本遺跡1—徳島大学蔵本キャンパスにおける発掘調査—」徳島大学埋蔵文化財調査報告第1巻
 外山 秀一 1996 「丸亀平野における遺跡の立地と環境その2—郡家一里屋遺跡, 飯野・東二瓦礫遺跡—」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第20冊 飯野・東二瓦礫遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター

な～の

- 永嶋 正春 1996 「漆から見た縄文・弥生時代」『考古学ジャーナル』401号, ニューサイエンス社
 中川 一哉他 1997 「京都府遺跡調査報告書第22冊雲宮遺跡」財団法人京都府埋蔵文化財調査研究センター
 中村 友博 1980 「弥生時代の武器形木製品」『東大阪市遺跡保護調査会年報1979年度』東大阪市遺跡保護調査会
 仲谷 英夫 1990 「善通寺市永井遺跡産出の動物遺体(1)」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
 奈良国立文化財研究所編 1993 『木器集成図録 近畿原始編』
 新津健・梶原洋 1990 『金生遺跡Ⅱ(縄文時代編)』山梨県教育委員会
 ・金子浩昌ほか
 西岡 達哉 1989 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第6冊稲木遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
 西岡 達哉 1990 「四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊一ノ谷遺跡」香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター

- 西岡 達哉 1997 『旧練兵場遺跡』(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- 西本 豊弘 1990 「普通寺市永井遺跡産出の動物遺体(2)」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- 丹羽 祐一 1994 「古墳時代」『新編丸亀市史4史料編』丸亀市
- 能城修一 1990 「普通寺市永井遺跡の木材化石群集」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- ・鈴木三男
- 信里 芳紀 1997 「室本遺跡について」『香川考古第6号』香川考古刊行会
- は～ほ
- 畑 大介 1994 「堤防考古学の視角と課題」『帝京大学山梨文化財研究所研究報告第5集』帝京大学山梨文化財研究所
- 平井 勝 1987 「第三章 縄文時代」『岡山県の考古学』吉川弘文館
- 平井 勝 1994 『弥生時代の石器』考古学ライブラリー
- 平井 勝 1995 「岡山平野における遠賀川系土器の出現—津島遺跡南池地点出土土器の再検討—」『古代吉備』第17集
- 広瀬 和雄 1997 『縄文から弥生への新歴史像』
- 廣瀬 常雄 1994 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第10冊金蔵寺下所遺跡・西碑殿遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- 廣瀬 常雄 1995 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第17冊郡家大林上遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- 藤尾 慎一郎 1993 「生業から見た縄文から弥生」『国立歴史民俗博物館研究報告』第48集, 国立歴史民俗博物館
- 藤田 憲司 1982 「中部瀬戸内の前期弥生土器の様相」『倉敷考古館集報第17号』
- 藤好 史郎 1982 『中の池遺跡発掘調査概要—香川県丸亀市金倉町所在の弥生時代遺跡の調査—』丸亀市教育委員会
- 藤好史郎 1990 『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ下川津遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- ・西村尋文編
- 古市 光信 1990 「普通寺市永井遺跡(縄文時代)産出の植物遺体(種子)について」『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(勸香川県埋蔵文化財調査センター)
- ま～も
- 前田 佳久 1993 『大開遺跡発掘調査報告書』神戸市教育委員会
- 町田 洋 1992 『火山灰アトラス—日本列島とその周辺』, 東京大学出版会
- ・新井房夫

- 町田洋・新井房夫1986 『地層の知識—第4紀をさぐる』考古学シリーズ8, 東京美術
・森脇広
- 松井 一明 1995 「弥生時代の石鍬について(上)」『弥生文化博物館研究報告』第4集, 大
阪府弥生文化博物館
- 松木 武彦 1989 「弥生時代の石製武器の発達と地域性—とくに打製石鍬について—」『考古
学研究』第35巻第4号
- 松村 道博他 1995 『福岡空港西側整備に伴う埋蔵文化財調査報告 雀居遺跡3』福岡市教育委
員会
- 松本敏三・岩橋孝1983 『讃岐青銅器図録』, 瀬戸内海歴史民俗資料館
- 松本 和彦他 1998 「多肥宮尻遺跡」『県道・河川関係埋蔵文化財発掘調査概報平成9年度』香
川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 松本 豊胤 1961 「香川県善通寺市出土の弥生式土器」『古代』第37号, 早稲田大学考古学会
- 松本 豊胤 1961 「讃岐弥生式土器の研究—前期—」『香川県考古学会報告』第一輯
- 真鍋 昌宏 1979 「長者原遺跡」『香川県埋蔵文化財調査年報昭和53年度』香川県教育委員会
- 真鍋 昌宏 1988 「弥生時代前期の土器について」『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査
報告V大浦浜遺跡』香川県教育委員会
- 真鍋 昌宏 1987 「乾遺跡」『中村遺跡・乾遺跡・上一坊遺跡』香川県教育委員会・日本道路
公団
- 真鍋 昭文他 1995 『持田三丁目遺跡』愛媛県埋蔵文化財調査センター
- 豆谷 和之 1996 「前期弥生土器出現」『古代』第99号, 早稲田大学考古学会
- 御堂島 正 1989 「『扶入打製石底』の使用痕分析」『古代文化』第41巻, 第6号古代学協会
- 南 博史 1988 「口酒井遺跡第11次調査」古代学協会
- 宮崎 哲治 1993 「高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊林坊城遺跡」香川県
教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
- 宮崎 哲治 1995 「香川における弥生前期土器の様相」『財団法人香川県埋蔵文化財調査セ
ンター研究紀要Ⅲ』
- 六車恵一 1956 「讃岐彌生式土器聚成図録」『文化財協会報特別号第1集』香川県文化財保
護協会
- 森 格也 1992 「瀬戸内の高地性集落」『吉備の考古学的研究(上)』山陽新聞社
- 森格也・古野徳久1994 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊前田東中村遺跡』(財
香川県埋蔵文化財調査センター
- 森 格也 1997 『高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第7冊鴨部川田遺跡I』(財
香川県埋蔵文化財調査センター
- 森下 英治 1994a 『旧練兵場遺跡—平成5年度国立善通寺病院内発掘調査報告—』香川県教育
委員会
- 森下 英治 1994b 「五条遺跡」『香川県埋蔵文化財発掘調査報告—香川県土木部道路改良事業
に伴う発掘調査報告集—』香川県教育委員会

- 森下 英治 1995a 『旧練兵場遺跡Ⅱ』香川県教育委員会
- 森下 英治 1995b 『北原3号墳・北原遺跡』香川県教育委員会
- 森下 英治 1996 「香川県の石器組成」『農耕開始期の石器組成1近畿(大阪・兵庫)・中国・四国』国立歴史民俗博物館資料調査報告7
- 森下 英治 1997a 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第27冊三条黒島遺跡・川西北七条Ⅰ』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 森下 英治 1997b 「丸亀平野条里型地割の考古学的検討」『(財)香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅴ』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 森下英治
・信里芳紀 1998 「讃岐地方における弥生土器の基準資料Ⅰ—下川津遺跡出土前期弥生土器を中心に—」『(財)香川県埋蔵文化財調査センター研究紀要Ⅵ』(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- や〜わ
- 家根 祥多 1993 「遠賀川式土器出現期の様相」『論苑考古学』坪井清足さんの古稀を祝う会
- 山下 平重 1996 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第22冊川西北鍛冶屋遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 山下 平重 1993 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第13冊郡家原遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 山元 敏裕 1995 『一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第5冊井手東Ⅱ遺跡』高松市埋蔵文化財調査報告第27集, 高松市教育委員会
- 山元 敏裕 1993 『一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第1冊浴・長池遺跡』高松市教育委員会
- 山元 敏裕 1994 『一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第2冊浴・松ノ木遺跡』高松市教育委員会
- 山元 敏裕 1994 『一般国道11号線高松東道路建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第3冊浴・長池遺跡Ⅱ』高松市教育委員会
- 吉留 秀敏 1993 「縄文時代後期から晩期の石器技術総体の変化とその評価—早良平野を中心として—」『古文化談叢』第30集(上), 九州古文化研究会
- 吉留 秀敏 1994 「環濠集落の成立とその背景」『古文化談叢』第33集, 九州古文化研究会
- 渡部 明夫 1995 「香川の刳抜式石棺—石棺の創出と移動—」『瀬戸内海地域における交流の展開』名著出版
- 渡部 明夫 1990 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第9冊永井遺跡』香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
- 渡辺 誠 1975 「総括」『京都府舞鶴市桑飼下遺跡発掘調査報告書』平安博物館
- 和田 正夫 1951 「快天山古墳発掘調査報告書」『香川県史跡名勝天然記念物調査報告15』香川県史跡名勝天然記念物調査会
- ・松浦 正一
- 和田 素子 1993 『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第12冊郡家一里屋遺

藁科 哲男 1988 跡】香川県教育委員会・日本道路公団・(財)香川県埋蔵文化財調査センター
「石器原材料の産地分析」『鎌木義昌先生古稀記念論集 考古学と関連科学』
・東村 武信 同刊行会

四国横断自動車道建設に伴う

埋蔵文化財発掘調査報告

第二十九冊

龍川五条遺跡Ⅱ

飯野東分山崎南遺跡

第1分冊

平成10年10月30日 発行

編集 財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

〒762-0024 香川県坂出市府中町字南谷5001番の4

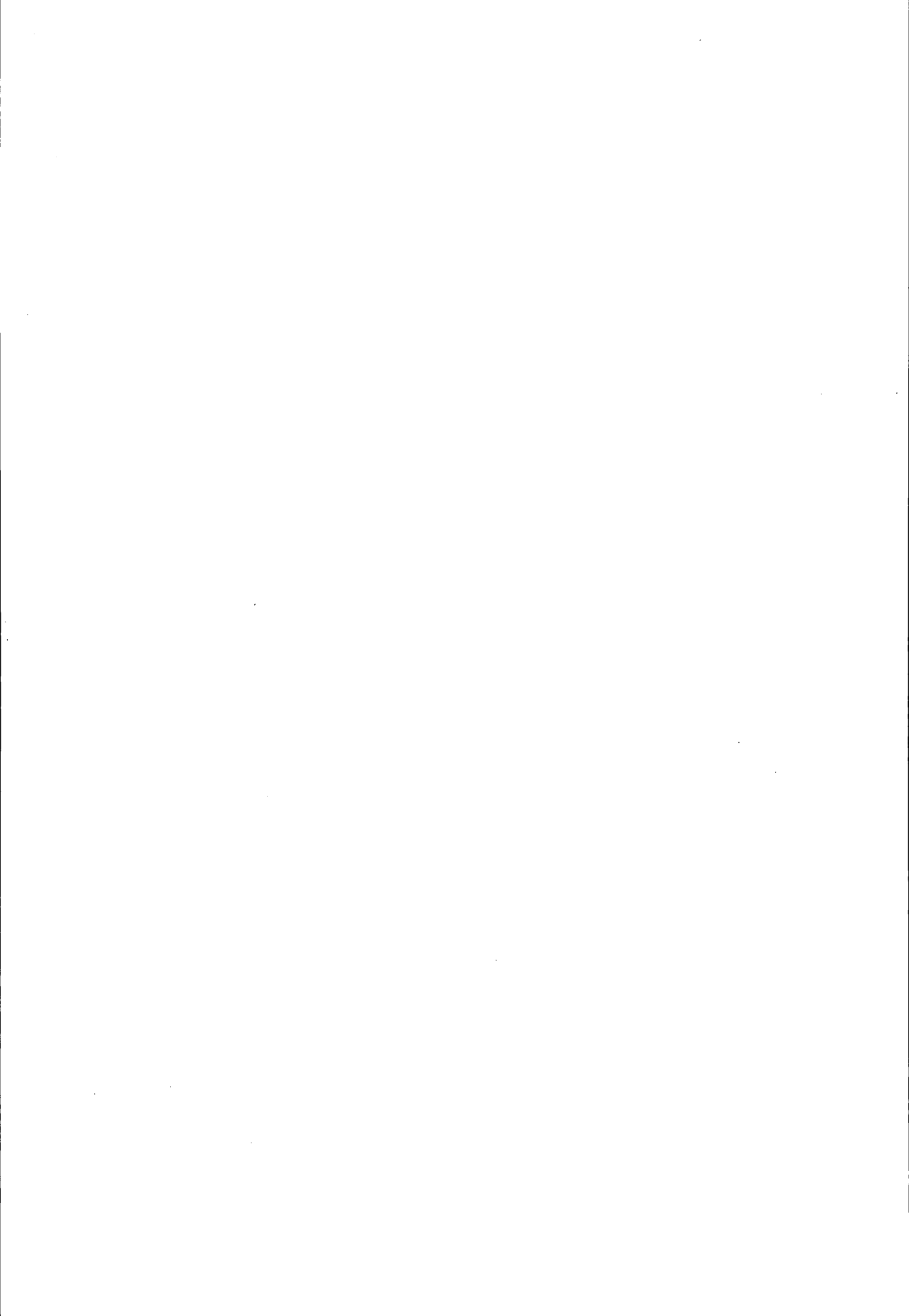
電話 (0877) 48-2191

発行 香 川 県 教 育 委 員 会

財団法人香川県埋蔵文化財調査センター

日 本 道 路 公 団

印刷 株式会社 成光社



四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第二十九冊

龍川五条遺跡Ⅱ
飯野東分山崎南遺跡

第2分冊

1998.10

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団

四国横断自動車道建設に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告

第二十九冊

龍川五条遺跡Ⅱ
飯野東分山崎南遺跡

第2分冊

1998.10

香 川 県 教 育 委 員 会
財団法人香川県埋蔵文化財調査センター
日 本 道 路 公 団

第2分冊

目 次

第1部 龍川五条遺跡Ⅱ

遺物観察表

第30表 土器観察表	1
第31表 石器観察表	73
第32表 木器観察表	89

第2部 飯野東分山崎南遺跡

第1章 調査の経緯	91
-----------------	----

第2章 立地と環境	93
-----------------	----

第3章 各地区の概要

(1) C地区(飯野東分山崎南遺跡)の概要	98
(2) D地区の概要	99

第4章 出土遺物

(1) C地区出土遺物	101
(2) D地区出土遺物	107

第5章 まとめ	115
---------------	-----

遺物観察表	117
-------------	-----

図 版 目 次

龍川五条遺跡Ⅱ

- | | | | |
|------|--|----------|---|
| 図版 1 | 前池地区全景 | 図版18 (1) | IV B区 S R 06土層断面③
(南より) |
| 図版 2 | IV B区全景 | (2) | IV B区 S R 06土層断面④
(北より) |
| 図版 3 | V①②区全景 | 図版19 (1) | IV B区 S R 06土層断面⑥
(南より) |
| 図版 4 | (1) V④区全景
(2) V⑥区全景 | (2) | IV B区 S R 06土層断面⑦
(南より) |
| 図版 5 | 前池地区弥生前期面全景(西より) | 図版20 (1) | V④区 S R 06土層断面⑨
(南東より) |
| 図版 6 | (1) 前池地区東半部(南より)
(2) 前池地区 S D 49の砂礫層基盤 | (2) | V④区 S R 06土層断面⑨
(南より) |
| 図版 7 | (1) 前池地区 S D 49土層断面③
(東より)
(2) 前池地区 S R 04・S D 49合流部
土層断面④(西より) | 図版21 (1) | IV B区 S R 06木製品等出土状
況(南より) |
| 図版 8 | (1) 前池地区 S D 49最下層土器出
土状況(東より)
(2) 前池地区 S D 50土器出土状況
(東より) | (2) | IV B区 S R 06断面⑥木製品出
土状況(南より) |
| 図版 9 | (1) 前池地区 S D 50土器出土状況
(東より)
(2) 前池地区 S R 04(東より) | 図版22 (1) | IV B区 S R 06田下駄部材出土
状況
(2) IV B区 S R 06灰青色砂礫層土
器出土状況(南より) |
| 図版10 | (1) 前池地区 S X 07及び小ピット
群(西より)
(2) 前池地区 S R 04基盤河川自然
木出土状況(東より) | 図版23 (1) | IV B区 S R 06黒色シルト層土
器出土状況
(2) IV B区 S R 06ブロック層須恵
器杯身出土状況(南より) |
| 図版11 | (1) V④区 S D 51土層断面(南より)
(2) V④区 S D 51(北東より) | 図版24 (1) | 前池地区 S B 10~12(東より) |
| 図版12 | (1) IV B区 S R 05北半河床面
(南より)
(2) IV B区 S R 05土層断面①
(南より) | (2) | 前池地区 S P 11(S B 13)遺
物出土状況 |
| 図版13 | (1) IV B区 S R 05土層断面③
(北より)
(2) IV B区 S R 05土器出土状況 | 図版25 (1) | 前池地区 S P 11(S B 13)遺
物出土状況
(2) 前池地区 S P 14(S B 13)方
形柱痕 |
| 図版14 | (1) V④区 S D 52(西より)
(2) V④区 S D 52土層断面(西より) | 図版26 (1) | 前池地区 S P 88(S B 13)遺
物出土状況
(2) 前池地区 S P 88(S B 13)遺
物出土状況 |
| 図版15 | (1) V④区 S D 52高杯出土状況
(2) IV区 S R 06全景(南より) | 図版27 (1) | 前池地区 S B 15北半部(南より) |
| 図版16 | (1) IV B区 S R 06北半部(南より)
(2) IV B区 S R 06(南より) | (2) | 前池地区 S B 16(南より) |
| 図版17 | (1) IV B区 S R 06(南より)
(2) IV B区 S R 06土層断面②
(南より) | 図版28 (1) | 前池地区 S P 109(S B 16)
土層断面(北より) |
| | | (2) | 前池地区 S P 76(S A 02)土
器出土状況 |
| | | 図版29 (1) | 前池地区 S D 53(南より) |

- 図版30 (2) 前池地区 S D 53 (南より)
 (1) 前池地区 S D 54 (西より)
 (2) 前池地区 S D 55 (南より)
 (3) 前池地区 S D 56 (南より)
 (4) 前池地区 S D 57・58(南より)
- 図版31 (1) 前池地区 S D 58・59合流部土層断面 (南より)
 (2) IV B 区 S D 60中央畦土層断面 (北より)
- 図版32 (1) IV B 区 S D 60畦 A 土層断面① (北より)
 (2) IV B 区 S D 60・62土層断面③ (北より)
- 図版33 (1) IV B 区 S D 61土層断面③ (北より)
 (2) IV B 区 S D 62土層断面④ (南より)
- 図版34 (1) V④区 S D 63 (北より)
 (2) V④区 S D 63南畦北面 (北より)
- 図版35 (1) V⑥区 S D 63土層断面 (南より)
 (2) V①区 S D 64 (南より)
- 図版36 (1) V①②区 S D 64土層断面 (南より)
 (2) V①②区 S D 66・67(東より)
- 図版37 (1) IV B 区西上段部 S R 07肩部整地層除去後 (北より)
 (2) IV B 区東下段部 S R 07上層検出状況 (北より)
- 図版38 (1) IV B 区北半近世遺構群全景 (南より)
 (2) IV B 区 S R 07完掘状況 (南より)
- 図版39 (1) IV B 区 S R 07中央畦 (北より)
 (2) IV B 区 S R 07最下層土器出土状況
- 図版40 (1) IV B 区近世土坑群全景 (南より)
 (2) IV B 区 S K 89土層断面 (西より)
- 図版41 (1) IV B 区 S K 90土層断面 (東より)
 (2) IV B 区 S K 90下部集石 (東より)
- 図版42 (1) IV B 区 S K 91土層断面 (東より)
 (2) IV B 区 S K 92下部集石 (東より)
- 図版43 (1) IV B 区 S K 92完掘状況 (南より)
 (2) IV B 区 S K 93断面 (西より)
- 図版44 (1) IV B 区 S K 93集石 (西より)
 (2) IV B 区 S K 94土層断面 (東壁より)
- 図版45 (1) IV B 区 S K 95断面・集石 (西より)
 (2) IV B 区 S K 95集石 (南より)
- 図版46 (1) IV B 区 S K 97完掘状況 (南より)
 (2) IV B 区 S K 97完掘状況・下部 (南より)
- 図版47 (1) IV B 区 S K 97最下層 (西より)
 (2) IV B 区 S K 98完掘状況 (西より)
- 図版48 (1) V④区 S K 99検出状況 (東より)
 (2) V④区 S K 99土層断面 (北より)
- 図版49 (1) V②区 S X 08 (西より)
 (2) V②区 S X 08西側畦土層断面 (西より)
- 図版50 (1) IV B 区 S D 68全景 (南より)
 (2) IV B 区 S D 68畦 E (南より)
- 図版51 (1) IV B 区 S E 03井戸立ち割り (南より)
 (2) IV B 区 S E 03完掘状況 (北より)
- 図版52 (1) V①区 S X 09 (北より)
 (2) V③区調査区全景 (東より)
- 図版53 (1) IV B 区調査風景
 (2) 前池地区堤防西壁断面
- 図版54 (1) S K 87出土遺物
 (2) S D 49最下層出土遺物①
- 図版55 S D 49最下層出土遺物②
 図版56 S D 49最下層出土遺物③
 図版57 S D 49最下層出土遺物④
 図版58 S D 49最下層出土遺物⑤
 図版59 S D 49最下層出土遺物⑥
 図版60 S D 49最下層出土遺物⑦
 図版61 S D 49最下層出土遺物⑧
 図版62 S D 49最下層出土遺物⑨
 図版63 S D 49最下層出土遺物⑩
 図版64 (1) S D 49最下層出土遺物⑪
 (2) S D 49下層出土遺物①
- 図版65 S D 49下層出土遺物②
 図版66 S D 49下層出土遺物③
 図版67 S D 49中～下層出土遺物①
 図版68 S D 49中～下層出土遺物②
 図版69 S D 49中～下層出土遺物③
 図版70 S D 49中～下層出土遺物④
 図版71 S D 49中～下層出土遺物⑤
 図版72 S D 49中～下層出土遺物⑥
 図版73 S D 49中～下層出土遺物⑦
 図版74 S D 49中～下層出土遺物⑧

- 図版75 S D49上層出土遺物①
 図版76 S D49上層出土遺物②
 図版77 S D49上層出土遺物③
 図版78 S D49上層出土遺物④
 図版79 S D49上層出土遺物⑤
 図版80 S D49上層出土遺物⑥
 図版81 S D49層位不明出土遺物①
 図版82 S D49層位不明出土遺物②
 図版83 S D49層位不明出土遺物③
 図版84 S D49層位不明出土遺物④
 図版85 S D50最下層出土遺物①
 図版86 S D50最下層出土遺物②
 図版87 (1) S D50最下層出土遺物③
 (2) S D50下層出土遺物①
 図版88 S D50下層出土遺物②
 図版89 S D50下層出土遺物③
 図版90 S D50下層出土遺物④
 図版91 S D50下層出土遺物⑤
 図版92 S D50下層出土遺物⑥
 図版93 S D50下層出土遺物⑦
 図版94 S D50下層出土遺物⑧
 図版95 (1) S D50上層出土遺物
 (2) S D50層位不明出土遺物①
 図版96 S D50層位不明出土遺物②
 図版97 S D50層位不明出土遺物③
 図版98 S D50層位不明出土遺物④
 図版99 S D51出土遺物
 図版100 S R04下層出土遺物①
 図版101 S R04下層出土遺物②
 図版102 S R04下層出土遺物③
 図版103 S R04下層出土遺物④
 図版104 S R04下層出土遺物⑤
 図版105 S R04下層出土遺物⑥
 図版106 S R04下層出土遺物⑦
 図版107 S R04下層出土遺物⑧
 図版108 S R04下層出土遺物⑨
 図版109 S R04下層出土遺物⑩
 図版110 S R04下層出土遺物⑪
 図版111 S R04下層出土遺物⑫
 図版112 S R04中層出土遺物①
 図版113 S R04中層出土遺物②
 図版114 S R04中層出土遺物③
 図版115 S R04中層出土遺物④
 図版116 S R04中層出土遺物⑤
 図版117 (1) S R04上層・最上層出土遺物
 (2) S R05出土遺物①
 図版118 S R05出土遺物②
 図版119 S R05出土遺物③
 図版120 S R05出土遺物④
 図版121 S R05出土遺物⑤
 図版122 S R05出土遺物⑥
 図版123 S R05出土遺物⑦
 図版124 S X07出土遺物
 図版125 (1) S D52出土遺物
 (2) S R06出土遺物①
 図版126 S R06出土遺物②
 図版127 S R06出土遺物③
 図版128 S R06出土遺物④
 図版129 S R06出土遺物⑤
 図版130 S R06出土遺物⑥
 図版131 S R06出土遺物⑦
 図版132 S R06出土遺物⑧
 図版133 S R06出土遺物⑨
 図版134 S R06出土状況⑩
 図版135 (1) S R06出土遺物⑪
 (2) S B13出土遺物
 図版136 (1) S A02出土遺物
 (2) S A03出土遺物
 (3) S P57出土遺物
 (4) S P107出土遺物
 (5) S D53出土遺物
 図版137 (1) S D59出土遺物
 (2) S D60出土遺物①
 図版138 S D60出土遺物②
 図版139 S D61出土遺物①
 図版140 S D61出土遺物②
 図版141 S D61出土遺物③
 図版142 (1) S D61出土遺物④
 (2) S D62出土遺物
 図版143 (1) S D63出土遺物
 (2) S D64出土遺物
 図版144 (1) S D65出土遺物
 (2) S D66出土遺物
 図版145 S R07出土遺物①
 図版146 S R07出土遺物②
 図版147 S R07出土遺物③
 図版148 S R07出土遺物④
 図版149 S R07出土遺物⑤
 図版150 S K90出土遺物①
 図版151 S K90出土遺物②

- 図版152 S K90出土遺物③
 図版153 S K90出土遺物④
 図版154 (1) S K90出土遺物⑤
 (2) S E03出土遺物①
 図版155 S E03出土遺物②
 図版156 (1) S E03出土遺物③

飯野東分山崎南遺跡

- 図版1 遺跡周辺航空写真
 図版2 (1) C地区5トレンチ(東より)
 (2) C地区2トレンチ(東より)
 図版3 (1) C地区6トレンチ(西より)
 (2) C地区6トレンチ客土層の広がり(南より)
 図版4 (1) C地区6トレンチ下部の礫散布状況(西より)
 (2) C地区6トレンチ下部の礫散布状況(東より)

- (2) 包含層出土遺物①
 図版157 包含層出土遺物②
 図版158 包含層出土遺物③

- 図版5 (1) D地区1トレンチ(東より)
 (2) D地区1トレンチ西壁断面
 図版6 C地区出土遺物①
 図版7 C地区出土遺物②
 図版8 D地区出土遺物①
 図版9 D地区出土遺物②
 図版10 D地区出土遺物③
 図版11 D地区出土遺物④
 図版12 D地区出土遺物⑤
 図版13 D地区出土遺物⑥

付 図

- 付図1 龍川五条遺跡Ⅲ区・ⅣA区・前池地区・ⅣB区・V④区・V⑥区下層遺構配置図
 付図2 龍川五条遺跡Ⅲ区・ⅣA区・前池

- 地区・ⅣB区・V④区・V⑥区上層遺構配置図
 付図3 龍川五条遺跡V①②区遺構配置図

龍川五条遺跡Ⅱ

遺物観察表

凡 例

胎 土

白……白色砂粒	大……鉍物・砂粒の径が1.1mm 以上	多……鉍物・砂粒を多く含む
茶……茶色砂粒	中…… 〃 0.6～1.0mm	少…… 〃 少量含む
灰……灰色砂粒	小…… 〃 0.5mm 以下	微…… 〃 僅かに含む
透……透明砂粒		
非摩滅系…摩滅した円礫を含まないもの（第5章第2節参照）		
摩滅系……摩滅した円礫を含むもの（ 〃 ）		
橙色系……橙色系の色調で、微細な黒色砂粒を多く含むもの（ 〃 ）		
※……赤色斑粒を特に多く含むもの		

形態上の特徴

口……口縁部	底……底部	刻……刻目	削凸……削出凸帯
頸……頸部	口頸…口頸部	文……文様	貼凸……貼付凸帯
胴……胴部	頸胴…頸胴部の境	へラ…へラ描き沈線文	櫛直……櫛描直線文
櫛波…櫛描波状文	刺……刺突文		

内面調整・外面調整

器体の上部側からの観察結果を「,」で区切って列記した。

色 調 『新版標準土色帖(1992年版)』（日本色研事業株式会社）による表記

単 位 すべて cm・g に統一した

残存率 復元径測定部位における実物の割合を示した
また、便宜上小破片でも径を復元したものは、備考欄に「径は参考」と記載した

石 材 サヌカイト、砂岩以外の石材については、香川大学教育学部谷山穰先生に鑑定を依頼した結果の原文を記載した。

第30表 龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (1)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2420	19	54	S K 87	下層	弥生土器 壺	(11.2)			白・透, 小~中, 多, 橙色系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	明赤褐色(5 Y R 5/6)	ナデ, ヘラ 磨き	摩滅, ナデ	1/6	頸: 段 + ヘ ラ 1	段は不明瞭
2421	19	54	S K 87	-	弥生土器 甕	(15.0)			白・灰・茶・透, 小 ~大, 多, 非摩擦 系	にぶい黄褐色 (10Y R 4/ 1)	褐色(10Y R 4/1)	ヘラ磨き	1/6	口: 如意形, 文: 無文	外面黒斑	
2422	19	54	S K 87	-	弥生土器 甕	(18.0)			茶・白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/ 3)	摩滅	1/8	口: 如意形, 文: 無文		
2423	19		S K 87	下層	弥生土器 甕			(6.2)	白・灰・茶・透, 小 ~大, 多, 非摩擦 系	にぶい黄褐色 (10Y R 5/ 3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	板ナデ	1/4			
2425	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺	14.4	(28.2)	8.1	白・透, 灰, 小~大, 多, 非摩擦系	灰色(5Y 5/ 1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナデ後へ ラ磨き	板ナデ後へ ラ磨き	3/4	頸: 段, 胴: ヘラ 2	胴径: 24.7cm
2426	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺	13.7	(29.5)	7.8	白・灰・透, 小~大, 少, 非摩擦系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	板ナデ後へ ラ磨き	指ナデ後へ ラ磨き	2/3	頸: 削凸1 + ヘラ 2, 胴: ヘラ 4	胴部文様は一 部削凸凸帯状, 胴径: 24.5cm
2427	22	54	S D 49	最下層	弥生土器 壺	(12.8)			茶・白・透, 小~大, 多, 橙色系	褐色(5Y R 6/6)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅	摩滅	1/8	頸: ヘラ 3	頸部文様は摩 滅のため不明 瞭
2428	22	54	S D 49	最下層	弥生土器 壺	(15.4)			白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	にぶい黄色 (2.5Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅, ナデ	ナデ, ヘラ 磨き	1/8	頸: ヘラ 1	頸部文様は摩 滅のため不明 瞭
2429	22	54	S D 49	最下層	弥生土器 壺	(13.3)			白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅, 一部 ヘラ磨き	摩滅, ヘラ 磨き	1/8	頸: 貼凸1	
2430	22	54	S D 49	最下層	弥生土器 壺	(14.3)			灰・白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅, ヘラ 磨き	ヘラ磨き	破片	頸: 削凸1	
2431	22	54	S D 49	最下層	弥生土器 壺	(15.0)			白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナデ, ヘ ラ磨き	ナデ, ヘラ 磨き	1/8	頸: 削凸1	
2432	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺	(15.4)			白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ナデ, ヘラ 磨き	ナデ, ヘラ 磨き	1/8	-	
2433	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰色(5Y 6/ 1)	灰色(5Y 5/ 1)	摩滅	摩滅	破片	口唇: ヘラ 1	
2434	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ナデ, ハケ 後ヘラ磨き	ヘラ磨き	破片	-	
2435	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多, 非摩擦系	灰白色(10Y R 7/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	ハケ	ナデ	1/8	頸: ヘラ 2	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (2)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2436	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰色 (5Y 4/1)	灰色 (5Y 4/1)	摩滅, ヘラ磨き	摩滅	1/8	頸: ヘラ 1 + α	
2437	22	55	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き	指ナデ	破片	胴: ヘラ 3	小形壺
2438	22	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	摩滅, ヘラ磨き	板ナデ	1/8	頸: ヘラ 3, 胴: ヘラ 3	頸部文様は摩滅のため不明瞭
2439	22	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	灰黄褐色 (10 Y R 4/2)	ヘラ磨き	板ナデ	小破片	胴: ヘラ 3 + 重弧文	外面に炭化物
2440	22	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	胴: 削出凸 + ヘラ 2	
2441	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 非摩滅系 少	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	胴: ヘラ 2 + α	胎土精良
2442	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・黒, 小~中, 非摩滅系 多	にぶい黄橙色 (10Y R 6/3)	にぶい黄橙色 (10Y R 7/3)	ヘラ磨き, 摩滅	指押, 摩滅	小破片	胴: 段 + ヘラ 1	
2443	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・黒, 小~中, 非摩滅系 多	黒色 (2.5 Y 2/1)	黄灰色 (2.4 Y 4/1)	摩滅, ヘラ磨き	ヘラ磨き後指押	小破片	胴: ヘラ 3	
2444	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 非摩滅系 多	浅黄橙色 (10 Y R 8/3)	灰白色 (2.5 Y 8/2)	摩滅	摩滅	破片	胴: ヘラ 2	
2445	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 非摩滅系 多	にぶい黄橙色 (10Y R 6/3)	暗灰色 (2.5 Y 5/2)	摩滅, ヘラ磨き	指ナデ	小破片	胴: ヘラ 3 + α	
2446	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 非摩滅系 多	黒色 (10Y R 2/1)	褐灰色 (10Y R 4/1)	ヘラ磨き	指押さえ	小破片	胴: 貼凸 1	凸部貼付前にヘラ沈
2447	23	56	S D 49	最下層	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 非摩滅系 多	褐灰色 (10Y R 4/1)	褐灰色 (10Y R 4/1)	摩滅	指押, 摩滅	1/8	胴: ヘラ 3	
2448	23	57	S D 49	最下層	弥生土器 壺			8.8	白・透, 大, 多, 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R 6/4)	にぶい黄橙色 (10Y R 7/2)	ヘラ磨き, ハケ後ヘラ磨き	剥落	完存		外面黒斑, 底面はヘラ磨き
2449	23	57	S D 49	最下層	弥生土器 壺			8.4	灰・白・透, 小~大, 非摩滅系 多	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	灰白色 (2.5 Y 8/2)	摩滅, ヘラ磨き	摩滅	完存		
2450	23	57	S D 49	最下層	弥生土器 壺			(9.0)	茶・白・透, 小~大, 非摩滅系 多	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	にぶい褐色 (7.5 Y R 6/3)	摩滅	摩滅	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (3)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の 特徴	備考
2451	23	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			8.3	茶・白・透、小～大、 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y R 6/ 3)	へラ磨き、 ハケ後へラ 磨き	へラ磨き	完存		
2452	23	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			8.6	白・透・茶、小～大、 多 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R 5/ 3)	にぶい黄褐色 (10Y R 5/ 3)	摩滅	摩滅	完存		
2453	23	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			8.3	白・灰・透、少～大、 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	へラ磨き、 ハケ後へラ 磨き	へラ磨き	完存		
2454	23	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			6.4	白・透、小～大、 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 6/1)	淡黄色(2.5 Y 8/3)	摩滅	指押、摩滅	完存		
2455	23	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			6.8	白・透、小～大、 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩滅、へラ 磨き	摩滅、へラ 磨き	完存		外面黒斑、底 面へラ磨き
2456	24	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			(12.5)	白・灰・黒・透、小 ～大、多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y 6/2)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	へラ磨き	へラ磨き	1/5		接合面で剥離
2457	24	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			8.2	白・透、小～大、 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	摩滅	摩滅	完存		
2458	24	57	SD49	最下層	弥生土器 壺			(7.8)	白・透・黒、小～大、 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	へラ磨き、 摩滅	摩滅	1/2		
2459	24	SD49	最下層	弥生土器 壺				(8.0)	白・透、小～大、 少 非摩滅系	暗灰色(N 3/)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	へラ磨き、 摩滅	へラ磨き、 摩滅	1/2		
2460	24	58	SD49	最下層	弥生土器 壺			(8.9)	白・黒・透、小～大、 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	板ナデ後へ ラ磨き	板ナデ後ナ デ	1/2		底部へラ削り 後へラ磨き
2461	24	58	SD49	最下層	弥生土器 壺			5.9	白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩滅、へラ 磨き	へラ磨き	完存		内外面黒斑
2462	24	SD49	最下層	弥生土器 壺				(11.5)	白・透、小～大、 多 非摩滅系	オリーブ黒 色(5Y 3/1)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	へラ磨き	へラ磨き	1/5		底面へラ磨き、 内外面黒斑
2463	24	58	SD49	最下層	弥生土器 壺			(8.4)	白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ハケ後へラ 磨き、ナデ	板ナデ	1/4		
2464	24	58	SD49	最下層	弥生土器 壺			10.0	白・透、小～大、 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	へラ磨き	ナデ	1/2		外面黒斑
2465	24	58	SD49	最下層	弥生土器 壺			6.8	白・透・黒、小～中、 少 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	灰黄褐色(10 Y R 4/2)	へラ磨き、 指押、ハケ	へラ磨き	完存		内面黒斑

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (4)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2466	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕			(6.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰白色(2.5 Y 8/2)	摩滅, 指押	へラ磨き, 指押	1/2		外面黒斑
2467	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕			4.3	茶・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	へラ磨き, ナデ	板ナデ	完存		底面へラ磨き
2468	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕			(6.4)	白・透, 小~中, 少 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	暗灰色(2.5 Y 5/2)	指押, ナデ	板ナデ, 指押	1/2		内面に炭化物付着
2469	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕			8.7	白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄色(2.5 Y R 6/3)	板ナデ	指ナデ	完存		
2470	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕			6.9	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	摩滅, へラ削り後	ナデ	完存		底面へラ磨き
2471	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕			9.6	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	黒色(10 Y R 2/1)	にぶい黄褐色(10 Y R 7/4)	剥落	剥落	完存		接合面で剥離
2472	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 ミナチヤア壺	4.5	7.4	4.0	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	指押後へラ磨き, 板ナデ	ナデ	完存		調査時に胴部破損
2473	24	58	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(33.4)			白・透・茶・小~大, 多 橙色系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	摩滅	摩滅	1/8		
2474	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(23.2)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系(やや異質)	浅黄褐色(7.5 Y R 8/6)	浅黄褐色(7.5 Y R 8/6)	摩滅	摩滅	1/8		
2475	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(23.6)			白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄褐色(10 Y R 7/3)	指押後へラ磨き	摩滅	1/8		刻は不明瞭
2476	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(21.0)			白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 4/2)	にぶい黄褐色(10 Y R 6/3)	へラ磨き	摩滅	破片		
2477	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(20.9)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色(2.5 Y R 5/2)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	へラ磨き	摩滅, ナデ	破片		
2478	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(20.0)			白・透・黒, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩滅, 指押, 横ナデ	横ナデ	1/8		刻は摩滅のため不明
2479	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(17.3)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y 6/3)	にぶい褐色(7.5 Y R 5/4)	摩滅	摩滅	小破片		径は参考
2480	24	59	S D 49	最下層	弥生土器 甕	(21.3)			白・灰・透, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	摩滅	へラ磨き	破片		刻は摩滅のため不明

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (5)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2481	24	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・黒, 小~大, 少 非摩擦系	にぶい黄橙 色(10Y R6/4)	にぶい黄橙 色(10Y R6/4)	粗いハケ	板ナデ後ナ デ	破片	口:如意形, 文:へラ4	半截竹管施文
2482	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多 摩擦系(異質)	褐灰色(10Y R6/1)	褐灰色(10Y R5/1)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	小破片	口:如意形, 刻:全面, 文:へラ2	外面黒斑
2483	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y7/2)	黄灰色(2.5 Y6/1)	板ナデ	板ナデ	破片	口:如意形, 刻:全面, 文:へラ3	金雲母微
2484	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 多 摩擦系	灰白色(5Y 8/1)	灰白色(5Y 8/1)	指押後横ナ デ	摩減	小破片	口:如意形, 刻:上端, 文:へラ1 +α	
2485	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 多 摩擦系	灰黄色(2.5 Y6/2)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	指押後横ナ デ, 板ナ デ	ナデ	小破片	口:如意形, 刻:?, 文:へラ2	刻は摩減のた め不明
2486	25		S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩擦系	橙黄色(5Y R7/6)	橙黄色(5Y R7/6)	ナデ, 摩減	ナデ	1/8	口:如意形, 刻:全面	
2487	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				白・灰, 小, 少 非摩擦系	黄灰色(2.5 Y6/1)	にぶい黄橙 色(10Y R7/2)	摩減	摩減	小破片	口:凸系, 刻:無	
2488	25		S D49	最下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄褐色(10 Y R6/2)	ナデ	摩減	小破片	文:へラ3	
2489	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕	(10.6)			白・透, 小~大, 多 非摩擦系	灰黄色(2.5 Y6/2)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	へラ磨き	ナデ	1/4		内面に炭化物
2490	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 多 摩擦系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y8/1)	摩減, ハケ 後ナデ, 指 押後ナデ, ナデ	摩減	完存		
2491	25	59	S D49	最下層	弥生土器 甕	(8.0)			白・透, 小~大, 多 非摩擦系	にぶい黄橙 色(10Y R7/3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/3)	摩減, へラ 磨き, 指押 後ナデ	ナデ	1/2		蓋の可能性あ り
2492	25	60	S D49	最下層	弥生土器 甕	(7.8)			白・透, 小~大, 多 摩擦系	黒褐色(2.5 Y3/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩減, 板ナ デ後ナデ	ナデ後へラ 磨き	1/2		
2493	25	60	S D49	最下層	弥生土器 甕	(7.3)			白・灰・黒・透, 小 ~大, 多 摩擦系	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩減	ナデ	1/3		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (6)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2494	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			(6.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色(5Y 4/1)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/3)	摩滅	ナデ	1/3		
2495	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			5.2	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5Y 7/2)	灰黄色(2.5Y 7/2)	摩滅	ナデ	完存		接合面で剥離
2496	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			6.2	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5Y 7/2)	黄灰色(2.5Y 6/1)	摩滅, ナデ	摩滅	完存		接合面で剥離
2497	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			(7.0)	白・灰・黒・透, 小~中, 少 摩滅系	にぶい黄色(2.5Y 6/3)	黄褐色(2.5Y 5/3)	板ナデ	板ナデ	1/4		
2498	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			5.9	白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	灰黄褐色(10Y R 6/2)	ナデ	ナデ	完存		
2499	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			5.1	白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	浅黄色(2.5Y 7/3)	摩滅, ハケ	指ナデ	完存		
2500	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			6.9	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	灰黄色(2.5Y 6/2)	ハケ	へら削り後 ナデ	4/5		焼成後穿孔, 底面指押, 蓋 の可能性あり
2501	25	60	S D 49	最下層	弥生土器 甕			7.1	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰白色(2.5Y 7/1)	灰黄色(2.5Y 6/2)	摩滅, ハケ, ナデ	摩滅	完存		焼成後穿孔, 3~5mmの安山岩 内面黒斑
2502	25	61	S D 49	最下層	弥生土器 鉢	(37.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色(7.5Y 6/1)	灰黄色(2.5Y 6/2)	摩滅, へら 磨き	摩滅, へら 磨き	1/8		
2503	25	61	S D 49	最下層	弥生土器 鉢	(33.4)			白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	ナデ	指押, ナデ	1/8		
2504	25	61	S D 49	最下層	弥生土器 鉢				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10Y R 5/2)	灰黄褐色(10Y R 5/2)	摩滅	剥落	1/8		外面に炭化物
2505	25	61	S D 49	最下層	弥生土器 鉢				茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄橙色(10Y R 8/3)	灰白色(10Y R 8/2)	摩滅	摩滅	小破 片		
2506	26	61	S D 49	最下層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径6.0	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	黒色(2.5Y 2/1)	灰黄色(2.5Y 7/2)	ハケ後へら 磨き, へら 磨き	へら磨き	完存		内面黒斑
2507	26	61	S D 49	最下層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径6.5	白・灰・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5Y 6/2)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	ハケ	指ナデ	完存		外面黒斑
2508	26	61	S D 49	最下層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径6.4	白・透, 小~大, 多 摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 6/4)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	摩滅, へら 磨き後指押	指押, ナデ	完存		外面黒斑

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (7)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2509	26		S D49	最下層	弥生土器 甕蓋	(20.5)			白・透, 小~中, 少 摩滅系	黒褐色(2.5 Y3/1)	暗灰黄色(2.5 Y4/2)	へら磨き	へら磨き	破片		
2510	26		S D49	最下層	弥生土器 甕蓋				白・透, 小~中, 多 摩滅系	灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩滅	摩滅	小破片		
2525	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺	(16.8)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい橙褐色(7.5 Y R7/3)	にぶい橙褐色(5 Y R7/4)	剥落	剥落	破片	頸: 段	
2526	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺				白・灰・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄褐色(10 Y R5/3)	ハケ後へら磨き	ナデ後へら磨き	1/6	頸: ヘラ4, 胴: ヘラ3	頸部4条目沈線は部分的
2527	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺				白・黒・透, 小~中, 少 非摩滅系	橙褐色(5 Y R6/6)	にぶい黄褐色(10 Y R7/7)	ナデ, 指押後へら磨き	ナデ, 指押後へら磨き	1/6	頸: ヘラ2 口頸: 縦線3	
2528	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺	(14.1)			灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/1)	にぶい橙褐色(7.5 Y R6/4)	剥落	剥落	1/3		
2529	29	64	S D49	下層	弥生土器 壺	(15.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	ナデ, へら磨き	ナデ, へら磨き	1/8	頸: ヘラ2 +α	
2530	29		S D49	下層	弥生土器 壺	(10.3)			白・灰・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄褐色(10 Y R8/3)	摩滅, 板ナデ	ナデ	1/8		
2531	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	(10.6)			白・透, 小~大, 多 橙色系	明赤褐色(2.5 Y5/8)	橙褐色(5 Y R7/6)	摩滅	摩滅, 指押	1/2		
2532	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	(8.4)			白・透・黒, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ, ナデ	板ナデ, 摩滅	1/2		
2533	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	8.6			白・透・黒, 小~大, 多 摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R6/3)	にぶい黄褐色(10 Y R6/3)	板ナデ, 摩滅	指押, 板ナデ, 摩滅	1/2	外面に赤褐色土スリッ	丹塗りか?
2534	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	(6.0)			灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	ナデ	1/4		
2535	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	(8.3)			白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	暗灰黄色(2.5 Y5/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	剥落	へら磨き	1/3		
2536	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	(10.9)			白・灰・透, 小~大, 多 橙色系	にぶい黄褐色(10 Y R6/4)	橙褐色(5 Y R6/6)	摩滅, 板ナデ	摩滅, 指ナデ	1/4	底: 上底	
2537	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺	(6.8)			白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	にぶい黄褐色(2.5 Y6/4)	にぶい黄褐色(10 Y R6/4)	へら磨き	へら磨き	1/2		接合面で一部剥離

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (8)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2538	29	65	S D49	下層	弥生土器 壺			6.3	白・透, 小~大, 多 橙色系	黄灰色(2.5 Y6/1)	橙 色(5YR 7/6)	摩滅	摩滅	ほぼ 完存	底: 上底	接合面で剥離
2539	29	65	S D49	下層	弥生土器 ミニチユ ア壺	(3.4)		(2.7)	灰・茶・透, 小~中, 少 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	剥落, 指押	板ナデ後指 ナデ	1/2		
2540	30	65	S D49	下層	弥生土器 甕	(23.8)			白・透, 小~大, 多 橙色系	橙 色(5YR 6/6)	浅黄 橙 色 (7.5Y R8/ 4)	摩滅	摩滅	1/8	口: 如意形, 口唇: ヘラ1, 文: ヘラ3	
2541	30	65	S D49	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	灰 色(5Y 4 /)	板ナデ	剥落	破片	口: 如意形, 文: ヘラ3	
2542	30	65	S D49	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/1)	浅黄橙 色(10 Y R8/3)	摩滅	摩滅	小破 片	口: 如意形, 文: ヘラ2	
2543	30	65	S D49	下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R5/2)	褐灰色(10Y R4/1)	板ナデ	ナデ	小破 片	文: ヘラ2	
2544	30	66	S D49	下層	弥生土器 甕			7.5	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	指押後板ナ デ	3/4		焼成前に底面 刺突
2545	30	66	S D49	下層	弥生土器 甕			(7.6)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	褐灰色(10Y R4/1)	橙 色(5YR 6/6)	ハケ	摩滅	1/3		
2546	30	66	S D49	下層	弥生土器 甕			(6.2)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	橙 色(5YR 6/6)	板ナデ, ナ デ	ナデ	1/3		
2547	30	66	S D49	下層	弥生土器 甕			(5.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R5/3)	にぶい黄 色 (2.5Y 6/3)	摩滅, 指押, ナデ	板ナデ	1/3		
2548	30		S D49	下層	弥生土器 甕			(8.2)	白・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐 色(10Y R5/ 4)	にぶい橙 色 (7.5Y R6/ 4)	ハケ	ナデ	1/5		接合面で剥離
2549	30		S D49	下層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径4.0	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(5Y 8/1)	灰 色(5Y5/ 1)	摩滅	ナデ	完存		
2555	31	67	S D49	中~下 層	弥生土器 壺	(38.6)			白・灰, 大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/3		最下層と接合
2556	31	67	S D49	中層	弥生土器 壺	(15.4)			白・透, 小~中, 多 橙色系	橙 色(7.5Y R7/6)	橙 色(7.5Y R6/6)	ヘラ磨き, ナデ	指押, ナデ	1/6		
2557	31	67	S D49	中~下 層	弥生土器 壺	(16.0)			白, 小~大, 多 橙色系	橙 色(5YR 6/8)	橙 色(5YR 6/6)	摩滅	摩滅	1/6		摩滅顕著

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (9)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2558	31	67	S D49	中～下層	弥生土器壺	(13.2)			白・灰・透, 小～大, 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	黄褐色 (2.5Y5/3)	剥落	剥落, ナデ	1/7	頸:ヘラ1	
2559	31	68	S D49	中層	弥生土器壺	(15.6)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	摩滅	1/8	頸:ヘラ2 +α	
2560	31	67	S D49	中～下層	弥生土器壺	(15.8)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	灰白色 (2.5Y7/1)	灰黄色 (2.5Y7/2)	摩滅	摩滅	3/8	頸:ヘラ3, 胴:ヘラ1 +α	内面黒斑
2561	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺	(19.6)			白・透・灰, 小～大, 多 摩滅系	灰黄色 (2.5Y7/2)	浅黄色 (2.5Y7/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4	頸:貼凸1 +指押刻	
2562	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺	(13.8)			灰・白・透, 小～大, 多 非摩滅系	浅黄褐色 (10Y R8/3)	明黄褐色 (10Y R6/6)	ヘラ磨き	剥落	1/8	頸:ヘラ1 +α	
2563	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺	(15.8)			白・灰・透, 小～大, 少 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R7/4)	にぶい黄褐色 (10Y R6/4)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	破片	頸:ヘラ1 +α	
2564	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺	(19.4)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R7/2)	灰白色 (2.5Y8/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2565	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺	(14.6)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y7/2)	灰白色 (2.5Y8/2)	摩滅	摩滅, ヘラ磨き	1/8		
2566	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺				白・黒, 小～大, 少 摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	浅黄色 (2.5Y7/4)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	頸:削凸+ ヘラ2+刻 目	
2567	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺				灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	浅黄褐色 (10Y R8/3)	にぶい黄色 (7.5Y R7/4)	摩滅	摩滅	1/8	頸:ヘラ2 +半裁竹管 刺突	
2568	31	68	S D49	中～下層	弥生土器壺				白・透・黒, 小～中, 多 摩滅系	浅黄色 (2.5Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	ヘラ磨き	指押, 摩滅	1/8	頸:貼凸1	
2569	32	68	S D49	中～下層	弥生土器壺				白・灰・透, 小～大, 多 非摩滅系	黄灰色 (2.5Y6/1)	にぶい黄褐色 (10Y R7/2)	摩滅, ヘラ磨き	摩滅, 指ナデ	破片	頸:ヘラ3	
2570	32	68	S D49	中～下層	弥生土器壺				白・灰・透, 大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R7/2)	浅黄褐色 (10Y R8/3)	摩滅	剥落, 指ナデ	小破片	胴:ヘラ2	
2571	32		S D49	中～下層	弥生土器壺				白・透, 小～大, 多 非摩滅系	黄灰色 (2.5Y4/1)	黄灰色 (2.5Y4/1)	ナデ, ヘラ磨き	ナデ, ヘラ磨き	小破片		
2572	32	68	S D49	中～下層	弥生土器壺				灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	灰黄色 (2.5Y6/2)	にぶい黄褐色 (10Y R6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	破片	頸:削凸+ ヘラ1	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (10)

番号	図号	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2573	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	灰白色(5Y 7/1)	灰色(5Y 5/1)	へう磨き	摩滅	小破片	頸: へう2	
2574	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕				白・透, 小～大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y 8/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	へう磨き	摩滅	小破片	口頸: 縦線 4	施文は細線
2575	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕				白・灰・透, 大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色(10Y R 7/2)	にぶい黄橙色(10Y R 7/2)	摩滅, へう磨き	ナテ	小破片	胴: 段	内面に赤色顔料遺存
2576	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕				白・灰・黒・透, 小～大, 多 摩滅系	黄褐色(2.5 Y 5/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	へう磨き	板ナテ後へう磨き	小破片	胴: へう2	外面黒斑
2577	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	にぶい黄橙色(10Y R 6/3)	にぶい黄橙色(10Y R 7/3)	へう磨き	へう磨き	小破片	胴: へう3	
2578	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	10.0			白・灰・透, 大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	剥落	剥落	完存		外面黒斑, 接合面で剥離
2579	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	7.6			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色(10Y R 7/3)	にぶい黄橙色(10Y R 7/3)	へう磨き	指押, 摩滅	完存		外面黒斑
2580	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	9.4			白・灰・黒・透, 小～大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	へう磨き	へう磨き	完存		接合面で剥離
2581	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	8.3			白・透, 小～大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナテ後へう磨き	摩滅, ナテ	完存		外面黒斑
2582	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	(9.8)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	褐灰色(10Y R 4/1)	橙色(2.5 Y 6/6)	摩滅, 板ナテ, 指押	摩滅, 指押	1/4		内面黒斑
2583	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	7.0			白・透, 黒, 小～大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄橙色(10Y R 6/3)	へう磨き	指押, ナテ	完存		
2584	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	(8.6)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	淡黄色(2.5 Y 8/3)	にぶい橙黄色(7.5 Y 7/4)	指押, 摩滅	指押, 摩滅	1/2		
2585	32	70	SD49	中～下層	弥生土器 甕	(7.6)			灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩滅, へう磨き	摩滅	1/2		外面黒斑
2586	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	(7.6)			白・透, 小～大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色(10Y R 7/3)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	摩滅	摩滅	1/2		
2587	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	(7.8)			茶・白・透, 小～大, 多 非摩滅系	浅黄褐色(7.5 Y R 8/3)	橙色(5Y R 6/6)	摩滅	摩滅	1/4		
2588	32	69	SD49	中～下層	弥生土器 甕	(9.1)			白・黒・透, 小～大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	にぶい黄灰色(2.5 Y 6/3)	へう磨き	へう磨き	1/5		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (11)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2589	32	69	S D49	中～下層	弥生土器壺			(8.0)	白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	ヘラ磨き, ナデ	ナデ	3/8		外面黒斑, 底面はヘラ磨き
2590	32	69	S D49	中～下層	弥生土器壺			7.5	白・透, 小～大, 非摩滅系	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	ヘラ磨き, ナデ	板ナデ	7/8		
2591	32	70	S D49	中～下層	弥生土器壺			(6.0)	白・透, 小～大, 非摩滅系	灰色(5 Y 6/1)	浅黄褐色(10 Y R 8/3)	摩滅, 板ナデ	摩滅	3/8		
2592	32	70	S D49	中～下層	弥生土器壺			(8.3)	白・黒・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R 6/3)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/4)	摩滅, 板ナデ	摩滅, ナデ	1/4		
2593	32		S D49	中～下層	弥生土器壺			(6.4)	白・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R 7/1)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	ヘラ磨き, ナデ		1/6		底面ヘラ磨き
2594	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(17.4)			白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	横ナデ, ヘラ磨き	横ナデ, ヘラ磨き	1/8	口: 如意形, 刻: 下端, 文: 無文	
2595	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(28.8)			白・透, 小～大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	摩滅	板ナデ	1/8	口: 如意形, 文: ヘラ 1	内面黒斑, 刻は不明
2596	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(22.4)			白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口: 如意形, 口唇: ヘラ 1, 文: ヘラ 3	接合面で剥離
2597	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(28.9)			白・灰・透, 大, 多, 非摩滅系	淡黄色(2.5 Y 8/4)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅	摩滅, ナデ	破片	口: 如意形, 文: ヘラ 3	刻は不明
2598	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(25.0)			灰・白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	摩滅	摩滅	破片	口: 如意形, 無文	径は参考
2599	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(22.7)			白・灰・透, 小～大, 非摩滅系	橙色(5 Y R 6/6)	橙色(5 Y R 6/6)	摩滅	摩滅	破片	口: 如意形, 無文	径は参考
2600	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕	(15.4)	13.7	(6.7)	白・灰, 中～大, 摩滅系	橙色(5 Y R 6/6)	にぶい褐色(7.5 Y R 7/4)	摩滅	摩滅	1/4	口: 山形突起 4個 2対, 文: ヘラ 2 + 刺突・刺突重弧文	下層と接合
2601	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕				白・黒・透, 小～大, 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	ヘラ磨き	ナデ	小破片	文: ヘラ 3 + α	径は参考
2602	33	70	S D49	中～下層	弥生土器甕				白・透, 小～大, 橙色系	橙色(5 Y R 6/6)	橙色(5 Y R 6/6)	摩滅	摩滅	小破片	口: 如意形, 文: ヘラ 1	磨滅顯著

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (12)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	焼存率	形態上の特徴	備考
2603	33	70	S D49	中～下層	弥生土器 甕				白・透・黒・多 摩滅系	浅黄色 (2.5 Y7/3)	浅黄色 (2.5 Y7/3)	摩滅, ナデ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ2	
2604	33	70	S D49	中～下層	弥生土器 甕				灰・白・透・多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y5/2)	褐灰色 (10 Y R4/1)	ヘラ磨き	ナデ	小破片	頸:ヘラ2	外面に炭化物
2605	33	70	S D49	中～下層	弥生土器 甕				白・灰・透・多 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10 Y R6/4)	灰黄褐色 (10 Y R5/2)	ナデ, 摩滅	ナデ	小破片	口:如意形, 文:ヘラ4	口縁端部遺存 不良
2606	33	70	S D49	中～下層	弥生土器 甕				白・透・少 橙色系	灰褐色 (7.5 Y R4/2)	灰黄褐色 (10 Y R5/2)	ナデ	ナデ	小破片	口:如意形, 文:ヘラ7	
2607	33	70	S D49	中～下層	弥生土器 甕				白・透・多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y4/2)	黄灰色 (2.5 Y6/1)	横ナデ	摩滅	小破片	文:ヘラ3 + α	外面黒斑
2608	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(7.4)			白・黒・透・多 非摩滅系	黄灰色 (2.5 Y4/1)	黄褐色 (2.5 Y5/3)	ヘラ磨き, ナデ	摩滅	1/3		
2609	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(7.4)			白・黒・透・多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y4/2)	にぶい黄橙色 (10 Y R6/4)	剥離	ナデ	1/3		
2610	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(6.8)			白・透・多 非摩滅系	明赤褐色 (5 Y R5/6)	にぶい褐色 (7.5 Y R5/3)	摩滅	摩滅	1/4		
2611	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(7.2)			白・灰・透・少 非摩滅系	黒褐色 (10 Y R3/1)	にぶい橙色 (7.5 Y R6/4)	摩滅, ハケ 後ナデ	ナデ	1/3		
2612	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(7.6)			白・透・多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y6/2)	灰黄色 (2.5 Y6/2)	摩滅	ナデ	1/4		接合面で剥離
2613	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(5.4)			茶・白・透・多 橙色系	明赤褐色 (5 Y R5/6)	灰黄色 (2.5 Y6/2)	摩滅	ヘラ磨き	1/2		
2614	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(7.6)			灰・白・透・多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y5/2)	灰黄色 (2.5 Y6/2)	摩滅	板ナデ	1/4		
2615	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(7.6)			茶・白・透・多 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10 Y R7/3)	にぶい黄橙色 (10 Y R7/2)	ヘラ磨き	摩滅	1/4		
2616	33	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(6.3)			白・灰・透・多 非摩滅系	灰黄褐色 (10 Y R5/2)	にぶい褐色 (7.5 Y R5/4)	摩滅, 板ナ デ	摩滅	1/3		内面に漆膜, 植物遺体付着
2617	34	71	S D49	中～下層	弥生土器 甕	(6.0)			茶・白・透・多 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10 Y R6/3)	にぶい褐色 (7.5 Y R6/3)	摩滅	摩滅	3/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (13)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2618	34	71	S D49	中～下層	弥生土器 甌			7.2	白・透, 小～中, 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R6/3)	にぶい黄橙色 (10Y R7/3)	摩滅, ヘラ磨き後指押	摩滅, 指押	完存		焼成後の穿孔, 1, 底面黒斑
2619	34	72	S D49	中～下層	弥生土器 鉢				白・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい褐色 (7.5Y R5/4)	にぶい黄橙色 (10Y R6/4)	摩滅	摩滅	小破片	口: 如意形, 文: 無文	
2620	34	72	S D49	中～下層	弥生土器 鉢				白・灰・透, 大, 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R6/3)	にぶい黄橙色 (10Y R6/4)	ヘラ磨き	摩滅	破片	文: 削凸+ヘラ2	
2621	34	72	S D49	中～下層	弥生土器 鉢			(8.4)	灰・白・透, 小～大, 非摩滅系	黄灰色 (2.5Y 4/1)	灰黄色 (2.5Y 6/2)	摩滅	ナデ	1/4		内面に漆膜, 植物遺体付着
2622	34	72	S D49	中～下層	弥生土器 高杯				白・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R7/3)	灰黄色 (2.5Y 6/2)	摩滅	指押, 摩滅	完存		
2623	34	72	S D49	中～下層	弥生土器 甕蓋			つまみ径5.0	白・黒・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 6/2)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	摩滅, 板ナデ	摩滅	破片		
2624	34	72	S D49	中～下層	弥生土器 甕蓋			つまみ径5.8	白・灰・透, 小～大, 非摩滅系	灰白色 (2.5Y 7/1)	にぶい黄橙色 (10Y R7/4)	摩滅	指押さえ	完存		
2625	34		S D49	中～下層	弥生土器 甕蓋			(4.7)	白・透, 小～大, 少橙色系	にぶい黄褐色 (10Y R5/4)	橙色 (7.5Y R6/6)	板ナデ後ヘラ磨き	ナデ	1/2		
2642	37		S D49	上層	弥生土器 壺	(11.2)			茶・白・透, 小～大, 非摩滅系	浅黄褐色 (10Y R8/3)	灰白色 (10Y R8/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2643	37	75	S D49	上層	弥生土器 壺	(14.2)			灰・白・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい褐色 (7.5Y R7/4)	浅黄褐色 (10Y R8/4)	摩滅	ナデ	1/7		
2644	37	75	S D49	上層	弥生土器 壺	(15.6)			白・透, 小～大, 非摩滅系	褐色 (10Y R5/1)	にぶい黄橙色 (10Y R7/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2645	37	75	S D49	上層	弥生土器 壺	(14.6)			灰・白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 6/2)	にぶい黄褐色 (2.5Y 6/3)	ナデ, ヘラ磨き	ナデ, ヘラ磨き	1/4	口縁内面に竹管文2段, 口唇: ヘラ1, 頸: 貼凸1	内面黒斑, 凸帯貼付前に沈線
2646	37	75	S D49	上層	弥生土器 壺	(13.8)			白・透, 中～大, 非摩滅系	灰白色 (2.5Y 8/2)	淡黄色 (2.5Y 8/3)	摩滅	摩滅	1/8	口唇: ヘラ1, 頸: 削凸1+刺突1	頸部刺突は断続的

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (14)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2647	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺	(16.0)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	浅黄褐色 (10Y R 8/3)	摩滅	指押後板ナデ	5/8	頸: 削凸 + ヘラ ₄		
2648	37		S D49	上層	弥生土器 壺	(13.2)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	橙色 (5Y R 7/8)	橙色 (5Y R 7/8)	摩滅, 指押	摩滅	破片		往は参考	
2649	37		S D49	上層	弥生土器 壺				灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (2.5Y 8/1)	灰白色 (2.5Y 8/1)	ナデ, ヘラ 磨き	ナデ, ヘラ 磨き	小破片	頸: ヘラ ₁ +α		
2650	37		S D49	上層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (2.5Y 8/2)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	ヘラ磨き	摩滅	1/8	頸: ヘラ ₁		
2651	37		S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R 6/3)	浅黄色 (2.5Y 7/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	頸: ヘラ ₂		
2652	37		S D49	上層	弥生土器 壺				白・茶・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	橙色 (5Y R 7/6)	橙色 (5Y R 6/6)	摩滅	指ナデ	破片	頸: ヘラ ₃		
2653	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 小, 少 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R 6/3)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/6	胴: ヘラ ₁		
2654	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色 (5Y 5/1)	にぶい黄褐色 (10Y R 6/3)	ヘラ磨き	摩滅	1/8	胴: 段 + ヘラ ₃		
2655	37		S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 大, 多 非摩滅系	灰白色 (2.5Y 8/1)	灰白色 (2.5Y 8/1)	剥離	摩滅, ナデ	破片	胴: 段, ヘラ ₃		
2656	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺				白・灰・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R 7/3)	灰黄褐色 (10Y R 5/2)	摩滅	指ナデ	破片	胴: ヘラ ₂		
2657	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	明褐色 (7.5Y R 7/2)	黄灰色 (2.5Y 6/1)	摩滅	摩滅	小破片	胴: 段 + ヘラ ₁		
2658	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 7/2)	灰白色 (2.5Y 8/2)	摩滅	ヘラ磨き	小破片	胴: 段 + ヘラ ₂		
2659	37	76	S D49	上層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色 (5Y 6/1)	浅黄褐色 (7.5Y R 8/6)	摩滅	摩滅	小破片	胴: ヘラ ₃		
2660	38		S D49	上層	弥生土器 壺			(14.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰色 (2.5Y 5/2)	灰黄色 (2.5Y 6/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8		底面はヘラ磨き	
2661	38		S D49	上層	弥生土器 壺			14.0	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色 (5Y 5/1)	暗灰色 (2.5Y 5/2)	ヘラ磨き	摩滅	1/6		底部にモミ圧痕	
2662	38		S D49	上層	弥生土器 壺			7.7	灰・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	完存		底面はヘラ磨き	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (15)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2663	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			(8.0)	白・透, 小~中, 多 非摩滅系	褐灰色(10Y R 5/2)	灰黄褐色(10Y R 6/2)	ヘラ磨き	摩滅, 指押	1/2		
2664	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			(7.0)	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰色(5Y 5/1)	灰黄色(2.5Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		底面はヘラ磨き
2665	38	76	S D 49	上層	弥生土器 壺			9.7	白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5Y 5/1)	黄灰色(2.5Y 5/1)	ヘラ磨き	摩滅, ヘラ磨き	完存		接合面で剥離
2666	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			(7.6)	白・透, 小~大, 多 橙色系	灰黄色(2.5Y 7/2)	にぶい橙色(5Y R 6/4)	にぶい黄橙(10Y R 7/2)	摩滅	1/4		底面はヘラ磨き
2667	38	76	S D 49	上層	弥生土器 壺			5.7	白・灰・茶, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5Y 5/1)	にぶい黄橙(10Y 7/3)	剥落, ヘラ磨き	剥落	1/2		
2668	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			8.0	白・透・黒, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	灰黄褐色(10Y R 5/2)	ヘラ磨き, 摩滅	剥落	完存		接合面で剥離
2669	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			(6.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色(2.5Y 5/2)	にぶい褐色(7.5Y R 5/4)	摩滅, 板ナデ	ナデ	1/4		
2670	38	77	S D 49	上層	弥生土器 壺			(8.8)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5Y 6/2)	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	板ナデ後ヘラ磨き	剥落	1/4		
2671	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			(8.6)	灰・茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい橙色(7.5Y R 7/4)	浅黄褐色(10Y R 8/3)	摩滅	板ナデ後ヘラ磨き	1/3		接合面で剥離
2672	38	77	S D 49	上層	弥生土器 壺			8.3	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	にぶい黄橙(10Y R 6/4)	ナデ	摩滅	2/3		底面はヘラ削り後ナデ
2673	38	77	S D 49	上層	弥生土器 壺			(9.3)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	明褐色(7.5Y R 5/6)	明褐色(7.5Y R 5/6)	摩滅, 板ナデ	板ナデ後ナデ	1/3		
2674	38		S D 49	上層	弥生土器 壺			6.2	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄色(2.5Y 6/3)	にぶい黄色(2.5Y 6/3)	ヘラ磨き	剥落	3/4		外面黒斑
2675	38	77	S D 49	上層	弥生土器 壺			3.3	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5Y 7/2)	黄灰色(2.5Y 6/1)	ハケ後ヘラ磨き	板ナデ	完存		底面はヘラ磨き
2676	38	77	S D 49	上層	弥生土器 甗	(21.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色(10Y R 7/3)	橙色(5Y R 6/6)	摩滅	摩滅	1/8		口: 如意形, 文: 無文
2677	38	77	S D 49	上層	弥生土器 甗	(22.8)			白・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐色(10Y R 6/4)	にぶい褐色(7.5Y R 5/4)	ハケ後ナデ	摩滅, ナデ	破片		口縁は折り曲げ 文: ヘラ7

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (16)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2678	38	77	SD49	上層	弥生土器 甕				灰・透, 小~大, 非摩滅系	橙色(2.5Y R6/6)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	摩滅	摩滅	1/8	口:如意形, 文:へラ3	
2679	38	77	SD49	上層	弥生土器 甕	(18.5)			白・透, 小~大, 非摩滅系	橙灰色(10Y R4/1)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	板ナデ後へ ラ磨き	ナデ	破片	口:如意形, 刻:下端, 文:へラ2	
2680	38	77	SD49	上層	弥生土器 甕	(17.0)			白・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	にぶい橙色 (7.5 Y R6/ 4)	ナデ	ナデ	小破片	口:如意形, 文:へラ2 +α	径は参考
2681	38	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	暗灰黄色 (2.5 Y5/2)	摩滅	摩滅	小破片	口:如意形, 刻:全面, 文:へラ2	口縁端部遺存 不良
2682	38	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	にぶい黄色 (7.5 Y R5/ 3)	横ナデ	摩滅	小破片	口:如意形, 刻:全面, 文:へラ3 +α	
2683	38	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	板ナデ後へ ラ磨き	板ナデ	破片	口:如意形, 文:へラ2	内外面黒斑
2684	38	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅	摩滅	小破片	口:凸系, 刻:無	
2685	38	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小, 少 非摩滅系	褐灰色(7.5 Y R4/1)	灰褐色(7.5 Y R4/2)	摩滅	摩滅	小破片	口:凸系, 刻:無	
2686	39		SD49	上層	弥生土器 甕	(7.2)			灰・白・透, 小~中, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	板ナデ後ナ デ, ナデ	ナデ	1/4		
2687	39	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系	灰色(5Y5/ 1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	摩滅	摩滅	完存		
2688	39		SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/2)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	摩滅	摩滅	1/4		接合面で剥離
2689	39		SD49	上層	弥生土器 甕	(5.0)			白・透, 小~大, 非摩滅系	褐灰色(10Y R4/1)	灰褐色(7.5 Y R5/2)	板ナデ	指押	1/2		
2690	39		SD49	上層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐 色(10Y R5/ 3)	にぶい黄褐 色(10Y R5/ 3)	板ナデ	摩滅, 指ナ デ	完存		接合面で剥離
2691	39	78	SD49	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 橙色系	黄灰色(2.5 Y5/1)	にぶい橙色 (7.5 Y R6/4)	へラ磨き	ナデ	完存		底部にモミ 痕

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (17)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2692	39	78	S D49	上層	弥生土器 甕			(7.5)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	摩滅, ハケ	ナデ	1/3		壺の可能性あり
2693	39	78	S D49	上層	弥生土器 甕			5.5	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	褐灰色 (10Y R 4/1)	摩滅	摩滅	完存		
2694	39	78	S D49	上層	弥生土器 甕			(5.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい橙色 (5Y R 7/4)	橙色 (5Y R 6/6)	摩滅	摩滅	1/3		
2695	39	78	S D49	上層	弥生土器 甕			(7.0)	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色 (10Y R 6/ 3)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	板ナデ, 摩 滅	板ナデ	1/3		底面は剥離か
2696	39		S D49	上層	弥生土器 甕			(8.2)	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色 (7.5Y 6/1)	にぶい黄橙 色 (10Y R 7/ 3)	摩滅	摩滅	1/4		底面は剥離か
2697	39		S D49	上層	弥生土器 甕			(7.4)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色 (10Y R 7/ 2)	橙色 (5Y R 7/6)	摩滅	摩滅	1/3		焼成後の穿 孔?
2698	39		S D49	上層	弥生土器 鉢				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい褐色 (7.5 Y R 6/ 3)	にぶい黄橙 色 (10Y R 7/ 3)	ナデ, 摩滅	板ナデ, ナ デ	1/8		
2699	39		S D49	上層	弥生土器 鉢				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (7.5 Y R 8/2)	灰白色 (7.5 Y R 8/2)	摩滅	摩滅	1/8		
2700	39		S D49	上層	弥生土器 浅鉢			(9.6)	白・透, 小~中, 多 非摩滅系 (異質)	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	ヘラ削り, ナデ	ヘラ磨き	1/8		縄文系
2701	39		S D49	上層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径 (7.8)	白・灰・黒・透, 小 ~大, 多 非摩滅系	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	板ナデ後ナ デ	摩滅	1/6		
2702	39		S D49	上層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径 (5.3)	白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄橙 色 (10Y R 7/ 3)	にぶい黄褐 色 (10Y R 5/ 3)	板ナデ	板ナデ後ナ デ	1/3		
2703	39		S D49	上層	弥生土器 甕蓋			つまみ 径 3.4	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色 (5Y 4/ 1)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	摩滅, ヘラ 磨き	ナデ	完存		
2704	39		S D49	上層	弥生土器 甕蓋				灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	にぶい黄橙 色 (10Y R 7/ 3)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き, ナデ	1/8		壺口縁の可能 性もある

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (18)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2721	43	82	S D49	不明	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 4)	摩滅	摩滅	1/6	頸: 段, 胴: 段	頸部段は不明 瞭
2722	43	81	S D49	不明	弥生土器 壺	(17.0)			白・透・黒, 小~中, 多 摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R5/ 3)	へう磨き	指押後へう 磨き	2/3	頸: へう2, 胴: へう2	胴径: 23.5cm
2723	43	81	S D49	不明	弥生土器 壺	(14.8)			白・透・灰, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ後へう 磨き	指ナデ後へ う磨き 指ナデ後へ う磨き	1/2	頸: 削凸+ へう? 頸: 刺突 2列3方, 胴: へう4	図上復元, S R04下層より 同一個体破片 出土
2724	43	82	S D49	不明	弥生土器 壺	(11.6)			灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ, へう 磨き	ナデ, へう 磨き	1/8	頸: へう1	
2725	43	82	S D49	不明	弥生土器 壺	(13.0)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	へう磨き	指ナデ後へ う磨き	1/4	頸: へう2	外面黒斑
2726	43		S D49	不明	弥生土器 壺	(16.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	褐灰色(10Y R5/1)	へう磨き	へう磨き	1/8	頸: へう1 +α	金雲母微, 径 は参考
2727	43	82	S D49	不明	弥生土器 壺	(14.0)			白・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	へう磨き	指ナデ後へ う磨き	1/6	頸: へう4	
2728	43		S D49	不明	弥生土器 壺	(11.8)			白・透・黒, 小~中, 少 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/3)	橙色(7.5Y R6/6)	指押, ナデ	ナデ, 摩滅	1/8	頸: 無文	
2729	43		S D49	不明	弥生土器 壺	(16.2)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	ナデ, へう 磨き	ナデ, へう 磨き	1/8		
2730	43	82	S D49	不明	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 摩滅系(異質)	にぶい黄橙 色(10Y R7/2)	灰白色(10Y R8/2)	摩滅	摩滅	1/8	頸: へう3	細長い安山岩 砂粒含む
2731	43	82	S D49	不明	弥生土器 壺				白・黒, 小~中, 多 摩滅系	灰白色(7.5 Y R8/1)	浅黄橙色(10 Y R8/4)	摩滅	指押, 摩滅	1/8	胴: へう2	径は参考
2732	43		S D49	不明	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄褐色(10 Y R6/2)	摩滅, へう 磨き	ナデ	小破 片	胴: へう2 +α	径は参考
2733	44	82	S D49	不明	弥生土器 壺				白・透・黒, 小, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	へう磨き	板ナデ	1/8	胴: へう3	内面紋り目
2734	44	82	S D49	不明	弥生土器 壺				白・灰・茶・透, 大, 多 摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅	摩滅, へう 磨き	破片	胴: 削凸+ へう2	
2735	44	82	S D49	不明	弥生土器 壺				白・透・黒, 小~中, 多 摩滅系	浅黄橙色(10 Y R8/4)	浅黄橙色(10 Y R8/3)	ナデ	板ナデ, ナ デ	破片	胴: へう4	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (19)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2736	44		S D49	不明	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	黄灰色(2.5 Y5/1)	ハケ後ヘラ磨き	指ナデ	小破片	胴:ヘラ3	
2737	44		S D49	不明	弥生土器 甕	(8.0)			白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	ヘラ磨き, ナデ	ナデ, ヘラ磨き	1/2		外面黒斑
2738	44		S D49	不明	弥生土器 甕	(8.0)			白・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	摩滅	剥落	完存		内面は接合面で剥離か
2739	44		S D49	不明	弥生土器 甕	7.3			白・灰・黒・透, 小~大, 多摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	ハケ後ヘラ磨き	指ナデ	2/3		
2740	44		S D49	不明	弥生土器 甕	7.7			白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい褐色(7.5 Y5/4)	黄灰色(2.5 Y4/1)	ヘラ磨き	ナデ	完存		外面黒斑
2741	44		S D49	不明	弥生土器 甕	(5.5)			白・茶・透, 小~大, 非摩滅系※	にぶい橙黄色(10 Y R7/4)	にぶい黄橙色(10 Y R7/4)	ヘラ磨き	指ナデ	完存		
2742	44		S D49	不明	弥生土器 甕	11.3			白・灰・黒・透, 小~大, 多摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R6/4)	にぶい黄褐色(2.5 Y R6/3)	摩滅, ナデ	板ナデ後ヘラ磨き	完存		内面に黒斑, 接合面で剥離
2743	44		S D49	不明	弥生土器 甕	8.8			白・黒・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	浅黄色(2.5 Y7/3)	剥落, ヘラ磨き	指ナデ	完存		
2744	44		S D49	不明	弥生土器 甕	(9.0)			白・灰・茶・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R7/2)	にぶい黄褐色(10 Y R7/3)	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	1/6		
2745	44	83	S D49	不明	弥生土器 甕	(24.5)			白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	褐灰色(10 Y R4/1)	黒褐色(10 Y R3/1)	横ナデ, ヘラ磨き	ヘラ磨き, 剥落	1/8	口:如意形, 刻:全面, 文:突刺2	外面に炭化物
2746	44		S D49	不明	弥生土器 甕	(24.8)			白・灰・透, 小~中, 非摩滅系	褐灰色(10 Y R4/1)	にぶい黄褐色(10 Y R6/3)	指ナデ後横ナデ	横ナデ	1/8	口:如意形, 刻:下端	
2747	44		S D49	不明	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R6/3)	にぶい黄褐色(10 Y R7/3)	摩滅	摩滅, ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ3	
2748	44	83	S D49	不明	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R6/3)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	板ナデ	指押, 板ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ2	外面に炭化物
2749	44	83	S D49	不明	弥生土器 甕				白・灰・透, 大, 多摩滅系(異質)	にぶい黄褐色(10 Y R7/3)	にぶい黄褐色(7.5 Y R7/3)	摩滅	ナデ	破片	口:如意形, 文:ヘラ3	金雲母微
2750	44		S D49	不明	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R7/3)	灰黄褐色(10 Y R6/2)	摩滅	摩滅	破片	口:如意形, 文:ヘラ2 + 刺突2	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (20)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2751	44	SD49	不明	不明	弥生土器 甕				灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	板ナデ	摩滅	破片	文:ヘラ3	内面黒斑
2752	44	SD49	不明	不明	弥生土器 甕				白・灰・透, 小～大, 少 摩滅系	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	暗灰黄色(2.5 Y4/2)	ハケ	ナデ	1/8	口:如意形, 文:ヘラ1	口縁端部遺存不良
2753	44	SD49	不明	不明	弥生土器 甕			7.2	白・透, 小～大, 多 非摩滅系(異質)	灰黄色(2.5 Y6/2)	浅黄橙色(7.5 YR8/3)	ハケ後板ナデ	ナデ	完存		金雲母微
2754	44	SD49	不明	不明	弥生土器 甕			(8.0)	白・透, 小～大, 少 非摩滅系	黒褐色(2.5 Y3/1)	暗灰黄色(2.5 Y5/2)	板ナデ後ナデ	板ナデ後ナデ	1/8		内外面に炭化物
2755	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕			(5.6)	白・透, 小～大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き, ナデ	摩滅	3/8		内外面黒斑
2756	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕			7.2	白・透, 小～中, 少 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	黄灰色(2.5 Y4/2)	板ナデ, 指押	ナデ, 指押, 摩滅	完存		底面はヘラ削り
2757	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕			(9.2)	白・透, 小～大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色(10YR6/3)	黄灰色(2.5 Y4/1)	ナデ, 摩滅	指押, 摩滅	1/2		
2758	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕			5.6	灰・白・透, 小～大, 多 非摩滅系	橙色(2.5 YR7/6)	褐灰色(10YR6/1)	摩滅	摩滅	3/4		
2759	45	SD49	不明	不明	弥生土器 鉢	(47.4)			白・透, 小～大, 多 橙色系	橙色(5YR6/6)	橙色(5YR6/6)	摩滅	摩滅	1/8	口:逆L字形, 刻:無	
2760	45	SD49	不明	不明	弥生土器 鉢				白・透, 小～大, 多 非摩滅系	灰色(5Y5/1)	灰色(5Y6/1)	ヘラ磨き	板ナデ後ヘラ磨き	1/8	口:如意形, 文:ヘラ2 + 重弧文	
2761	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕蓋			つまみ径(8.9)	白・透, 小～大, 多 非摩滅系	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		
2762	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕蓋			つまみ径5.2	灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	黄灰色(2.5 Y4/1)	摩滅	ナデ	7/8		
2763	45	SD49	不明	不明	弥生土器 甕蓋				白・透, 小～大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	ヘラ磨き, ナデ	ナデ	1/8		
2764	45	SD49	不明	不明	弥生土器 鉢?				灰・白・透, 小～大, 多 摩滅系	にぶい橙色(7.5 YR7/4)	にぶい黄橙色(10YR7/2)	指押後ナデ	摩滅	1/8	文:貼凸 + ヘラ2	器種不明

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (21)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2775	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(12.5)				白・灰・透, 小~大, 多 摩滅系	明褐色(7.5 Y R 7/1)	浅黄橙色(7.5 Y R 8/3)	剥落	剥落	1/7		
2776	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(14.6)				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 6/1)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	へら磨き	へら磨き	1/8	頸:へら2	
2777	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(14.8)				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(7.5 Y R 8/2)	灰白色(7.5 Y R 8/2)	摩滅	摩滅	1/4		口縁穿孔1
2778	50	S D50	最下層	弥生土器 壺					灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	へら磨き	板ナア	1/4	頸:へら2	
2779	50	S D50	最下層	弥生土器 壺					灰・白・透, 小~中, 多 摩滅系	灰白色(2.5 Y 8/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	へら磨き	摩滅	1/8	頸:へら2	
2780	50	S D50	最下層	弥生土器 壺					灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅, へら磨き	摩滅, へら磨き	1/4	頸:削凸+へら1+α	胴径:(30.3cm), 外面黒斑
2781	50	S D50	最下層	弥生土器 壺					白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰色(5 Y 4/1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	摩滅	摩滅	1/8	頸:削凸1	
2782	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	8.2				白・灰・黒・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	へら磨き	摩滅, 指ナア	完存		外面黒斑
2783	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(8.4)				白・透, 黒, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅, ナア, 指押	摩滅	1/4		接合面で剥離
2784	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	8.0				茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系※	灰色(5 Y 5/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ハケ後ナア, ナア	摩滅	完存		赤色斑粒多
2785	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(7.9)				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	剥落	へら磨き	1/4		
2786	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(12.5)				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系※	にぶい黄橙色(10 Y R 6/4)	にぶい黄橙色(10 Y R 6/4)	摩滅	摩滅	1/2		外面黒斑, 赤色斑粒多
2787	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(8.4)				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰オリーブ色(5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	へら磨き	へら磨き	1/4		内面黒斑, 底面はへら磨き
2788	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	(9.3)				白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R 7/2)	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	摩滅	摩滅, ナア	1/4		
2789	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	8.0				灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	へら磨き	板ナア後へら削り	3/8		内外面黒斑
2790	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	9.5				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナア後ナア	へら磨き	完存		接合面で剥離
2791	50	S D50	最下層	弥生土器 壺	6.8				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰白色(7.5 Y 8/2)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	板ナア	指押, ナア	完存		外面黒斑, 内面に炭化物

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (22)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2792	50		S D50	最下層	弥生土器 壺			4.0	白・透, 小~中, 非摩滅系 多	灰白色 (2.5 Y 8/2)	にぶい黄橙色 (10Y R 7/2)	摩滅	摩滅	7/8		内面黒斑
2793	51	86	S D50	最下層	弥生土器 甕	(21.6)			白・透, 里, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	横ナデ	板ナデ, 摩滅	1/8	口: 如意形, 文: ヘラ 3	口唇部は摩滅顯著
2794	51	86	S D50	最下層	弥生土器 甕	(20.4)			白・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	黒褐色 (2.5 Y 3/2)	ハケ	剥落	1/8	口: 逆L字形, 口唇: 刺突, 文: ヘラ 8	外面に炭化物
2795	51	86	S D50	最下層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y 4/2)	暗灰黄色 (2.5 Y 4/2)	ヘラ磨き	剥落, 指ナデ	1/8	文: ヘラ 3 + α	
2796	51	86	S D50	最下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R 6/3)	黒褐色 (7.5 Y R 3/1)	横ナデ	指押, 摩滅	1/8	口: 逆L字形, 口唇: 刻目, 文: ヘラ 7	
2797	51		S D50	最下層	弥生土器 甕			(7.4)	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	橙黄色 (2.5 Y R 6/6)	摩滅, ハケ, 指押後ナデ	ナデ	1/4		
2798	51		S D50	最下層	弥生土器 甕			6.8	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (2.5 Y 8/2)	灰白色 (2.5 Y 7/1)	板ナデ, 指押後ナデ	摩滅	完存		
2799	51		S D50	最下層	弥生土器 甕			(6.6)	茶・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	にぶい黄橙色 (10Y R 5/3)	ハケ, ナデ	摩滅	1/4		
2800	51		S D50	最下層	弥生土器 甕			(4.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色 (5Y R 7/4)	にぶい黄橙色 (5Y R 7/4)	摩滅	摩滅	1/4		
2801	51		S D50	最下層	弥生土器 甕蓋			つまみ径7.0	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R 7/3)	橙黄色 (5Y R 6/6)	指押, ナデ	ナデ	完存		接合面で剥離
2802	51	86	S D50	最下層	弥生土器 甕蓋			つまみ径4.8	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	板ナデ後ヘラ磨き	ヘラ磨き	7/8		
2811	53		S D50	下層	弥生土器 壺	(16.1)			白・灰, 中, 少 非摩滅系	褐灰色 (10Y R 6/1)	にぶい黄橙色 (10Y R 7/2)	摩滅, ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口唇: ヘラ 1	金雲母微
2812	53		S D50	下層	弥生土器 壺	(14.3)			白・灰・透, 大, 多 非摩滅系※	灰白色 (10Y R 8/2)	にぶい黄橙色 (2.5Y R 6/3)	ハケ後ナデ	摩滅	破片		赤色斑粒多
2813	53	87	S D50	下層	弥生土器 壺	(15.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (5Y 5/1)	灰黄色 (5Y 5/1)	摩滅	摩滅	1/8	頸: 削凸 + ヘラ 1 + α	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (23)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2814	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・灰・透, 小~大, 非摩滅系 多	浅黄橙色(7.5 Y R8/4)	にぶい橙色(7.5 Y R7/4)	摩滅	摩滅	破片	頸:ヘラ1 +α	
2815	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~大, 非摩滅系 少	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	ヘラ磨き, 摩滅	ヘラ磨き, 摩滅	破片	頸:ヘラ2	
2816	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰色(5Y5/1)	浅黄橙色(10 Y R8/3)	ナデ, ヘラ磨き	摩滅	小破片		
2817	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄褐色(10 Y R6/2)	にぶい黄橙色(10 Y R6/3)	摩滅	摩滅	小破片		摩滅顯著
2818	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	摩滅	1/8	頸:ヘラ2	
2819	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・灰・透, 小~大, 非摩滅系 多	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	摩滅	摩滅	破片	胴:ヘラ3 +α	
2820	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・灰・茶・透, 小~大, 非摩滅系 多	にぶい黄橙色(10 Y R6/3)	にぶい黄橙色(10 Y R6/4)	摩滅, ヘラ磨き	指ナデ	2/3	頸:削凸+ヘラ3	最下層と接合
2821	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~大, 非摩滅系 多	褐灰色(10 Y R5/1)	にぶい橙色(7.5 Y R7/4)	摩滅	指押, 摩滅	1/3	頸:貼凸1	赤色斑粒多
2822	53	S D50	下層	弥生土器 壺					茶・白・透, 小~大, 非摩滅系 多	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	ナデ	摩滅	1/8	胴:櫛歯状文+飾11	櫛歯は6条1単位
2823	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~大, 非摩滅系 多	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	灰色(5Y4/1)	摩滅	ヘラ磨き	1/8	胴:貼凸3 +刻目	最下凸帯は摩滅顯著
2824	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・灰・透, 小~大, 非摩滅系 少	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	にぶい黄褐色(10 Y R5/3)	ハケ	摩滅, ナデ	小破片	胴:削凸+ヘラ1	
2825	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~中, 非摩滅系 多	灰黄色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄橙色(10 Y R6/3)	ヘラ磨き, 摩滅	指押, 摩滅	1/8	頸:削凸+刺突	竹管刺突
2826	53	S D50	下層	弥生土器 壺					灰・白・透, 小~中, 非摩滅系 多	灰白色(2.5 Y 8/2)	浅黄褐色(10 Y R8/3)	摩滅, ヘラ磨き	ナデ	破片	胴:ヘラ2 +α	外面黒斑
2827	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・灰・透, 小~大, 非摩滅系 少	灰黄色(2.5 Y 7/2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	ヘラ磨き	指ナデ	小破片	胴:ヘラ1 +α	
2828	53	S D50	下層	弥生土器 壺					白・透, 小~中, 非摩滅系 少	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナデ, 摩滅	摩滅	1/6	頸胴:山形文3条, 胴:ヘラ1 +α	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (24)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2829	53	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系多	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	へら磨き	指ナデ	小破片	胴: へら 2 + α	
2830	53	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系少	にぶい黄褐色 (10 Y R 6/4)	灰色 (5 Y 4/1)	へら磨き	指ナデ	小破片	胴: へら 3	外面黒斑
2831	53	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 黒, 小~大, 摩滅系多	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/4)	にぶい橙色 (5 Y R 6/4)	へら磨き, 摩滅	摩滅	1/8	胴: へら 2 + α, 斜線	
2832	53	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				灰・白・透, 小~中, 摩滅系多	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	黄灰色 (2.5 Y 7/2)	へら磨き	板ナデ後へら磨き	破片	胴: へら 2 + 刺突	竹管刺突
2833	54	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系多	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	黄褐色 (2.5 Y 5/3)	摩滅, ナデ	板ナデ後指押	1/4	胴: へら 6 + α	
2834	54	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系少	灰白色 (2.5 Y 7/1)	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	へら磨き	へら磨き	小破片	胴: へら 8 + α	外面黒斑
2835	54	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 非摩滅系多	灰白色 (5 Y 7/1)	灰白色 (5 Y 7/1)	摩滅	板ナデ	小破片	胴: へら 3 + α	
2836	54	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				白, 小~大, 少摩滅系	淡黄色 (2.5 Y 8/3)	橙色 (2.5 Y R 6/6)	ナデ	摩滅, 指押	1/8	胴: へら 3	内面黒斑
2837	54	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~中, 非摩滅系多	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	へら磨き	へら磨き	小破片	胴: へら 4	外面に炭化物
2838	54	88	S D 50	下層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 非摩滅系多	灰白色 (2.5 Y 8/1)	灰白色 (2.5 Y 8/2)	摩滅	摩滅	小破片	胴: へら 3	赤色斑粒多
2839	54		S D 50	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系(異質)	にぶい黄褐色 (10 Y R 6/3)	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	摩滅	摩滅	小破片	胴: 貼凸 1	凸部貼付前にへら沈
2840	54		S D 50	下層	弥生土器 壺	(12.6)			白・灰・透, 小~大, 多摩滅系	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	摩滅, へら磨き	摩滅, ナデ	1/8		
2841	54		S D 50	下層	弥生土器 壺	(9.0)			白・透, 茶, 小~中, 非摩滅系多	黄灰色 (2.5 Y R 4/1)	黄灰色 (2.5 Y R 4/1)	摩滅	摩滅	1/2		
2842	54		S D 50	下層	弥生土器 壺	(7.2)			白・透, 小~大, 非摩滅系多	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	灰色 (5 Y 4/1)	へら磨き, ナデ	へら磨き	1/4		内面黒斑
2843	54		S D 50	下層	弥生土器 壺	(8.3)			白・黒・透, 小~大, 非摩滅系少	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	板ナデ後へら磨き	板ナデ後ナデ	1/2		内面黒斑
2844	54		S D 50	下層	弥生土器 壺	(8.9)			白・灰・透, 小~大, 非摩滅系少	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	板ナデ	板ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (25)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2845	54		S D50	下層	弥生土器 壺			(8.8)	白・灰・黒・透, 小 ~大, 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R5/2)	にぶい褐色 (7.5Y5/4)	摩滅	ナデ	1/3		
2846	54		S D50	下層	弥生土器 壺			(5.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	褐灰色(5Y R5/1)	にぶい赤橙 色(10R6/3)	摩滅	摩滅	1/4		外面黒斑
2847	54		S D50	下層	弥生土器 壺			(7.0)	白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	褐灰色(10Y R4/1)	板ナデ, へ ラ磨き	指押	1/2		外面黒斑
2848	54		S D50	下層	弥生土器 壺			(7.6)	白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R5/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	板ナデ	指押, 摩滅	1/2		外面黒斑
2849	54		S D50	下層	弥生土器 壺			(7.0)	白・透, 小~中, 少 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	へラ磨き	摩滅, 指押	1/2		外面黒斑
2850	54		S D50	下層	弥生土器 壺			7.2	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10Y R6/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	へラ磨き	摩滅, へラ 磨き	1/2		外面黒斑
2851	54		S D50	下層	弥生土器 壺			6.4	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	黄灰色(2.5 Y6/1)	ナデ	板ナデ	7/8		底面はナデ
2852	54		S D50	下層	弥生土器 壺			(7.1)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	黒褐色(2.5 Y3/1)	にぶい黄褐 色(10Y R5/ 4)	摩滅, 板ナ デ	摩滅, 板ナ デ	破片		内面黒斑
2853	54		S D50	下層	弥生土器 壺			4.6	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	へラ磨き, ナデ	板ナデ後ナ デ	完存		内面黒斑, 底 面はナデ
2854	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕	(26.1)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい橙 色(7.5 Y R6/ 4)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	指押, 摩滅	板ナデ	1/6	口：如意形, 刻：無, 文：段	
2855	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕	(21.2)			白・灰・茶・透, 小 ~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩滅	摩滅	1/9	口：如意形, 刻：全面, 文：へラ3	刻みは不明瞭
2856	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕	(12.8)			白・透, 黒, 小~中, 多 摩滅系	褐灰色(10Y R5/1)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	横ナデ, ナ デ	摩滅, 指押	1/6	口：如意形, 文：へラ3	口縁部遺存 不良
2857	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕	(23.6)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ, 板ナ デ, へラ磨 き	へラ磨き	1/8	口唇：刻目	口唇部の刻目 は部分的
2858	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 少 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	ナデ	ナデ	破片	口：逆L字 形, 文：へラ7	径は参考

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (26)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の 特徴	備考
2859	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・灰・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ナデ	ヘラ磨き	破片	口：逆L字 形、ヘラ9 文： α	径は参考
2860	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～中、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	横ナデ	ナデ	1/8	口：逆L字 形、ヘラ6 文： α	凸帯は接合面 で剥離
2861	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕	(19.6)			白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい褐色 (7.5Y R 5/3)	ナデ、ヘラ 磨き	ナデ、ヘラ 磨き	1/8	口：如意形、 文：無文	
2862	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕	(15.8)			白・灰・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	ヘラ磨き	摩滅	1/8	口：如意形、 文：無文	径は参考、28 61と同一個体 の可能性もあ り
2863	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	摩滅	摩滅	小破 片	口：如意形、 文：無文	
2864	55		S D 50	下層	弥生土器 甕				灰・白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	灰色(5Y 4/ 1)	橙黄色(2.5Y R 6/6)	摩滅	板ナデ	小破 片	口：如意形、 頸：ヘラ1	口唇部は摩滅 顕著
2865	55		S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～中、 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	横ナデ	ナデ	小破 片	口：如意形、 文：ヘラ2 文： α	
2866	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・灰・透、 多 非摩滅系※	小～大、 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	剥落	剥落	破片	口：如意形、 文：ヘラ2 文： α + 剥突	ヘラ刺突
2867	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	黒色(N2/)	黒色(N2/)	摩滅	指押、摩滅	破片	口：如意形、 文：ヘラ3	
2868	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	ナデ、摩滅	指押、板ナ デ	1/8	口：如意形、 文：ヘラ3	
2869	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	ナデ、摩滅	ヘラ磨き	小破 片	口：逆L字 形、無文	
2870	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・透、 多 非摩滅系	小～大、 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	ナデ、摩滅	ヘラ磨き	小破 片	口：逆L字 形、無文	
2871	55	89	S D 50	下層	弥生土器 甕				白・灰・透、 少 非摩滅系	小～大、 少 非摩滅系	にぶい黄褐 色(10Y R 5/ 4)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 4)	横ナデ、摩 滅	ナデ	小破 片	口：逆L字 形、無文	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (27)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2872	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				茶・白・透, 小~大, 多 非摩擦系※	にぶい黄橙 (10Y R6/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	摩擦	ナデ	小破片	口: 逆L字形, 文: 無文	
2873	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩擦系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	にぶい褐色 (7.5Y R5/4)	横ナデ	板ナデ	小破片	口: 逆L字形, 文: 櫛沈6	櫛沈は4条1単位
2874	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 少 非摩擦系	灰黄褐色 (10Y R6/2)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	板ナデ	摩擦, ヘラ磨き	破片	文: ヘラ4 + α	
2875	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				白・黒・透, 小~大, 多 非摩擦系	にぶい黄橙色 (10Y R6/4)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	剥落	摩擦	小破片	文: ヘラ6	
2876	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 少 非摩擦系	にぶい黄褐色 (10Y R5/3)	黒褐色 (2.5Y 3/1)	摩擦, ヘラ磨き	摩擦	破片	胴: ヘラ5 + α	外面に炭化物
2877	55	89	S D50	下層	弥生土器 甕				茶・白・透, 小~大, 多 非摩擦系	浅黄色 (2.5Y 7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	ナデ	ナデ	小破片	文: ヘラ3	
2878	55		S D50	下層	弥生土器 甕	(17.0)			白・茶・透, 小~大, 少 非摩擦系	にぶい褐色 (7.5Y R5/4)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	摩擦, 板ナデ	剥落	破片		
2879	55		S D50	下層	弥生土器 甕	(8.0)			白・透, 小~大, 多 非摩擦系	灰白色 (2.5Y 8/2)	黄灰色 (2.5Y 4/1)	ハケ	ナデ	1/6		内外面黒斑 底面はヘラ削り
2880	55		S D50	下層	弥生土器 甕	(7.8)			灰・白・透, 小~大, 多 非摩擦系	灰黄色 (2.5Y 7/2)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	板ナデ後ナデ, ナデ	摩擦	1/3		
2881	55		S D50	下層	弥生土器 甕	6.8			白・透, 小~大, 多 非摩擦系	浅黄色 (2.5Y 7/3)	灰褐色 (5Y 6/2)	摩擦, 指押	板ナデ, 指押	完存		
2882	56		S D50	下層	弥生土器 甕	(7.4)			白・透, 小~大, 多 非摩擦系	灰白色 (5Y 7/1)	にぶい黄橙色 (10Y R6/3)	ヘラ磨き	摩擦	1/6		
2883	56		S D50	下層	弥生土器 甕	(8.0)			白・黒, 小~中, 少 非摩擦系	にぶい黄褐色 (10Y R7/2)	にぶい黄褐色 (10Y R7/2)	摩擦	指押, ナデ	1/2		
2884	56		S D50	下層	弥生土器 甕	7.7			白・灰・透, 小~大, 少 非摩擦系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	にぶい黄褐色 (10Y R6/3)	摩擦, 板ナデ	ハケ後ナデ, 指ナデ	完存		外面黒斑
2885	56		S D50	下層	弥生土器 甕	(5.7)			白・灰・黒, 小, 少 非摩擦系	灰黄色 (2.5Y 6/2)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	板ナデ後指ナデ	板ナデ後指ナデ磨き	1/3		
2886	56		S D50	下層	弥生土器 甕	(6.8)			白・透, 小~大, 多 非摩擦系	黒褐色 (2.5Y 3/1)	黒褐色 (2.5Y 3/1)	摩擦	摩擦, 指押	1/6		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (28)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2887	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(6.5)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	明赤褐色 (5Y R 5/6)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	摩滅, ハケ	指ナデ	1/4		
2888	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(7.2)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 (10Y R 6/3)	にぶい褐色 (7.5Y R 5/4)	摩滅, 板ナデ	剥落	1/4		
2889	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(6.0)	灰・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	灰黄色 (2.5Y 6/2)	ナデ	板ナデ	1/4		内面に炭化物
2890	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(5.6)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 6/2)	灰褐色 (5Y R 4/2)	ナデ, 板ナデ	板ナデ	1/3		
2891	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(12.1)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	橙 (7.5Y R 6/6)	にぶい黄橙 (10Y R 6/3)	摩滅, 板ナデ	摩滅, ナデ	1/3		底面は接合面で剥離
2892	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(8.7)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色 (2.5Y 7/3)	にぶい黄橙 (10Y R 6/3)	摩滅, 板ナデ	摩滅	1/4		
2893	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(6.6)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	黒褐色 (2.5Y 3/1)	灰白色 (2.5Y 8/2)	摩滅	ナデ	1/4		内面黒斑
2894	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(7.5)	白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 6/2)	灰黄褐色 (10Y R 6/2)	剥落, ヘラ磨き	ナデ	1/4		
2895	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(5.5)	白・灰・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色 (2.5Y 7/3)	にぶい褐色 (7.5Y R 7/4)	摩滅	剥落, 指押	1/2		
2896	56		S D 50	下層	弥生土器 甕			(5.0)	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色 (5Y 5/1)	にぶい褐色 (7.5Y R 5/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		
2897	56	90	S D 50	下層	弥生土器 甕			6.2	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	褐色 (7.5Y R 4/3)	摩滅, ハケ, ナデ後ナデ	ヘラ磨き	完存		底面器孔の上, 接合面で剥離
2898	56	90	S D 50	下層	弥生土器 鉢	(41.2)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 (7.5Y 8/6)	浅黄橙 (7.5Y R 8/3)	指押, ナデ, 摩滅	指押, ナデ, 摩滅	1/8	口: 逆L字形, 文: 無文	最下層と接合, 凸部貼付前にヘラ沈
2899	56		S D 50	下層	弥生土器 鉢	(27.6)			白, 小~大, 多 非摩滅系	橙 (5Y R 6/6)	橙 (2.5Y R 6/8)	摩滅	摩滅	1/8	口: 如意形, 文: ヘラ3	口縁端部遺存不良
2900	56	90	S D 50	下層	弥生土器 鉢	(23.4)			灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (10Y R 8/2)	浅黄橙 (10Y R 8/3)	摩滅	摩滅	破片	口: 段+ヘラ3	S D 49最下層と接合
2901	56	90	S D 50	下層	弥生土器 鉢	(19.4)			茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 6/2)	黒褐色 (10Y R 2/1)	ナデ, ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	口: 如意形, 文: ヘラ3	内外面黒斑

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (29)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2902	56	90	S D 50	下層	弥生土器鉢	(22.4)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい, 黄褐色 (10Y R 5/4)	灰黄褐色 (10Y R 5/2)	ハケ後ヘラ磨き	ヘラ磨き, 摩滅	破片	口: 如意形, 刻: 下端, 文: 無文	径は参考
2903	56	90	S D 50	下層	弥生土器鉢	(19.4)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	浅黄色 (2.5Y 7/3)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	ハケ	ナデ	破片	口: 如意形, 刻: 下端, 文: 無文	径は参考
2904	57	90	S D 50	下層	弥生土器鉢	(12.5)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/3)	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/4)	横ナデ, 板ナデ	ハケ後ナデ	破片	口: 逆L字形, 文: 無文	径は参考
2905	57	90	S D 50	下層	弥生土器鉢				灰・赤・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄褐色 (10Y R 6/2)	にぶい, 褐色 (7.5 Y R 6/3)	摩滅	摩滅	小破片	口: 如意形, 文: ヘラ2	
2906	57	90	S D 50	下層	弥生土器鉢				白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/4)	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/4)	ヘラ磨き	摩滅, 指押	小破片	口: 如意形, 文: ヘラ2	接合面で剥離
2907	57	91	S D 50	下層	弥生土器高杯			(8.2)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	赤褐色 (10R 5/4)	にぶい, 褐色 (5Y R 6/4)	摩滅	摩滅	1/6		
2908	57	91	S D 50	下層	弥生土器甕蓋			つまみ径5.1	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい, 黄色 (2.5 Y 6/3)	褐色 (10Y R 4/1)	指ナデ, ヘラ磨き	ナデ	完存		外面黒斑
2909	57	90	S D 50	下層	弥生土器甕蓋			つまみ径5.8	白・透, 小~中, 多 非摩滅系	黒色 (2.5 Y 2/1)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	板ナデ後ナデ	7/8		天井部へラ磨き, 赤色料?
2910	57	90	S D 50	下層	弥生土器甕蓋			裾径29.2	白・赤, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄褐色 (7.5 Y R 8/6)	にぶい, 褐色 (7.5 Y R 5/3)	ヘラ磨き, 摩滅	指押, 摩滅	1/8		径は参考
2911	57	90	S D 50	下層	弥生土器甕蓋			裾径29.5	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (5Y 7/1)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8		内面黒斑, 径は参考
2912	57	91	S D 50	下層	紡錘車		最大厚6.5		白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい, 黄褐色 (10Y R 7/3)	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/4)	摩滅, ナデ		3/7		摩滅顕著
2943	62	95	S D 50	上層	弥生土器甕				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/3)	にぶい, 黄褐色 (10Y R 6/3)	摩滅, 指押	摩滅, 指押	1/4		頸: ヘラ3, 胴: 段
2944	62	95	S D 50	上層	弥生土器甕				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい, 黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい, 赤褐色 (5Y R 4/4)	ヘラ磨き	ナデ	破片	胴: ヘラ3 + α	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (30)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	焼存率	形態上の特徴	備考
2945	62	95	S D50	上層	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 非摩滅系 多	灰黄色(2.5 Y7/2)	にぶい褐色(7.5 Y R 5/4)	ヘラ磨き	板ナデ	小破片	頸脚: 縦線, 胴: 段+ヘラ $3+\alpha$	外面黒斑
2946	62		S D50	上層	弥生土器 壺			(8.2)	白・透, 小~大, 非摩滅系 多	にぶい黄褐色(10 Y R 6/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	磨滅, ヘラ磨き	磨滅, ナデ	1/5		底面黒斑
2947	62		S D50	上層	弥生土器 壺			(7.4)	白・透, 小~中, 非摩滅系 多	にぶい褐色(7.5 Y R 6/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き	1/8		
2948	62		S D50	上層	弥生土器 壺			(6.6)	白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	にぶい黄褐色(10 Y R 6/3)	磨滅, ヘラ磨き	磨滅, 指押	1/2		
2949	62		S D50	上層	弥生土器 壺			(6.4)	白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	ヘラ磨き	板ナデ	1/4		
2950	62	95	S D50	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系 多	にぶい褐色(7.5 Y R 6/4)	灰黄色(2.5 Y6/2)	磨滅	磨滅, 板ナデ	1/8	口: 如意形, ヘラ13	外面黒斑
2951	62	95	S D50	上層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩滅系 少	黄灰色(2.4 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	ナデ	指押, ナデ	破片	口: 逆L字形, 胴: ヘラ7	凸帯貼付前にヘラ沈, 顔料付着
2952	62		S D50	上層	弥生土器 甕			(6.0)	白・透, 小~大, 非摩滅系 多	にぶい黄褐色(10 Y R 6/3)	黄灰色(2.5 Y4/1)	ヘラ磨き, ハケ後指押	指押, ナデ	1/4		
2953	62		S D50	上層	弥生土器 甕			(6.0)	白・透, 小~大, 非摩滅系 多	黄灰色(2.5 Y6/1)	にぶい黄褐色(10 Y R 7/4)	ヘラ磨き, ナデ	磨滅	1/8		底面は剥落か
2954	62		S D50	上層	弥生土器 甕			(7.2)	白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	磨滅, ナデ	ナデ	1/4		
2955	63		S D50	不明	弥生土器 壺	(12.8)			白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	磨滅, ヘラ磨き	板ナデ	1/8		
2956	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系 少	暗灰黄色(2.5 Y5/2)	黒褐色(2.5 Y3/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	頸: 削凸+ヘラ3	
2957	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 非摩滅系 多	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	指押後板ナデ	1/6	頸: 削凸+ヘラ3	
2958	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 非摩滅系 多	褐灰色(7.5 Y R 5/1)	浅黄褐色(7.5 Y R 8/4)	磨滅	板ナデ, 指押	1/8	頸: ヘラ2	赤色斑粒多

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (31)

番号	挿図	図版	遺標名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2959	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 少 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	ヘラ磨き後 ナデ	摩滅	小破 片	頸:ヘラ3 + 刺突2	竹管刺突
2960	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺				白, 小~中, 少 非摩滅系	暗灰色(N 3/)	浅黄色(2.5 Y7/3)	ヘラ磨き, 摩滅	ヘラ磨き	1/8	胴: 貼凸1	凸帯摩滅顯著, 内面黒斑
2961	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺			(7.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/3)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	摩滅, ヘラ 磨き	摩滅, ヘラ 磨き	1/2		外面黒斑
2962	63		S D50	不明	弥生土器 壺			9.9	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	明赤褐色 (2.5Y R5/ 6)	明赤褐色 (2.5Y R5/ 6)	摩滅, ナデ	摩滅	3/4		底面黒斑
2963	63	95	S D50	不明	弥生土器 壺			7.5	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き, ナデ	指押, ナデ	完存		外面黒斑
2964	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(8.8)	白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 4)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	指押, ヘラ 磨き	指押, ナデ	1/4	底縁:ヘラ 1 (部分的)	
2965	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(9.0)	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	灰色(5Y5/ 1)	板ナデ, 摩 滅	板ナデ	1/6		内外面黒斑
2966	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(6.8)	茶・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	指押後ナデ, ナデ	摩滅	完存		内面は接合面 で剥離か
2967	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(7.4)	灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅, ヘラ 磨き	摩滅	1/4		
2968	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(7.7)	白・灰・透, 大, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	板ナデ後ヘ ラ磨き	板ナデ後ナ デ	1/3		
2969	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(10.6)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	摩滅	指ナデ	1/4		
2970	63		S D50	不明	弥生土器 壺			7.5	白・灰・透, 小~大, 多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y6/2)	摩滅, ヘラ 磨き	板ナデ後ナ デ	完存		
2971	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(5.4)	白・灰・茶・透, 小 ~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/2)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	摩滅	板ナデ後ナ デ	1/2		
2972	63		S D50	不明	弥生土器 壺			(6.8)	黒・白・透, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	板ナデ	指押, ナデ	1/2		
2973	63	96	S D50	不明	弥生土器 甕			(19.6)	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系※	浅黄褐色 (7.5Y R8/ 3)	にぶい橙 色(7.5Y R7/ 3)	摩滅	摩滅	1/8	口: 如意形, 刻: 全面, 文: ヘラ1	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (32)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
2974	63	96	S D50	不明	弥生土器 甕	(17.6)			白透, 小~大, 非摩擦系	多	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	灰黄褐色 (10 Y R 4/2)	横ナテ	摩擦	1/8	口: 逆L字形, 文: 櫛15条	櫛は4条1帯の複帯構成, 往は参考
2975	63	96	S D50	不明	弥生土器 甕?				茶・白透, 小~大, 非摩擦系	多	灰白色 (10 Y R 8/2)	灰白色 (10 Y R 8/2)	摩擦	小破片	口唇: ヘラ1+刻目		
2976	63	96	S D50	不明	弥生土器 甕				白透, 小~中, 非摩擦系	多	灰 (5 Y 4/1)	オリーブ黒色 (5 Y 3/1)	指押後横ナテ	摩擦	小破片	口: 如意形, 文: ヘラ2	
2977	64		S D50	不明	弥生土器 甕		(11.2)	(11.2)	茶・白透, 小~大, 非摩擦系	多	橙色 (5 Y R 7/6)	にぶい黄橙色 (10 Y R 7/4)	摩擦	摩擦	1/8		
2978	64		S D50	不明	弥生土器 甕		(6.2)	(6.2)	灰・白透, 小~大, 非摩擦系	多	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	ナテ	ナテ	1/4		
2979	64		S D50	不明	弥生土器 甕		(6.6)	(6.6)	白透, 小~中, 非摩擦系	多	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/4)	橙色 (5 Y R 6/6)	ナテ	ナテ, 指押	1/3		
2980	64		S D50	不明	弥生土器 甕		(8.1)	(8.1)	白・灰透, 小~大, 非摩擦系	多	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	明黄褐色 (10 Y R 6/4)	摩擦, 板ナテ	摩擦, ナテ	1/8		
2981	64		S D50	不明	弥生土器 甕		(6.6)	(6.6)	白透, 小~大, 非摩擦系	多	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		底面ヘラ磨き, 外面に炭化物
2982	64		S D50	不明	弥生土器 甕		(7.0)	(7.0)	白・灰透, 小~大, 非摩擦系	多	にぶい黄橙色 (10 Y R 7/3)	にぶい橙色 (5 Y R 6/3)	摩擦, 板ナテ	指押	1/4		
2983	64		S D50	不明	弥生土器 甕蓋		つまみ径4.3		白透, 小~大, 非摩擦系	多	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	摩擦	ナテ	7/8		
2984	64	96	S D50	不明	弥生土器 鉢	(43.6)			茶・白透, 小~大, 非摩擦系	多	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ハケ後ナテ	摩擦	1/8	口: 逆L字形, 文: 無文	外面黒斑, 赤色斑粒多
3003	69	99	S D51	-	弥生土器 甕				白透, 少, 非摩擦系	滅系	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	ヘラ磨き	指押後ヘラ磨き	破片	胴: ヘラ2	外面に黒色付着物, 内面に炭化物付着
3004	69	99	S D51	-	弥生土器 甕				白透, 小~大, 非摩擦系	多	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	摩擦	摩擦, 横ナテ	1/8	胴: ヘラ1	赤色斑粒多
3005	69		S D51	-	弥生土器 甕		(7.2)	(7.2)	灰・白透, 小~大, 非摩擦系	多	灰色 (5 Y 4/1)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き, ナテ	ヘラ磨き	1/3		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (33)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備 考
3006	69	99	S D 51	-	弥生土器 甕	弥生土器				白・灰・透、小～大、 少 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	ナデ	ナデ	破片	文：ヘラ1 + α, 刺突	内面に付着物
3007	69		S D 51	-	弥生土器 甕	弥生土器		7.2		白・灰・透、大、多 非摩滅系	白・透、大、多 非摩滅系	明黄褐色(10 Y R 6/6)	明黄褐色(10 Y R 6/6)	剥落	2/3			
3008	69		S D 51	-	弥生土器 甕	弥生土器		(6.8)		白・透、小～大、 多 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰白色(5Y 7/2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	指押、板ナ デ	1/2			
3009	69		S D 51	-	弥生土器 鉢	弥生土器		6.0		白・透、小～大、 多 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y 4/1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	ナデ	2/3			
3010	69		S D 51	-	弥生土器 鉢	弥生土器	(18.1)			白・透、中、多 非摩滅系	白・透、中、多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	灰黄色(2.5 Y)	ナデ	破片	口：凸系、 刻に小V字		
3014	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(15.0)			灰・白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き	1/6	頭：ヘラ3	調整前施文、 内面に茶褐色 付着物	
3015	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(12.8)			白・灰・透、小～大、 多 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	ヘラ磨き	1/4	頭：無文、 胴：ヘラ1	調整前施文	
3016	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(18.9)			白・灰・透、小～大、 少 非摩滅系	白・透、小～大、 少 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	指ナデ後ヘ ラ磨き	1/7	頭：段		
3017	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(19.2)			白・透、小～大、 多 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	ナデ、横ナ デ後ヘラ磨 き	1/8	頭：削凸	外面に黒色付 着物	
3018	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(15.6)			黒・白・透、小～大、 多 摩滅系	黒・透、小～大、 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	横ナデ後ヘ ラ磨き	1/4	頭：ヘラ2		
3019	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(13.4)			白・透、黒、小～中、 多 摩滅系	白・透、黒、小～中、 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	褐灰色(10Y R 4/1)	指押後ヘラ 磨き	1/4	頭：ヘラ1		
3020	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(15.2)			灰・白・透、小～中、 多 摩滅系	灰・透、小～中、 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ナデ、ヘラ 磨き	1/6	頭：ヘラ2、 口唇：ヘラ 1	口縁短く折り 返し	
3021	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(15.2)			白・透、小～大、 多 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ナデ、板ナ デ後ヘラ磨 き	3/8	頭：無文	外面黒斑	
3022	72	100	S R 04	下層	弥生土器 壺	弥生土器	(16.4)			白・透、小～大、 多 非摩滅系	白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	摩滅、ヘラ 磨き	1/6			

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (34)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3023	72	100	SR04	下層	弥生土器 壺	(15.0)			白・茶・灰、小～中、 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅、へ ラ磨き	摩滅、へ ラ磨き	1/6	頸：削凸+ へラ1+α	
3024	72		SR04	下層	弥生土器 壺	(12.6)			灰・白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	へラ磨き	へラ磨き	1/8		外面に黒色付 着物
3025	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺	(13.7)			白・灰・透、小～大、 少 非摩滅系	浅黄色(2.5 R 7/3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 4)	へラ磨き	摩滅	1/8	頸：へラ2	
3026	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・茶・透、小～大、 少 非摩滅系	黒色(2.5Y 2/1)	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	へラ磨き	へラ磨き	小破 片		口縁部内面に 光沢
3027	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	へラ磨き	へラ磨き	破片		口縁部赤橙色 化粧土
3028	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透、小～中、 少 非摩滅系	黒色(2.5Y 2/1)	黒褐色(2.5 Y 3/1)	へラ磨き	へラ磨き	小破 片	頸：段	内外面黒色研 磨面
3029	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透、小～大、 少 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	暗灰、黄色 (2.5Y 4/2)	施文後へ ラ磨き	板ナデ後へ ラ磨き	破片	頸：へラ1	
3030	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透、小～大、 少 非摩滅系	にぶい黄褐 色(10Y R 5/ 3)	にぶい黄褐 色(10Y R 5/ 3)	へラ磨き	へラ磨き	小破 片	頸：へラ3 +α	径は参考
3031	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・茶・透、小 ～大、少 摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	ハケ後へ ラ磨き	指ナデ後へ ラ磨き	1/8	頸：削凸、 へラ2+α	径は参考
3032	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・黒・透、小～中、 少 摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	へラ磨き	板ナデ後へ 指ナ デ後指 ラ磨き 押	1/4	頸：へラ3	
3033	72	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透、小～大、 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅	摩滅、ナ デ	破片	頸：削凸+ へラ1+刻 目	刻は摩滅のた め不明瞭
3034	73	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透、小～大、 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	粗いハケ 後へラ 磨き	板ナデ後へ ラ磨き	破片	頸：削凸	調整前施文
3035	73	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・黒・透、小 ～大、多 摩滅系	暗灰、黄色 (2.5Y 5/2)	にぶい黄色 (10Y 6/3)	へラ磨き	へラ磨き	1/8	胴：へラ3	調整前施文
3036	73	101	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・黒・透、小 ～大、多 摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	へラ磨き	板ナデ後 ナ デ	破片	胴：へラ3	
3037	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透、小～大、 少 非摩滅系	灰白色(10Y R 8/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	へラ磨き	摩滅、へ ラ磨き	小破 片	胴：へラ3	外面黒斑、 径は参考

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (35)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3038	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色 (2.5 Y 8/2)	浅黄橙色 (10 Y R 8/4)	摩滅, 板ナデ	摩滅	1/8	胴: 削凸+ ヘラ3	径は参考
3039	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	にぶい黄橙色 (10 Y R 7/3)	摩滅, ヘラ磨き	ナデ	小破片	胴: ヘラ1 +α	径は参考
3040	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・黒・透, 小~大, 多 摩滅系	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	摩滅, ヘラ磨き	指ナデ	小破片	胴: ヘラ2 +α	径は参考
3041	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小, 少 非摩滅系	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8	胴: ヘラ2 +α	径は参考
3042	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	摩滅, ヘラ磨き	指ナデ	破片	胴: ヘラ2 +α	径は参考
3043	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	ヘラ磨き	摩滅	小破片	胴: ヘラ1	外面の一部が赤褐色を呈す
3044	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	暗灰黄色 (2.5 Y 5/2)	ヘラ磨き	摩滅	小破片	胴: 段+ ヘラ3	
3045	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~中, 少 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10 Y R 6/3)	にぶい赤褐色 (5 Y R 5/4)	摩滅	ナデ	小破片	胴: 段+ ヘラ3	
3046	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・茶・透, 大, 多 非摩滅系	灰白色 (10 Y R 8/2)	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	摩滅	摩滅	小破片	胴: ヘラ3	
3047	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄橙色 (10 Y R 7/3)	黒色 (N2/)	板ナデ	摩滅	小破片	胴: ヘラ3 +α	外面黒斑
3048	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰, 小~大, 多 非摩滅系	橙黄色 (5 Y R 7/6)	橙黄色 (5 Y R 7/6)	摩滅	板ナデ	破片	胴: ヘラ3	
3049	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	ヘラ磨き	板ナデ後ナデ	小破片	胴: ヘラ2 +α	
3050	73		SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系*	灰白色 (10 Y R 8/2)	浅黄褐色 (10 Y R 8/3)	摩滅	摩滅	小破片	胴: ヘラ2 +α	
3051	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 少 摩滅系	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	褐灰色 (10 Y R 5/1)	板ナデ	板ナデ	小破片	胴: ヘラ2 +α	外面に黒色付着物
3052	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	黄灰色 (2.5 Y 5/1)		ヘラ磨き	小破片	胴: 段+ ヘラ2	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (36)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3053	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 少 非摩滅系	褐灰色(10Y R5/1)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	ヘラ磨き	板ナデ	小破片	胴:ヘラ2 + 刺突	竹管刺突
3054	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・黒・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	摩滅	摩滅, ナデ	小破片	胴:削凸+ 刻目	刻は不明瞭
3055	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 黒, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	灰黄褐色(10 Y R4/2)	ヘラ磨き	板ナデ後ナ デ	小破片	外:ヘラ3 + 重弧文3	外面に黒色付 着物
3056	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	胴:ヘラ3 + 重弧文?	
3057	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい褐色 (7.5Y R6/ 3)	にぶい橙 色(5Y R7/3)	摩滅	摩滅	小破片	文:木葉文 + 重弧文	
3058	73	102	SR04	下層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	胴:段+縦 線文	
3059	74		SR04	下層	弥生土器 壺	(7.8)			灰・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	ヘラ磨き, ナデ	摩滅, ヘラ 磨き	1/6		
3060	74		SR04	下層	弥生土器 壺	(9.6)			白・透, 小~中, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き	1/8		
3061	74		SR04	下層	弥生土器 壺	(9.0)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/2)	灰黄褐色(10 Y R6/2)	板ナデ後ヘ ラ磨き	摩滅, ナデ	1/4		外面黒斑
3062	74		SR04	下層	弥生土器 壺	(8.8)			白・黒・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅, ヘラ 磨き	板ナデ	1/4		
3063	74		SR04	下層	弥生土器 壺	8.2			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	褐灰色(10Y R6/1)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	板ナデ後指 押	板ナデ後指 押	2/3		
3064	74		SR04	下層	弥生土器 壺	(7.7)			白・黒・茶・透, 小 ~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい, 黄橙 色(10Y R6/3)	板ナデ	板ナデ	1/2		
3065	74		SR04	下層	弥生土器 壺	(5.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ハケ後板ナ デ, ナデ	板ナデ	3/8		
3066	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺	4.8			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	ヘラ磨き, ナデ	指押後ナデ	完存		
3067	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺	9.1			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	ヘラ磨き	指ナデ	完存		
3068	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺	9.2			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	剥落, 板ナ デ	剥落, 板ナ デ	ほぼ 完存		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (37)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3069	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺			7.2	白・透, 小～大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き	完存		
3070	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺			(10.0)	白・透, 小～中, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	黄灰色(2.5 Y6/1)	ハケ後ヘラ磨き	摩滅, 板ナデ	1/4		内外面黒斑
3071	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺			(7.9)	白・灰・茶・透, 小～大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		外面黒斑
3072	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺			(9.6)	灰・白・透, 小～大, 非摩滅系	黒色(2.5Y2/1)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	摩滅	ヘラ磨き	1/6		
3073	74		SR04	下層	弥生土器 壺			(10.5)	白・灰・茶・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい黄灰色(2.5Y6/3)	黄褐色(2.5Y5/3)	板ナデ	板ナデ	1/3		
3074	74	102	SR04	下層	弥生土器 壺			(6.6)	白・灰・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい黄灰色(2.5Y6/3)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	摩滅, ナデ	1/2		
3075	74		SR04	下層	弥生土器 壺			8.0	白・灰・透, 小～大, 非摩滅系	にぶい黄灰色(2.5Y6/3)	暗灰黄色(2.5Y5/2)	ヘラ磨き	板ナデ後ヘラ磨き	完存		底面はヘラ削り後ナデ
3076	74		SR04	下層	弥生土器 壺			(7.8)	灰・白・透, 小～中, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	ヘラ磨き, 板ナデ	板ナデ	1/2		
3077	74		SR04	下層	弥生土器 壺			10.3	白・灰・茶・透, 少～大, 非摩滅系	にぶい黄灰色(2.5Y6/3)	暗灰黄色(2.5Y5/2)	板ナデ	指押	完存		接合面で剥離, 外面に炭化物
3078	74	103	SR04	下層	弥生土器 壺			5.8	白・透, 小～大, 非摩滅系	明赤褐色(2.5YR5/6)	にぶい黄橙色(10YR6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	ほぼ完存		
3079	74	103	SR04	下層	弥生土器 壺			(8.1)	白・灰・茶・透, 小～大, 非摩滅系	橙褐色(5YR6/6)	橙褐色(5YR6/6)	剥落	ナデ	1/3		底面：ヘラ文様
3080	75	103	SR04	下層	弥生土器 壺			7.3	白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	ほぼ完存		内外面黒斑, 底面はヘラ磨き
3081	75	103	SR04	下層	弥生土器 壺			7.2	灰・白・透, 小～大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き	板ナデ	完存		底面ヘラ磨き
3082	75		SR04	下層	弥生土器 壺			(10.4)	灰・白・透, 小～中, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y7/1)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き	1/6		底面ヘラ磨き
3083	75		SR04	下層	弥生土器 壺			7.5	白・透, 小～大, 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄灰色(2.5Y6/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	完存		内外面黒斑, 底面ヘラ磨き

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (38)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3084	75	103	SR04	下層	弥生土器 甕			7.0	白・透, 少 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	ヘラ磨き	完存		内外面黒斑 底面ヘラ磨き
3085	75	103	SR04	下層	弥生土器 甕			8.1	白・灰・茶・透, 小 ~大, 多 非摩滅系	におい黄褐色 (10Y R7/ 4)	におい黄褐色 (10Y R5/ 3)	ヘラ削り後 ヘラ磨き	板ナデ後ナ デ	2/3		
3086	75		SR04	下層	弥生土器 甕			(7.2)	灰・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/1)	黄灰色(2.5 Y5/1)	ヘラ磨き	板ナデ	1/4		外面黒色付着 物
3087	75	103	SR04	下層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	におい黄褐色 (2.5 Y6/3)	におい黄褐色 (2.5 Y6/3)	ハケ後ヘラ 磨き	板ナデ後ヘ ラ磨き	1/6		接合面で剥離
3088	75	103	SR04	下層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	黄灰色(2.5 Y5/1)	ヘラ磨き	ヘラ磨き, 指押	1/8	胴:ヘラ3	図上復元
3089	75	103	SR04	下層	弥生土器 甕			(5.6)	白・透, 小~中, 少 非摩滅系	灰色(5Y4/ 1)	褐灰色(10Y R5/1)	板ナデ	板ナデ	1/6		
3090	75	103	SR04	下層	弥生土器 甕			3.6	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄褐色(10 Y R6/2)	指押後ヘラ 磨き	板ナデ	完存		外面黒斑
3091	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕	(21.5)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	におい黄褐色 (2.5 Y6/3)	におい黄褐色 (2.5 Y6/3)	ハケ後横ナ デ	ハケ, 摩滅	破片	口:如意形, 刻:下端, 文:無文	外面に炭化物
3092	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕	(19.6)			灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y5/2)	黄灰色(2.5 Y4/1)	横ナデ, 板 ナデ	板ナデ	1/8	口:如意形, 刻:全面, 文:ヘラ2	口縁部と胴部 の境に施文
3093	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕	(25.8)			白・透, 小~中, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5 Y5/2)	黄灰色(2.5 Y4/1)	指押後板ナ デ	板ナデ	1/8	口:如意形, 刻:下端, 文:無文	外面に炭化物
3094	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕	(19.0)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	橙色(2.5 Y R7/6)	浅黄褐色 (7.5 Y R8/ 3)	横ナデ	摩滅	1/8	口:如意形, 刻:口唇, 文:ヘラ2	半截竹管施文
3095	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕	(19.4)			灰・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	橙色(5Y R 6/6)	指押後板ナ デ後ナデ	板ナデ後ナ デ	1/8	口:如意形, 刻:下端, 文:ヘラ2 + α	外面赤色化, 口縁端部折り 返し状
3096	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	暗灰黄色 (2.5 Y5/2)	ヘラ磨き	板ナデ	1/8	文:ヘラ2	
3097	76	104	SR04	下層	弥生土器 甕	(18.4)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/2)	におい橙色 (7.5 Y R7/ 4)	ハケ後ナデ	板ナデ後ナ デ	1/8	口:如意形, 刻:全面, 文:沈線間 刺突2	竹管刺突

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (39)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3098	76	104	S R 04	下層	弥生土器 甕	(33.2)			白・灰・黒, 小~大, 多 摩滅系	灰黄褐色(10Y R 5/2)	灰黄褐色(10Y R 5/2)	板ナデ, 摩滅	摩滅	1/8	口: 如意形, 文: 沈線間, 刺突2	竹管刺突
3099	76	104	S R 04	下層	弥生土器 甕	(23.6)			茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系※	褐灰色(10Y R 4/1)	褐灰色(10Y R 4/1)	板ナデ	板ナデ	1/6	口: 如意形, 刻: 全面, 文: ヘラ4	外面に炭化物付着, ヘラは2条1単位
3100	76	104	S R 04	下層	弥生土器 甕	(23.4)			白, 小~大, 少 非摩滅系	褐灰色(10Y R 4/1)	黒褐色(10Y R 3/1)	ハケ後ナデ	板ナデ, ハケ	1/6	口: 如意形, 刻: 全面, 文: ヘラ4	ヘラは2条1単位
3101	76	104	S R 04	下層	弥生土器 甕	(22.6)			灰・白・透, 小~大, 多 摩滅系	灰白色(2.5 Y 7/1)	灰色(5Y 5/1)	摩滅	ナデ	1/8	口: 如意形, 刻: 下端, 文: ヘラ3	口縁端部遺存不良
3102	76	104	S R 04	下層	弥生土器 甕	(18.2)			灰・白, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10Y R 4/2)	黒褐色(10Y R 3/1)	摩滅	指押	1/8	口: 如意形, 刻: 不明, 文: ヘラ1	口縁端部遺存不良
3103		41	S R 04	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 少 摩滅系	褐灰色(10Y R 4/1)	褐灰色(10Y R 5/1)	ナデ, ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	口: 如意形, 刻: 不明, 文: ヘラ2	外面に炭化物, ヘラは半截竹管
3104	76		S R 04	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	暗灰黄色(2.5 Y 4/2)	黄灰色(2.5 Y 4/1)	摩滅	摩滅	小破片	口: 如意形, 刻: 全面, 文: ヘラ3	
3105	76		S R 04	下層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄褐色(2.5 Y 5/3)	暗灰黄色(2.5 Y 5/2)	ナデ	ナデ	小破片	口: 如意形, 文: ヘラ2	
3106	76	105	S R 04	下層	弥生土器 甕	(25.4)			黒・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい褐色(7.5 Y R 6/3)	にぶい褐色(7.5 Y R 6/3)	ヘラ磨き	指押	1/8	口: 凸系, 刻: 口唇, 文: 刻凸1	口唇と凸帯同時刻
3107	76	105	S R 04	下層	弥生土器 甕				茶・灰・白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい黄橙色(10Y R 7/2)	にぶい黄橙色(10Y R 7/2)	ヘラ磨き	ナデ	1/8	胴: 刻凸1	3106と同一個体の可能性大
3108	76	105	S R 04	下層	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10Y R 5/2)	褐灰色(10Y R 4/1)	摩滅, ナデ	ナデ	1/8	口: 凸系, 刻: 無, 文: 刻凸1	
3109	76	105	S R 04	下層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	浅黄橙色(10Y R 8/3)	にぶい黄橙色(10Y R 7/3)	横ナデ	剥落	小破片	口: 凸系, 刻: 口唇, 文: 刻凸1	口唇と凸帯同時刻, 外面に炭化物
3110	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(7.0)	白・灰, 小~中, 少 非摩滅系	灰黄褐色(10Y R 6/2)	灰黄褐色(10Y R 6/2)	板ナデ後指押	指押, ナデ	1/2		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (40)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の 特徴	備考
3111	77		S R 04	下層	弥生土器 甕			(7.5)	白・透, 小~大, 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	板ナデ	ナデ	1/5		
3112	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(6.0)	赤・白・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 6/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き	1/6		
3113	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(8.4)	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰色(5Y 4/ 1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ハケ後ヘラ 磨き	板ナデ	1/3		底面にモミ庄 痕
3114	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(8.0)	白・赤, 小~中, 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	ヘラ磨き後 板ナデ	板ナデ後指 押	1/2		
3115	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			6.6	白・黒・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	黄褐色(2.5 Y 5/3)	摩滅, ヘラ 磨き	指ナデ	完存		
3116	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(6.6)	灰・白・透, 小~中, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	板ナデ後ヘ ラ磨き ナデ後ナデ	ヘラ磨き	1/4		内面に炭化物
3117	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(8.6)	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	摩滅	摩滅	3/8		接合面で剥離
3118	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			7.9	白・透, 小~中, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	指押後板ナ デ	板ナデ	完存		
3119	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(7.6)	白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい橙色 (5Y R 7/4)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	指押後板ナ デ, ナデ	摩滅	1/3		
3120	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(8.0)	灰・白, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	褐灰色(10Y R 4/1)	指押, ナデ	指押, ナデ	1/2		
3121	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(7.0)	灰・白・透, 小~中, 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナデ	板ナデ	1/3		内面に炭化物 付着
3122	77	106	S R 04	下層	弥生土器 鉢	(40.4)	26.7	(12.3)	白・灰, 大, 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	摩滅, ナデ	摩滅, ナデ	1/4		
3121	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(7.0)	灰・白・透, 小~中, 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナデ	板ナデ	1/3		内面に炭化物 付着
3122	77	106	S R 04	下層	弥生土器 鉢	(40.4)	26.7	(12.3)	白・灰, 大, 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	摩滅, ナデ	摩滅, ナデ	1/4		
3121	77	105	S R 04	下層	弥生土器 甕			(7.0)	灰・白・透, 小~中, 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	板ナデ	板ナデ	1/3		内面に炭化物 付着
3122	77	106	S R 04	下層	弥生土器 鉢	(40.4)	26.7	(12.3)	白・灰, 大, 多 摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	摩滅, ナデ	摩滅, ナデ	1/4		
3123	77	106	S R 04	下層	弥生土器 鉢	(39.4)			灰・白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい橙色 (7.5Y R 7/3)	浅黄褐色(7.5 Y R 8/3)	ヘラ磨き	摩滅	1/8		口: 如意形, 文: 無文

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (41)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3124	77	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(39.4)			白・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	へラ磨き	へラ磨き	1/8	口:如意形, 文:無文	口縁部折り返 し状
3125	78	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(34.8)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	板ナテ	へラ磨き, 摩滅	破片	口:如意形, 文:無文	
3126	78	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(32.2)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい橙 色(7.5 Y R7/ 4)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	へラ磨き	摩滅	1/8	口:如意形, 文:無文	外面黒斑
3127	78	106	SR04	下層	弥生土器 鉢	(27.4)			灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩滅	へラ磨き	1/8	口:如意形, 文:無文	
3128	78	107	SR04	下層	弥生土器 鉢	(24.8)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄褐 色(10Y R5/ 3)	黒褐色(2.5 Y3/2)	摩滅, へラ 磨き	指ナテ	破片	口:如意形, 刻:全面, 文:沈線間 刺突	外面に炭化物, へラ刺突
3129	78	107	SR04	下層	弥生土器 鉢	(20.9)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/2)	灰黄褐色(10 Y R4/2)	へラ磨き	ハケ後ナテ	1/8	口:如意形, 文:へラ2	外面に炭化物
3130	78	107	SR04	下層	弥生土器 鉢	(13.6)			白・透, 小~中, 少 非摩滅系	灰色(5Y4/ 1)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	へラ磨き	へラ磨き	1/8	口:直口, 文:無文	外面黒色付着 物
3131	78	107	SR04	下層	弥生土器 浅鉢				白・灰・透, 小~中, 少 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	へラ磨き	へラ磨き	破片	胴:屈曲	縄文系
3132	78	107	SR04	下層	弥生土器 浅鉢				白・小, 少 非摩 滅系	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	黄灰色(2.5 Y4/1)	へラ磨き	へラ磨き	小破 片	口:波状, 口内:へラ 3	縄文系
3133	78	107	SR04	下層	弥生土器 浅鉢				白・灰, 小, 少 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	摩滅, へラ 磨き	摩滅, へラ 磨き	小破 片	口:屈曲外 反, 口内:へラ 1	縄文系
3134	78	107	SR04	下層	弥生土器 鉢	8.4	3.8	6.1	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	ナテ, 指押 後ナテ	指押後ナテ	完存	手づくくね	外面黒斑, 内 面に赤色顔料
3135	78	SR04	SR04	下層	弥生土器 甕蓋	(20.0)			白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y5/1)	へラ磨き	へラ磨き	破片	裾端:面取 り	
3160	83	112	SR04	中層	弥生土器 甕	(17.4)			白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(10Y R8/2)	摩滅	摩滅	1/8	口唇:へラ 1, 頸:削凸+ へラ2	
3161	83	112	SR04	中層	弥生土器 甕	(18.4)			白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	淡黄色(2.5 Y8/3)	ナテ, 摩滅, へラ磨き	摩滅, へラ 磨き	1/8	口唇:へラ 1	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (42)

番号	押図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3162	83	SR04	SR04	中層	弥生土器 壺	(13.8)			白・灰・茶・透, 小 ~大, 多 非摩滅系	灰白色(10Y R8/2)	にぶい黄橙色(10Y R6/3)	へラ磨き	剥落	破片		
3163	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 多 橙色系	にぶい橙色(7.5Y R7/4)	磨滅, へラ磨き	摩滅	破片	口径: へラ 1, 頸: 段		
3164	83	SR04	SR04	中層	弥生土器 壺				灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5Y 6/1)	灰黄色(2.5Y 6/2)	ナデ, 摩滅, へラ磨き	摩滅, へラ磨き	小破片		
3165	83	SR04	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・黒・透, 小~大, 少 非摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	灰黄色(2.5Y 7/2)	へラ磨き	へラ磨き	1/8	胴: へラ3	
3166	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5Y 6/2)	灰黄色(2.5Y 6/2)	摩滅, へラ磨き	摩滅, へラ磨き後指押	1/6	頸: 削凸+ へラ2 + α	
3167	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・茶・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5Y 7/2)	灰黄色(2.5Y 7/2)	へラ磨き	へラ磨き	1/8	頸: へラ1	
3168	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5Y 7/2)	灰白色(2.5Y 8/2)	摩滅	摩滅	1/4	頸: 貼凸1	
3169	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・黒・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄橙色(10Y R8/3)	黒褐色(2.5Y 3/1)	板ナデ後へラ磨き	摩滅	破片	口頸: 縦線 文, 胴: 段+へ ラ1	外面黒斑
3170	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・黒, 小~中, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	浅黄色(2.5Y 7/3)	摩滅	指押, ナデ	1/6	胴: へラ4	
3171	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・黒・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10Y R6/2)	浅黄色(2.5Y 7/3)	摩滅, へラ磨き	指ナデ	1/9	胴: へラ3	
3172	83	113	SR04	中層	弥生土器 壺				黒・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄橙色(10Y R8/3)	橙色(5Y R7/6)	摩滅	摩滅	破片	胴: 貼凸1	
3173	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	浅黄色(2.5Y 7/3)	にぶい黄橙色(10Y R6/3)	へラ磨き	へラ磨き	小破片	胴: へラ1	
3174	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄褐色(7.5Y R8/4)	橙色(5Y R7/6)	摩滅	摩滅	小破片	胴: 段+へ ラ2	
3175	83	112	SR04	中層	弥生土器 壺				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	褐灰色(10Y R6/1)	にぶい橙色(7.5Y R7/4)	摩滅	摩滅	小破片	胴: へラ3	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (43)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3176	83	113	SR04	中層	弥生土器 壺				白透, 小~中, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	胴: 貼凸1	
3177	83	113	SR04	中層	弥生土器 壺				白透, 小, 多, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y7/1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	摩滅	指押, ナテ	1/6	胴: 沈線間 刺突2+α	竹管刺突
3178	83	113	SR04	中層	弥生土器 壺				白透, 小~中, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	灰白色(10Y R7/1)	摩滅	摩滅	1/8	胴: ヘラ2 刺突+	竹管刺突
3179	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺	(9.0)			灰・透, 小~中, 摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y5/1)	ヘラ磨き, ナテ	ヘラ磨き	1/4		
3180	84		SR04	中層	弥生土器 壺	(10.0)			白透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	にぶい黄橙色(10Y R7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/8		
3181	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺	7.7			白透, 小~大, 摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き, ナテ	ヘラ磨き	完存		
3182	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺	(10.6)			灰・透, 小~中, 摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ後ヘラ磨き, ヘラ磨き	ヘラ磨き	3/8		外面黒斑
3183	84		SR04	中層	弥生土器 壺	7.9			白透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	剥落	剥落	2/3		接合面で剥離
3184	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺	7.4			茶・灰・透, 小~大, 多, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	にぶい黄橙色(10Y R7/2)	ヘラ磨き, ナテ	摩滅	完存		
3185	84		SR04	中層	弥生土器 壺	(9.4)			灰・透, 小~中, 摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ヘラ磨き, ナテ	ヘラ磨き	1/3		
3186	84		SR04	中層	弥生土器 壺	(10.1)			白透, 小~大, 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄色(2.5 Y6/2)	板ナテ後ヘラ磨き	ナテ	1/4		外面黒斑 面はヘラ磨き
3187	84		SR04	中層	弥生土器 壺	(6.2)			白透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	にぶい黄橙色(10Y R7/2)	摩滅	摩滅	1/4		
3188	84		SR04	中層	弥生土器 壺	6.5			白透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ヘラ磨き, ナテ	ヘラ削りか	完存		接合面で剥離
3189	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺	7.8			白透, 小~大, 非摩滅系	にぶい褐色(7.5 Y6/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅, 指押	ヘラ磨き後 指押	完存		
3190	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺	(7.5)			白透, 小~大, 少, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	板ナテ後ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/4		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (44)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3191	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺			7.0	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ハケ後ヘラ磨き, ヘラ磨き	ヘラ磨き	完存		金雲母微
3192	84	113	SR04	中層	弥生土器 壺			(10.6)	白・灰・茶・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄灰色(2.5 Y6/2)	板ナデ後ヘラ磨き	板ナデ後ナデ	1/4		接合面で剥離
3193	84		SR04	中層	弥生土器 壺			8.7	白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	暗灰黄色(2.5 Y6/3)	暗灰黄色(2.5 Y5/2)	ハケ後ヘラ磨き	ヘラ磨き	完存		底面はヘラ磨き, 外面黒斑
3194	84	114	SR04	中層	弥生土器 甕	(19.6)			灰・白・透, 小~中, 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	指押後横ナデ, ナデ	横ナデ, 板ナデ	1/8	口: 如意形, 文: ヘラ2	口縁端部遺存不良
3195	84	114	SR04	中層	弥生土器 甕				白・灰・黒・透, 小~大, 多摩, 摩滅系	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	にぶい黄褐色(10 Y R5/3)	ハケ後ヘラ磨き	ハケ, 摩滅	1/8	口: (如意形), 文: ヘラ9	
3196	84	114	SR04	中層	弥生土器 甕	(24.6)			白・灰・茶・透, 小~大, 少, 非摩滅系	にぶい黄色(2.5 Y6/4)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩滅, ヘラ磨き	ナデ	破片	口: 如意形, 文: ヘラ4	口縁端部遺存不良, 竹管, 半截1単位施文
3197	84	114	SR04	中層	弥生土器 甕	(22.2)			白・灰・黒・透, 小~大, 多摩, 摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	ヘラ磨き	ハケ後ナデ, ヘラ磨き, 指ナデ	1/9	口: 如意形, 刻: 全面, 文: ヘラ3	
3198	84	114	SR04	中層	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 摩滅系	にぶい褐色(7.5 Y R5/3)	暗褐色(7.5 Y R3/3)	摩滅, ヘラ磨き	摩滅	破片	口: 如意形, 文: ヘラ3	
3199	84	114	SR04	中層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R5/2)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	ヘラ磨き	指押後ヘラ磨き	破片	文: ヘラ2 + α	外面黒斑
3200	85	115	SR04	中層	弥生土器 甕			7.0	白・灰, 小~大, 摩滅系	褐灰色(10 Y R4/1)	にぶい黄褐色(10 Y R7/3)	指押, ナデ	摩滅, ヘラ磨き後指押	完存		
3201	85	114	SR04	中層	弥生土器 甕			(7.4)	白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	にぶい黄色(2.5 Y6/3)	ナデ, ヘラ磨き	指押, ナデ	1/2	底端部: ヘラ2	半截竹管施文
3202	85		SR04	中層	弥生土器 甕			(6.6)	白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい橙褐色(5 Y R7/4)	黄灰色(2.5 Y6/1)	板ナデ後ヘラ磨き, 板ナデ	摩滅	1/6		内面黒斑
3203	85	115	SR04	中層	弥生土器 甕			7.7	白・灰・茶・透, 小~大, 多摩, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10 Y R5/3)	暗灰黄色(2.5 Y4/2)	ヘラ削り後ヘラ磨き	板ナデ	完存		内面黒斑, 底面: ヘラ削り後板ナデ

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (45)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3204	85	114	SR04	中層	弥生土器 甕			(7.1)	白・透, 小~大, 非摩滅系	黒褐色 (10Y R3/1)	にぶい黄褐色 (10Y R6/3)	ヘラ磨き	板ナデ後ヘラ磨き	1/3	底面:ヘラ	モミ痕, ヘラは半截竹管
3205	85	114	SR04	中層	弥生土器 甕			12.2	白・透, 小~大, 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	ハケ	摩滅, ヘラ磨き	完存		接合面で剥離
3206	85	115	SR04	中層	弥生土器 鉢	(33.9)			白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐色 (10Y R7/3)	にぶい黄褐色 (10Y R7/2)	摩滅	ナデ	破片	口:如意形, 文:無文	
3207	85	115	SR04	中層	弥生土器 鉢	(26.5)			白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	灰白色 (2.5Y 8/2)	灰白色 (2.5Y 8/2)	摩滅	摩滅	破片	口:如意形, 文:無文	外面黒斑
3208	85	115	SR04	中層	弥生土器 鉢	(36.1)			白・灰・透, 大, 多摩滅系	にぶい褐色 (7.5Y R6/3)	にぶい褐色 (7.5Y R7/4)	摩滅	摩滅	破片	口:如意形, 刻:口唇, 文:ヘラ	
3209	85	115	SR04	中層	弥生土器 鉢				白・透, 小~中, 非摩滅系	黒褐色 (2.5Y 3/1)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	摩滅	ヘラ磨き	小破片	口:外反, 文:段	
3210	85	115	SR04	中層	弥生土器 浅鉢				白・茶・黒・透, 小~中, 少摩滅系	黒褐色 (10Y R3/2)	にぶい黄褐色 (10Y R7/3)	ナデ	ナデ	破片	口:波状, 文:段	縄文系
3211	85	115	SR04	中層	弥生土器 甕蓋			つまみ径5.2	白・透, 小~中, 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	ヘラ磨き, ナデ	ヘラ磨き	完存		天井面ヘラ磨き
3212	85	115	SR04	中層	弥生土器 甕蓋			つまみ径3.5	灰・白・透, 小~中, 非摩滅系	灰黄色 (2.5Y 7/2)	灰黄色 (2.5Y 7/2)	指押後ヘラ磨き	板ナデ後ヘラ磨き	完存		外面黒斑, 天井面ヘラ磨き
3213	85	115	SR04	中層	弥生土器 甕蓋			つまみ径6.1	灰・白・透, 小~大, 摩滅系	黄灰色 (2.5Y 4/1)	灰黄色 (2.5Y 6/2)	板ナデ後ヘラ磨き	指押後ナデ, ヘラ磨き	ほぼ完存	天井面:平坦	天井面ナデ
3214	85	115	SR04	中層	土製 紡錘車	径5.1	最大厚1.2	孔径0.5	白・透, 小~大, 非摩滅系		灰黄色 (2.5Y 7/2)	摩滅, ナデ		7/8	穿孔1	摩滅のため土器片転用の当否不明
3215	85	115	SR04	中層	土製 紡錘車	径4.0	最大厚0.7	孔径0.55	白・透, 小~大, 非摩滅系		明赤褐色 (5Y R5/6)	摩滅	摩滅	7/8	穿孔1	摩滅のため土器片転用の当否不明
3223	87	117	SR04	上層	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5Y 6/3)	暗灰黄色 (2.5Y 5/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	小破片	胴:段+ヘラ	外面黒斑

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (46)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3224	87	117	SR04	上層	弥生土器 甕			(7.0)	灰・白・透, 小~大, 非摩擦系	灰黄色 (2.5 Y7/2)	灰白色 (2.5 Y7/1)	摩滅, 板ナデ	摩滅, 板ナデ	1/6		
3225	87	117	SR04	上層	弥生土器 鉢	(35.8)			灰・白・透, 小~大, 非摩擦系	灰白色 (2.5 Y8/2)	浅黄褐色 (10 YR8/3)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	1/6	口: 段+ヘラ ₄	2本1単位
3226	87	117	SR04	最上層	弥生土器 甕	(19.4)			灰・白・透, 小~大, 非摩擦系	灰黄色 (2.5 Y6/2)	灰黄色 (2.5 Y6/2)	ナデ, ヘラ磨き	ナデ, ヘラ磨き	1/6		
3227	87	117	SR04	最上層	弥生土器 甕				灰・白・透, 小~大, 非摩擦系	灰白色 (2.5 Y8/2)	橙色 (7.5 YR6/6)	ヘラ磨き	摩滅	小破片	頸: ヘラ1	
3228	89		SR05	-	弥生土器 甕	(25.2)			茶・白・透, 中~大, 非摩擦系※	浅黄褐色 (10 YR8/4)	浅黄 橙色 (7.5 YR8/4)	摩滅	摩滅	1/8		摩滅顕著
3229	89	117	SR05	-	弥生土器 甕	(25.8)			白・透・茶, 小~大, 非摩擦系	灰白色 (2.5 Y8/2)	にぶい黄褐色 (10 YR7/2)	ヘラ磨き	横ナデ, 板ナデ	1/8	頸: ヘラ1	
3230	89	117	SR05	-	弥生土器 甕	(12.6)			灰・透, 小~大, 非摩擦系	にぶい黄色 (2.5 Y6/3)	にぶい黄色 (10 YR6/3)	ヘラ磨き	摩滅, 指押さえ		頸: ヘラ3	細いヘラミガキ
3231	89	117	SR05	-	弥生土器 甕	(16.2)			白・灰・大, 中非摩擦系	橙色 (5 YR6/6)	灰黄褐色 (10 YR5/2)	摩滅	摩滅, 指押さえ	破片	口: 凸弁, 刻: 口唇 (不明瞭), 文: 刻凸1	口唇部の刻目は不明瞭
3232	89		SR05	-	弥生土器 甕	(14.4)			白・透, 小~大, 非摩擦系	浅黄色 (2.5 Y7/3)	にぶい黄色 (2.5 Y6/3)	横ナデ, 摩滅	横ナデ, 剥落	1/8	頸: ヘラ3	摩滅顕著
3233	89		SR05	-	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 非摩擦系	灰黄色 (2.5 Y7/2)	浅黄色 (2.5 Y7/3)	摩滅	指押後ナデ	1/8	頸: 削凸1+ヘラ1	
3234	89		SR05	-	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 非摩擦系	にぶい黄褐色 (10 YR7/3)	浅黄褐色 (10 YR8/3)	摩滅	ナデ	小破片		
3235	89		SR05	-	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩擦系	灰黄褐色 (10 YR6/2)	にぶい褐色 (7.5 YR6/3)	ナデ	剥落	小破片		
3236	89		SR05	-	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 非摩擦系	灰黄色 (2.5 Y7/2)	灰白色 (2.5 Y7/1)	指押後横ナデ	指押後横ナデ	小破片		接合面で剥離
3237	89	117	SR05	-	弥生土器 甕	(40.8)			白・灰・透, 小~大, 非摩擦系	にぶい黄褐色 (10 YR6/4)	にぶい黄色 (2.5 Y6/3)	摩滅	剥落	破片	内: 貼凸1	摩滅顕著

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (47)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3238	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺	(23.8)			白・透, 中～大, 非摩擦系 多	にぶい 橙黄色 (7.5 Y R 7/ 4)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	摩擦	摩擦	1/8	内面に貼凸 刻? 外面に 貼凸 2 + α	外面凸帯の刻 目有無は不明 瞭
3239	89	117	S R 05	-	弥生土器 壺	(15.4)			白・透, 小～大, 非摩擦系 多	灰黄色(2.5 Y 7/2)	にぶい黄橙 色(10 Y R 7/ 2)	ナデ	ナデ, 指押 後ナデ	1/6	頸: 櫛直(6 条 4 帯)	複帯構成節描 文
3240	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・灰, 中, 少 摩擦系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄橙 色(10 Y R 6/ 6)	ナデ	指押さえ	破片	胴: ヘラ 2	
3241	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透, 小～大, 非摩擦系 少	灰色(7.5 Y 4/1)	オリーブ黒 色(7.5 Y 3/ 1)	ヘラ磨き	指押さえ	破片	胴: ヘラ 2 + α	接合面で剥離
3242	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・灰・透, 小～大, 非摩擦系 少	黄灰色(2.5 Y 6/1)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	ナデ	ナデ	破片	胴: ヘラ 3 + α	外面に黒色付 着物
3243	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透, 小～大, 非摩擦系 多	灰色(5 Y 5/ 1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	ヘラ磨き	摩擦	破片	胴: ヘラ 2	
3244	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透, 小～中, 非摩擦系 多	にぶい黄橙 色(10 Y R 7/ 3)	にぶい黄橙 色(10 Y R 7/ 3)	横ナデ	横ナデ	小破 片	胴: ヘラ 2	半截竹管施文 か
3245	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透, 灰, 小～大, 摩擦系 多	灰白色(2.5 Y 8/2)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	ヘラ磨き	ナデ	小破 片	胴: ヘラ 4 + α	
3246	89	118	S R 05	-	弥生土器 壺				白・透, 小～大, 非摩擦系※ 多	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	浅黄色(2.5 Y 7/4)	横ナデ	横ナデ	1/8	頸胴: ヘラ 7	浅い沈線, 砂 粒が細かい
3247	89		S R 05	-	弥生土器 壺				白・透, 小～大, 非摩擦系 多	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ヘラ磨き	ヘラ磨き	破片	胴: 櫛直(6 条 1 + α 帯)	
3248	90		S R 05	-	弥生土器 壺	(9.4)			白・透, 小～大, 非摩擦系 多	橙黄色(5 Y R 7/6)	灰白色(2.5 Y 8/1)	摩擦	摩擦	1/6		
3249	90		S R 05	-	弥生土器 壺	(6.8)			白・透, 茶, 小～大, 非摩擦系 多	浅黄橙色(10 Y R 8/3)	にぶい黄橙 色(10 Y R 7/ 2)	摩擦, ナデ	摩擦, 指押, ナデ	1/2		外面黒斑
3250	90		S R 05	-	弥生土器 壺	(11.6)			白・透, 小～大, 非摩擦系 多	灰白色(2.5 Y 8/2)	にぶい橙 色(7.5 Y R 7/ 4)	摩擦	摩擦	1/6		
3251	90		S R 05	-	弥生土器 壺	(12.0)			透・白, 小～大, 非摩擦系 多	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	指押後ナデ	ナデ	1/3		接合面で剥離

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (48)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の 特徴	備考
3252	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(10.2)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 6/1)	にぶい橙色 (7.5 Y R 6/ 4)	摩滅	摩滅	1/4		接合面で剥離
3253	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(7.4)	白・透, 小~中, 多 非摩滅系	暗灰色 (N 3/)	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	指押後板ナ デ	板ナデ	1/3		
3254	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(7.4)	白・透, 茶, 小~中, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	剥落	摩滅, ナデ	1/2		
3255	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(9.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	にぶい橙色 (7.5 Y R 7/ 4)	摩滅	摩滅	1/4		
3256	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(9.3)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	橙色(5 Y R 6/6)	摩滅, 板ナ デ	摩滅	1/3		
3257	90		S R 05	-	弥生土器 壺			6.0	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y 8/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	ナデ	板ナデ後ナ デ	7/8		
3258	90		S R 05	-	弥生土器 壺			6.7	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	指押後板ナ デ, ナデ	ナデ	完存		
3259	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(7.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰色 (N 3/)	灰白色(2.5 Y 8/2)	指押, ナデ	指押, ナデ	1/2		
3260	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(6.6)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	摩滅	摩滅	1/4		
3261	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(7.0)	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	灰白色(2.5 Y 7/1)	指押後ナデ	ナデ	1/4		
3262	90		S R 05	-	弥生土器 壺			(7.4)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 5/1)	灰白色(2.5 Y 8/2)	ナデ	摩滅	1/4		
3263	90	118	S R 05	-	弥生土器 壺			(7.6)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y 7/3)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	摩滅, 板ナ デ後ナデ	摩滅	1/2		外面黒斑
3264	90	118	S R 05	-	弥生土器 壺			(9.4)	白・透, 中~大, 多 非摩滅系	灰白色(5 Y 7/1)	灰白色(5 Y 7/1)	摩滅, ナデ	摩滅	1/4		
3265	90	118	S R 05	-	弥生土器 壺			8.0	白・透, 中~大, 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	指押後ナデ, ナデ	摩滅, 指押, ナデ	完存		
3266	90	119	S R 05	-	弥生土器 壺			7.8	白・透, 大, 多 非摩滅系	黒色(10 Y R 2/3)	にぶい黄橙 色(10 Y R 2/ 1)	板ナデ後ナ デ	板ナデ後ナ デ	完存		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (49)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3267	90		SR05	-	弥生土器 甕			(6.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	ナテ	指押, ナテ	1/2		
3268	90		SR05	-	弥生土器 甕			(10.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄橙 色(7.5Y 8/6)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	指押	摩滅	3/4		
3269	90		SR05	-	弥生土器 甕			7.4	白・透, 大, 少 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	黄灰色(2.5 Y 6/1)	ナテ	ナテ	4/5		
3270	90		SR05	-	弥生土器 甕			(7.2)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(2.5Y 6/3)	にぶい黄橙 色(2.5Y 6/3)	摩滅, 板ナ テ	剥落	1/4		
3271	90		SR05	-	弥生土器 甕			(8.0)	白・灰・透, 中, 少 非摩滅系	浅黄橙(2.5 Y 7/3)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	板ナテ後ナ テ	指ナテ	1/4		
3272	90		SR05	-	弥生土器 甕			(8.6)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(5Y R7/4)	橙 色(7.5Y R 7/6)	摩滅	摩滅	1/4		外面黒斑
3273	90		SR05	-	弥生土器 甕			(7.1)	白・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	ナテ	ナテ	1/3		
3274	90		SR05	-	弥生土器 甕			(6.2)	白・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	板ナテ後ナ テ	指ナテ	1/3		
3275	90		SR05	-	弥生土器 甕			(11.4)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 4)	摩滅	摩滅	1/2		
3276	90		SR05	-	弥生土器 甕			(9.2)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	指押後板ナ テ, ナテ	摩滅	1/6		
3277	90		SR05	-	弥生土器 甕			9.0	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色(5Y 6/ 1)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	板ナテ後ナ テ, 指押後 ナテ	板ナテ	完存		外面黒斑
3278	91	119	SR05	-	弥生土器 甕			(10.5)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	板ナテ後ナ テ, 指押さ え	板ナテ後ナ テ	破片		
3279	91		SR05	-	弥生土器 甕			6.4	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	指押後ナテ, ナテ	指押後ナテ	1/2		外面黒斑
3280	91		SR05	-	弥生土器 甕			(8.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰色(5Y 4/ 1)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	摩滅	摩滅	3/8		
3281	91		SR05	-	弥生土器 甕			9.0	白・灰・透, 大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y 4/1)	にぶい黄橙 色(5Y R6/4)	板ナテ後ナ テ	剥落	3/4		内面は接合面 で剥離か

龍川五糸Ⅱ遺跡 土器観察表 (50)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3282	91	SR05	-	-	弥生土器 壺			(6.4)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	板ナデ, ナデ	指押後ナデ	1/4		
3283	91	SR05	-	-	弥生土器 壺			8.3	白・灰・透, 大, 多 非摩滅系	にぶい, 黄橙色(10 Y R 7/4)	明黄褐色(10 Y R 7/4)	剥落	摩滅, ハケ後ナデ	2/3		
3284	91	SR05	-	-	弥生土器 壺			(9.2)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩滅, 板ナデ	摩滅, ナデ	1/3		外面黒斑
3285	91	SR05	-	-	弥生土器 壺			(10.6)	白・透, 大, 多 非摩滅系	黄橙色(2.5 Y6/1)	灰白色(2.5 Y8/2)	ヘラ磨き	剥落, 指ナデ	1/2		外面黒斑, 1~1.3cm大の異質物が混入
3286	91	SR05	-	-	弥生土器 壺			(7.2)	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y4/1)	暗灰黄色(2.5 Y5/2)	剥落	ナデ	1/3		
3287	91	SR05	-	-	弥生土器 甕	(28.5)			白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	にぶい, 黄色(2.5 Y6/3)	ヘラ磨き, 摩滅	摩滅, ハケ, 指ナデ	1/8	口: 如意形, 口: 下端, 文: ヘラ2	口縁下端がやや凸出気味
3288	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	ナデ, 板ナデ	小破片	口: 逆L字形, 文: ヘラ10	
3289	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	指押後横ナデ	指押後横ナデ	小破片	口: 如意形, 口: 全面	
3290	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・透, 小~大, 少 摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	横ナデ	横ナデ	小破片	文: ヘラ2 + α	
3291	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	にぶい, 黄橙色(10 Y R 6/3)	摩滅	ナデ	小破片	口: 逆L字形	摩滅顯著
3292	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	ナデ	ナデ	小破片	口: 凸系, 口: D字	
3293	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・透, 中~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	ナデ	摩滅	小破片	文: ヘラ3 + α	
3294	91	SR05	-	-	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 多 摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	指押後ナデ	ナデ	小破片	口: (如意形), 文: ヘラ3 + α	
3295	91	SR05	-	-	弥生土器 甕			(7.0)	白・透, 黒, 小~大, 多 摩滅系	にぶい, 黄橙色(10 Y R 7/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	ナデ	ナデ	1/2		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (51)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3296	91		SR05	-	弥生土器 甕			(6.4)	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	ナデ	1/6		
3297	91		SR05	-	弥生土器 甕			(8.4)	白・透, 黒, 小~中, 非摩滅系	暗灰色 (N 3/)	灰黄色(2.5 Y7/2)	指押後板ナデ	指押, ナデ	1/2		
3298	91		SR05	-	弥生土器 甕			(6.4)	白・透, 小~大, 非摩滅系	黄褐色(10Y R5/6)	浅黄色(2.5 Y7/3)	指押後ナデ	摩滅	1/6		
3299	91		SR05	-	弥生土器 甕			(10.0)	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ナデ, 摩滅	摩滅	3/8		外面黒斑, 底面にモミミ圧痕
3300	91		SR05	-	弥生土器 甕			(10.0)	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	ナデ	摩滅	1/4		胎土中に炭化物含
3301	91		SR05	-	弥生土器 甕			(5.8)	灰・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい赤褐色(10R6/4)	灰黄色(2.5 Y7/2)	摩滅	摩滅	1/4		
3302	91		SR05	-	弥生土器 甕			(7.6)	白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい黄褐色(10Y R5/4)	褐色(10Y R4/4)	指押後ナデ	指押後ナデ	1/4		
3303	91		SR05	-	弥生土器 甕			(6.2)	灰・透, 小~大, 非摩滅系	灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩滅	ナデ	1/4		
3304	91		SR05	-	弥生土器 甕			(7.0)	白・透, 小~大, 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y5/1)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	指押後ナデ	1/4		
3305	91		SR05	-	弥生土器 甕			(7.6)	白・透, 中~大, 非摩滅系	灰黄褐色(10Y R6/2)	にぶい黄褐色(10Y R7/3)	板ナデ後ナデ	剥落	1/3		
3306	91		SR05	-	弥生土器 甕			(5.2)	白・透, 小~大, 非摩滅系	にぶい橙色(7.5Y R6/4)	浅黄褐色(7.5Y R8/4)	摩滅	摩滅	1/4		
3307	91	119	SR05	-	弥生土器 甕			(6.6)	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰色(5Y4/1)	暗灰黄色(2.5Y5/2)	ナデ, 剥落	摩滅	1/2		外面黒斑
3308	91	119	SR05	-	弥生土器 甕			(8.2)	白・透, 小~中, 非摩滅系	灰色(5Y6/1)	灰色(5Y5/1)	ハケ, ナデ	板ナデ	1/6		
3309	91		SR05	-	弥生土器 甕			6.6	白・透, 小~中, 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	灰黄褐色(10Y R6/2)	板ナデ	板ナデ	完存		接合面で剥離
3310	91		SR05	-	弥生土器 甕			7.2	白・透, 小~大, 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	にぶい黄褐色(10Y R7/3)	板ナデ後ナデ	ナデ	1/5		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (52)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3311	91	119	SR05	-	弥生土器 甕			(9.5)	白・透, 小~大, 少 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	摩滅, ハケ	ナデ	1/4		
3312	91		SR05	-	弥生土器 甕			(8.8)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	板ナデ後ナ デ, ナデ	摩滅	1/3		
3313	91		SR05	-	弥生土器 甕			(7.8)	灰・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄褐色(10 Y R6/2)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	ナデ	ナデ	1/6		
3314	91	119	SR05	-	弥生土器 甕			(6.6)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	摩滅	完存		
3315	91	120	SR05	-	弥生土器 甕			(6.1)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(10Y R6/3)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 2)	摩滅, 板ナ デ	摩滅	1/3	底部焼成後 穿孔	
3316	92	120	SR05	-	弥生土器 鉢				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	明黄褐色(2.5 Y6/6)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	ナデ	破片	口:(如意形), 文:無文	
3317	92	120	SR05	-	弥生土器 鉢	(30.6)			白・透, 中~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	明黄褐色(10 Y R6/6)	摩滅	剥落	破片	口:如意形, 文:如意形	
3318	92	120	SR05	-	弥生土器 鉢	(24.6)			白・透, 中~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	灰黄色(2.5 Y6/2)	横ナデ, ナ デ	横ナデ, ナ デ	1/8	口:凸系, 刻:全面, 文:貼凸1	凸帯上は部分 的な刻目
3319	92	120	SR05	-	弥生土器 鉢				白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	明黄褐色(10 Y R6/6)	ナデ	摩滅	破片	口:(如意形), 文:ヘラ2	
3320	92	120	SR05	-	弥生土器 浅鉢				白・灰, 小~大, 少 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	黄灰色(2.5 Y6/1)	ナデ	ナデ	小破 片	口内:ヘラ 1	縄文系
3321	92	120	SR05	-	弥生土器 高杯				白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色(2.5 Y6/2)	黄灰色(2.5 Y6/1)	ナデ	板ナデ	5/8	脚:刻凸 (V字)	
3352	98	124	SX07	-	弥生土器 甕	(14.6)			茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	黄灰色(2.5 Y6/1)	浅黄褐色(10 Y R8/3)	摩滅	摩滅	1/8		口頸部の摩滅 顕著
3353	98	124	SX07	-	弥生土器 甕				白・灰・透, 小~大, 少 非摩滅系	にぶい黄褐 色(2.5Y4/ 1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	摩滅, ヘラ 磨き	指ナデ	1/6	頸:削凸	
3354	98	124	SX07	-	弥生土器 甕			6.3	白・灰・透, 小~大, 多 非摩滅系	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	ヘラ磨き	板ナデ後へ ラ磨き	完存		
3355	98		SX07	-	弥生土器 甕			(3.4)	白・灰・黒, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色(2.5 Y7/3)	暗灰黄色 (2.5Y4/2)	摩滅	指押, 摩滅	1/3	胴:重弧文	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (53)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3356	98	124	S X 07	-	弥生土器 壺			(9.0)	白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	板ナデ, ナデ	板ナデ	1/4		
3357	98	124	S X 07	-	弥生土器 甕	(22.8)			茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	板ナデ後へラ磨き	摩滅	1/8	口: 如意形, 刻: 口唇, 文: 無文	外面黒斑
3358	98	124	S X 07	-	弥生土器 甕	(18.8)			灰・白・透, 小, 少 非摩滅系	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	ハケ目, 横ナデ	摩滅	1/8	口	如意形, 刻: 口唇, 文: ヘラ ₂ +α
3359	98	124	S X 07	-	弥生土器 甕			(10.2)	白・茶・透, 大, 多 非摩滅系	にぶい橙褐色 (7.5 Y R 6/4)	明赤褐色 (5 Y R 5/6)	剥落	剥落	1/6		
3360	98	124	S X 07	-	弥生土器 甕			(8.6)	茶・白・透, 小~大, 多 非摩滅系	浅黄色 (2.5 Y 7/3)	明赤褐色 (2.5 Y R 5/6)	摩滅, 指押後ナデ	摩滅	1/2		底面黒斑
3361	98	124	S X 07	-	弥生土器 甕			6.6	白・透, 小~中, 多 非摩滅系	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	灰褐色 (7.5 Y R 4/2)	摩滅, 指押	指押, ナデ	完存		
3363	100	125	S D 52	-	弥生土器 高杯	(13.0)			白・透, 小~大, 少	にぶい褐色 (7.5 Y R 6/3)	にぶい橙褐色 (7.5 Y R 7/4)	摩滅	摩滅	1/3		杯底部円盤充 填
3368	105	125	S R 06	-	弥生土器 甕				白・透, 小~中, 多	灰白色 (2.5 Y 8/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ナデ	ナデ	小破片	口: 凸系, 刻: (小D字)	
3369	105	125	S R 06	-	弥生土器 甕				白・透, 中~大, 多	灰白色 (2.5 Y 7/1)	灰白色 (2.5 Y 8/1)	ナデ	ナデ	小破片	胴: 刻凸 (D字)	凸系
3370	105	125	S R 06	-	弥生土器 壺				白・灰・透, 中~大, 多	にぶい橙褐色 (7.5 Y R 7/6)	にぶい橙褐色 (7.5 Y R 7/6)	へラ磨き	ナデ	小破片	胴: ヘラ ₃ +α	
3371	105	125	S R 06	-	弥生土器 壺	(16.1)			白・灰, 大, 多	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/4)	にぶい橙褐色 (7.5 Y R 7/4)	摩滅	摩滅	1/9	口: 如意形, 文: ヘラ ₂	摩滅顯著
3372	105	125	S R 06	-	弥生土器 甕	(24.4)			白・透, 中~大, 多	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	横ナデ, ナデ	横ナデ, へラ磨き	1/12	胴: 櫛19	櫛は4条1単位
3373	105	125	S R 06	-	弥生土器 壺				白・透・灰, 小~大, 少	にぶい黄色 (2.5 Y 6/3)	にぶい黄色 (2.5 Y 6/4)	摩滅・板ナデ	摩滅・指押	1/5	胴: ヘラ ₉ , 刺突文	ヘラは2条1単位の半截竹管
3374	105	125	S R 06	-	弥生土器 壺				白・透, 小~大, 多	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	ナデ	指押後ナデ	小破片	頸: ヘラ ₉ +α, 刺凸	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (54)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3375	105	125	SR06	-	弥生土器 壺	(10.0)			白・透, 小~大, 多	灰色(5Y4/ 1)	暗灰色(N 3/)	横ナデ, へ ラ	剥落, 指押 ナデ	1/6	口:凹線文 2, 頸:へラ斜 線文	
3376	105	126	SR06	-	弥生土器 壺		8.8		白・透, 中~大, 多	明赤褐色(5 Y R5/6)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ハケ後へラ 磨き, 指押, ナデ	指押後ナデ	完存		外面黒斑
3377	105	126	SR06	-	弥生土器 壺		(8.6)		白・透, 中~大, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	灰色(5Y4/ 1)	剥落	ナデ	5/8		外面黒斑
3378	105		SR06	-	弥生土器 壺		4.6		透・白, 中~大, 多	灰色(5Y4/ 1)	灰黄色(2.5 Y7/2)	指押後ナデ	板ナデ	完存		外面黒斑
3379	105		SR06	-	弥生土器 壺		(7.0)		白・透, 中~大, 多	黄灰色(2.5 Y6/1)	浅黄色(2.5 Y7/3)	指押後ナデ, 剥落	ナデ	1/2		接合面で剥離
3380	105		SR06	-	弥生土器 壺		(9.4)		白・灰, 大, 多	灰黄色(2.5 Y7/2)	浅黄色(2.5 Y7/3)	へラ磨き	指ナデ後へ ラ磨き	1/3		
3381	105		SR06	-	弥生土器 壺		(9.2)		白・灰・透, 大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 2)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	板ナデ後ナ デ	ナデ	1/2		
3382	105	126	SR06	-	弥生土器 甕		10.2		透・白, 中~大, 多	黄灰色(2.5 Y4/1)	黄褐色(10Y R5/6)	指押後板ナ デ, ナデ	剥落	5/8		
3383	105		SR06	-	弥生土器 甕		(7.1)		白・灰・透, 小~大, 少	灰黄色(2.5 Y6/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	ナデ	ナデ	1/4		
3384	105		SR06	-	弥生土器 甕		(7.0)		灰・白・透, 中~大, 多	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰白色(2.5 Y7/1)	摩滅, ナデ	摩滅	1/8		
3385	105		SR06	-	弥生土器 甕		7.0		白・茶・黒, 小~大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R7/ 3)	摩滅, 指押 ナデ	指押後板ナ デ	完存		外面黒斑
3386	105		SR06	-	弥生土器 甕		5.0		白・透, 小~大, 多	灰黄褐色(10 Y R6/2)	灰黄褐色(10 Y R5/2)	板ナデ	板ナデ	完存		内面に茶色付 着物
3387	105		SR06	-	弥生土器 鉢		(8.0)		白・灰・透, 小~大, 少	灰黄色(2.5 Y6/2)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ナデ	指ナデ	1/4		接合面で剥離
3388	105		SR06	-	弥生土器 鉢		4.4		白・透・茶, 中~大, 多	灰黄褐色(10 Y R6/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	摩滅	摩滅	完存		外面黒斑
3389	105		SR06	-	弥生土器 甕		5.2		茶・白・灰, 大, 多	褐灰色(10Y R4/1)	黄褐色(2.5 Y5/3)	ハケ・摩滅	ナデ	完存		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (55)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3390	105		S R 06	-	弥生土器 鉢				白, 小~大, 少	黒色(2.5Y 2/1)	浅黄色(2.5 Y 7/3)	横ナデ	横ナデ	小破片	口: 凹線文 3 + α 口端: 凹線文 2	黒斑
3391	105	126	S R 06	-	弥生土器 高杯	(22.2)			透・灰・白, 大, 多	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	横ナデ, へ ラ磨き	横ナデ後へ ラ磨き	1/4	口: 無文	外面黒斑
3392	105		S R 06	-	弥生土器 甕蓋			つまみ 径4.4	白・灰, 大, 多	にぶい黄橙色(10 Y R 6/3)	にぶい橙色(7.5 Y R 6/4)	指押さえ, 指ナデ	剥落	完存		
3393	105		S R 06	-	弥生土器 甕蓋			つまみ 径4.8	白・透, 中~大, 多	黄褐色(10 Y R 5/6)	明黄褐色(10 Y R 6/6)	ナデ, 指押 後ナデ	指押後ナデ	1/2		
3394	105	126	S R 06	-	弥生土器 壺蓋			孔径 0.5	白・透, 小~中, 多	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰白色(2.5 Y 7/1)	ナデ	ナデ	完存	天井: ヘラ 2	焼成前の穿孔 1
3395	106	126	S R 06	-	弥生土器 壺	(20.8)			白・透, 小~大, 多	にぶい黄橙色(10 Y R 6/3)	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	縦ハケ後横 ナデ, ナデ	へラ磨き, 板ナデ後ハ ケ後ナデ	1/4	口縁端部は 条線をもつ ナデ	金雲母多
3396	106	126	S R 06	-	弥生土器 壺	(14.4)			茶・白, 中~大, 少	黄灰色(2.5 Y 6/1)	灰黄色(2.5 Y 6/2)	横ナデ, ハ ケ後へラ磨 き	横ナデ, 指 ナデ後ナデ	1/6	頸部は間題 おいてへラ 磨き ナデ	角閃石・黒雲 母多
3397	106	126	S R 06	-	弥生土器 甕	(13.0)			白・茶, 小~大, 少	にぶい黄橙色(10 Y R 6/3)	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	横ナデ・摩 減	横ナデ, 指 押	1/8		外面黒斑
3398	106		S R 06	-	弥生土器 甕	(17.4)			白, 小~大, 多	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	灰色(5 Y 6/3)	タタキ後横 ナデ	横ナデ, 板 ナデ	1/8		金雲母微量
3399	106	126	S R 06	-	弥生土器 甕	13.5			灰, 小, 多	灰色(7.5 Y 5/1)	灰オリーブ 色(5 Y 5/2)	ハケ後横ナ デ	指押, ナデ 後へラ削り	5/8	口縁端部は 条線をもつ 横 ナデ	高松平野西南 部系, 角閃石 多
3400	106		S R 06	-	弥生土器 甕				白・茶, 小~大, 多	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄褐色(2.5 Y 5/3)	横ナデ, ハ ケ後へラ磨 き	板ナデ後指 押	1/6		吉備系
3401	106	127	S R 06	-	土師器 甕	(15.0)			白・茶・灰, 小~大, 少	にぶい褐色(7.5 Y R 6/3)	にぶい黄橙色(10 Y R 6/3)	横ナデ, ハ ケ後ナデ, 板ナデ・摩 減	横ナデ, 剥 落, 指押後 板ナデ	1/2		
3402	106		S R 06	-	弥生土器 甕			3.1	白・透, 大, 多	にぶい黄色(2.5 Y 6/3)	黄褐色(2.5 Y 5/3)	指押・摩減	ナデ	完存		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (56)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3403	106		SR06	-	弥生土器 甕			(3.4)	白透, 中~大, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	ハケ後ナデ	板ナデ後ナ デ	4/5		外面黒斑
3404	106		SR06	-	弥生土器 甕			(3.3)	白透, 小~大, 多	にぶい黄橙 色(10YR6/ 4)	黄褐色(2.5 Y5/3)	ハケ	板ナデ後ナ デ	完存		金雲母 多
3405	106		SR06	-	弥生土器 甕			(5.7)	灰, 中~大, 多	黄褐色(2.5 Y5/3)	オリーブ黒 色(7.5Y3/ 1)	ハケ	へラ削り	2/3		金雲母 多
3406	106		SR06	-	弥生土器 甕			2.3	白透, 小~大, 少	黄灰色(2.5 Y4/1)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	タタキ後ナ デ	指押さえ後 へラ削り	完存		
3407	106		SR06	-	弥生土器 甕			(4.5)	白, 小~中, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	黒色(2.5Y 2/1)	ハケ	ナデ後ハケ	1/3		角閃石・金雲 母微
3408	106	127	SR06	-	土師器 小型丸底 壺	9.2	8.8	胴部径 9.6	白・茶, 中~大, 多	灰色(10Y5/ 1)	オリーブ黄 色(5Y6/3)	横ナデ, へ ラ磨き	横ナデ, 指 押後ナデ, へラ削り	7/8	肩部に線刻 有り	外面黒斑 黒色付着物
3409	106	127	SR06	-	土師器 小型丸底 壺			胴部径 7.8	白, 中, 微	浅黄橙色(10 YR8/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	横ナデ, ハ ケ後板ナ 後ナデ	ナデ	完存		
3410	106	127	SR06	-	土師器 小型丸底 壺			胴部径 7.8	茶・白, 大, 多	暗灰色 (N 3/)	灰色 (N5/)	板ナデ・摩 滅	指押・摩滅	完存		
3411	106	127	SR06	-	土師器 小型丸底 壺			胴部径 9.0	茶・白, 大, 多	灰色 (5Y5/ 1)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	ハケ後ナデ	ハケ後ナデ, 指押	1/2		
3412	107		SR06	-	土師器 壺	(17.6)			白・茶, 小~大, 多	暗灰黄色 (2.5Y5/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	ハケ後ナデ 後へラ磨き	へラ磨き	1/4	複合口縁。 接合面で剥 離	外面黒斑 金雲母多
3413	107	127	SR06	-	土師器 甕	16.0			白・茶, 小~大, 多	にぶい黄橙 色(10YR7/ 4)	にぶい褐色 (7.5YR6/ 3)	指押後横ナ デ, ハケ後 横ナデ, ハ ケ	板ナデ後指 押	7/8	断面黒色化	内面黒斑
3414	107	128	SR06	-	土師器 甕	(15.0)			白, 小~中, 少	灰オリーブ 色(5Y5/2)	灰オリーブ 色(5Y5/2)	ハケ後ナデ ハケ, へラ 削り	横ナデ, ハ ケ後横ナ デ, 指押	1/2	球形の胴部, 外面に炭化 物	外面黒斑
3415	107	128	SR06	-	土師器 鉢	(31.6)			白透, 小~中, 少	浅黄色(2.5 Y7/3)	にぶい黄橙 色(10YR7/ 4)	横ナデ, 指 押	ハケ・摩滅, へラ磨き	1/10	口縁緩やか に外反	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (57)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3416	107	128	SR06	-	土師器 高杯	(30.6)			灰・茶, 大, 少	灰黄色(2.5 Y6/2)	にぶい黄橙 色(10YR6/ 3)	横ナデ後暗 文風のへラ 磨き	へラ削り, 後暗文 風のへラ磨 き	1/8	口縁部屈曲 して外反	
3417	107	128	SR06	-	土師器 高杯	18.9			白・灰・透, 中, 多	灰黄色(2.5 Y6/2)	オリーブ黄 色(5Y6/3)	ハケ後ナデ	ナデ	ほぼ 完存	杯底部の屈 曲が甘く口 縁部は緩や かに外反	外面黒斑
3418	107		SR06	-	土師器 高杯	(15.1)			茶・白, 中～大, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	横ナデ	ナデ	1/5	杯底部の屈 曲が明瞭で 口縁部は膨 らみ気味に 立ち上がり 端部が屈曲 している	断面黒色化
3419	107	128	SR06	-	土師器 高杯		14.0		茶・白・灰, 中～大, 少	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	灰黄色(2.5 Y6/2)	ハケ後横ナ デ	へラ削り, 後横ナ デ	ほぼ 完存	脚柱部は中 膨らみで裾 は大端部は 条線をもつ たナデ	外面黒斑
3420	107		SR06	-	土師器 高杯				茶・灰・透, 大, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/4)	にぶい黄橙 色(10YR6/ 3)	横ナデ, へ ラ磨き	へラ削り, 横ナデ	完存	脚柱部は中 膨らみで裾 は大端部は 条線をもつ たナデ	外面に炭化物
3421	107		SR06	-	土師器 高杯				茶・透・白, 大, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	浅黄色(2.5 Y7/4)	指押, 摩滅	へラ削り, ハケ	完存	脚柱部は中 膨らみで裾 は大端部は 条線をもつ たナデ	
3422	107	128	SR06	-	土師器 高杯		11.6		茶・白, 中～大, 少	灰黄色(2.5 Y7/2)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	へラ磨き後 ナデ	へラ削り後 ナデ	1/2	脚中膨らみ, 裾は短く開 き端部丸 く取める	
3423	107		SR06	-	土師器 高杯		(10.5)		白・茶, 小～大, 多	オリーブ黒 色(7.5Y3/ 2)	オリーブ黄 色(5Y6/3)	ハケ後横ナ デ	へラ削り, ハケ後横ナ デ	1/5	裾端部丸く 取める	外面黒斑

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (58)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3424	108	129	SR06	-	須恵器 甕	(24.0)			白, 小~中, 少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	回転ナデ, 平行タタキ	あて具痕, 回転ナデ	1/2	口縁部短く, 外形を, 矩形に肥厚	焼成時の膨れが自立つ
3425	108		SR06	-	須恵器 甕				白, 小, 少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	回転ナデ, タタキ目	あて具痕, 回転ナデ	1/2	内面当て具痕は軽くなで消し	焼成時の膨れが自立つ, 3424と同一個体か
3426	108	129	SR06	-	須恵器 杯身	13.0	5.3	4.5	白, 小~大, 少	灰色(N5/)	灰色(N6/)	回転ナデ, 回転ヘラ削り	回転ナデ	完存	ロクロ右回転, ヘラ削り, 体部2/3	
3427	108	129	SR06	-	須恵器 杯身	(10.7)	4.1	(6.3)	白, 中~大, 少	灰白色(5Y 7/1)	灰色(5Y 6/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	底部ヘラ削り未調整	受部に砂粒釉着
3428	108		SD52	-	須恵器 杯身	(10.4)			白・灰, 小, 多	灰白色(N 8/)	灰白色(N 7/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3429	108		SD52	-	須恵器 杯				白・灰・透, 小~大, 多	灰色(N5/)	灰色(N4/)	回転ナデ, ヘラ切り後	回転ナデ	1/6		
3430	108		SR06	-	土師器 杯	(14.4)	4.85		白・透・灰, 中~大, 多	灰黄色(2.5 Y 6/2)	暗灰色(2.5 Y 5/2)	回転ナデ, ヘラ切り後	回転ナデ, 指押	3/8	円盤状高台	黒色付着物, 回転台土師器
3431	108	129	SR06	-	須恵器 高杯				灰・茶・白, 中~大, 少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	ナデ, 回転	回転ナデ	1/2		
3432	108	129	SR06	-	土師器 甕把手				白・透, 小~大, 多	浅黄色(2.5 Y 7/3)	にぶい黄褐色(10Y R 7/3)	指押, 指押後ハケ	指押, 指押ナデ	破片		
3466	116		SB10	-	土師器 皿	(13.6)			茶・白・透, 小, 多	灰白色(2.5 Y 8/1)	灰白色(2.5 Y 8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		口縁部炭素吸着
3467	116		SB10	-	黒色土器 椀				白・灰・茶, 小, 少	オリーフ黒色(5Y 3/1)	灰白色(5Y 8/2)	指押	ヘラ磨き	小破片		黒色土器A類
3469	121		SB11, SB12	-	黒色土器 椀			(7.0)	白・黒, 小, 少	黄灰色(2.5 Y 5/1)	浅黄褐色(7.5 Y R 8/6)	底面指押, 高台ナデ	ナデ	1/2		貼付高台, 黒色土器A類
3470	121		SB11, SB12	-	須恵器 甕				白, 小, 少	灰色(N6/)	灰色(N5/)	格子叩き	回転ナデ	小破片		
3471	121		SB11, SB12	-	土師器 羽釜				白・灰・透, 小~大, 多	橙褐色(7.5 Y R 6/6)	明赤褐色(5 Y R 5/6)	板ナデ, 後ナデ	ナデ	破片		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (59)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3472	123	135	S B13	-	土師器 皿	9.6	1.7	6.1	白, 小, 微	灰白色 (10Y R8/2)	灰白色 (10Y R8/2)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ後 ナデ	完存		
3473	123		S B13	-	土師器 皿	(9.1)		(6.5)	白, 小, 少	褐灰色 (10Y R5/1)	にぶい黄橙 色 (10Y R7/3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3474	123		S B13	-	土師器 杯				白・茶, 小, 少	浅黄褐色 (10Y R8/3)	浅黄褐色 (10Y R8/3)	ナデ, ヘラ 磨き	ヘラ磨き	小破片	断面黒色化	
3475	123	135	S B13	-	土師器 碗	15.6	5.9	4.8	茶・白, 小, 多	灰黄色 (2.5 Y7/2)	灰白色 (2.5 Y8/2)	回転ナデ, 指押後 回転ナデ	板状圧痕後 ナデ	完形		内外面に黒斑, 見込部打欠き
3476	123		S B13	-	黒色土器 碗			(7.4)	白, 小, 微	暗灰色 (N 3/)	灰白色 (2.5 Y8/2)	回転ナデ	ヘラ磨き	1/8		黒色土器A類, 貼付高台
3477	123		S B13	-	須恵器 甕				白・透, 小~中, 多	灰色 (N4/)	灰色 (N6/)	格子叩き	回転ナデ	小破片		
3479	127		S A01	-	黒色土器 碗				白, 小, 少	灰色 (5Y4/1)	灰白色 (5Y 8/1)	摩滅	ヘラ磨き	破片		黒色土器A類, 貼付高台
3480	130		S A02	-	弥生土器 甕			(7.2)	白・灰・透, 小~大, 多	にぶい黄橙 色 (10Y R6/4)	橙 色 (7.5Y R6/6)	摩滅, 板ナ デ	摩滅, ナデ	1/5		
3481	130	136	S A02	-	土師器 土釜	(32.2)			白・黒・灰・茶・透, 小, 多	にぶい黄褐 色 (10Y R5/3)	灰黄褐色 (10Y R5/2)	ハケ後指押 ナデ	板ナデ後指 ナデ	1/8		
3483	131		S A03	-	弥生土器 甕			(5.3)	白・灰・茶・透, 小 ~大, 多	にぶい黄橙 色 (10Y R7/3)	にぶい赤褐 色 (5Y R5/4)	板ナデ	板ナデ	1/5		
3484	131	136	S A03	-	土師器 皿	(9.8)	1.7	(6.7)	茶・白・透, 小~中, 多	灰黄色 (2.5 Y7/2)	灰白色 (2.5 Y8/2)	回転ナデ後 ナデ	回転ナデ後 ナデ	1/4		底面ヘラ切り 後板状圧痕
3485	134	136	S P107	-	土師器 碗	(14.9)			灰・茶, 小, 多	灰白色 (2.5 Y8/2)	灰白色 (5Y 8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/9		
3486	134	136	S P57	-	黒色土器 碗	(15.0)			白・茶, 小, 少	黒色 (2.5 Y 2/1)	灰白色 (2.5 Y8/2)	指ナデ後ヘ ラ磨き	ヘラ磨き	1/5		黒色土器A類
3488	136	136	S D53	-	土師器 播鉢			(13.3)	白・灰・茶・透, 小 ~大, 多	にぶい黄橙 色 (10Y R7/3)	灰黄色 (2.5 Y7/2)	指押	摩滅, ハケ 後播り目	1/4		播め4条

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (60)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3489	136	136	SD53	-	土師器 土釜脚部 片				白・灰・茶, 小, 多	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	暗灰黄色 (2.5Y 4/2)	指ナデ	指押	破片		
3490	141		SD57 58	-	土師器 碗		(5.6)		白・灰・透, 小, 少	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 2)	浅黄橙色(10 Y R 8/3)	ナデ	へラ磨き	1/8		貼付高台
3491	141		SD57 58	-	須恵器 壺	(20.2)			白・黒, 小, 少	灰白色(N 7/)	灰白色(N6/)	回転ナデ	摩滅	1/8		
3493	143	137	SD59	-	土師器 杯	(13.9)	3.35	(7.4)	茶・白・透, 小~中 多	浅黄橙色(10 Y R 8/3)	浅黄橙色(10 Y R 8/3)	摩滅, へラ 切り後ナデ	摩滅	1/8		
3494	143	137	SD59	-	須恵器 壺				灰・白, 小~大, 多	灰白色(N5/ 7/)	灰白色(N 7/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3497	146	137	SD60	最下層	土師器 杯			(7.4)	白, 小, 微	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	回転ナデ, 後 へラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		回転台土師器
3498	146	137	SD60	下層	土師器 杯	(12.5)		(6.5)	白, 小, 少	灰黄色(2.5 Y 6/2)	灰黄褐色(10 Y R 6/2)	回転ナデ, へラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/3		貼付高台
3499	146	137	SD60	下層	土師器 杯	(13.8)	3.3	(7.2)	茶・白, 小, 多	淡橙色(5Y R 8/4)	浅黄橙色 (7.5Y R 8/ 3)	回転ナデ, へラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/3		外面に線刻, 貼付高台
3500	146	137	SD60	上層	土師器 碗			(5.6)	茶, 中, 少	浅黄橙色(10 Y R 8/4)	淡黄色(2.5 Y 8/4)	回転ナデ, へラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/8		貼付高台
3501	146	137	SD60	上層	土師器 碗	(13.9)			灰・茶, 小, 少	灰白色(2.5 Y 8/2)	淡黄色(2.5 Y 8/3)	指押, へラ 削り	摩滅	1/9		吉備系
3502	146	138	SD60	下層	須恵器 杯			(6.8)	白・透, 小・大, 少	灰白色(N5/)	灰色(10Y 5/ 1)	回転ナデ, へラ切り ナデ	回転ナデ	1/3		
3503	146	138	SD60	中層	須恵器 杯	(13.0)	3.05	(7.4)	白, 小, 微	灰色(N6/)	灰色(N6/)	回転ナデ, へラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/6		
3504	146	138	SD60	中層	須恵器 杯	(12.6)	3.4	(7.8)	白・透, 小~中, 多	灰白色(5Y 8/1)	灰白色(N 8/)	回転ナデ, へラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		
3505	146	137	SD60	下層	須恵器 杯			(12.8)	白・灰, 小, 少	灰白色(N 7/)	灰白色(5Y R 7/1)	回転ナデ, へラ削り	回転ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (61)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3506	146	137	S D60	中層	須恵器 甕			(10.6)	白, 小~中, 多	灰白色 (N 7/)	灰色 (N6/)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		
3507	146		S D60	下層	須恵器 甕				灰・白, 小~中, 少	灰白色 (N 8/)	灰白色 (N 7/)	ナデ後タタキ	ナデ	小破片	格子タタキ	亀山焼
3508	146		S D60	下層	土師器 羽釜				白, 小~中, 少	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	横ナデ, 指 押後横ナデ	横ナデ, ハケ	小破片		
3509	146	138	S D60	下層	土師器 羽釜	(32.2)			白, 小, 少	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	灰白色 (10 Y 7/1)	横ナデ, ハケ	ハケ, 板ナデ	1/8		
3510	146	138	S D60	中層	土師器 羽釜	(21.7)			白・透, 小, 少	黒褐色 (5 Y R 3/1)	灰褐色 (5 Y R 4/2)	横ナデ, 指 押さえ	ハケ, ナデ	1/5		
3511	146		S D60	下層	土師器 羽釜	(23.1)			白・灰, 小~中, 少	灰黄褐色 (10 Y R 6/2)	黒褐色 (2.5 Y R)	横ナデ, 指 押さえ	ナデ	1/8		
3512	146		S D60	下層	土師器 羽釜				白・透, 小, 少	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/3)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	横ナデ, 指 押さえ	ハケ, ハケ 後ナデ	破片		
3513	146	138	S D60	中層	土師器 土鍋	(29.4)			白・灰・透, 中~大, 多	褐色 (7.5 Y R 4/3)	にぶい褐色 (7.5 Y R 5/4)	摩滅, ハケ	摩滅	1/5		
3514	146		S D60	下層	土師器 鉢	(28.0)			透・白, 中~大, 多	暗灰, 黄色 (2.5 Y 4/2)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	ナデ, ハケ	ナデ, 板ナデ	1/4		
3522	149	139	S D61	中層	土師器 杯	(10.4)	2.8	(6.8)	灰, 小, 少	灰黄褐色 (10 Y R 6/2)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/2		回転台土師器, 円盤状高台
3523	149	139	S D61	下層	土師器 杯	(12.6)	3.4	(5.4)	透・白, 小~大, 少	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	灰黄色 (2.5 Y 7/2)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4	底面状状 真	回転台土師器, 円盤状高台, 内面に黒色付 着物
3524	149		S D61	最下層	土師器 杯	(14.8)	5.0	(6.0)	白, 小, 微	灰白色 (10 Y R 7/1)	灰白色 (10 Y R 7/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		回転台土師器, 円盤状高台
3525	149	139	S D61	下層	土師器 杯	(12.6)	4.3	(5.6)	白・透, 中~大, 少	黄褐色 (2.5 Y 5/3)	灰黄色 (2.5 Y 6/2)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/3		回転台土師器
3526	149		S D61	下層	土師器 碗			(7.4)	茶・白, 小, 微	灰白色 (2.5 Y 8/2)	灰白色 (2.5 Y 8/2)	回転ナデ	ナデ	1/4		回転台土師器, 貼付高台

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (62)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3527	149		SD61	中層	土師器 高台付杯			(8.0)	白・灰, 小, 少	橙色(7.5Y R6/6)	灰白色(2.5 Y8/2)	回転ナデ	回転ナデ	1/3		回転台土師器, 貼付高台
3528	149		SD61	中層	土師器 高台付杯			(10.2)	茶・白, 小~中, 少	淡黄色(2.5 Y8/3)	にぶい黄橙 色(10Y R6/ 3)	回転ナデ, へら切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		貼付高台
3529	149		SD61	最下層	土師器 小型丸底 壺			胴部径 7.8	茶・白・透, 中~大, 多	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	指押, 指ナ デ	指押, 指ナ デ	1/3		
3530	149		SD61	中層	須恵器 皿			(8.8)	白・灰, 小, 少	灰白色(N 7/)	灰色(N6/)	回転ナデ, へら切り ナデ	回転ナデ	2/5		
3531	149		SD61	中層	須恵器 杯				白・灰, 小, 微	灰白色(7.5 Y7/1)	灰白色(7.5 Y7/1)	回転ナデ	回転ナデ	破片		
3532	149		SD61	中層	須恵器 杯			(7.0)	透・白, 小, 少	灰白色(5Y 8/1)	灰白色(N 8/)	回転ナデ, へら切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		
3533	149	140	SD61	中層	須恵器 杯			6.6	白, 小~中, 多	灰色(N6/)	灰色(N6/)	回転ナデ, へら切り後 ナデ	回転ナデ	1/2		内外面に火樺
3534	149	140	SD61	中層	須恵器 碗	(16.1)			白, 小, 少	灰白色(7.5 Y7/1)	灰白色(7.5 Y7/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		口縁部外面炭 素吸着
3535	149	140	SD61	不明	黒色土器 椀	(17.6)			白・茶・黒, 小~大, 多	黒色(N2/)	灰白色(2.5 Y8/2)	摩滅, 板ナ デ?	へら磨き ナデ	1/8		黒色土器A類
3536	149	140	SD61	中層	須恵器 高杯	(15.4)			白・透, 小~中, 多	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	摩滅	ナデ	1/3		焼成不足
3537	149	140	SD61	中層	須恵器 壺			(9.6)	白, 小~中, 多	灰色(N5/)	灰色(N5/)	回転ナデ	回転ナデ	1/6		
3538	149		SD61	中層	須恵器 壺			(11.4)	灰・白, 小, 多	胎: 灰白色 (2.5Y7/1)	釉: オリー ー 灰色(2.5 GY5/1)	回転ナデ, へら切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		内面に自然 釉
3539	149	140	SD61	上層	須恵器 裂	(23.2)			白, 中, 少	灰色(5Y6/ 1)	灰色(7.5Y 5/1)	回転ナデ	回転ナデ	破片		
3540	149	140	SD61	中層	須恵器 壺			10.8	白・茶・黒, 小~大, 少	青灰色(5B 5/1)	暗青灰色(5 B3/1)	回転ナデ, 指押後板ナ デ	回転ナデ, 指押後板ナ デ	0.25		底部外端に布 目

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (63)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の 特徴	備考
3541	150	140	S D 61	中層	土師器 羽釜	(29.8)			白・透・茶, 小~大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	横ナデ	横ナデ, 板 ナデ	1/6		内面に炭化物
3542	150	140	S D 61	中層	土師器 羽釜	(34.6)			透・白, 中~大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	横ナデ	横ナデ	1/8		
3543	150	140	S D 61	中層	土師器 羽釜	(29.4)			透・白, 中~大, 多	灰黄色(2.5 Y 7/2)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	横ナデ, 指 押後ナデ	板ナデ	1/8		鏽欠損
3544	150	141	S D 61	下層	土師器 土鍋	(28.2)			白・透, 大, 多	にぶい赤褐 色(5Y R 4/ 3)	明赤褐色(5 Y R 5/6)	横ナデ, 指 押さえ後ハ ケ	ハケ, ハケ 後ナデ	1/3		内外面に炭化 物
3545	150	141	S D 61	中層	土師器 甕				茶・白・透, 中~大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	ナデ	ナデ	破片		
3546	150	141	S D 61	中層	土師器 甕				白・灰・透, 大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R 7/ 3)	にぶい黄褐 色(10Y R 5/ 3)	指押さえ後 ハケ, ハケ	摩滅	破片		甕内面に炭化 物
3567	154		S D 62	-	土師器 碗	(14.4)			白, 小~中, 多	灰オリーブ 色(5Y 6/2) 1)	灰色(5Y 6/ 1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3568	154		S D 62	-	土師器 土鍋	(27.2)			透・白, 中~大, 多	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	にぶい黄橙 色(10Y R 6/ 3)	横ナデ, ハ ケ	横ナデ, 指 押	1/8		
3569	154		S D 62	-	土師器 土釜	(26.8)			白・灰, 大, 多	浅黄色(2.5 Y 7/4)	灰黄色(2.5 Y 7/2)	横ナデ, 摩 滅	摩滅	破片		
3576	156	143	S D 63	-	土師器 皿	8.4	1.65	4.9	茶・透・白, 小, 多	にぶい橙 色(5Y R 7/4)	灰白色(2.5 Y 8/1)	回転ナデ後 ナデ, ヘラ 切り後ナデ	回転ナデ後 ナデ	7/8		回転台土師器
3577	156	143	S D 63	-	土師器 皿	(8.0)	1.6	5.0	白, 小, 多	灰白色(2.5 Y 8/1)	灰白色(2.5 Y 8/1)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/2		回転台土師器
3578	156	143	S D 63	-	黒色土器 碗		(7.2)		白・灰, 小, 少	褐灰色(10Y R 5/1)	灰白色(10Y R 8/2)	ナデ	摩滅	4/8		貼付高台, 黒 色土器A類
3581	160	144	S D 65	-	須恵器 杯	(14.6)			灰・白, 小, 多	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (64)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
3582	160	144	S D65	-	須恵器 杯			(6.2)	白・灰, 小, 多	灰色(N7/7)	灰白色(N7/7)	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4	内外面に火 締		
3583	160	144	S D65	-	須恵器 杯			(5.6)	白・灰, 小, 少	灰白色(N8/8)	灰白色(N8/8)	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	5/8			
3584	160	144	S D65	-	土師器 鉢	(33.0)			白・透, 小~大, 少	暗灰黄色 (2.5Y)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ハケ	ハケ, ナデ	破片			
3585	160	144	S D65	-	平瓦	現存長最大厚 12.5 2.6			白・透, 中~大, 多	灰色(N8/8)	灰白色(N8/8)	(凸面)格 子タタキ, ヘラ削り	(凹面)布 目後タタキ, ヘラ削り	破片		須恵質	
3586	162	144	S D66	-	須恵器 杯	(14.8)			白・灰, 小, 微	灰白色(N8/8)	灰白色(N7/7)	回転ナデ	回転ナデ	1/9		口縁部外面に 炭素吸着	
3587	162	144	S D66	-	陶器 こね鉢	(19.2)			白, 小~中, 多	胎: 灰色(N 6/6)	釉: オリー ブ色(7.5Y 4/3)	回転ナデ	回転ナデ	1/6		唐津系刷毛目 釜	
3588	162	144	S D66	-	陶器 すり鉢	(33.4)			白・灰, 中~大, 多	胎: 灰色(N 6/6)	釉: 黒褐色 (5Y R2/1)	回転ナデ	回転ナデ, 卸目	1/8	口縁部上下 部に重ね焼 痕, 口縁部 施釉	備前系	
3589	165	145	S R07	-	土師器 皿	(8.2)	1.65	5.8	白・茶, 小, 少	浅黄橙色 (7.5Y R8/ 3)	浅黄橙(10Y R8/4)	回転ナデ 回転ヘラ切 り	回転ナデ	1/2		回転台土師器, ヘラ切り後 伏圧痕	
3590	165	145	S R07	-	土師器 杯	(10.8)	2.6	(6.8)	茶, 小, 多	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		回転台土師器	
3591	165	145	S R07	-	土師器 杯			(6.0)	茶・白・透, 小, 少	橙(5Y R 7/6)	浅黄橙色(10 Y R8/3)	回転ナデ ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/4		回転台土師器	
3592	165	145	S R07	-	土師器 杯				茶, 小, 多	浅黄橙色(10 Y R8/3)	橙色(7.5Y R6/6)	剥落	回転ナデ	1/4	高台剥落	回転台土師器	
3593	165	145	S R07	-	土師器 碗	10.8	3.2	3.7	透・白, 小, 少	浅黄橙色(10 Y R8/3)	灰白色(10Y R8/2)	指押後ナデ, 横ナデ	ナデ	完存	外面下半に 乾燥クラッ ク	吉備系土師器 碗	
3594	165		S R07	-	土師器 碗	(10.8)			透, 中~大, 微	灰白色(10Y R8/2)	灰白色(2.5 Y8/1)	横ナデ, 指 押後ナデ	横ナデ	1/8		吉備系土師器 碗	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (65)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の 特徴	備考
3595	165	145	SR07	-	土師器 碗			(4.9)	灰・茶, 小, 多	灰白色(2.5 Y8/1)	灰白色(2.5 Y8/1)	指ナデ, ナ デ	ナデ	3/5		吉備系土師器 碗
3596	165	145	SR07	-	土師器 碗			(5.5)	白・茶, 小, 少	褐灰色(10Y R6/1)	浅黄橙(10Y R8/4)	ナデ	ナデ	2/3		貼付高台
3597	165	145	SR07	-	土師器 碗			(5.8)	白・茶, 小, 少	灰白色(2.5 Y8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	ナデ	ナデ	1/3		貼付高台
3598	165	145	SR07	-	土師器 碗			(6.6)	白, 小, 微	灰白色(10Y R8/2)	浅黄橙(10 Y R8/3)	摩滅	摩滅	1/6		貼付高台
3599	165	145	SR07	-	黑色土器 碗			(5.6)	白・透, 小, 多	灰色(5Y4/ 1)	灰白色(2.5 Y8/2)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	摩滅	1/4		黑色土器A類
3600	165	145	SR07	-	瓦器 碗	(14.4)			白, 小, 少	灰色(N4/)	暗灰色(N 3/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		和泉型
3601	165	145	SR07	-	須恵器 碗	(13.6)			白・透, 小, 少	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		口縁部外面に 炭素付着
3602	165	145	SR07	-	須恵器 杯蓋				白・透, 小~中, 多	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	ナデ, ヘラ 削り	ナデ	7/8		
3603	165		SR07	-	須恵器 杯蓋			(13.0)	白, 小, 少	灰白色(N 7/)	灰白色(N 7/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3604	165	145	SR07	-	須恵器 杯			(6.4)	白, 小, 少	青灰色(10B G6/1)	青灰色(10B G5/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/4		
3605	165	145	SR07	-	須恵器 杯			(10.0)	白, 小~大, 多	灰色(N4/)	灰色(N5/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3606	165	145	SR07	-	須恵器 壺	(18.8)			白, 小~中, 多	灰白色(N 7/)	灰白色(N 7/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		
3607	165		SR07	-	須恵器 甗	(24.3)			白・灰, 小~中, 少	灰白色(N 7/)	灰白色(N 7/)	回転ナデ, タタキ後カ キ目	回転ナデ, 青海波文	1/4		
3608	165		SR07	-	須恵器 壺			(13.4)	白, 中~大, 多	灰白色(N 8/)	灰白色(N 8/)	ヘラ削り後 ナデ	指押後板ナ デ	1/4		
3609	165	145	SR07	-	須恵器 壺			(15.0)	灰・白, 小~中, 多	灰色(N6/)	灰色(N4/)	回転ナデ, ヘラ切り後 ナデ	回転ナデ	1/8		

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (66)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3610	165	145	S R 07	-	須恵器 壺			(15.1)	白, 小, 少	灰白色 (N 7/)	灰色 (N4/)	ヘラ削り後 ナデ, 回転 ナデ	回転ナデ後 ナデ	1/9		
3611	165	145	S R 07	-	須恵器 こね鉢				灰・茶, 小, 少	灰白色 (N 8/)	灰白色 (N 8/)	ナデ	回転ナデ後 回転ナデ後 指ナデ	小破 片		東播系, 口縁 部外面に炭素 吸着
3612	165	145	S R 07	-	須恵器 こね鉢				白・透, 小~大, 少	灰白色 (N 8/)	青灰色 (5B 6/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		口縁部外面炭 素吸着, 東播 系
3613	166	146	S R 07	-	土師器 甕	(17.1)			白・透, 小~大, 多	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	にぶい褐色 (7.5 Y R 5/ 3)	ナデ, ハケ	ナデ, 指ナ デ	1/6		
3614	166	146	S R 07	-	土師器 蛸壺				白・透, 大, 多	にぶい黄橙 色 (10 Y R 6/ 4)	にぶい黄橙 色 (10 Y R 6/ 4)	摩擦, ナデ	指ナデ	破片		孔径1.1cm
3615	166	146	S R 07	-	土師器 羽釜	(28.4)			白・透, 中~大, 多	灰黄褐色 (10 Y R 5/2)	橙 色 (5 Y R 6/6)	摩擦	摩擦	1/8		
3616	166	146	S R 07	-	土師器 羽釜	(21.0)			白・透・黒, 小~大, 多	橙 色 (5 Y R 7/8)	浅黄褐色 (7.5 Y R 8/6)	指押, ナデ	ナデ	1/8		外面に炭化物
3617	166	146	S R 07	-	土師器 羽釜	(22.8)			白・透, 小~中, 多	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	黄灰色 (2.5 Y 6/1)	横ナデ, 指 押後ナデ	ハケ	1/8		
3618	166	146	S R 07	-	土師器 羽釜				白・透, 小, 多	灰白色 (5 Y 8/2)	明黄褐色 (10 Y R 6/6)	指押後ナデ	指押後ナデ	小破 片		
3619	166	146	S R 07	-	土師器 羽釜脚				白・透, 中~大, 多	黄褐色 (2.5 Y 5/4)	黄褐色 (2.5 Y 5/4)	指押, ナデ	指押後ナデ	脚部 片		
3620	166	146	S R 07	-	土師器 羽釜脚				白・灰, 小, 少		灰黄色 (2.5 Y 6/2)	指ナデ		脚部 片		
3621	166	146	S R 07	-	陶器 小皿	(13.8)			白, 小, 少	胎: 灰白色 (N8/)	釉: 灰白色 (7.5 Y 8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		内外に施釉, 白化粧土
3622	166	146	S R 07	-	陶器 皿	(24.6)			精良	胎土: にぶ い褐色 (5 Y R 6/3)	釉: 灰オリ ーア褐色 (5 Y 6/2) 黒褐色 (2.5 Y 3/2)	回転ナデ, 施釉	施釉, 文様	破片		内面に象嵌 外面銀釉
3623	166	146	S R 07	-	陶器 椀	(9.8)			精緻(灰, 小, 微)	胎土: 灰白 色 (2.5 Y 8/ 2)	釉: 浅黄色 (2.5 Y 7/3)	施釉	施釉	1/5		京焼風陶器, 内外面に微量 の錫粉

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (67)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3624	166	146	SR07	-	土師質土器 焙烙				小・透, 小~中, 少	中, 少	黄灰色(2.5 Y4/1)	黒褐色(2.5 Y3/1)	横ナデ, 指押後ナデ	ハケ	小破片		口縁下部より下に灰化物, 讀岐御厩系
3683	172		SK89	-	陶器 皿			(7.0)	灰・透, 小, 多	多	胎: 灰白色(2.5 Y8/2)	釉: 灰白色(5 Y8/2)	回転ナデ	回転ナデ	1/2		瀬戸美濃系 見込みに暗緑色釉の斑点
3684	172		SK89	-	陶器 碗			(3.7)	透, 小, 微	微	胎: 灰白色(5 Y8/1)	釉: 淡黄色(5 Y8/3)	回転ナデ	回転ナデ	完存	高台部無釉	瀬戸美濃系, 貫入
3685	172		SK89	-	磁器 染付碗			(3.8)	精緻		胎: 灰白色(N8/1)	釉: 灰白色(2.5GY8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2		肥前系
3686	172		SK89	-	平瓦	現存長 2.9	最大厚 1.4		白・灰, 小~中, 多	中, 多	灰色(5Y6/1)	灰色(N6/)	ナデ	ナデ, 布目	破片		
3687	174	150	SK90	-	土師質土器 甕	(71.6)			白・透, 中~大, 多	大, 多	灰黄色(2.5 Y7/2)	灰黄色(2.5 Y7/2)	横ナデ	横ナデ, 指押後ナデ	1/4	貼凸1 + 山形文	
3688	174	150	SK90	-	土師質土器 甕	(39.6)			透・白, 中~大, 多	大, 多	橙黄色(5YR 6/6)	橙黄色(5YR 7/6)	ナデ, 指押後ナデ	ナデ	1/8		金雲母微
3689	174	150	SK90	-	土師質土器 甕	(39.8)			透・白, 小~中, 多	中, 多	淡黄色(2.5 Y8/3)	灰黄色(2.5 Y7/2)	ナデ, 指押後ナデ	ナデ, 指押後ナデ	1/8		
3690	174	150	SK90	-	土師質土器 哥手付焙烙		12.2		白・茶・透, 中, 多	多	浅黄橙色(10 YR8/3)	浅黄橙色(7.5 YR 8/6)	指押後ナデ	指押後ナデ, ハケ	1/2		把手下部及び底部に灰化物角閃石・金雲母微
3691	174	150	SK90	-	土師質土器 すり鉢	(28.6)			透・白, 小~中, 多	中, 多	灰白色(10Y R8/2)	灰白色(2.5 Y8/2)	ナデ, 指押後ナデ	ナデ	1/8	内面に御目	
3692	174	150	SK90	-	土師質土器 火鉢			25.2	白・茶・透, 小~大, 多	大, 多	灰白色(10Y R8/2)	灰白色(10Y R8/2)	ナデ, 板ナデ後指押	ナデ, 横ハケ後指押	2/3	三足付	
3693	175	150	SK90	-	土師質土器 火鉢	(34.7)	31.0	24.0	白・茶・透, 小~中, 多	中, 多	灰白色(2.5 Y7/1)	灰白色(2.5 Y7/1)	ナデ, 指押後板ナデ	ナデ, 指押後板ナデ	2/3	三足付	

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (68)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3694	175	151	S K 90	-	土師質土 器 烙	(38.6)			白, 小, 多	黄灰色(2.5 Y 5/7)	黒褐色(2.5 Y 3/1)	ナデ, 指押 後ハケ	ナデ後ハケ	1/8		讃岐御厩系, 外面に炭化物
3695	175	151	S K 90	-	土師質土 器 烙	(37.2)			白, 透, 小~大, 少	褐灰色(10Y R 5/1)	黒褐色(10Y R 2/2)	回転ナデ 指押	回転ナデ	1/3		讃岐御厩系
3696	175		S K 90	-	土師質土 器 烙	(40.0)			白, 小, 少	灰色(N 5/7)	灰色(N 4/7)	横ナデ, 指 押後ナデ	横ナデ, 板 ナデ	1/8		讃岐御厩系, 外面に炭化物
3697	175	151	S K 90	-	土師質土 器 烙	(40.8)			透, 白, 小~中, 多	にぶい赤褐色 (5 Y R 4/ 3)	黒色(7.5 Y R 2/1)	ナデ, 指押 後ナデ	板ナデ	1/8		讃岐岡本系 外面に炭化物
3698	175	151	S K 90	-	土師質土 器 烙	(41.2)			白, 透, 小, 多	灰黄褐色(10 Y R 5/2)	黒褐色(10Y R 3/1)	ナデ, 指押 後ナデ	ナデ	1/8		讃岐岡本系 外面に炭化物
3699	176	152	S K 90	-	土師質土 器 羽釜	(23.8)			白, 小, 多	灰黄色(2.5 Y 6/2)	黄灰色(2.5 Y 5/1)	指押後ハケ 後ナデ, 横 ナデ, ナデ	ナデ, 指押 後板ナデ	1/4		鏝より下に炭 化物
3700	176	153	S K 90	-	陶器 鉢	(20.0)	9.3	(7.2)	灰, 白, 多	胎: 灰白色 (2.5 Y 8/2)	釉: 灰オリー ブ色(5 Y 6/2)	回転ナデ, 回転ヘラ削 り	回転ナデ	1/2	口縁部玉縁 状, 高台部 外面は回転 ナデ, 刷毛 目塗	削出高台, 肥 前系
3701	176	153	S K 90	-	陶器 鉢			(9.6)	白, 茶, 黒, 小~大, 少	胎土: 赤褐色 (10 R 5/4)	釉: (内) 浅 黄色(2.5 Y 7/4) (外) 緑 黒色(10 B G 2/1)	回転ナデ 施釉	回転ナデ 施釉	2/3	口縁部玉縁 状, 高台部 外面は回転 ナデ, 刷毛 目塗	肥前系
3702	176	153	S K 90	-	陶器 鉢	(15.4)			白, 小, 微	胎: 褐灰色 (5 Y R 4/1)	釉: 黒褐色 (10 Y R 2/3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	口縁部玉縁 状, 体部外 面下半無釉	肥前系
3703	176	153	S K 90	-	陶器 皿	(19.4)			白, 黒, 小~大, 少	胎: 灰白色 (2.5 Y 7/1)	釉: オリー ブ褐色(2.5 Y 4/3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	刷毛目塗	肥前系
3704	176	152	S K 90	-	陶器 碗	(8.6)	6.5	(4.4)	精緻	胎: にぶい 赤褐色(2.5 Y R 5/4)	釉: 黒褐色 (10 Y R 3/2)	回転ナデ	回転ナデ	1/2	刷毛目塗	肥前系

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (69)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存 率	形態上の 特徴	備考
3705	176		S K 90	-	陶器 德利			(6.4)	白, 小, 少		胎: にぶい 黄橙色(10Y R7/4)	釉: 浅黄橙 色(10Y R8/ 3)	回転ナデ	回転ナデ	1/4	刷毛目塗, 内面無釉	
3706	176	152	S K 90	-	陶器 碗	(10.4)	7.0	(4.0)	精緻		胎: 灰色(N 6/)	釉: 明オリー ブ灰色(2.5 GY7/ 1)	回転ナデ	回転ナデ	1/3		肥前系陶胎染 付, 貫入
3707	176	154	S K 90	-	陶器 碗	(10.4)			精緻		胎: 灰色(N 6/)	釉: オリー ブ灰色(2.5 GY6/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/4		肥前系陶胎染 付, 貫入
3708	176	154	S K 90	-	陶器 灯明皿	(9.9)			白, 小, 少		にぶい赤褐 色(5Y R4/ 3)	灰褐色(5Y R4/2)	回転ナデ, 回転ヘラ削 り	回転ナデ	1/4		備前系
3709	176	153	S K 90	-	磁器 染付皿	(12.8)	3.0	(8.0)	精緻		胎: 灰白色 (N8/)	釉: 灰白色 (5GY8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/4		波佐見系
3710	176	154	S K 90	-	磁器 染付碗			(5.4)	精緻		胎: 灰白色 (N8/), 灰 白色(2.5G Y8/1)	釉: 灰白色 (5GY8/1)	回転ナデ	回転ナデ	3/8	内面蛇目釉 剥ぎ, コン ニヤク印花 五弁花文	波佐見系
3711	176		S K 90	-	磁器 皿	(12.4)	3.5	(4.4)	白, 小, 少		胎: 灰白色 (N8/)	釉: 明緑灰 色(7.5GY 8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2	内面蛇目釉 剥ぎ 底部外面無 釉	波佐見系
3712	176	152	S K 90	-	磁器 染付碗	(10.4)	5.3	(4.2)	精緻		胎: 灰白色 (N8/)	釉: 灰白色 (10Y7/1) 呉須: 暗緑 灰色(10G4/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/3	内面蛇目釉 剥ぎ, コン ニヤク印花	
3713	176	152	S K 90	-	磁器 染付碗	(10.6)	5.2	(3.8)	精緻		胎: 灰白色 (N8/)	釉: 灰白色 (5GY8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2	内面蛇目釉 剥ぎ, 砂目 ニヤク印花	
3714	176	152	S K 90	-	磁器 染付碗	(10.2)	4.7	4.0	精緻		胎: 灰白色 (2.5Y8/1)	釉: 透明色 呉須: 濃青 色	回転ナデ	回転ナデ	3/4		波佐見系
3715	176		S K 90	-	磁器 碗	(4.2)			白, 大, 微		胎: 灰白色 (N8/)	釉: 青灰色 (5B6/1)	回転ナデ	回転ナデ	2/3	内面蛇目釉 剥ぎ	波佐見系

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (70)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎	土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特	備考
3716	176	152	S K 90	-	磁器 染付徳利			4.7	精緻		胎：灰白色 (5Y8/1)	釉：灰白色 (5GY8/1)	回転ナデ	回転ナデ	完存	草花文	肥前系
3717	176		S K 90	-	磁器 染付徳利		(6.2)		精緻		胎：灰白色 (N8/)	釉：灰白色 (5GY8/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2	内面無釉	肥前系
3718	176	153	S K 90	-	青磁 鉢	(23.6)			精緻		胎：灰白色 (N8/)	釉：明緑灰色 (7.5GY 7/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/12	内面鏽	中国産?
3719	176	154	S K 90	-	平瓦	現存長最大厚 9.1	1.6		白, 小, 多		灰色(N5/)	灰色(N5/)	板ナデ後ナ デ	ヘラ削り, ナデ			
3720	176	154	S K 90	-	丸瓦	現存長最大厚 7.1	1.6		白, 小, 少		灰色(N4/)	灰色(N4/)	ナデ, ヘラ 削り	布目後板ナ デ			
3724	184		S K 95	-	土器質土 器 火鉢	(38.0)			白・灰・透・茶, 小 ~大, 多		明赤褐色 (2.5YR5/ 6)	明赤褐色 (2.5YR5/ 6)	ナデ後板ナ デ, 指押	ナデ後板ナ デ, 指押	1/6		
3726	186		S K 96	-	土師質土 器 焙烙	(45.2)			灰・白, 小, 多		黄灰色(2.5 Y5/1)	黄灰色(2.5 Y4/1)	ナデ, 板ナ デ	ナデ, 板ナ デ	1/8		讃岐御厩系 外面口縁部よ り下に炭化物
3727	186		S K 96	-	陶器 鉢	(18.4)			白・透, 小, 少		胎：にぶい 赤褐色(7.5 R5/3)	釉：オリー ブ黒色(7.5 Y3/2)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	刷毛目塗	肥前系
3728	186		S K 96	-	陶器 摺鉢				白, 小~中, 多		赤褐色(10R 5/3)	赤褐色(10R 5/3)	回転ナデ	回転ナデ	破片		内面に御目, 備前系
3729	186		S K 96	-	陶器 摺鉢	(29.4)			白・茶, 小~中, 多		赤褐色(10R 5/4)	オリーブ黒 色(7.5Y3/ 1)	回転ナデ	回転ナデ ハケ	1/8		体部 赤褐色(10R 5/4), 内面御 目, 備前系
3730	188		S K 97	-	土師質土 器 甕	(26.4)			白・茶・灰, 中, 多		褐灰色(10Y R6/1)	褐灰色(10Y R6/1)	横ナデ, 指 押後ナデ	横ナデ, 指 押後ナデ	1/8		
3731	188		S K 97	-	土師質土 器 羽釜	(20.0)			白・灰, 小, 少		灰色(N4/)	黄灰色(2.5 Y6/1)	横ハケ, ナ デ後指押	横ハケ, 指 押後板ナデ	1/4		外面鏽より下 に炭化物
3732	190		S K 98	-	土師質土 器 羽釜	(22.4)			白・灰, 小, 少		黒色(7.5Y R2/1)	褐灰色(10Y R4/1)	ナデ, 指押	ナデ, 指押 後指ナデ	1/8		外面鏽より下 に炭化物

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (71)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考
3733	193		S X 08	-	土師質土器 羽釜脚部				白・灰, 中, 少	にぶい橙褐色 (7.5 Y R 6/4)	にぶい黄褐色 (10 Y R 5/3)	指ナデ	ハケ後指押さえ	脚部破片		
3734	193		S X 08	-	須恵器鉢	(32.2)			白, 小, 多	灰白色 (N 7/1)	灰色 (N 6/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8		東播系
3735	193		S X 08	-	須恵器鉢				白, 小, 多	灰色 (N 6/)	灰色 (N 6/)	回転ナデ, ハケ	回転ナデ, ハケ	小破片		東播系
3736	193		S X 08	-	青磁碗				精緻	胎: 灰白色 (N 7/)	釉: 明緑灰色 (7.5 G Y 7/1)	回転ナデ	回転ナデ	小破片	内面に文様	
3737	195		S D 68	-	土師器 羽釜脚部				白・茶・透, 小, 多	明黄褐色 (10 Y R 7/6)	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/4)	ナデ	ナデ	破片		
3738	195		S D 68	-	陶器碗			(4.4)	精緻	胎: 灰白色 (N 7/)	釉: オリーブ灰色 (2.5 G Y 6/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/2		肥前系陶胎染付
3739	197	154	S E 03	-	土師質土器 火鉢			21.3	白・灰, 中, 多	にぶい黄褐色 (10 Y R 7/3)	にぶい橙褐色 (5 Y R 7/3)	ナデ	指ナデ後ハケ	8/8		底部打欠
3740	197		S E 03	-	土師質土器 手付焙烙				白, 小, 多	黒褐色 (2.5 Y 3/1)	橙褐色 (5 Y R 6/6)	指押後板ナデ, ナデ	指ナデ, ハケ			内・外面に炭化物
3741	197	155	S E 03	-	土師質土器 焙烙	(38.4)			白・灰, 小, 多	灰色 (5 Y 6/1)	黄褐色 (2.5 Y 5/3)	横ナデ後板ナデ, 指押後ハケ	板ナデ	1/6		御厩系, 外面に炭化物
3742	197	155	S E 03	-	土師質土器 焙烙	(27.6)			白, 小, 少	黒褐色 (10 Y R 3/1)	黒褐色 (2.5 Y 3/1)	ナデ後横ナデ	ナデ後横ハケ	1/4		御厩系
3743	197	155	S E 03	-	土師質土器 羽釜	(20.0)			透・白, 小~中, 多	黄灰色 (2.5 Y 4/1)	灰色 (5 Y 5/1)	横ナデ, ハケ, 指押後ナデ	横ナデ, ハケ	1/6		罏より下に炭化物
3744	197	155	S E 03	-	土師質土器 羽釜	(19.0)			白, 小, 微	灰色 (5 Y 6/1)	灰白色 (N 7/)	横ナデ, 指押後ハケ後ナデ, 指押後ナデ	横ナデ, 指押後ハケ	2/3	縫形外耳を貼付	罏より下に炭化物

龍川五条Ⅱ遺跡 土器観察表 (72)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調 (内面)	色調 (外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴	備考	
3745	197	155	S E 03	-	土師質土器 羽釜	(15.6)			白, 小, 少	暗灰色 (N 3/)	灰色 (N6/)	横ナデ, 指ハナデ, 指押ケ	指押, 横ハケ	1/2	縦形外耳を貼付		
3746	198	155	S E 03	-	瓦質土器 羽釜	23.4	12.8	12.4	灰・白, 小, 微	黄灰色 (2.5 Y 5/1)	黒色 (N2/)	板ナデ後ナデ, 指押	指押後ハケ	4/5	横形外耳を貼付	外面髷以外に炭化物	
3747	198	155	S E 03	-	瓦質土器 羽釜	21.5			灰, 小, 微	灰色 (10Y 5/1)	黒色 (N2/)	ハケ後ナデ, 横ナデ, 指押後ナデ, ハケ	板ナデ後ナデ, ハケ	2/3	横形外耳を貼付	外面髷以下に炭化物	
3748	198	155	S E 03	-	瓦質土器 葉壺	(13.4)			白, 中, 微	灰白色 (N 8/)	灰色 (N5/)	横ナデ, ハケ	横ナデ, ナデ	1/8			
3749	198	156	S E 03	-	磁器 染付碗	(8.6)	4.3	(4.0)	精緻	胎: 灰白色 (N8/)	釉: 灰白色 (5Y 8/2), 青灰色 呉須: 濃青色	回転ナデ, 施釉	回転ナデ, 施釉		コンニャク印版	内面に炭化物	
3750	198	156	S E 03	-	陶器 擂鉢			(13.6)	白・透, 小~中, 少	にぶい赤褐色 (2.5 Y R 4/4)	にぶい赤褐色 (2.5 Y R 4/4)	回転ナデ	卸目			備前系	
3751	198	156	S E 03	-	軒丸瓦	外区径 13.3			灰・白, 小, 多	灰色 (N5/)	灰色 (N5/)	ナデ	板ナデ, ナデ	2/3	巴文, 珠文 9	貫通しない穿孔 3	
3752	198	156	S E 03	-	軒丸瓦				白, 小~中, 多	暗灰色 (N 3/)	灰色 (N5/)	ナデ	ナデ			破片	

第31表 龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(1)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
2424	19	54	S K 87		磨製石庖丁未製品?	11.7	6.4	1.4	149.08	安山岩(輝石含む)	側面の研磨は粗雑, 打製石斧の可能性もあり	
2511	26	61	S D 49	最下層	石鏃未製品	3.7	4.0	0.5	6.67	サヌカイト	石鏃の可能性あり, 側縁に抉り	
2512	26	61	S D 49	最下層	石鏃未製品	3.8	2.4	0.7	6.11	サヌカイト	基部に素材時の敲打痕, 側縁に自然面	
2513	26	61	S D 49	最下層	石鏃未製品	2.15	1.25	0.4	0.75	サヌカイト	整形時の剥片	
2514	26	61	S D 49	最下層	2次加工のある剥片	3.0	2.5	0.5	4.16	サヌカイト	石鏃の未製品の可能性高い	
2515	26	62	S D 49	最下層	磨製石庖丁未製品	19.0	10.0	2.8	647.29	流紋岩(斜方輝石, 角閃石含む)	周縁敲打, 自然面に擦痕	完存
2516	27	62	S D 49	最下層	磨製石鏃	12.0	4.1	0.9	73.61	緑泥片岩	刃部再加工剥片が接合(S R 04下層)	基部を折損
2517	27	62	S D 49	最下層	スクレイパー	5.0	4.3	1.05	21.12	サヌカイト	刃縁に弱い摩滅痕	欠損
2518	27	62	S D 49	最下層	打製石庖丁	4.8	1.3	0.55	3.86	サヌカイト	表裏に摩滅痕	欠損
2519	27	62	S D 49	最下層	スクレイパー	3.2	3.8	0.7	7.99	サヌカイト	表裏に弱い摩滅痕, 楔形石器に転用か	欠損
2520	27	63	S D 49	最下層	棒状石製品	7.5	1.4	1.2	24.26	緑泥片岩	一部に研磨痕	欠損
2521	27	63	S D 49	最下層	砥石→叩石	10.3	4.7	5	328.58	安山岩	aに線状敲打痕, cは凹面	欠損
2522	28	63	S D 49	最下層	使用痕のある剥片	12.4	5.9	3.1	196.2	サヌカイト	dに摩滅痕・線状痕・敲打痕	完存
2523	28	64	S D 49	最下層	使用痕のある剥片	5.5	4.2	0.95	5.47	サヌカイト	下縁部に微細剥離痕	完存
2524	28	64	S D 49	最下層	楔形石器	5.8	4.4	1.1	40.1	サヌカイト	表裏面に摩滅痕, 石庖丁の転用品	
2550	30	66	S D 49	下層	スクレイパー	4.75	6.4	0.8	32.63	サヌカイト	側縁に曲線的な刃部加工, b面は分割面	一部欠損
2551	30	66	S D 49	下層	磨製石庖丁	3.3	5.2	0.7	13.25	安山岩か流紋岩(斜方輝石含む)	刃部研磨に切られる光沢痕	破片
2552	30	66	S D 49	下層	楔形石器	4.2	3.85	1.1	181.5	サヌカイト	上下縁に潰れ, b面は分割面, d面は截断面	完存
2553	30	66	S D 49	下層	磨石	5.9	2.9	2.0	32.1	安山岩(角閃石含む)	表面に磨痕及び線状痕, ブロック状に分割	欠損
2554	30	66	S D 49	下層	台石	14.9	12.7	3.9	815.82	砂岩	片面のみアバタ状敲打痕	
2626	34	73	S D 49	中～下層	石鏃	2.1	1.9	0.35	1.29	サヌカイト	凹基式	完存
2627	34	73	S D 49	中～下層	石鏃未製品	1.8	1.7	0.3	0.9	サヌカイト	平基式, 未製品か	先端を欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(2)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
2628	34	73	S D49	中～下層	石錐	4.6	3.0	0.5	9.41	サヌカイト		基部と錐部 を折損
2629	34	73	S D49	中～下層	石錐未製品	4.8	2.0	1.2	11.98	サヌカイト	未製品	
2630	34	73	S D49	中～下層	スクレイパー	7.1	4.4	0.8	20.17	サヌカイト	片面刃部加工, a 面側刃縁のみ摩 減痕	完形
2631	34	73	S D49	中～下層	スクレイパー	4.6	3.1	0.5	9.48	サヌカイト	基部両側縁は欠損, 刃部加工はや や不規則	欠損
2632	34	73	S D49	中～下層	磨製石庖丁	6.9	6.3	0.7	39.69	流紋岩 (ザクロ石含 む)	刃部再加工	両端欠損
2633	35	74	S D49	中～下層	打製石斧	11.0	8.1	1.9	237.2	安山岩 (斜方輝石含む, 長石の大きな斑晶あ り)	周縁を敲打, 刃縁・側縁部に弱い 摩減痕・線状痕	
2634	35	74	S D49	中～下層	砥石	8.7	7.3	4.4	308.18	安山岩 (角閃石含む)	a 面は摩減及び線状痕, a 面下縁 は潰れ, b 面は分割面	欠損
2635	36	74	S D49	中～下層	打製石斧	8.6	5.5	1.7	95.11	安山岩	基部に横位の線状痕	欠損
2636	36	74	S D49	中～下層	柱状片刃石斧	7.1	5.3	0.9	35.08	緑泥剥片	右側縁に抉り	欠損
2637	36	73	S D49	中～下層	楔形石器	2.45	4.6	0.7	9.15	サヌカイト	赤色に変色, 上下縁に潰れ b d 面 は截断面	完存
2638	36	73	S D49	中～下層	楔形石器	1.7	2.7	0.9	4.6	サヌカイト	上下端に潰れ, d 面は截断面, b 面は c 面側からの打撃による	完存
2639	36	73	S D49	中～下層	楔形石器	2.6	3.2	0.9	9.11	サヌカイト	上下端に潰れ, b 面は截断面, a 面の素材面に弱い摩減痕	完存
2640	36		S D49	中～下層	楔形石器	2.7	3.45	0.95	10.44	サヌカイト	上下縁に潰れ, a 面素材面, 下部 に弱い摩減痕, b d 面は截断面	完存
2641	36	75	S D49	中～下層	台石	16.1	10.7	4.3	1111.43	砂岩	表裏に粗雑な敲打痕	
2705	39	79	S D49	上層	石鏃	1.4	1.3	0.2	0.34	サヌカイト	凹基式	完存
2706	39	79	S D49	上層	スクレイパー	4.35	3.35	9.0	9.64	サヌカイト	下縁部, 右側縁に刃部加工	欠損
2707	39	79	S D49	上層	スクレイパー	6.55	1.9	0.35	6.6	結晶片岩中の石英脈	下縁に不規則な刃部加工	欠損
2708	40	79	S D49	上層	スクレイパー	8.1	6.5	1.1	64.49	サヌカイト	a 面の上下縁は折損面を敲打し潰 す, 下縁部は直線的な刃部加工か	欠損
2709	40		S D49	上層	スクレイパー	6.95	4.5	0.95	38.87	サヌカイト	a 面右下縁に片面刃部加工, 下縁 中央部は欠損	欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(3)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
2710	40	79	S D49	上層	磨製石庖丁未製品	5.7	5.0	0.9	36.28	安山岩	未製品, 線状痕のごす	
2711	40	79	S D49	上層	柱状片刃石斧	7.7	5.2	1.8	118.51	緑泥片岩(粗質)	挟入, 基部は斜行	下半部欠損
2712	40	79	S D49	上層	打製石斧	3.7	2.6	0.6	16.23	サヌカイト	a面に強い摩滅痕・線状痕, b面下縁に弱い摩滅痕	欠損
2713	41	80	S D49	上層	打製石斧	13.45	6.75	1.5	210.04	流紋岩(少量の輝石)	表裏に弱い摩滅痕	ほぼ完存
2714	41	80	S D49	上層	砥石片	7.8	10.0	11.05	98.33	安山岩	線状痕あり, 刃器に転用か	欠損
2715	42	80	S D49	上層	台石	11.6	9.3	4.5	616.38	安山岩(雑晶不明)	a面に敲打痕, b面に磨痕, a面を打撃して分割, c面は分割面の接合面を示す	完形
2716	42	80	S D49	上層	楔形石器	4.4	3.6	0.6	11.25	サヌカイト	上下縁に潰れ, b面左側縁に微細剥離痕	欠損
2717	42	80	S D49	上層	楔形石器	4.6	2.9	0.6	8.09	サヌカイト	上下端に潰れ	欠損
2718	42	80	S D49	上層	楔形石器	2.9	2.6	0.6	5.47	サヌカイト	上縁に潰れ, b d面は裁断面 a面左縁はd面敲打による潰れ	完存
2719	42	80	S D49	上層	使用痕のある剥片	4.6	3.3	1.3	15.61	サヌカイト	下縁及び側縁に使用痕	完存
2720	42	80	S D49	上層	使用痕のある剥片	9.4	3.5	1.25	50.08	サヌカイト	下縁に微細剥離痕	完形
2765	45	83	S D49	不明	石鏃	1.8	1.9	0.5	1.31	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部折損
2766	45	83	S D49	不明	スクレイパー	6.2	4.9	0.9	24.31	サヌカイト	b面が素材の主要剥離面, 上下縁に片面刃部加工	欠損
2767	45	83	S D49	不明	スクレイパー	4.2	3.3	0.55	6.93	サヌカイト	a面下縁に曲線的刃部加工	欠損
2768	46	84	S D49	不明	スクレイパー	8.5	6.1	1.5	94.78	安山岩(斜方輝石含む)	下縁に直線的刃部加工	完存
2769	46	83	S D49	不明	打製石庖丁片	2.95	2.4	0.7	4.05	サヌカイト	下縁部に規則的な刃部加工, 表裏に摩滅痕	欠損
2770	46	84	S D49	不明	剥片(石皿or磨石)	3.4	6.1	0.35	8.13	安山岩(斜方輝石含む)	a面に摩滅, 線状痕	-
2771	46	84	S D49	不明	叩石	11.9	6.5	4.3	443.32	砂岩	全面に線状敲打痕	
2772	47	84	S D49	不明	台石	21.1	11.4	5.4	1413.32	安山岩	a・c面に粗い擦痕, b面は細い線状痕	
2773	47		S D49	不明	楔形石器	2.9	2.9	0.45	5.02	サヌカイト	上下縁に潰れ, b d面は裁断面	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(4)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
2774	47		S D49	不明	楔形石器	3.7	4.8	1.2	16.29	サヌカイト	周縁に潰れ, b面は截断面	欠損
2803	51	86	S D50	最下層	石鏃	1.5	1.6	0.3	0.54	サヌカイト	平基式	先端の一部を折損
2804	51	86	S D50	最下層	石鏃未製品	2.5	1.9	0.4	1.97	サヌカイト		側縁を折損
2805	51	86	S D50	最下層	石鏃	1.1	1.4	0.2	0.27	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
2806	51	86	S D50	最下層	石鏃	4.4	2.7	0.7	5.68	サヌカイト	頭部に一部敲打痕	鏃部を折損
2807	51	86	S D50	最下層	スクレイパー	8.6	5.4	1.1	44.61	サヌカイト	直線の刃部加工, 刃縁部と背部に若干の潰れ	欠損
2808	51	86	S D50	最下層	打製石砲丁	8.55	5.5	1.3	71.38	サヌカイト	上縁は分割面を敲打, 表裏面に弱い摩滅痕?	欠損
2809	52	87	S D50	最下層	砥石	6.5	2.3	2.5	45.28	流紋岩	石脊を転用か	
2810	52	87	S D50	最下層	砥石	11.7	10.1	5.9	939.87	砂岩		
2913	57	91	S D50	下層	石鏃	1.6	1.6	0.3	0.57	サヌカイト	凹基式	先端と基部を折損
2914	57	91	S D50	下層	石鏃	2.1	1.9	0.3	1.1	サヌカイト	凹基式	先端を折損
2915	57	91	S D50	下層	石鏃	2.1	1.9	0.4	1.42	サヌカイト	凹基式	基部の一部を折損
2916	57	91	S D50	下層	石鏃	1.6	2.0	0.3	0.85	サヌカイト	凹基式	先端を折損
2917	57	91	S D50	下層	石鏃	3.2	1.2	0.4	1.41	サヌカイト		完存
2918	57	91	S D50	下層	石鏃	3.4	1.8	0.5	2.69	サヌカイト	鏃部弱い磨耗, 左側縁に微細剥離痕	完存
2919	57	91	S D50	下層	スクレイパー	7.2	4.6	0.8	24.19	サヌカイト	下縁部に曲線的な刃部加工	完形
2920	57	92	S D50	下層	スクレイパー	7.2	5.0	0.9	38.92	流紋岩 (無斑晶)	a面下縁及び右側縁に直線的刃部加工, c面に線状痕	
2921	57	91	S D50	下層	スクレイパー	4.25	3.3	0.75	9.41	サヌカイト	下縁に直線の刃部加工	欠損
2922	58	91	S D50	下層	打製石砲丁	6.5	4.75	0.9	32.09	サヌカイト	上縁は潰れ, a面右側縁に浅い抉部をもち, 一部に潰れ, 表裏面に弱い摩滅痕	欠損
2923	58	91	S D50	下層	打製石砲丁	4.65	2.1	0.8	6.83	サヌカイト	裏表に摩滅痕, 刃部は階段状剥離が目立つ	欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(5)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器	種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
2924	58	91	S D50	下層	打製石砲丁		6.05	2.35	0.8	9.08	サヌカイト		刃縁部に摩滅痕	欠損
2925	58	92	S D50	下層	大型蛤刃石斧		4.2	5.2	3.0	82.23	安山岩系の脈岩		刃部に刃こぼれ痕	
2926	58	92	S D50	下層	打製石斧		4.6	7.9	1.3	51.43	サヌカイト		a b d 面に顕著な摩滅痕	欠損
2927	58	92	S D50	下層	打製石斧刃部再調整剥片		2.2	4.7	0.5	5.6	サヌカイト		表面に強い摩滅痕と2方向の線状痕	欠損
2928	59	92	S D50	下層	板状剥片		9.8	6.2	2.0	184.1	流紋岩(輝石の斑晶なし)		周縁に敲打、擦痕	欠損
2929	59	93	S D50	下層	ブロック状剥片		6.05	5.65	4.25	130.32	安山岩(斜方輝石含む)		b 左側に摩滅痕, a・b 面は潰れ面に摩滅痕	欠損
2930	60	93	S D50	下層	碎片		5.4	4.0	2.4	28.35	安山岩(角閃石含む)		c 面は水磨面	欠損
2931	60	93	S D50	下層	叩石		4.6	4.1	3.7	102.0	砂岩		a 面にあばた状敲打痕	
2932	60	93	S D50	下層	楔形石器		7.8	4.0	1.3	46.93	サヌカイト		上下縁に潰れ, b 面は截断面	完存
2933	60	93	S D50	下層	楔形石器		5.3	6.1	1.8	71.81	サヌカイト		c 面に摩滅痕, 打製石斧の転用か	完存
2934	60	93	S D50	下層	楔形石器		4.8	3.4	0.55	11.81	サヌカイト		上下縁に潰れ, b 面は截断面	完形
2935	61	94	S D50	下層	楔形石器		4.9	3.75	1.15	26.33	サヌカイト		上下縁に潰れ, b 面は截断面, d 面は素材段階の分割面	完存
2936	61	94	S D50	下層	楔形石器		5.1	4.8	1.2	33.69	サヌカイト		上下縁に潰れ, c 面に自然面が残る	完存
2937	61	94	S D50	下層	楔形石器		3.5	3.7	1.1	15.84	サヌカイト		上下縁に潰れ, b 面は截断面	完存
2938	61	94	S D50	下層	楔形石器		2.9	2.9	5.5	6.18	サヌカイト		表裏面に摩滅痕, 打製石砲丁刃部片を転用	完存
2939	61	94	S D50	下層	楔形石器		2.8	1.7	0.5	2.95	サヌカイト		上下縁に潰れ	欠損
2940	61	94	S D50	下層	使用痕のある剥片		7.3	5.1	1.05	39.2	サヌカイト		周縁部に不規則な剥離痕	完形
2941	61	94	S D50	下層	剥片		5.05	3.65	0.95	13.45	安山岩		a 面は水磨が顕著	欠損
2942	61	94	S D50	下層	使用痕のある剥片		2.1	1.9	0.3	0.93	サヌカイト		側縁に微細剥離痕	
2985	64	96	S D50	下層	石鏃		2.1	2.0	0.3	1.37	サヌカイト		平基式, a 面右縁は調整不十分	先端を折損
2986	64	96	S D50	不明	石鏃		2.8	1.1	0.3	1.1	サヌカイト		凹基式, 側縁は中膨らみ	一部欠損
2987	64	96	S D50	不明	石鏃		4.7	1.7	0.9	8.15	サヌカイト		a 面に鏃部の折損面が残る, 表裏の素材面に摩滅痕	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(6)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現在長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
2988	64	96	S D50	不明	スクレイパー	6.2	4.2	0.8	22.59	サヌカイト	下縁部に不規則な刃部加工, 刃部端のみ摩滅	欠損
2989	64	96	S D50	不明	スクレイパー	6.1	4.3	1.5	44.26	サヌカイト	刃部端が一部摩滅	欠損
2990	65	96	S D50	不明	スクレイパー	7.6	5.4	0.6	31.33	サヌカイト	弱い摩滅痕	欠損
2991	65	96	S D50	不明	スクレイパー	3.6	5.2	1.1	18.4	サヌカイト	弱い摩滅痕	欠損
2992	65		S D50	不明	スクレイパー	3.5	2.8	0.8	6.67	サヌカイト		欠損
2993	65	96	S D50	不明	スクレイパー	3.7	2.4	0.35	3.28	サヌカイト	下縁に直線的刃部加工, 裏表に弱い摩滅痕	欠損
2994	65	97	S D50	不明	扁平片刃石斧	6.3	5.8	1.2	59.7	緑泥片岩	図の白抜きが研磨面	
2995	65	97	S D50	不明	楔形石器	4.0	3.4	0.9	13.59	サヌカイト		完存
2996	65	97	S D50	不明	楔形石器	2.1	3.4	1	8.98	サヌカイト		完存
2997	65	97	S D50	不明	使用痕のある剥片	4.05	3.0	0.7	7.03	サヌカイト	下縁に微細剥離痕	完存
2998	65	97	S D50	不明	剥片	2.65	1.7	0.4	2.12	緑泥片岩		
2999	66	97	S D50	不明	使用痕のある剥片	4.9	4.8	0.95	18.76	サヌカイト	下端と側縁に微細剥離痕と刃部端の摩滅	完存
3000	66	97	S D50	不明	使用痕のある剥片	5.7	4.25	9.0	15.67	サヌカイト	下縁及び上縁に微細剥離痕, 上縁の一部に括り状の凹み	完形
3001	66	97	S D50	不明	剥片	5.5	3.9	0.9	23.88	安山岩 (斑晶見えなし)	節理に沿って剥離	欠損
3002	66	98	S D50	不明	石核	16.2	9.2	3.7	620.07	サヌカイト	自然面を打面として a 面に複数の剥離面, c 面は素材面か	欠損
3011	69	99	S D51		台石	15.2	13.3	7.2	1752.85	砂岩	被熱あるいは風化による亀裂が多い	
3012	70		S D51		台石	13.1	11.2	5.6	1201.23	砂岩		
3013	70		S D51		楔形石器	4.9	3.4	1.2	25.24	サヌカイト	素材面に弱い摩滅	完形
3136	78	107	S R04	下層	石鏃未製品?	4.6	3.9	0.6	10.39	サヌカイト	先端を加工	側縁部を一部欠損
3137	78	107	S R04	下層	石鏃未製品	2.7	1.85	0.4	2.06	サヌカイト	楔形石器削片を素材面とする	完形
3138	78	107	S R04	下層	石鏃	4.8	1.6	0.6	4.23	サヌカイト	鏃部摩滅及び線状痕	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(7)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3139	78	107	SR04	下層	スクレイパー	3.9	5.5	0.85	19.95	サヌカイト		下縁部・側縁部に主に片面から刃部加工	欠損
3140	79	107	SR04	下層	スクレイパー	6.7	3.8	0.5	22.59	サヌカイト		直線的な両面刃部加工	完存
3141	79	107	SR04	下層	スクレイパー	5.1	6.1	1.0	24.18	サヌカイト		刃部付近に摩滅痕	欠損
3142	79	108	SR04	下層	スクレイパー	5.85	4.4	0.7	18.87	サヌカイト		下縁に曲線的な刃部加工, 刃部付近に摩滅痕	完存
3143	79	108	SR04	下層	スクレイパー	7.05	5.1	1.2	45.04	サヌカイト		下縁に粗い刃部加工	欠損
3144	79	108	SR04	下層	スクレイパー	5.6	5.9	1.75	52.49	サヌカイト		下縁部に曲線的な刃部加工, 素材面に摩滅痕	完存
3145	80	108	SR04	下層	磨製石庖丁未製品	5.2	5.9	1.0	38.04	流紋岩(角閃石, 輝石, カンラン石含む)		未製品, 穿孔前の敲打痕, 砥石に転用	破片
3146	80	108	SR04	下層	打製石庖丁	4.6	2.4	0.7	8.46	サヌカイト		下縁部に規則的刃部加工, 表裏に摩滅痕	欠損
3147	80	108	SR04	下層	スクレイパー	3.9	4.6	1.2	18.03	サヌカイト		下縁部に刃部調整	欠損
3148	80	109	SR04	下層	打製石斧	6.95	5.1	1.7	81.33	サヌカイト		表裏に弱い摩滅痕, 側縁及び刃部に潰れ	欠損
3149	80	109	SR04	下層	打製石斧	5.85	5.0	1.55	56.96	サヌカイト		表裏に弱い摩滅痕, 分割後に石核に転用か	欠損
3150	80	109	SR04	下層	打製石斧	3.3	5.4	1.2	18.15	サヌカイト		表裏面に強い摩滅痕, 及び線状痕	欠損
3151	80	109	SR04	下層	打製石斧刃部再調整剥片	2.85	3.1	0.45	3.46	サヌカイト		表面に一方向の線状痕および強い摩滅痕	完存
3152	81	110	SR04	下層	楔形石器	6.2	6.9	2.0	105.69	サヌカイト		上下縁に潰れ, a面は截断面, c面は, b面打撃による分割面	完存
3153	81	110	SR04	下層	楔形石器	5.8	5.2	1.3	49.25	サヌカイト		ほぼ全周に潰れ, a d面の一部分に自然面	完存
3154	81	110	SR04	下層	楔形石器(打製石斧転用)	6.0	3.9	1.6	47.63	サヌカイト		b面に強い摩滅痕及び線状痕, 潰れがほぼ全周に及ぶ	完存
3155	81	110	SR04	下層	楔形石器(打製石庖丁転用)	5.6	4.3	1.2	28.16	サヌカイト		上下縁に潰れ, a面下縁に摩滅痕, b面は截断面	完形
3156	81	110	SR04	下層	楔形石器	3.0	2.2	0.6	5.41	サヌカイト		上下端に潰れ, b面は截断面	完存
3157	81	110	SR04	下層	楔形石器	2.0	2.6	0.6	3.19	サヌカイト		上下両端に潰れ, b面は截断面	完形
3158	82	111	SR04	下層	使用痕のある剥片	7.2	6.0	1.2	45.98	サヌカイト		下縁・両側縁に微細剥離痕	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(8)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3159	82	111	SR04	下層	剥片	11.05	7.2	2.0	144.44	安山岩		粗削段階の剥片	
3216	86	116	SR04	中層	角錐状石器	2.4	0.9	0.7	1.55	チャート		甲板面に剥離痕有り	完存
3217	86	116	SR04	中層	石鏃	1.5	1.5	0.3	0.6	サスカイト		凹基式	先端を折損
3218	86	116	SR04	中層	スクレイパー	6.0	3.9	0.8	13.31	サスカイト		刃部加工途上, 表裏に弱い摩滅?	完存
3219	86	116	SR04	中層	スクレイパー	2.8	3.2	0.7	4.9	サスカイト		下縁部に細かな刃部加工	欠損
3220	86	116	SR04	中層	打製石斧	14.1	3.0	2.1	78.27	サスカイト		表裏両面に顕著な摩滅痕, 側縁部は潰れが全面に及ぶ, d面は両極打撃による截断面	欠損
3221	86	116	SR04	中層	打製石斧刃部再調整剥片	2.7	5.9	0.7	9.36	サスカイト		c面に強い摩滅痕及び線状痕, a面は全体的に弱い摩滅痕	完存
3222	86	116	SR04	中層	楔形石器	3.9	2.3	0.5	5.02	サスカイト		上下端に潰れ, a面右下縁を細部調整	完存
3322	92	120	SR05		石鏃	2.0	1.4	0.3	0.51	サスカイト		凹基式	完存
3323	92	120	SR05		石鏃	2.1	1.4	0.3	0.65	サスカイト		凹基式, 側縁に抉り	ほぼ完存
3324	92	120	SR05		石鏃	2.0	1.6	0.4	1.04	サスカイト		凹基式	ほぼ完存
3325	92	120	SR05		石鏃	1.7	1.2	0.3	0.39	サスカイト		凹基式, 側縁に抉り	完存
3326	92	120	SR05		石鏃未製品	2.4	1.6	0.4	0.86	サスカイト		凹基式, 未製品	先端を折損
3327	92	120	SR05		石鏃	1.6	1.4	0.3	0.8	サスカイト		平基式, 片面調整	先端を欠損
3328	92	120	SR05		石鏃	2.1	1.1	0.4	0.61	サスカイト		凹基式	基部の一部を折損
3329	92	120	SR05		石鏃	2.3	1.3	0.4	0.98	サスカイト		平基式	完存
3330	92	120	SR05		石鏃	2.6	1.6	0.5	1.7	サスカイト		片面調整	鏃部を折損
3331	92	120	SR05		スクレイパー未製品	9.2	7.0	1.5	108.27	安山岩か流紋岩		下縁にやや不規則な刃部調整, 磨製石胞丁未製品の可能性あり	欠損
3332	92	120	SR05		スクレイパー	7.3	6.5	1.0	60.45	サスカイト		刃部に摩滅痕	完存
3333	93	121	SR05		スクレイパー	4.5	3.1	0.6	7.21	サスカイト		刃部に摩滅痕	欠損
3334	93	121	SR05		打製石胞丁	4.75	4.6	0.9	21.05	サスカイト		a面左下縁に強い摩滅痕, その他a・b面下半に弱い摩滅痕	欠損
3335	93	121	SR05		扁平片刃石斧	5.6	3.9	1.2	47.16	緑泥片岩		右側縁に素材の研磨面を残す	欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(9)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3336	93	122	S R 05		打製石斧	12.0	5.9	2.0	168.53	サヌカイト	表裏に摩滅痕及び線状痕, 側縁に潰れ	ほぼ完存
3337	94	121	S R 05		打製石斧	5.7	6.1	2.0	69.16	サヌカイト	表裏面に摩滅痕及び線状痕, 欠損後の加工が顕著	欠損
3338	94	121	S R 05		打製石斧	5.1	3.9	1.7	39.7	サヌカイト	刃部に強い摩滅痕, 線状痕	欠損
3339	94	121	S R 05		打製石斧	4.4	4.45	0.9	21.82	サヌカイト	表裏に摩滅痕, 線状痕	欠損
3340	94	122	S R 05		打製石斧	3.0	4.5	6.0	10.66	サヌカイト	表裏に強い摩滅痕, 線状痕	欠損
3341	94	122	S R 05		打製石斧刃部再調整剥片	2.75	2.8	0.55	4.1	サヌカイト	a面に摩滅痕	欠損
3342	94	122	S R 05		打製石斧刃部再調整剥片	1.75	3.1	0.45	2.1	サヌカイト	a・c面に線状痕及び強い摩滅痕	完存
3343	94	123	S R 05		楔形石器	4.4	4.3	1.1	21.5	サヌカイト	a・e面は截断面, ほぼ全周に潰れ, e面に微細な剥離痕	完存
3344	94	123	S R 05		打製石庖丁→楔形石器	4.8	3.0	0.9	17.78	サヌカイト	c面に強い摩滅, a・c面の素材面に弱い摩滅, 上下端の潰れは摩滅面を切る, b面は截断面	欠損
3345	94	123	S R 05		楔形石器	3.95	3.9	0.8	13.78	サヌカイト	ほぼ全周に潰れ	完存
3346	95	123	S R 05		楔形石器	5.9	3.7	0.8	21.61	サヌカイト	a面左下縁および左端に微細剥離痕	完存
3347	95	123	S R 05		使用痕のある剥片	1.9	3.3	0.5	3.79	サヌカイト	下縁にR 5 cmほどの抉り, 抉り部に強い摩滅痕, 側縁素材面に強い摩滅痕	完形
3348	95	123	S R 05		使用痕のある剥片	3.9	3.6	0.65	6.53	サヌカイト	刃部に微細剥離痕	欠損
3349	95	123	S R 05		使用痕のある剥片	2.3	2.4	0.3	2.6	サヌカイト		完存
3350	95	123	S R 05		使用痕のある剥片	2.45	2.4	0.4	3.46	サヌカイト	a面左下縁に微細剥離痕	欠損
3351	95	123	S R 05		棒状素材	7.8	1.7	1.5	24.36	黒色片岩	研磨無し	欠損
3362	98	124	S X 07		素材剥片	9.9	7.4	1.9	122.74	安山岩	粗い敲打痕	欠損
3364	100	125	S D 52		石鏃	4.7	2.8	0.5	5.14	サヌカイト	平基式, 大形鏃	完存
3365	100	125	S R 06		石鏃	2.1	1.4	0.3	0.87	サヌカイト	凹基式	先端と基部を折損
3366	100	125	S R 06		石鏃	3.0	2.1	0.6	3.42	サヌカイト		基部を折損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(10)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3367	100	125	SR06		剥片	6.5	3.6	0.7	24.18	緑泥片岩	a面は研磨面	欠損
3433	109	129	SR06		石鏃	1.8	1.2	0.3	0.42	サヌカイト	凹基式	完存
3434	109	129	SR06		石鏃	1.7	1.4	0.4	0.65	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を欠損
3435	109	129	SR06		石鏃未製品	3.7	1.8	0.6	3.47	サヌカイト		
3436	109	129	SR06		石鏃未製品	3.9	2.4	1.0	6.66	サヌカイト		
3437	109	129	SR06		スクレイパー	9.5	4.0	1.3	44.9	サヌカイト	刃部に摩減痕	完存
3438	109	130	SR06		スクレイパー	5.6	5.1	0.9	23.32	サヌカイト	刃部に摩減痕	一部欠損
3439	109	129	SR06		スクレイパー	5.2	3.65	0.5	10.98	サヌカイト	刃部に摩減痕	完存
3440	109	130	SR06		スクレイパー	3.9	3.4	1.0	10.4	サヌカイト	刃部に摩減痕	欠損
3441	109	130	SR06		スクレイパー	3.6	2.6	0.5	6.03	サヌカイト		欠損
3442	109	130	SR06		石匙	7.3	3.5	0.8	19.4	サヌカイト		完存
3443	110	130	SR06		磨製石砲丁	7.8	6.1	0.8	51.78		両刃、孔径4.3mm	半切、刃部に光沢
3444	110	130	SR06		打製石砲丁	10	4.7	1.2	54.38	サヌカイト	両側縁に抉り、刃部に摩減痕	完形
3445	110	131	SR06		スクレイパー	7.2	4.15	0.8	32.52	サヌカイト	表裏面に弱い摩減痕、楔形石器に転用	ほぼ完存
3446	110	131	SR06		スクレイパー	7.0	4.5	0.8	36.64	サヌカイト	表裏面に弱い摩減痕、楔形石器に転用	欠損
3447	110	131	SR06		スクレイパー	5.6	4.6	0.95	28.04	サヌカイト	表裏面に摩減痕、上縁部にの一部に潰れ	欠損
3448	111	131	SR05		打製石砲丁	8.9	5.45	0.75	41.09	サヌカイト	両側縁に浅い抉り、両面に摩減痕	欠損
3449	111	131	SR06		スクレイパー	7.6	6.0	1.0	37.25	サヌカイト	表裏面に摩減痕	完形
3450	111	131	SR06		スクレイパー	5.7	3.7	0.8	44.47	サヌカイト	表裏面に摩減痕	欠損
3451	111	131	SR06		スクレイパー	5.4	2.8	0.7	10.69	サヌカイト	表裏面に摩減痕	欠損
3452	111	131	SR06		スクレイパー	2.7	4.6	1.3	12.83	サヌカイト	表裏面に摩減痕	欠損
3453	111	131	SR06		スクレイパー	2.4	4.1	0.8	9.73	サヌカイト		欠損
3454	112	132	SR06		磨石	12.7	12.9	6.3	1277.52	砂岩	側縁敲打痕	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(11)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3455	112	132	SR06		磨石	12.4	10.1	6.7	1103.69	砂岩	片面に被熱痕	完存
3456	113	132	SR06		台石	21.5	19.8	8.2	4310.0	砂岩	片面に砥面, 片面に敲打痕	
3457	114	132	SR06		台石	14.4	8.5	6.2	1092.42	砂岩	両面が緩やかな砥面	周縁部欠損
3458	114	133	SR06		スクレイパー	7.3	4.5	1.8	60.06	サヌカイト	刃部に摩滅	欠損
3459	114	133	SR06		楔形石器	6.9	4.4	1.3	20.53	サヌカイト	ほぼ全周に潰れ	完存
3460	114	133	SR06		楔形石器	5.6	4.3	1.5	46.97	サヌカイト	上下端に潰れ	欠損
3461	114	133	SR06		楔形石器	2.3	2.2	0.5	2.92	サヌカイト	上下端に潰れ, b面は截断面	欠損
3462	115	133	SR06		二次加工のある剥片	2.6	2.0	0.5	3.0	サヌカイト	c面右端を除く全側縁に潰れ, a面中央に太きいネガ面, c面右端及びa面下端に加工痕	
3463	115	133	SR06		石棒?	9.6	4.2	2.2	141.83	黒色片岩	ほぼ全周を研磨	基部
3468	115		SB11		楔形石器	1.5	1.8	0.5	1.57	サヌカイト	側縁, 下縁に潰れ, b面は截断面	
3478	123		SB13		石鏃	1.3	1.0	0.3	0.41	サヌカイト	-	先端と基部を折損
3482	130		SA04		石鏃未製品	2.3	1.8	0.4	1.65	サヌカイト	凹基式, 未製品	側縁と基部を折損
3487	134		SP46		楔形石器	2.5	2.3	0.9	6.3	サヌカイト	上下端に潰れ, b面は截断面	完存
3492	141		SD57, 58		打製石斧刃部再調整剥片	1.95	1.05	0.3	0.63	サヌカイト	a面に強い摩滅痕及び線状根, b面の一部に弱い摩滅痕	完形
3495	143		SD59		石鏃	1.3	1.2	0.3	0.43	サヌカイト	凹基式	先端を折損
3496	143		SD59		砥石	10	10.4	1.2	140.49	安山岩	a面に摩痕及び線状痕	欠損
3515	147	138	SD60	最下層	石鏃	1.3	1.4	0.3	0.43	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3516	147	138	SD60	最下層	石鏃未製品	1.7	1.3	0.3	0.49	サヌカイト	凹基式, 未製品	基部を折損
3517	147	138	SD60	中層	石鏃	3.5	1.6	0.4	1.57	サヌカイト	鈍部磨耗	基部を折損
3518	147	138	SD60	最下層	石鏃	4.0	1.4	0.5	3.75	サヌカイト		鈍部を折損
3519	147	138	SD60	中層	石鏃	2.7	1.6	0.3	1.2	サヌカイト		鈍部を折損
3520	147	138	SD60	上層	楔形石器	5.0	2.3	0.8	13.28	サヌカイト	素材面に摩滅痕	完存
3521	147	138	SD60	上層	楔形石器	2.8	3.2	0.6	8.38	サヌカイト	上下縁に潰れ	完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(12)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3547	151	141	SD61	上層	石鏃	1.3	1.1	0.3	0.24	サヌカイト	凹基式	完存
3548	151	141	SD61	上層	石鏃	1.4	1.5	0.3	0.45	サヌカイト	凹基式	ほぼ完存
3549	151	141	SD61	上層	石鏃	1.7	1.5	0.3	0.75	サヌカイト	凹基式	完存
3550	151	141	SD61	上層	石鏃	1.6	1.6	0.2	0.53	サヌカイト	凹基式	先端を折損
3551	151	141	SD61	上層	石鏃	2.3	1.5	0.3	0.72	サヌカイト	凹基式	基部の一部を折損
3552	151	141	SD61	上層	石鏃	2.3	1.7	0.5	1.53	サヌカイト	凹基式	ほぼ完存
3553	151	141	SD61	上層	石鏃	2.0	1.3	0.2	0.62	サヌカイト	凹基式	先端と基部を折損
3554	151	141	SD61	上層	石鏃	1.7	1.6	0.2	0.7	サヌカイト		基部を折損
3555	151	141	SD61	不明	石鏃	1.9	1.2	0.2	0.89	サヌカイト		基部を折損
3556	151	141	SD61	上層	石鏃	2.7	1.1	0.5	1.48	サヌカイト	凸基式	先端を折損
3557	151	141	SD61	中層	石鏃	1.3	1.4	0.5	1.2	サヌカイト		鏃部を折損
3558	151	141	SD61	上層	石鏃未製品	1.9	1.9	0.5	1.87	サヌカイト	未製品	鏃部を折損
3559	151	141	SD61	下層	石鏃	4.1	1.7	0.7	4.73	サヌカイト	鏃部磨耗	鏃部先端を欠損
3560	151	142	SD61	最下層	スクレイパー	7.3	4.6	2.0	47.89	サヌカイト	下縁部に表裏交互の片面刃部加工、刃縁部に弱い磨減痕	完存
3561	151	142	SD61	下層	スクレイパー	10.4	6.6	1.0	80.06	サヌカイト	両端に扶り、a面右下に斜軸の刃部調整	完存
3562	152	142	SD61	上層	打製石砲丁	8.1	5.9	1.5	64.08	サヌカイト	上縁潰れ、両側縁に扶り、a面左下に磨減痕、下縁部欠損	欠損
3563	152	142	SD61	中層	楔形石器	3.6	4.1	0.7	11.29	サヌカイト	上下縁に潰れ、c面は截断面	完存
3564	152	142	SD61	下層	楔形石器	3.1	2.5	0.9	8.75	サヌカイト	上端は分割面を敲打、下縁は潰れ	完存
3565	152	142	SD61	中層	楔形石器	3.6	2.55	0.9	8.49	サヌカイト	上下端に潰れ、b面は折損面を打撃	完存
3566	152	142	SD61	上層	楔形石器	1.9	2.8	0.5	3.18	サヌカイト	上縁端自然面	
3570	154	142	SD62		石鏃	2.0	1.4	0.3	0.5	サヌカイト	凹基式	先端と基部を折損
3571	154	142	SD62		石鏃	1.5	1.2	0.2	0.27	サヌカイト	凹基式	基部の一部を折損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(13)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器	種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3572	154	142	SD62		石鏃		1.5	1.5	0.3	0.66	サヌカイト		凹基式	先端を折損
3573	154	142	SD61	中層	スクレイパー		6.8	5.8	1.8	76.9	サヌカイト		楔形石器に転用	完存
3574	154	142	SD62		打製石庖丁		4.1	5.25	0.6	23.45	結晶片岩中の石英脈		側縁に挟り、上縁に潰れ	欠損
3575	154		SD62		楔形石器		1.2	1.8	0.6	1.34	サヌカイト			
3579	158		SD64		スクレイパー		4.35	4.0	0.8	14.79	サヌカイト			欠損
3580	158		SD64		打製石斧		13.3	5.6	1.8	155.96	サヌカイト		刃部表裏及び側縁に摩滅痕、側縁に潰れ、基部にも一部摩滅痕	完存
3625	167	146	SR07		石鏃		1.2	1.1	0.4	0.32	サヌカイト		凹基式	先端を欠損
3626	167	146	SR07		石鏃		1.1	1.2	0.3	0.27	サヌカイト		凹基式	先端と基部の一部を折損
3627	167	146	SR07		石鏃		1.4	1.4	0.3	0.48	サヌカイト		凹基式	基部の一部と先端を折損
3628	167	146	SR07		石鏃		1.5	1.3	0.3	0.44	サヌカイト		凹基式	基部を折損
3629	167	146	SR07		石鏃		1.2	1.5	0.2	0.35	サヌカイト		凹基式	先端を折損
3630	167	146	SR07		石鏃		1.7	1.5	0.3	0.67	サヌカイト		凹基式	ほぼ完存
3631	167	146	SR07		石鏃		1.7	1.4	0.3	0.7	サヌカイト		凹基式	完存
3632	167	146	SR07		石鏃		1.3	1.2	0.3	0.52	サヌカイト		凹基式	先端を折損
3633	167	146	SR07		石鏃		1.5	1.4	0.3	0.55	サヌカイト		凹基式	先端と基部を折損
3634	167	146	SR07		石鏃		1.2	1.6	0.3	0.51	サヌカイト		凹基式	先端と基部の一部を折損
3635	167	146	SR07		石鏃		1.6	1.2	0.3	0.46	サヌカイト		凹基式	先端と基部を折損
3636	167	146	SR07		石鏃		1.8	1.1	0.2	0.53	サヌカイト		凹基式	基部を折損
3637	167	146	SR07		石鏃未製品		1.7	1.6	0.3	0.88	サヌカイト		凹基式、未製品	基部を欠損
3638	167	146	SR07		石鏃		1.6	1.8	0.3	0.66	サヌカイト		凹基式	先端と基部を欠損
3639	167	147	SR07		石鏃		2.1	1.5	0.35	0.61	サヌカイト		凹基式	基部を欠損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(14)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3640	167	147	SR07		石鏃	1.9	1.4	0.3	0.71	サヌカイト	凹基式	基部を折損
3641	167	147	SR07		石鏃	2.0	1.3	0.2	0.55	サヌカイト	平基式	完存
3642	167	147	SR07		石鏃未製品	2.5	1.6	0.4	0.96	サヌカイト	凹基式, 未製品	完存
3643	167	147	SR07		石鏃未製品	2.4	1.5	0.3	1.11	サヌカイト	凹基式, 未製品?	完存
3644	167	147	SR07		石鏃	2.4	1.5	0.3	1.1	サヌカイト	凹基式	完存
3645	167	147	SR07		石鏃	2.9	1.7	0.3	1.21	サヌカイト	凹基式, 側縁は左右非対称	完存
3646	167	147	SR07		石鏃	3.4	1.4	0.4	2.05	サヌカイト	平基式	完存
3647	167	147	SR07		石鏃	3.4	1.3	0.5	2.15	サヌカイト	凸基式	先端を折損
3648	167	147	SR07		石鏃未製品	2.3	1.6	0.4	1.27	サヌカイト	未製品	完存
3649	167	147	SR07		石鏃	2.0	1.9	0.3	1.01	サヌカイト	平基式	先端を折損
3650	167	147	SR07		石鏃	2.1	2.0	0.3	1.23	サヌカイト	平基式	先端を折損
3651	167	147	SR07		石鏃未製品	1.3	1.6	0.4	0.75	サヌカイト	未製品	先端を折損
3652	167	147	SR07		石鏃未製品	1.9	1.3	0.4	0.93	サヌカイト	未製品, 平基式	先端と基部の一部を折損
3653	167	147	SR07		石鏃未製品	1.9	1.6	0.3	0.88	サヌカイト	未製品, 左右非対称	先端と基部を折損
3654	167	147	SR07		石鏃未製品	2.1	1.7	0.3	1.03	サヌカイト	凹基式, 未製品	基部の一部を折損
3655	167	147	SR07		石鏃未製品	1.2	1.4	0.3	0.41	サヌカイト	未製品	基部を折損
3656	167	147	SR07		石鏃未製品	2.5	1.2	0.4	1.12	サヌカイト	未製品	基部を欠損
3657	167	147	SR07		石鏃未製品	1.8	1.6	0.3	0.85	サヌカイト	未製品	先端と基部を折損
3658	167	147	SR07		石鏃未製品	2.8	2.3	0.7	3.3	サヌカイト	未製品	
3659	167	147	SR07		石鏃未製品	3.0	1.9	0.7	3.46	サヌカイト	未製品	先端部を折損
3660	167	147	SR07		石鏃未製品	1.9	1.6	0.35	1.11	サヌカイト	未製品	完存
3661	167	147	SR07		石鏃未製品	2.2	1.65	0.3	1.0	サヌカイト	未製品	完存
3662	168	147	SR07		石鏃	5.0	2.9	0.5	9.71	サヌカイト	鏃部磨耗	ほぼ完存

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(15)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3663	168	147	S R 07		石鏃	3.9	2.1	0.9	5.56	サヌカイト		鏃部磨耗	鏃部及び基部を折損
3664	168	147	S R 07		石鏃	2.8	2.3	0.5	2.59	サヌカイト		側縁に潰れ	完存
3665	168	147	S R 07		石鏃	2.2	3.3	0.6	3.41	サヌカイト			鏃部を折損
3666	168	147	S R 07		石鏃	1.3	1.8	0.6	1.53	サヌカイト			鏃部及び基部を折損
3667	168	147	S R 07		石鏃	1.2	1.0	0.3	0.45	サヌカイト			鏃基部小片
3668	168	147	S R 07		石鏃	2.9	1.6	0.6	1.4	サヌカイト		楔形石器削片素材	基部を折損
3669	168	148	S R 07		スクレイパー	2.75	3.2	0.55	4.54	サヌカイト		片面のみ刃部加工	完存
3670	168	148	S R 07		打製石庖丁	5.05	3.35	0.9	13.23	サヌカイト		側縁に挟り、刃部は直線的に片面のみ加工、袂部及び刃部に摩滅痕	欠損
3671	168	148	S R 07		打製石庖丁	3.7	4.3	0.8	17.02	サヌカイト		表裏面に弱い摩滅痕	欠損
3672	168	148	S R 07		打製石庖丁	6.4	4.5	7.5	19.18	サヌカイト		側縁に挟り、表裏に摩滅痕	欠損
3673	168	149	S R 07		打製石庖丁(→楔形石器)	6.6	2.9	1.95	23.61	サヌカイト		上下縁に潰れ、素材面に摩滅痕	完存
3674	168	149	S R 07		打製石斧(→楔形石器)	6.25	3.35	1.1	33.52	サヌカイト		上下縁に潰れ、素材面に摩滅痕	欠損
3675	169	149	S R 07		楔形石器	4.8	4.6	0.9	22	サヌカイト		ほぼ全周に潰れ、b面は截断面	欠損
3676	169	149	S R 07		楔形石器	2.1	2.4	1.1	8.75	サヌカイト			完存
3677	169	149	S R 07		楔形石器	2.8	2.7	0.75	7.34	サヌカイト			欠損
3678	169	149	S R 07		楔形石器	1.6	2.3	5.0	2.73	サヌカイト			完存
3679	169	149	S R 07		楔形石器	2	1.8	0.5	1.82	サヌカイト		削片	
3721	178		S K 91		楔形石器	2.2	2.7	0.6	4.54	サヌカイト		a・c上下端に潰れ、c面を打撃して分割	
3723	182		S K 94		石鏃	1.3	1.2	0.2	0.3	サヌカイト		凹基式	基部を折損
3725	184		S K 95		砥石	5.6	5.5	2.6	97.13				
3753	199	156	包含層		石鏃	2.0	1.4	0.4	0.74	サヌカイト		凹基式	完存
3754	199	156	包含層		石鏃	1.8	1.7	0.3	0.76	サヌカイト		凹基式	先端と基部の一部を折損

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(16)

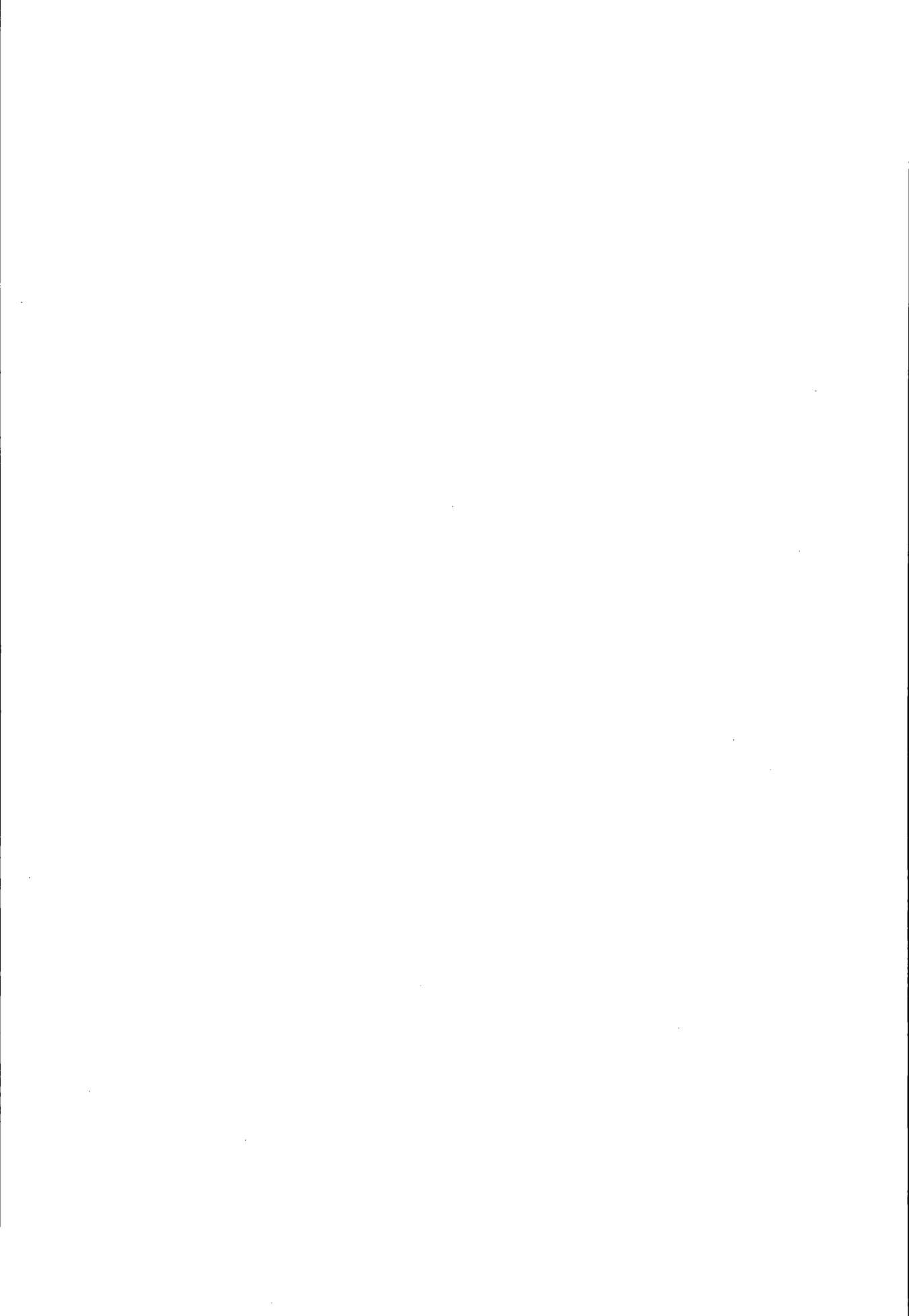
番号	押図	図版	遺構名	層位名	器種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石材	形態・手法の特徴	残存率
3755	199	156	包含層		石鏃	1.1	1.1	0.3	0.33	サヌカイト	平基式	先端を折損
3756	199	156	包含層		石鏃	1.4	1.2	0.3	0.42	サヌカイト	凹基式	先端を欠損
3757	199	156	包含層		石鏃	1.2	1.0	0.3	0.28	サヌカイト	凹基式	基部の一部のみ残存
3758	199	156	包含層		石鏃	1.3	1.4	0.3	0.43	サヌカイト	凹基式	基部の一部が残存
3759	199	156	包含層		石鏃未製品	1.7	0.9	0.2	0.29	サヌカイト	未製品	完存
3760	199	156	包含層		石鏃	1.4	1.4	0.2	0.29	サヌカイト	平基式	基部の一部を折損
3761	199	156	包含層		石鏃	1.7	1.3	0.3	0.38	サヌカイト	凹基式	基部の一部を折損
3762	199	156	包含層		石鏃	1.7	1.2	0.2	0.62	サヌカイト	凹基式	ほぼ完存
3763	199	156	包含層		石鏃	1.7	1.2	0.3	0.58	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3764	199	156	包含層		石鏃	1.5	1.5	0.3	0.55	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3765	199	156	包含層		石鏃未製品	1.9	1.4	0.3	0.65	サヌカイト	凹基式, 未製品	基部を欠損
3766	199	156	包含層		石鏃	2.0	1.6	0.3	0.71	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3767	199	156	包含層		石鏃	1.8	1.7	0.3	0.69	サヌカイト	凹基式	先端と基部の一部を折損
3768	199	156	包含層		石鏃未製品	1.6	1.2	0.2	0.49	サヌカイト	平基式, 未製品	先端を折損
3769	199	156	包含層		石鏃	1.6	1.8	0.4	0.89	サヌカイト	平基式	先端を折損
3770	199	156	包含層		石鏃未製品	1.3	1.7	0.3	1.11	サヌカイト	未製品	
3771	199	156	包含層		石鏃未製品	2.2	2.3	0.4	1.19	サヌカイト	凹基式, 未製品	先端と側縁の一部欠損
3772	199	156	包含層		石鏃	2.6	1.9	0.5	1.76	サヌカイト	平基式	ほぼ完存
3773	199	156	包含層		石鏃未製品	2.5	1.4	0.5	3.43	サヌカイト	未製品	

龍川五条Ⅱ遺跡 石器観察表(17)

番号	挿図	図版	遺構名	層位名	器	種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	石	材	形態・手法の特徴	残存率
3774	199	156	包含層		石鏃未製品		2.6	2.1	0.5	2.21	サヌカイト		未製品	先端を折損
3775	199	157	包含層		石鏃		2.5	2.3	0.4	2.76	サヌカイト			基部と鏃部を欠損
3776	199	157	包含層		石鏃		3.1	2.1	0.7	4.29	サヌカイト		側縁に敲打痕	基部と鏃部を折損
3777	199	157	包含層		剥片(磨製石胞丁未製品)		4.9	5.7	0.6	24.55	安山岩		未製品の剥片、穿孔箇所を敲打	
3778	199	157	包含層		打製石斧		4.8	4.1	1.2	25.81	サヌカイト		表裏に弱い摩滅痕	欠損
3779	199	157	包含層		大型蛤刃石斧		9.6	8.5	4.2	343.98	安山岩系の脈岩(石英・長石含む)		表面風化顯著	
3780	200	158	包含層		扁平片刃石斧		3.4	2.8	0.65	12.41	緑泥片岩		c面が素材の研磨面、他の面は器面が剥落	欠損
3781	200	157	包含層		素材石核		9.2	7.3	3.3	203.39	安山岩(少量の角閃石)			欠損
3782	201	157	包含層		打製石斧		9.8	6.5	2.7	214.87	流紋岩		側縁部は敲打による潰れ	欠損
3783	201	158	包含層		砥石		4.7	4.8	0.7	20.02	流紋岩		表面に摩滅痕	
3784	201	158	包含層		楔形石器		2.9	2.9	0.6	5.68	サヌカイト		上下端に潰れ	完存
3785	201	158	S P 193		楔形石器		3.2	2.3	0.7	5.31	サヌカイト		上下端に潰れ	完存
3786	201	158	包含層		スクレイパー		5.1	4.5	1.1	22.1	サヌカイト		下縁部に摩滅痕	欠損

第32表 龍川五条Ⅱ遺跡 木器観察表

番号	挿図	図版	遺構名	器	種	現存長 (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	材	質	木取り	残存率	備考
3464	115	134	S K 06	方形枠付田下駄縦枠部材		76.0	5.9	2.5	クリ		柁目	一部欠損	使用痕あり
3465	115	135	S R 06	建築部材?		65.4	3.6	2.4	不明		柁目	完存	



第 2 部

飯野東分山崎南遺跡

第1章 調査の経緯

丸亀市内の四国横断自動車道建設予定地のうち、飯野地区はA～Eの5小区に区分けされていた。A・B地区は昭和63年度に予備調査が行われ、その年度の後半には「飯野東二瓦礫遺跡」として本調査を実施し、古墳時代の河川・水田や中世の集落跡を検出している*1。

一方、C～E地区は飯野山の北斜面地に位置し、用地買収や立ち木の伐採、土砂崩壊時の流出防止施設などの事前の条件整備が難航し、平成元年の予備調査の予定がずれ込んで、平成2年度の後半になってようやく予備調査を実施する運びとなった。

予備調査はC地区から開始し、D、Eの順で断続的に行った。調査員や作業員は龍川五条遺跡のV区に配属された班が宅地退去の遅れのための待機期間を利用して行った。

なお、事前の分布調査によって、C地区で埴輪、D地区で土師器等の散布が知られていた。また、C地区は過去に大規模な採土が行われ、高さ10m以上の崖面を形成し、崖下でかつて人骨や鉄剣が出土したとの伝承がある*2。

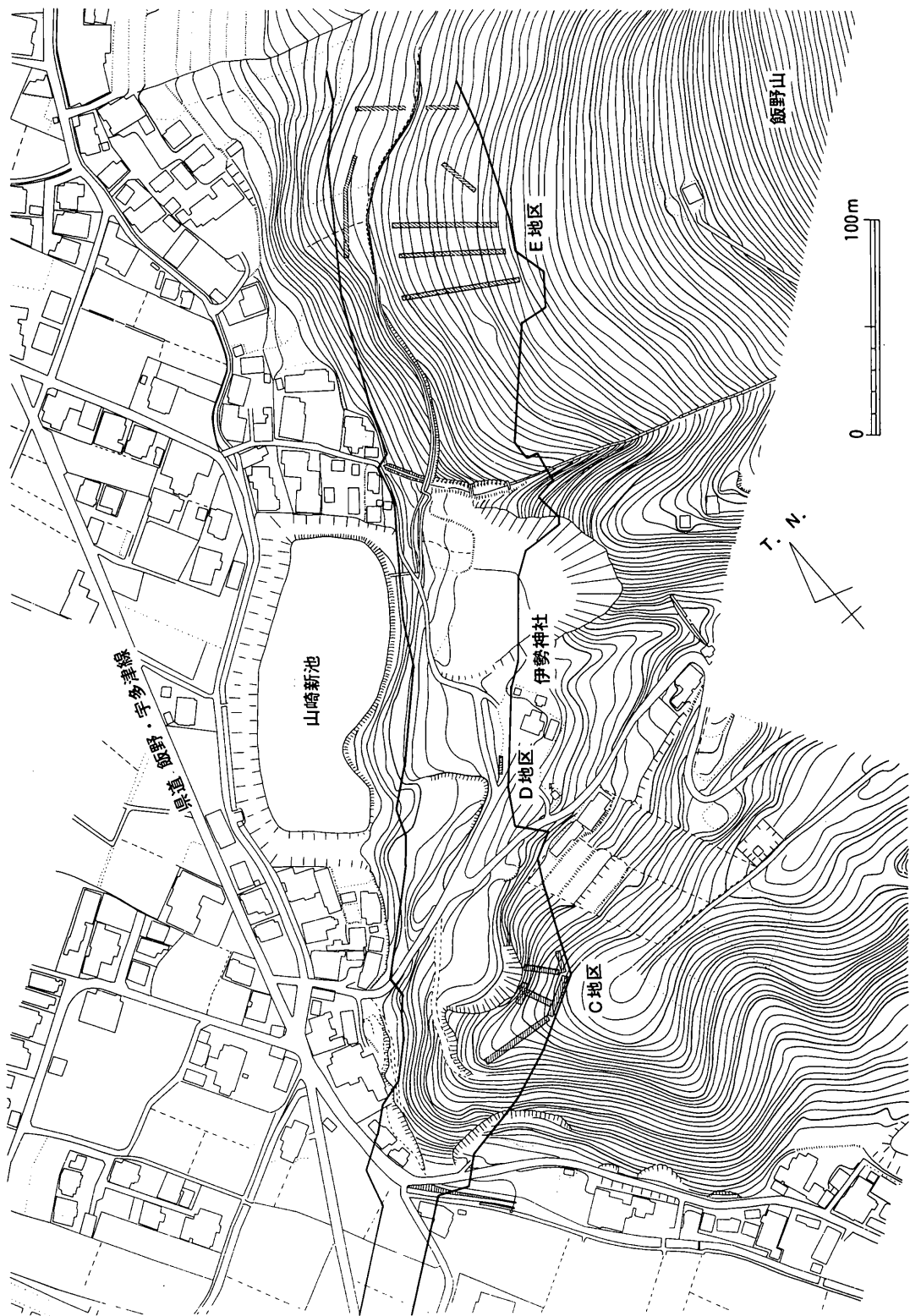
調査は幅1～2mのトレンチを各地区で設定し、第1表の所見を得た。

第1表 C～E地区予備調査一覧表

調査期間	地区名	トレンチ 本数	所見
平成2年10月11日 ～15日	C地区 (飯野東分山崎南遺跡)	6	客土層から埴輪が出土し、古墳の存在が推定されたが、すでに破壊され尽くしており、出土層のみの調査を行って本調査に至らず
平成2年10月16日 ～29日	D地区	1	谷状地形が確認される。明治時代以降の遺物が主体であり、本調査の対象から外す。後(平成9年度)の整理作業で、このトレンチから梵鐘鑄型と考えられる遺物群が出土していたことが判明。
平成2年10月29日 ～11月2日	E地区	9	飯野山裾の急斜面であり、遺構・遺物が全くなく、本調査に至らず。

*1 山下平重編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第20冊 飯野東二瓦礫遺跡』香川県教育委員会・財団法人埋蔵文化財調査センター・日本道路公団

*2 中西昇編 1987『四国バイパス及び四国横断自動車道建設予定地内埋蔵文化財詳細分布・試掘調査概要』香川県教育委員会



第1図 飯野C～E地区予備調査トレンチ配置図

第1図 飯野C～E地区予備調査トレンチ配置図

第2章 立地と環境

(地勢)

飯野山は丸亀平野北東部の土器川と大東川に挟まれた標高421mの独立丘陵で、側面形が精美的な円錐形となる姿が古くより讃岐地方の人々に注目され、「讃岐富士」と一般的に称されている。山頂付近は讃岐層群の安山岩の岩盤が露呈しやや平坦地を形成するが、裾までの斜面はきわめて急峻で、裾付近から傾斜が緩やかとなり、ヤツテ状の尾根を多数派生させ、裾野を広げる格好で低地面に収束する。飯野山周辺の低地部は先の2つの中規模河川や飯野山の小谷水等によって形成された平野である。

(旧石器時代・縄文時代)

大東川流域には県内でも特に多くの遺跡が分布することが知られる。川津一ノ又遺跡では弥生時代以降の河川内にナイフ形石器や縦長剥片石核などが混在しており、基盤土層中における旧石器時代から縄文時代の石器ブロックの存在が推定されている*¹。また、川津東山田遺跡では丘陵斜面地の包含層より角錐状石器が単独出土している*²。縄文時代は土器片が川津川西の遺跡等で新しい遺構に混在して出土するほかは明確な集落遺跡は知られていない。

(弥生時代)

凸帯文期になると遺跡数が多く、下川津遺跡・川津下樋遺跡・川津川西遺跡などでまともに土器が出土するほか、河川内に混在して凸帯文土器が出土する例も多い。ほぼ同じ頃の下川津遺跡には当地域で最古の弥生土器が出現しているものと考えられる。標高5mの等高線を描くと、下川津遺跡周辺は東西の丘陵に挟まれた入り江状の地形をなしていたことが窺われ、海浜部を間近に控える標高4mほどの微高地が周辺地域の開拓の拠点であった*³。南にやや離れた川津下樋遺跡の井堰を伴う水田跡は、河川に接する緩やかな傾斜地につくられた小区画水田で、出土した土器から凸帯文期の終末頃から弥生前期にかけてのものともみらる。当初より完成された高度な灌漑技術を持っていたことを示す*⁴。前期後半から中期前葉の遺跡の調査例は少ないが、西又遺跡では幅2～3m、深さ1.2mの規模をもつ断面台形状の溝が確認され、多量の土器が出土した*⁵。西又遺跡から東にやや離れた川津一ノ又遺跡では弥生中期中葉ごろの居住域が確認されている。集落域の東南部付近の溝から出土した粘土塊は、置き垣の把手や鋳型のガス抜き穴と想定される部位が認め

第2表 周辺遺跡一覧表

No.	種別	遺跡名	所在地	時代	備考
1	散布地	飯野東分山崎南遺跡	丸亀市飯野町東分	古墳	埴輪・須恵器
2	〃	飯野D地区	丸亀市飯野町東分	中～近世	陶磁器・鋳型
3	〃	飯野E地区	丸亀市飯野町東分		
4	集落	下川津遺跡	坂出市川津町下川津	弥生～中世	竪穴住居・掘立柱建物・溝・土坑・水田・河川
5	古墳	青ノ山墓地公園東古墳	丸亀市青ノ山	古墳	
6	包含地	本村東遺跡	宇多津町本村東	古代	
7	寺院	法楽時跡	宇多津町本村西	古代	
8	集落	川津元結木遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	竪穴住居・掘立柱建物
9	集落	川津中塚遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	竪穴住居・掘立柱建物
10	集落	川津下樋遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	水田・井堰
11	集落	川津二代取遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	水路
12	包含地	川津六反地遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	掘立柱建物
13	包含地	西又遺跡	坂出市川津町一ノ又	弥生	溝
14	集落	川津一ノ又遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	竪穴住居・掘立柱建物・河川
15	集落	川津井手ノ上遺跡	坂出市川津町井手ノ上	古代	掘立柱建物
16	包含地	柳池遺跡	丸亀市飯野町大東	弥生	
17	集落	川津東山田遺跡	飯山町東坂元三の池	旧石器～中世	竪穴住居
18	集落	川津川西遺跡	坂出市川津町	弥生～中世	掘立柱建物
19	包含地	藤高池遺跡	丸亀市飯野町藤高池	弥生～中世	
20	古墳	喜田荒神古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
21	古墳	お四国池西2号墳	飯山町東坂元	古墳	
22	古墳	三の池古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	前方後円墳
23	古墳	やかじ古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
24	古墳	三の池西古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
25	古墳	お四国池西1号線	飯山町東坂元	古墳	
26	古墳	大谷古墳	飯山町東坂元秋常	古墳	
27	古墳	西の宮古墳	飯山町東坂元三の池	古墳	
28	集落	飯野東二瓦礫遺跡	丸亀市飯野町	古代～中世	水田・河川
29	古墳	飯野1号墳	丸亀市飯野町神谷	古墳	
30	古墳	飯野2号墳	丸亀市飯野町神谷	古墳	
31	古墳	飯野3号墳	丸亀市飯野町神谷	古墳	
32	古墳	箱式石棺1号	丸亀市飯野町神谷	古墳	箱式石棺
33	古墳	箱式石棺2号	丸亀市飯野町神谷	古墳	箱式石棺
34	包含地	飯野山西麓散布地	丸亀市飯野町	弥生～古代	
35	包含地	飯野山山頂遺跡	丸亀市飯野山山頂	弥生	
36	墓	五重石塔	丸亀市飯野山山頂		
37	古墳	久保大塚北古墳	飯山町東坂元久保	古墳	
38	古墳	久保大塚古墳	飯山町東坂元久保	古墳	
39	古墳	坂元神社西古墳群1号墳	飯山町西坂元山ノ越207	古墳	
40	古墳	坂元神社西古墳群2号墳	飯山町西坂元山ノ越207	古墳	
41	古墳	坂元神社西古墳群3号墳	飯山町西坂元山ノ越207	古墳	
42	包含地	坂元神社遺跡	飯山町西坂元	旧石器	
43	包含地	飯野山登山道古墳	飯山町西坂元193	古代	

られ、積極的な材料に欠けるものの「青銅器鑄造関係遺物」である可能性が指摘されている*⁶。飯野山西麓遺跡では中期末～後期初頭の土器が広範囲に分布する。発掘調査は行われていないが丘陵上に立地する高地性集落が展開するものと考えられる。また、飯野山山頂にも同時期の遺物が散布する。後期前半段階の遺跡は小規模なものが多いが、後期後半以降になると川津一ノ又・下川津等の微高地に古墳時代前期まで継続する多数の堅穴住居が展開する。

(古墳時代)

飯野山周辺には北側を除く裾部に3グループの古墳分布のまとまりがある。東裾部では全長約35mの前方後円墳である三ノ池古墳を中心に、小規模な円墳や箱式石棺など10基ほどが分布する。所属時期を示す資料は少ないが、三ノ池古墳が箱式石棺の主体部より珠文鏡が出土している点からみて古墳時代中期を中心とした時期が考えられる*⁷。南裾部では3基の小円墳から構成される坂元神社西古墳群があるが、時期は不明。西裾部では今回調査した飯野C地区(飯野東分山崎南遺跡)付近を北限として3基の小規模横穴式石室墳と2基の箱式石棺の分布が知られる。今回の調査で6世紀前葉～中葉と考えられる埴輪の散布を確認しており、この地域で横穴式石室が一般的に導入される6世紀後半以前から小規模な群集墳が形成されていたものと考えられる。

また、山崎古墳群出土として報告されている須恵器に「装飾付須恵器」がある*⁸。装飾付須恵器や装飾器台は飯野山周辺で多く出土する。県内では普通寺市王墓山古墳や安造田東古墳など丸亀平野に多くみられる点は興味深い。

- * 1 山下平重編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告第26冊 川津一ノ又遺跡Ⅰ』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・日本道路公団
- * 2 平成2年度財団法人香川県埋蔵文化財調査センター調査
- * 3 藤好史郎・西村尋文・大久保徹也 1989『瀬戸大橋建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告Ⅶ 下川津遺跡』香川県教育委員会・財団法人香川県埋蔵文化財調査センター・本州四国連絡橋公団
- * 4 今桐孝浩編 1996『四国横断自動車道建設に伴う埋蔵文化財調査報告第21冊 川津下樋遺跡』香川県教育委員会・財団法人埋蔵文化財調査センター・日本道路公団
- * 5 國木健司 1989『西又遺跡』『香川県埋蔵文化財発掘調査概報集』香川県教育委員

会

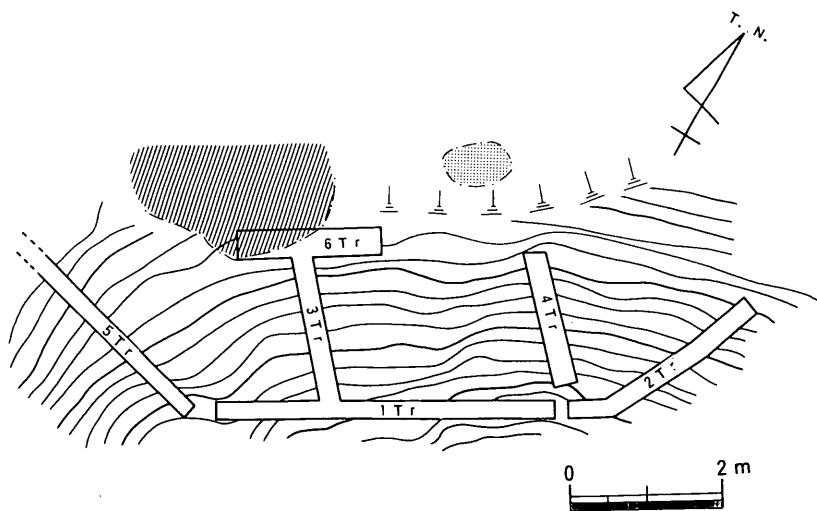
- * 6 片桐孝浩編
- * 7 松本敏三・岩橋孝 1983『讃岐青銅器図録』瀬戸内海歴史民俗資料館
- * 8 香川県教育委員会 1983『香川県史考古』

第3章 各地区の概要

(1) C地区（飯野東分山崎南遺跡）の概要（第3図）

調査地は、標高435mをはかる飯野山の裾部丘陵上に位置しており調査着手以前にすでに尾根の前面が削り取られ、花崗岩の山肌が露出する状況であった。下位に広がる土器川沖積低地部との比高差はおよそ46mをはかり、尾根上からは瀬戸内海まで見晴らしが利く。調査対象地は削られ残った尾根斜面地のうち、大きく分けて北に向くやや緩やかな傾斜の狭小な範囲と、北西方向にのびる長くやや急峻な傾斜をもつ尾根筋がある。分布調査では前者の北向きの緩斜面地から多数の円筒埴輪が採集されていたことから、そこを中心にトレンチを設定し、後者は尾根筋伝いに重機による長めのトレンチを設定して遺構等の確認を行った。

1～4トレンチは前者の緩斜面地に設定したトレンチである。いずれのトレンチにおいても表層の腐植土層の直下に花崗岩バイラン土が確認され、漸移的に岩盤に至ることが確認され、遺構等を見いだすことができなかった。ただし、3トレンチ北側において腐植土層の上に近年に覆われたと推定される花崗岩風化土が厚さ10～20cmで確認され、その土中に円筒埴輪片が含まれていることが判明した。すなわち、調査地外で掘削されその排土を盛り上げた痕跡と考えられた。同様の土層がさらに北側に広がっていたことから、それに直交する6トレンチを追加して設定した。



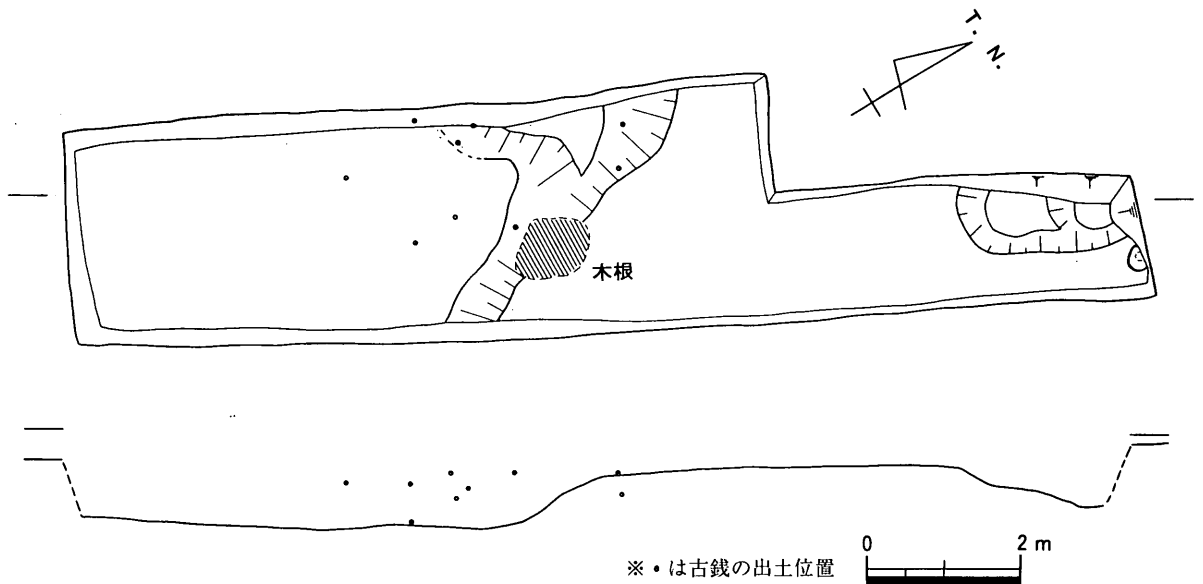
第3図 C地区トレンチ配置図

6 トレンチにおいても同様に客土層中からのみ埴輪片が出土することから、元来その埴輪が所属したであろう遺構はすでに破壊されているものと判断し、客土層を除去する過程で出土する埴輪を採集する結果となった。なお、調査中に崖面を観察したところ、急峻な崩落面の一部に拳大ほどの礫の集積がみられた。これが埴輪の分布と関係するかどうか、それ以上の調査が現実的に不可能であったことから、伺い知ることはできないが、古墳が付近に存在するとすればそれに伴う葺石かあるいは埋葬施設に関わるものであったかもしれない。

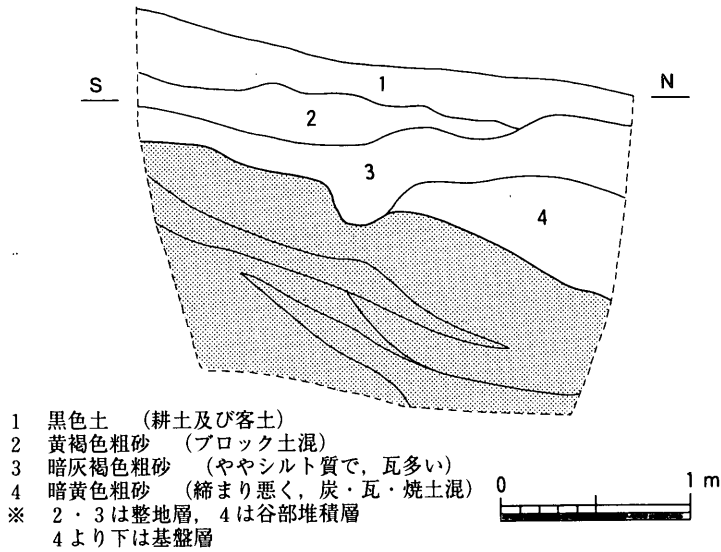
5 トレンチは後者の尾根筋伝いに掘開したトレンチで延長36mを調査したが、遺構・遺物は皆無であった。

(2) D地区の概要 (第4・5図)

D地区はC地区の尾根とE地区の尾根に挟まれたやや広い谷状地形を呈する箇所である。現在、伊勢神社境内となって平坦地が広がっているが、神社造成に伴い整地された面と推定され、旧地形を推定するのが困難であったが、比較的旧地形を留め元来より緩斜面であったと推定される箇所において、1本のトレンチを設定した。



第4図 D地区トレンチ平面図・断面図



第5図 D地区トレンチ南壁土層断面図

調査の結果、第5図に示したように、地表下約1mまで盛土層が確認され、北側へ傾斜する旧地形を検出することができた。トレンチの南西では、谷奥に向かう谷筋の傾斜が確認され、埋土中より「寛永通宝」「半銭」などの銅貨や近代の陶磁器、土師質土器などが出土した。

さらに、これらに伴って多量の焼土塊が出土した。これらの焼土塊は、その当時は建物の壁土の破砕片と判断して、明治時代の宅地が近辺にあったものと考えた。ところが、後の整理作業において少量ではあるが、鋳型と考えられる破片があることに気づき、出土状況を写真等で確認したが、必ずしも十分な調査データが得られていない点が残念である。

なお、トレンチ北東隅では小規模な近世から近代と推定される埋壘状の遺構が検出されたが、それ以上の調査は行っていない。

第4章 出土遺物

(1) C地区出土遺物

埴輪（第6～8図）

・概要

各トレンチの客土層中より埴輪が出土した。コンテナ約1杯分に相当する。いずれも小片で、口縁部、凸帯部、底部について図化した破片は21片である。器種はすべてが円筒埴輪で、うち1点が朝顔形、その他は普通円筒形である。普通円筒形の部位の内訳は口縁部が5点、胴部が14点、底部が1点となる。胴部片のうち透孔がみられるのは4点である。これらは、胎土、形態、成形、施文等の特徴がきわめて斉一的である。焼成は土師質の軟焼成のものから須恵質酸化焰焼成のものまでのバラツキはあるが、土師質も無黒斑の穴窯焼成であり、焼きムラのバリエーションとして把握することが可能であろう。以下、観察項目毎に記述する。

・法量と形態

いずれも小片であるために、全形を推し量る材料は少ない。口縁部片も小片であるが、復元した口径で算出して、18cm～27cmの間に収まっている。底径は21が19.2cmを示す。全長は40～50cmほどと推定される。

器形は底部から口縁部にかけて直線的に外傾するものと考えられ、口縁部は端部の拡張がなく直口で収めている。器壁は口縁部が7～8mmと薄く、胴部で約10mm、底部付近で11.5mmとなる。1の朝顔形は頸部がくの字に強く屈曲し括れ部に断面三角形の凸帯を貼り付ける。

・成形

成形に当たっての粘土板の接合痕跡はほとんど判別できない。成形時の途中に乾燥工程をふまず、底部から口縁部まで短時間の内に成形したものと考えられる。外面調整は縦方向のハケメで、5～7条/cmの先の細い精緻な工具を使用している。縦位のハケメが施された後は、口縁部の上端から2～3cmの範囲にヨコナデが加えられるほかは、2次調整はみられない。内面は縦方向に間延びした指押さえ、あるいは指ナデである。特殊な工具をつかった痕跡はみられない。口縁部付近では横方向の条線をもつヨコナデがあるが、ハケメは施されない。

口縁端部は器面調整が施された後、一定の幅のヨコナデ原体（指か）を口縁部内面側から端部に押し当て、器面に沿ってナデ引いている。これによって外端部の粘土がはみ出し、摘み上げ状を呈することになる。これは2・5の口縁端部に特徴的にみられ、その他の口縁部も技法的には共通するものと考えられる。

・凸帯

凸帯は器面調整後に貼付けられるが、14は凸帯に覆われる幅1.5mmほどの沈線が施されており、貼付以前に施された割付線と推定される。凸帯貼付に当たっては、最初に軽く凸帯の上と下を器面に撫でつけて接着した後に、上端面と凸帯上部を指かあるいは凸帯上部についてはヘラ状の工具を使用して、条線を伴う丁寧なナデ調整を行っている。これによって凸帯上側の貼付時の接合痕がナデ消され、またナデが強く施されたものは凸帯の上側に凹線状の窪みが巡る。14は貼付時の接合部とナデの位置が一致しない失敗品で、凸帯に食い込んで強いナデが施されたために接合線が明瞭に残り、また凸帯との間に低いテラス面を形成するものである。

凸帯の上端面はナデにより窪むものが多く、断面形状はM字形を呈している。摩滅が顕著なものの上端面が平坦のようにみえるが、本来は強いナデによる窪みが巡っていたものと推定される。

凸帯の下は貼付時の接合痕を残すものが多く、上側ほどの強いナデはみられない。粗雑なナデ原体（親指か？）を凸帯下部に押しあてて、接合痕を残すものは原体が接合痕に接触するほどの強さがないために、凸帯下端からやや下がった位置にナデが浅く巡り、凸帯下端とそのナデとの間に接合痕や器面調整のハケメが残ったと推定される。

・透孔

確認できるものは円形のみである。全体のどの部位に施されたかは不明。器面調整のハケメを切って穿孔されていることは解るが、凸帯の貼付との先後関係は不明。

・焼成

概要で記したように、土師質焼成のものと須恵質焼成のものがある。須恵質焼成のものはいずれも表面が濃橙色を呈する酸化面であるが、断面には暗灰色の還元部があり、酸化部をはさんで2～3面に分かれるもの（10・17）もある。

・胎土と含有鉱物等

胎土の生地はいずれもきめが細かい。含有鉱物は石英・長石・風化石英・赤色斑粒・種別不明黒色鉱物などがある。石英がもっとも普遍的で、3mmほどの角張った塊として肉眼

で観察できる。長石は1mm以下と小さく量も少ない。風化石英は灰褐色のものと赤褐色のものがあり、角がとれて摩滅したものが多い。量はさほど多くないが、6mmもある大粒の塊が含まれるものもある。赤色斑粒は量的にはさほど多くない。褐色系のものと赤色系のものがある。そのほか種別不明の微細な黒色鉱物が少量であるが含まれる。

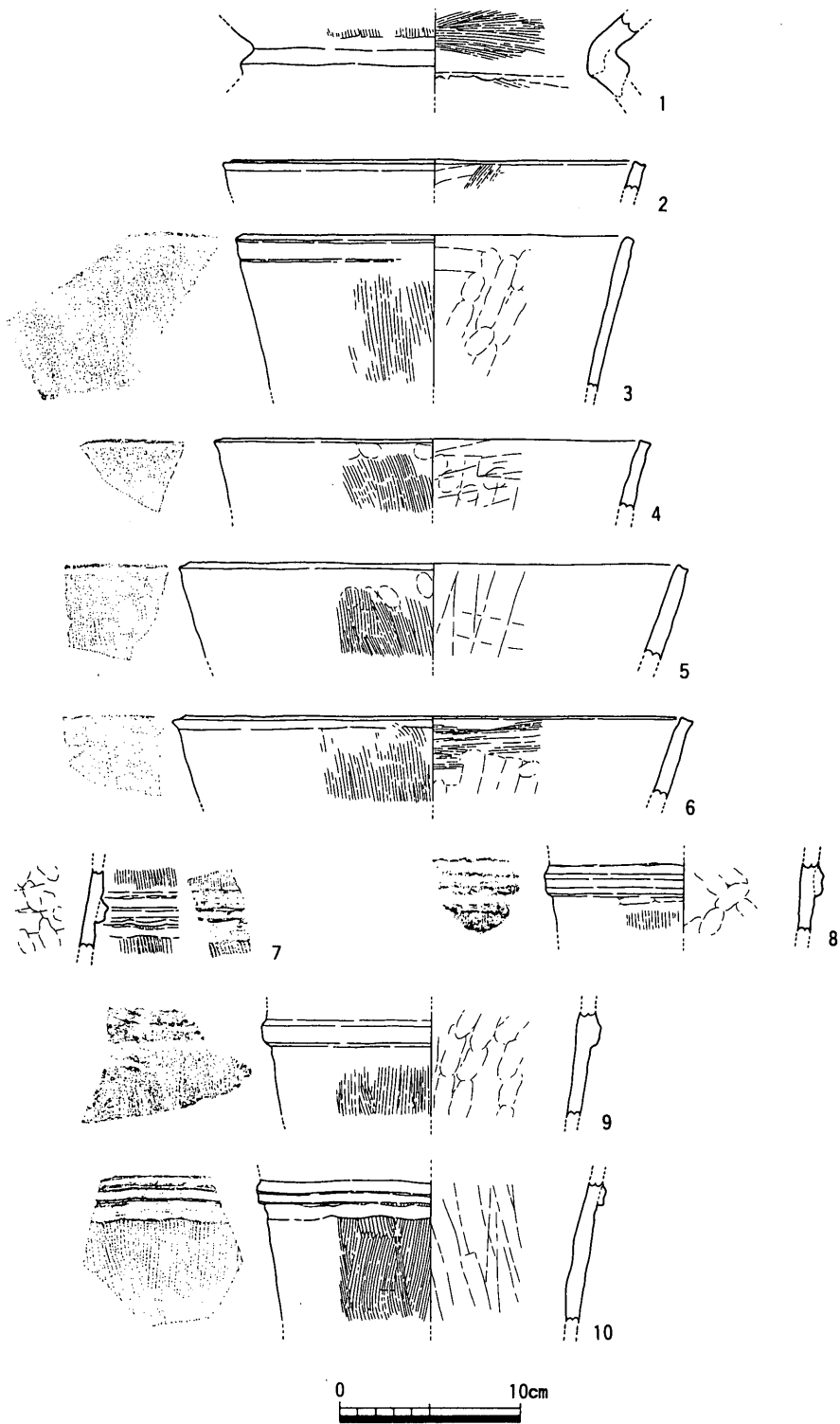
これらの鉱物等は土師質焼成のものには普遍的にみられるが、須恵質焼成の個体では石英を除いて確認できないものが多い。焼成状況により含有鉱物が変質したことによるのであろうか。

なお、ここで風化石英と分類したものは、石英と比べて有色部分が多い点と細かな亀裂が見られる点、また破断面が階段状とならず剥離面状を呈する点で石英との区別を行ったもので、チャートと類似するものである。ただチャートは本来香川県内で産出する地域はなく、また今回岩石の鑑定を経ていないために、現段階で石英が風化したものと判断して記載しているが、今後鉱物種名の変更の可能性があるものとして、付記しておく。

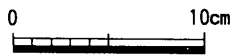
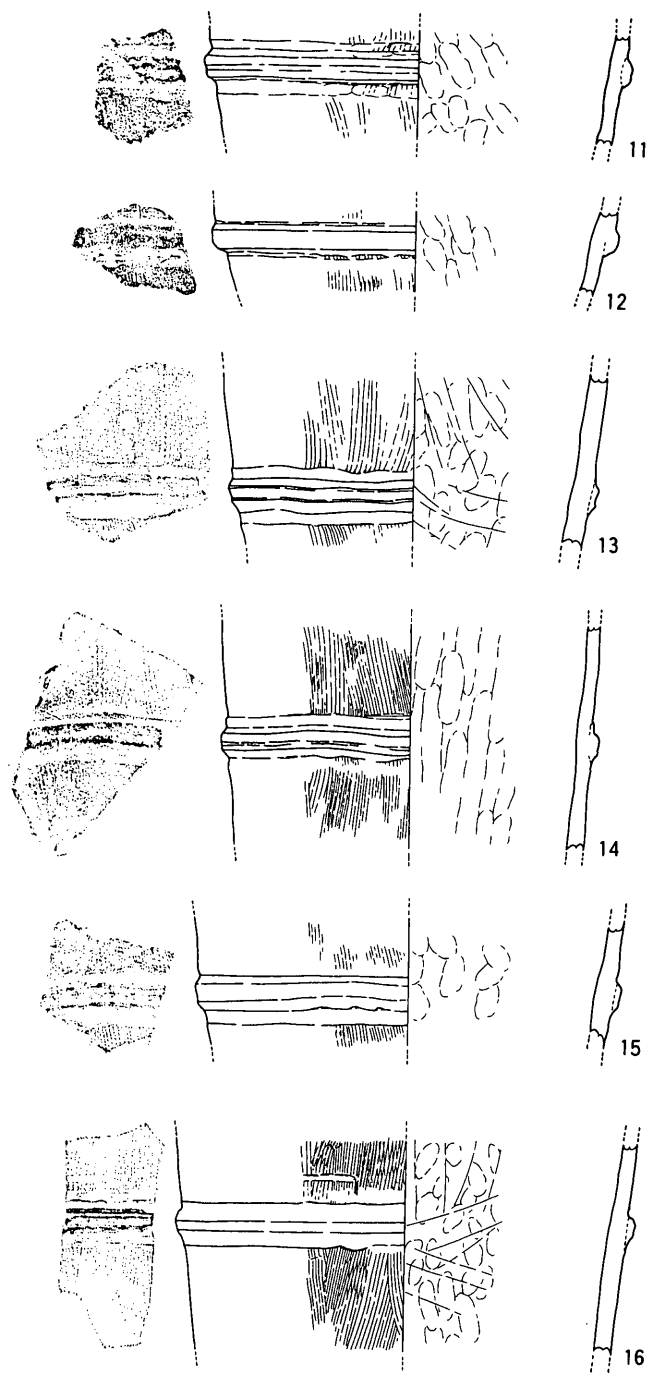
また、黒色鉱物としたものは、黒雲母に類似するものの、黒雲母であればそれが風化した金雲母が一定量含まれるべきところ、金雲母はまったくみられないことから、断定を避けた。あるいは角閃石の可能性もあるが明瞭な劈開面が観察できない。

須恵器（第8図）

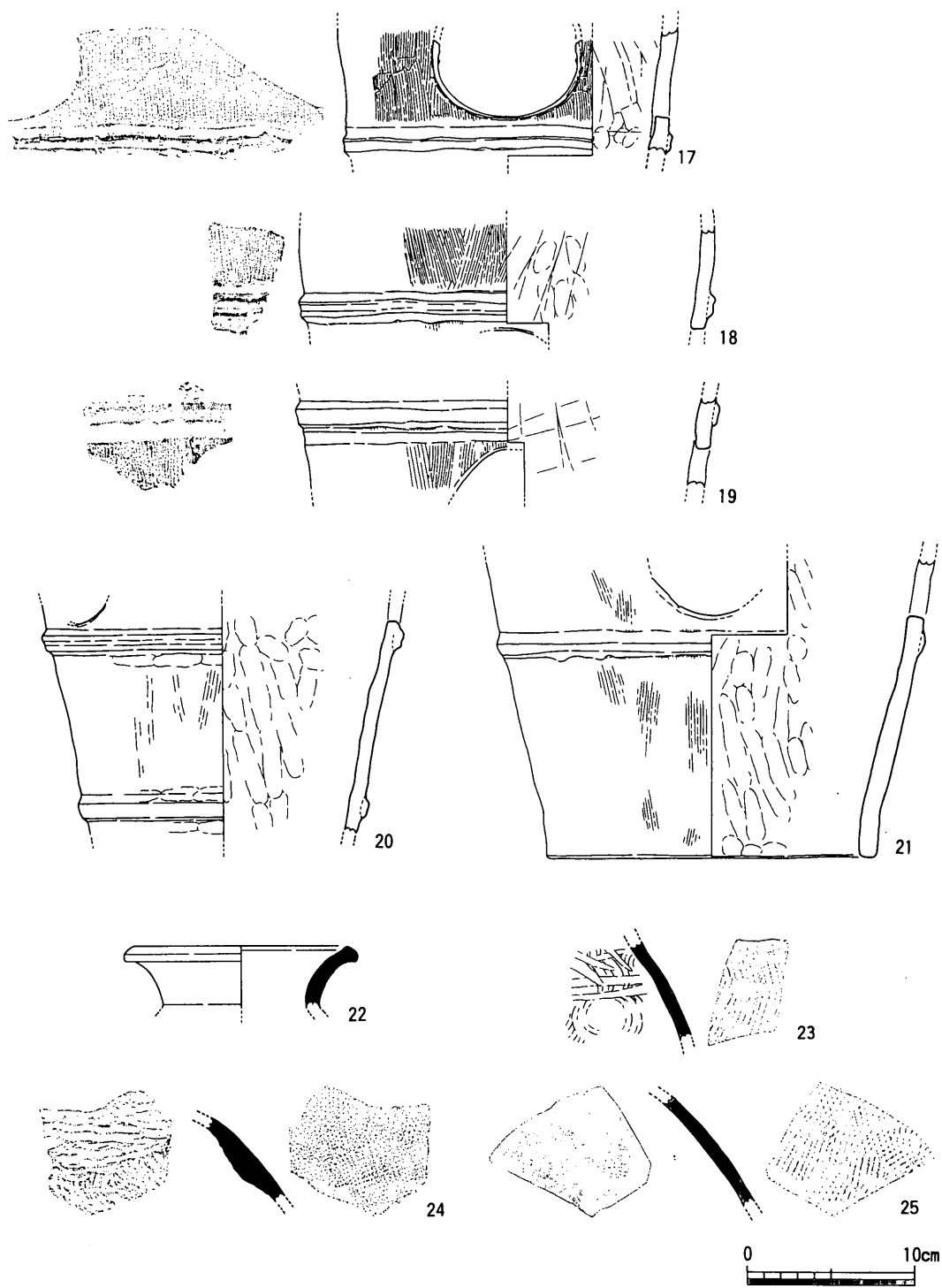
壺口縁部片1点、甕体部片3点がある。壺は口径12.6cmの小形品で口縁端部を面取りして矩形に拡張するものである。甕は外面に平行叩きを施し、内面の当て具痕を丁寧になで消すもの（23・25）と軟質焼成で外面に格子叩きを施し、内面に当て具痕をとどめるもの（24）がある。23・25は内面の当て具痕のナデ消しからみて6世紀中葉ごろと推定される。24は6世紀後半以後の混在品か。



第6图 C地区出土遗物①



第7图 C地区出土遗物②



第8图 C地区出土遗物③

(2) D地区出土遺物 (第9～13図)

D地区では1トレンチの谷部埋積土から土師器・陶磁器・瓦質土器・土師質土器・瓦・
鑄型等の鑄造関係遺物が出土した。

土師器 (第9図26・27)

小皿(26)・坏(27)がある。小皿は完形品で、底部はヘラ切り後にハケメを施す。中
世後半頃の所産。

須恵器 (第9図28～31)

坏4点、壺口縁部1点がある。28はかえり付の7世紀中葉頃の坏身。29は7世紀後葉頃
の皿底部。30は8世紀頃の坏である。31は口縁部が内彎して肥厚する壺の口縁部。

陶磁器 (第9図32～41)

32は陶器小皿で外面に炭化物が付着する。33～38は備前系陶器の灯明皿で33のみ内面に
受け部が短く立ち上がる。39は内外面鉄釉で口縁部端反の磁器猪口である。産地は不明。
40・41は内面に生掛け施文をもつ磁器酒杯で、19世紀後半頃の美濃産か。

瓦質土器・土師質土器 (第9図42～51)

42は口縁部が直立する瓦質土器の茶釜である。43・44は瓦質の羽釜。45は土師質の焙烙
底部片。46は体部下端に文様帯をもつ土師質の三足火鉢。47・48は口縁部が肥厚する土師
質甕である。49は甕の底部で底面に粗いハケメを施す。50は高杯脚部状の土師質土器で坏
部底面に穿孔をもつ。内外面の粘土接合痕が明瞭で粗放な作りである。51は土師質の甕蓋
で上面は丁寧なナデ調整を施すが、下面は底面に粗く太めのヘラミガキを施すほかは未調
整。

軒瓦 (第10図52～62)

52～58は巴文軒丸瓦、59は菊文の戩斗瓦、60～62は唐草文軒平瓦である。61は中央に宝
珠形の文様をもつ。

鑄造関係遺物 (第11図63～83)

赤色化した鑄型、スサ入り粘土塊、銅銭・銅片等の銅製品が出土した。

63～78は鑄型である。これらは2～4cm大に細かく砕かれたものが多く、赤色化して片
面に鑄面をもつ。器種を特定できるものが少ないが、梵鐘や仏像など仏教関係のものが多
いものとする。鑄型は構成する粘土素材で2種類に区分できる。A種はきめ細かな素地
で0.5mm以上の砂粒を含まない精良な粘土を使用するもので、裏面はナデ調整され概して
薄い。B種はスサ入りで8mmほどの石英粒を多量に含み、表裏いずれかの面が剥落か未調

整のもので厚みをもつ。

63・64はA種で厚さ3～5mm。梵鐘の乳の鑄型である。蓮蕾状を呈し、高さ3.5cmをはかる。細かな鎬線が描かれる。基部は低い段状の圈線を巡らせる。裏面は丁寧なナデ調整。65はA種で厚さ4mm。裏面はナデ調整面に幅6mm長さ1.4cm以上の表面が粗い隆帯が貼り付く。梵鐘撞座の蓮華文と推定される。

66～70はB種の鑄型で裏面はすべて剥落面である。剥落面にはスサや大粒の石英粒が多いが、表面の鑄面はA種と同様な精良な面である。断面を詳細に観察すると表面から3～4mmまでが精良な粘土であり、A種鑄型の裏面に粗い粘土が貼り付いた状況を示す。粘土の接合境には乾燥痕跡はみられず、連続的に貼り付けている。いずれも表面は扁平で形状不明の文様が描かれる。

67～75はA種の扁平な鑄型である。厚さは8～12mmで裏面はナデ調整。72を除き側縁の立ち上がりが遺存する。表面の文様は75を参考にすると、2条の圈線で囲まれた直径8.6cmの円形部分と、それに取り付けて扇状文様を2個以上連結させた棒状突起が3～4cm間隔で配置されるものである。器種は不明であるが、裏面のナデの状況や側縁部の立ち上がりは76～78の仏像鑄型に類似する。

76～78はA種でやや厚めの一群である。仏像と推定される鑄面を留め、他より立体的な鑄面をもつことにより、厚みが増している。76は小片のために推定を域を出ないが、やや外反する腕部分に2条の腕輪を締め、手の甲部分で衣襷が斜交するように観察される。77は図の右上方に意匠化した顔面とその下に単位の大きな裳、さらに蕨手状の意匠を付属するものと考えられる。側縁には錫杖を持ち、衣襷と斜交する。78は腹部付近の破片と推定され、2条の突線で帯を表現する。帯から下は単位の大きな裳があり、右端には雲状の衣襷が派生するように観察される。これらの仏像は腕輪や錫杖をもつ点などから密教系統と作風で、大きさの点では顔面や腹部の比率から全長20cm程度と考えられる。また立体的とはいえ単独の仏像とするには彫り込みの肩が明瞭でないことから、器面への浮き彫り状の様相が想像される。江戸時代中葉以降に製作された梵鐘で袈裟襷文様が消失して拡大された空間を使用して仏像や飛天像を鑄付けることが流行する*1。これらの類例と比較するこの鑄型から推定される仏像大きさと概ね一致するものが多い。乳や撞座とあわせて大形の梵鐘を構成する仏像である可能性を指摘しておく。

79・80は弧状にカーブする厚め器面の下端部にナデ調整面をもつもので、スサ入りのきわめて粗い粘土を使用する。80は外面にA種と同様の粘土を薄く貼り付け、ナデ調整を行

っている。79は外面は剥落面であるが内面は粗いヘラケズリ面を留めている。梵鐘鑄型を構成するものとするれば、下端部の「駒の爪」とされる部分に該当する。79は下端部から7cmほどのところに細い沈線がみられ、「草の間」上端の突線の可能性がある。構造的には79は外型、80は内型に該当する。

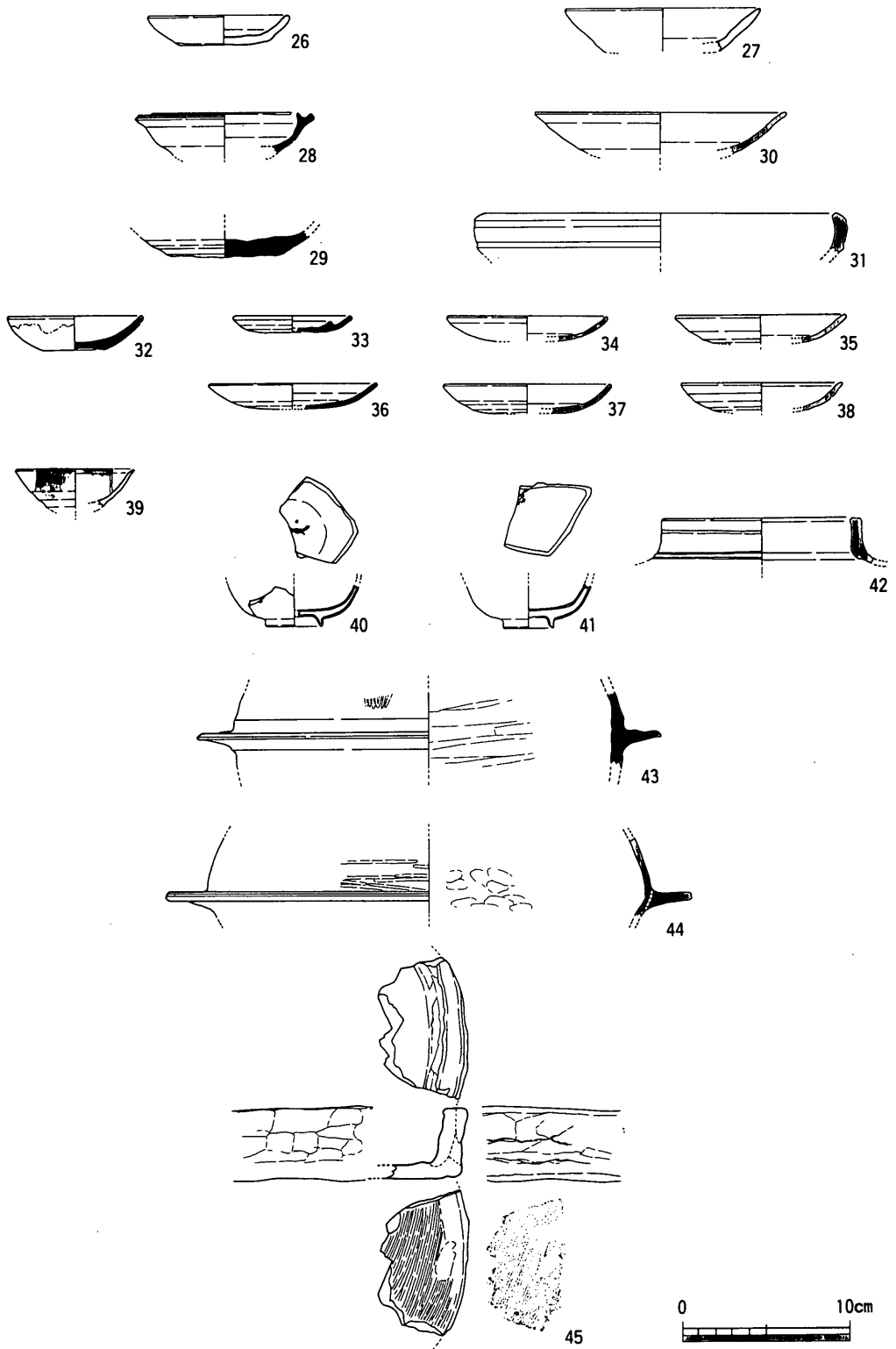
81～83は鑄面は緩やかなS字状のカーブが認められ、梵鐘肩部の内型と考えられる。B種の鑄型で、外面に精良粘土を貼り付け丁寧なナデ調整を施す。

このほか、図化していないB種の裏面と同じく粗い砂粒を含み、スサ入りの粘土で覆われた塊が多数出土している。調査範囲の関係上鑄造に関係する遺構は検出されていないが、このような梵鐘を中心とした鑄型やスサ入り粘土塊の出土は近隣に鑄造施設のあったことが窺える。

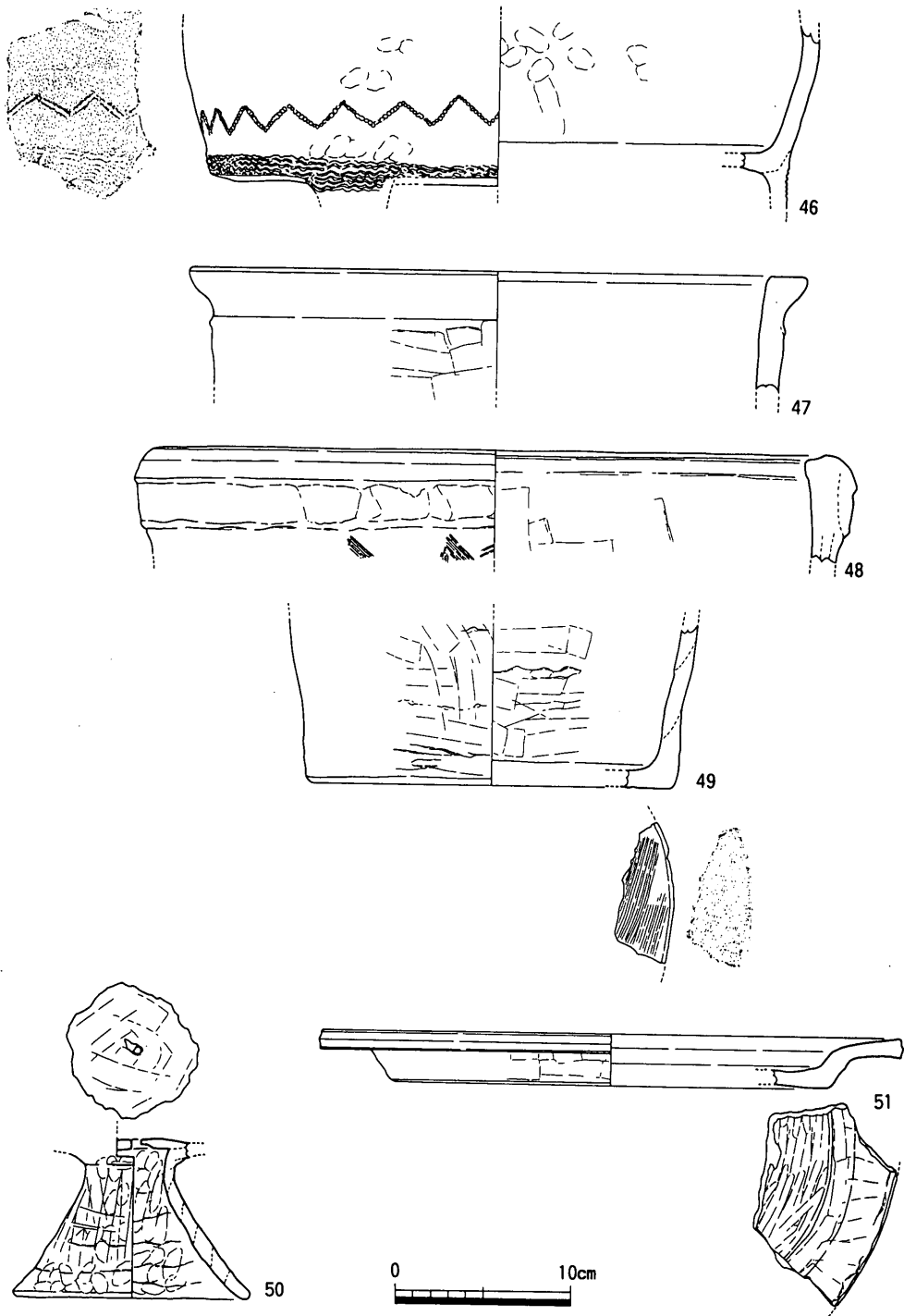
金属器類（第11図）

84～95は銅銭や薄い板状銅片である。銅銭は寛永通宝と半銭の2種で、半銭のうち1つは明治14年の銘がある。

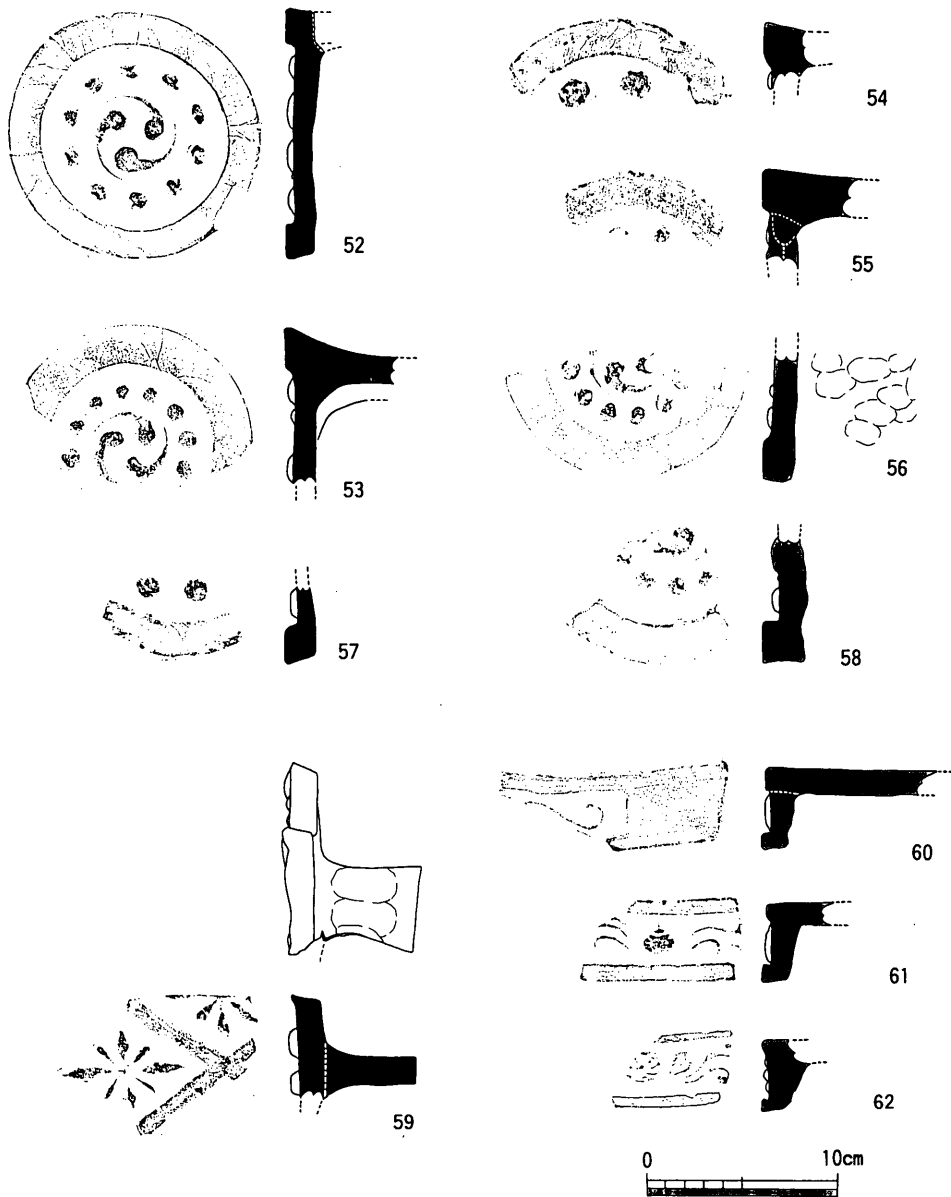
* 1 坪井良平 1970『日本の梵鐘』角川書店、同 1976『梵鐘』学生社



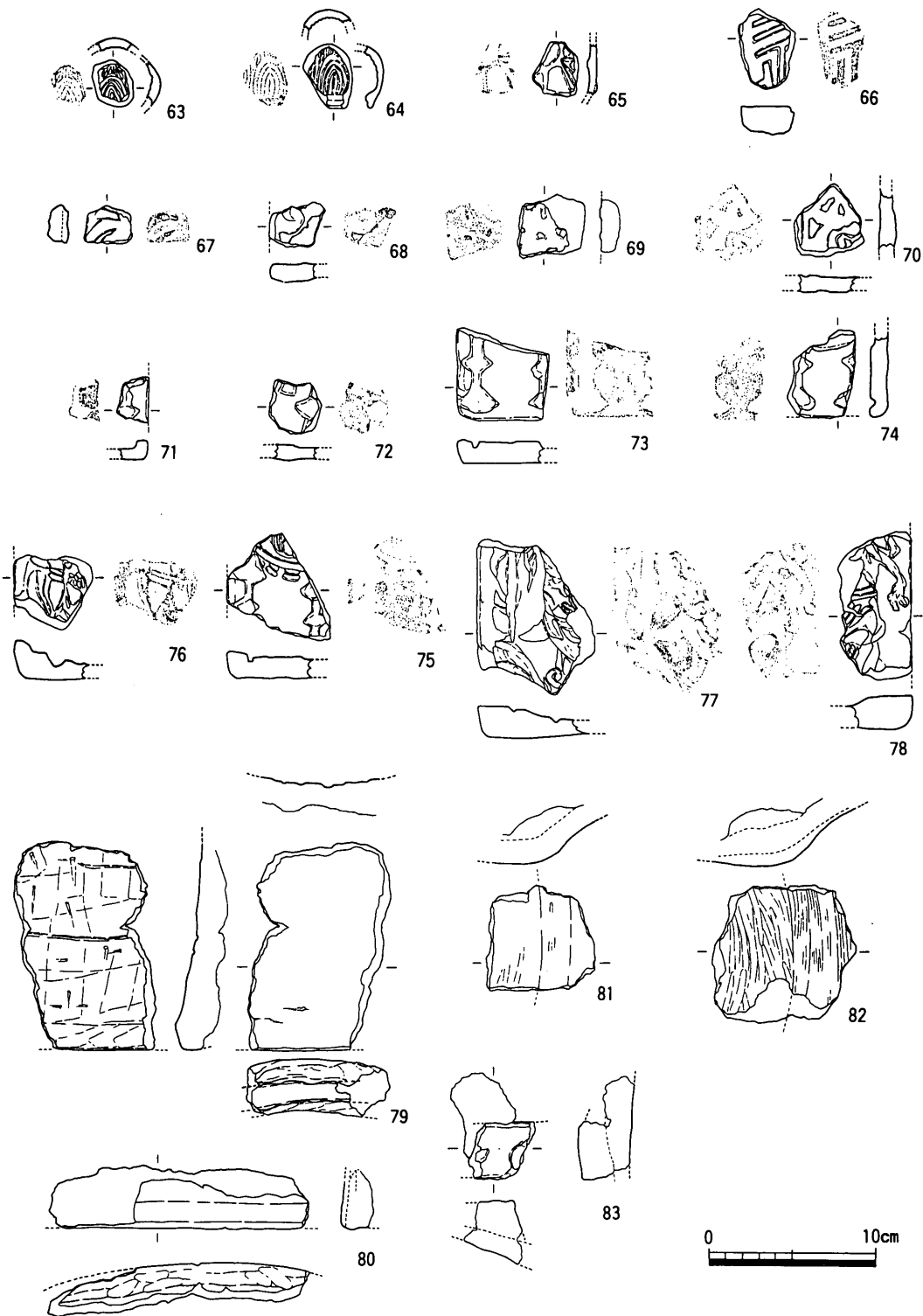
第9图 D地区出土遗物①



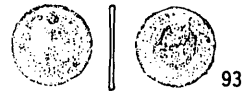
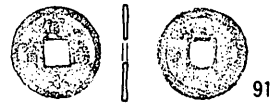
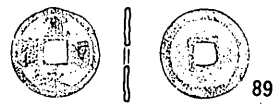
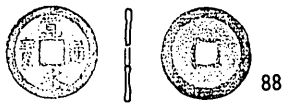
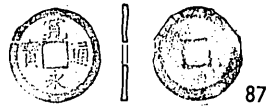
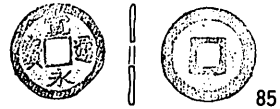
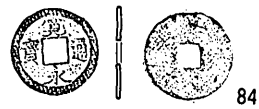
第10图 D地区出土遗物②



第11图 D地区出土遗物③



第12图 D地区出土遗物④



第13图 D地区出土遗物⑤

第5章 まとめ

C地区（飯野東分山崎南遺跡）出土の埴輪

出土した埴輪は、きわめて斉一的な様相をもつ一群である。これらは、客土層出土とはいえ周辺に山崎古墳群の存在を考慮すれば、すでに破壊された北側に古墳を想定し、破壊時の残土に含まれたものと考えるのが妥当である。分布の上ではまとまりがよく、一つの古墳に所属する埴輪と考えたい。

出土した埴輪の様相は、穴窯焼成の導入以降の川西編年V期に相当する。県内のV期の埴輪は善通寺市王墓山古墳出土資料をはじめ、中小古墳に数多く確認されている。それらは必ずしも一律の特徴を備えているものではなく、口縁部形態や凸帯形状等からいくつかの系統に整理されるものとする。今回の資料はそのような系統整理を行う際の基礎資料になり得るものである。

D地区鑄造関係遺物の評価

予備調査中にここで図化したもののほかにコンテナ約2杯分遺物が出土した。それらはほとんどがスサ入りの粘土塊であり、それに近世末～近代の陶磁器が少量含まれるという組成であった。調査時に、粘土塊は土塀かあるいは壁土を構成したものであり、整地された平坦地を中心に、保護措置に相当しないその時期の宅地が存在したものと考えた。少量出土した鑄型も、当時は鑄型と気付かずにそれ以上の評価を与えなかった点は反省すべきである。整理に当たって遺物を見直すと、一部を除いて梵鐘の鑄型と考えられるものが多く、それが近代であっても、少なくともこの場所においては後に続く産業化された鑄造工場などは存在しないのであって、香川県下で遅くとも奈良時代から平安時代ごろに始まる鑄造生産の、近代産業化直前の状況を把握する重要な資料になり得た可能性はあろう。ただし、今回調査を行った地点は、後に述べるように伊勢神社の境内前の平坦地が谷に面する地点であり、今回出土した遺物は多くが谷に落ち込んだ状態で出土している。したがって、今回の道路工事予定地と伊勢神社境内前の平坦地には、鑄造関係の遺構が未だ埋没している可能性が高いことになる。

さて、これらの鑄造関係遺物のうち鑄型については構成する粘土をA種、B種に区分した。A種はきわめて精良な粘土で粗い砂粒は含まない。それに対してB種は時に1cmを越

えるような大きな石英粒あるいは粗いスサを含むものである。この2種の粘土が同一の個体で鑄型面と裏面で使い分けられているものがあつた。梵鐘鑄型の諸例を参考にすると、このA種は「上げ真土」と考えられる。そしてB種は「粗真土」あるいは「素焼き外型」となろう。また、乳や仏像部分は別づくりとなる「サク土素焼雌型」（イケコミ手法）で裏面が丁寧なナデ調整となることに合致する*1。

梵鐘の型式からみると、乳の装飾が著しい点、仏像が表現されさらにその意匠化が進む点からみて、江戸時代中葉を遡ることはあり得ない*2。トレンチで出土した銅製品のうち明治14年の銅銭がある点や同時に出土した19世紀後半の美濃産磁器などからみて明治年間に相当するものと考えてよいであろう。

調査地はすでに記したように伊勢神社の境内前の平坦地が谷に向かって傾斜する前端部に相当する。伊勢神社の創建年代は不明であるが、例えば近世段階の北野天満宮の鑄込みが、物見遊山的な一般大衆の享楽の一つとして存在したとの指摘*3があるように、近隣の神社境内でなんらかの契機で鑄込みが行われることもありえたであろう。このような鑄込みは「出吹き*4」と言われ、近代産業として定着する以前に各所で「出吹き」を行う鑄物師集団が存在した可能性が考えられる。ちなみに香川県下で近代産業として発達した鑄物師は明治12年に書写された「由緒鑄物師人名*5」によれば、5名おり本遺跡に近いのは鵜足郡土居村の鑄物師がある。これは後に鑄造工場として丸亀市内に移動して展開する系譜がある。また、西讃の別の集団は江戸時代に移動しながら現在の位置に定着したことが伝えられている*6。このように鑄造技術が近代産業として定着する前段階、未だ移動性の高い鑄物師集団が存在した段階に行われた一過性の鑄造施設であった可能性が高いものといえる。

*1 五十川伸夫 1994『梵鐘の鑄造遺跡』『考古学ジャーナル』372, ニューサイエンス社
本書校正中に五十川氏より当資料について、特に鑄型の部位などの詳細なご教示を得た。
記して感謝申し上げる次第である。

*2 坪井良平 前掲書, 奈良国立文化財研究所 1994『梵鐘実測図実成 上・下』

*3 五十川伸夫 前掲書

*4 神崎勝 1993『梵鐘の鑄造遺跡とその変遷』『考古学研究』40—1

*5 村内政雄 1972『由緒鑄物師人名録』『東京国立博物館紀要』第7号

*6 瀬戸内海歴史民俗資料館編 1990『香川県の諸職—香川県諸職関係民俗文化財調査報告書一』香川県教育委員会

飯野東分山崎南遺跡

遺物觀察表

凡 例

胎 土

白……白色砂粒	大……鉍物・砂粒の径が1.1mm 以上	多……鉍物・砂粒を多く含む
茶……茶色砂粒	中…… 〃 0.6~1.0mm	少…… 〃 少量含む
灰……灰色砂粒	小…… 〃 0.5mm 以下	微…… 〃 僅かに含む
透……透明砂粒		

含有鉍物等（埴輪）

含有鉍物等の名称を記載し，多く含まれるものは（ ）内にその粒子の大きさをmm単位で示した。

色 調 『新版標準土色帖(1992年版)』（日本色研事業株式会社）による表記

口（底）径／最大径 すべて cm・g に統一した

飯野東分山崎南遺跡 遺物観察表 (1)

遺物番号	挿図番号	図版番号	報告書遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴
22	8	7	C地区 表探	須恵器 壺	(12.6)			白・黒・茶, 小~中, 少	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
23	8	7	C地区 6トレ盛土層	須恵器 甕				白, 小, 少	黄灰色(2.5Y 4/1)	黄灰色(2.5Y 5/1)	平行タタキ	当て具痕	小破片	
24	8	7	C地区 東北傾斜地	須恵器 甕				灰・白・透, 小~ 中, 多	にぶい黄色 (2.5Y6/3)	灰黄色(2.5Y 7/2)	格子タタキ後 ハケ	当て具痕	破片	
25	8	7	C地区 6トレ盛土層	須恵器 甕				灰・白, 小, 少	灰色(N5/)	灰色(N6/)	平行タタキ	当て具痕	破片	
26	9	8	D地区 表探	土師器 皿	8.3	1.75	5.4	黒・茶・灰, 小, 多	浅黄褐色(7.5 Y8/4)	浅黄褐色(7.5 Y8/4)	底部:ヘラ切 り後ハケ調整 回転ナデ	回転ナデ	完存	
27	9	8	D地区 1トレ	土師器 杯	(11.4)			白・透・黒, 小, 少	褐色(7.5YR 7/6)	褐色(7.5YR 7/6)	回転ナデ	回転ナデ	1/6	
28	9	8	D地区 表探	須恵器 杯	(8.6)			白, 小~中, 多	灰色(N5/)	灰色(N4/)	回転ナデ	回転ナデ	1/7	
29	9	8	D地区 表探	須恵器 杯			(7.0)	黒・白・透, 小~中, 多	白灰色(N7/)	白灰色(N7/)	回転ナデ,ヘ ラ切り後ナデ	回転ナデ	1/8	
30	9	8	D地区 表探	須恵器 杯	(14.8)			灰・白・透, 小~中, 多	灰色(N6/)	灰色(N6/)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
31	9	8	D地区 表探	須恵器 壺	(20.8)			白・黒・茶, 小, 少	胎:灰 白色 (2.5GY8/1)	釉:暗オリー ブ灰色(2.5G Y4/1)	回転ナデ	回転ナデ	1/8	
32	9	8	D地区 1トレ	陶器 小皿	7.9	2.0	3.7	精緻	浅黄色(2.5Y 7/3)	灰色(5Y6/1)	回転ナデ,回 転ヘラ削り	回転ナデ	完存	施軸, 貫入
33	9	8	D地区 1トレ	陶器 灯明 皿	(6.7)	1.0	(3.1)	黒・白, 微	暗赤褐色(2.5 YR3/6)	赤褐色(2.5Y 4/6)	回転ヘラ削り	回転ナデ	1/7	内面にかえり
34	9	8	D地区 1トレ	陶器 灯明 皿	(9.4)			白・黒, 小, 少	にぶい赤褐色 (2.5YR4/4)	明赤褐色(2.5 YR5/6)	回転ナデ,回 転ヘラ削り	回転ナデ	1/6	
35	9	9	D地区 1トレ	陶器 灯明 皿	(10.0)			小, 小, 微	にぶい赤褐色 (2.5YR4/4)	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	回転ヘラ削り	回転ナデ	破片	
36	9	8	D地区 1トレ	陶器 灯明 皿	(9.8)	1.5		黒・白, 小, 少	にぶい赤褐色 (2.5YR5/4)	明赤褐色(2.5 YR5/6)	回転ヘラ削り	回転ナデ		
37	9	8	D地区 1トレ	陶器 灯明 皿	(9.8)	1.75		茶・白, 小, 少	褐灰色(5YR 4/1)	灰褐色(5YR 5/2)	回転ヘラ削り	回転ナデ	1/6	

飯野東分山崎南遺跡 遺物観察表 (2)

遺物番号	図版番号	報告書遺構名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴
38	9	D地区1トレ	陶器 灯明皿	(9.5)			白・黒、小、微	にぶい赤褐色(2.5Y R4/4)	にぶい赤褐色(2.5Y R5/4)	回転ナデ、回転ヘラ削り	回転ナデ	破片	
39	9	D地区1トレ	磁器 猪口	(6.9)			精緻	釉：透明	胎土：白色	施釉、回転ナデ	回転ナデ	1/8	内外面鉄釉の部分掛け
40	9	D地区1トレ	磁器 酒杯		(3.2)		精緻	胎：灰白色(7.5Y 8/1)	釉：灰白色(5GY 8/1) 呉須：?	回転ナデ	回転ナデ	1/3	生掛け施釉
41	9	D地区1トレ	磁器 酒杯		(2.8)		精緻	胎：灰白(N8/)	釉：灰白(5GY 8/1) 呉須：濃青	施釉：回転ナデ	施釉：回転ナデ	1/2	生掛け施釉
42	9	D地区1トレ	瓦質土器 茶釜	(11.7)			白・黒、小、少	暗灰色(N3/)	暗灰色(N3/)	回転ナデ	回転ナデ	破片	
43	9	D地区1トレ	瓦質土器 羽釜				白・黒、小、少	灰白色(7.5Y 7/1)	灰色(N4/)	ハケ、剥落、回転ナデ	板ナデ	1/8	
44	9	D地区1トレ	瓦質土器 羽釜				白・黒、小、少	黄灰色(2.5Y 4/1)	黄灰色(2.5Y 4/1)	ヘラミミガキ、横ナデ、	指押後横ナデ	1/8	
45	9	D地区1トレ	土師質土器 焙烙				赤・黒・白・透、小～中、多	浅黄色(2.5Y 7/3)	にぶい、橙色(7.5Y R7/4)	板ナデ、ハケ底面ハケ	板ナデ、ナデ	破片	
46	10	D地区1トレ	土師質土器 火鉢				白・灰・茶・黒、中、多	褐灰色(10Y R4/1)	にぶい黄褐色(10Y R7/4)	ナデ	ナデ	破片	
47	10	D地区1トレ	土師質土器 甕	(34.4)			白・透、小～中、多	黒色(2.5Y 2/1)	にぶい黄褐色(10Y R6/3)	回転ナデ、板ナデ	回転ナデ	1/8	
48	10	D地区1トレ	土師質土器 甕	37.4			白・灰・茶・黒、小～中、多	にぶい黄褐色(10Y R6/3)	にぶい黄褐色(10Y R7/4)	横ナデ、板ナデ、ナデ	板ナデ後ナデ	破片	
49	10	D地区1トレ	土師質土器 甕		(20.1)		黒・白・透、小～中、多	にぶい黄褐色(10Y R7/3)	にぶい黄褐色(10Y R7/4)	板ナデ、ハケ	板ナデ	1/8	
50	10	D地区表探	土師質土器 高杯状		12.9		茶・白・灰・透、小～中、多	淡褐色(5Y R 8/4)	浅黄褐色(7.5Y R 8/4)	板ナデ、指押後ナデ後板ナデ	指押、ナデ	完存	坏部に穿孔
51	10	D地区表探	土師質土器 皿	(32.6)	2.9		白・灰・茶・透、小～中、多	褐色(7.5Y R 6/6)	にぶい黄褐色(10Y R5/4)	板ナデ、ヘラミガキ	横ナデ	1/8	
52	11	D地区1トレ	軒丸瓦	垂れ長 直径 13.0			白・灰、小、微	暗灰色(N3/)	暗灰色(N3/)	ナデ	ナデ		
53	11	D地区1トレ	軒丸瓦	瓦当径 6.0			灰・白、小、多	灰色(N5/)	灰色(N5/)	板ナデ、ナデ	板ナデ、ナデ	?	珠文8、巴文

飯野東分山崎南遺跡 遺物観察表 (3)

遺物番号	挿図番号	版番号	報告書遺構名	器種	口径(cm)	器高(cm)	底径(cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴
54	11	11	D地区 1トレ	軒丸瓦	瓦当径 6.0			茶・黒・白, 小~中, 多	灰白色(N7/)	灰白色(N7/)	ナデ	板ナデ	?	珠文2
55	11	11	D地区 1トレ	軒丸瓦	(13.4)			白, 小, 少	灰色(N6/)	灰色(N6/)	板ナデ	板ナデ	1/2	
56	11	11	D地区 1トレ	軒丸瓦	(13.8)			白・透, 小, 少	暗灰色(N3/)	暗灰色(N3/)	ナデ	指押後板ナデ 後ナデ	1/2	
57	11	11	D地区 1トレ	軒丸瓦	瓦当径 6.5			白・透, 小, 多	灰色(N6/)	灰色(N6/)	ナデ	指押後ナデ	?	珠文2
58	11	11	D地区 1トレ	軒丸瓦	垂れ長 直径 13.2		厚さ 2.2	白・灰, 小, 少	暗灰色(N3/)	暗灰色(N3/)	ナデ	指ナデ	破片	
59	11	11	D地区 1トレ	瓦質				白, 小, 少		灰色(N4/)	板ナデ, ナデ		1/2	
60	11	11	D地区 1トレ	軒平瓦	垂れ長 直径 4.2		厚さ 1.3	白・透, 小~中, 少	灰色(N4/)	灰色(N4/)	ナデ, 板ナデ	ナデ	破片	
61	11	-	D地区 1トレ	軒平瓦	現存長 3.6			白, 小, 少	灰色(N4/)	灰色(N5/)	板ナデ, ナデ	板ナデ, ナデ		
62	11	-	D地区 1トレ	軒平瓦				灰・白・透, 小~中, 多	灰白色(7.5Y 7/1)	灰色(7.5Y6/ 1)	ナデ	板ナデ		
63	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白, 小, 多		橙色(5Y R7/ 6)	ナデ		破片	
64	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・透, 小, 少	橙色(7.5Y R 6/6)	橙色(7.5Y R 6/6)	ナデ		破片	
65	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・黒, 小, 微	にぶい黄橙色 (10Y R6/4)	にぶい黄橙色 (10Y R6/4)	ナデ	ナデ	小破片	
66	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・黒, 小, 少		橙色(5Y R6/ 6)	ナデ		破片	
67	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・黒, 小, 少		にぶい 橙色 (7.5Y R6/4)	ナデ		小破片	
68	12	12	D地区 1トレ	鋳型				黒・白・透, 小~大, 多		浅黄色(2.5Y 7/3)	ナデ		小破片	
69	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・茶・黒, 小, 多		橙色(5Y R6/ 6)	ナデ		小破片	

飯野東分山崎南遺跡 遺物観察表 (4)

遺物番号	図版番号	図版番号	報告書遺構名	器種	口径 (cm)	器高 (cm)	底径 (cm)	胎土	色調(内面)	色調(外面)	外面調整	内面調整	残存率	形態上の特徴
70	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・透, 小~大, 多		にぶい 橙色 (7.5Y R6/4)	ナデ		破片	
71	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白黒, 小, 少		橙色(5Y R7/ 8)	ナデ		小破片	
72	12	12	D地区 1トレ	鋳型		厚さ 0.9		白・灰・黒, 小, 多	にぶい黄褐色 (10Y R6/4)	にぶい黄褐色 (10Y R5/3)	ナデ	ナデ	小破片	
73	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・灰, 小, 多		橙色(5Y R6/ 6)	指押, ナデ		破片	
74	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白, 小, 多		橙色(5Y R6/ 6)	指押, ナデ		破片	
75	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白, 小, 多		にぶい黄褐色 (10Y R6/4)	ナデ		破片	
76	12	12	D地区 1トレ	鋳型				黒・白・透, 小, 多		橙色(5Y R6/ 6)	指押, ナデ		破片	
77	12	12	D地区 1トレ	鋳型				黒・白, 小, 多		橙色(7.5Y R 7/6)	ナデ, 横ナデ		破片	
78	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・黒, 小, 多		橙色(5Y R7/ 8)	ナデ, 横ナデ		破片	
79	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・茶・灰・透, 小 ~大, 多	淡黄色(2.5Y 8/6)			ヘラ削り	破片	
80	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・灰・茶・透, 小 ~大, 多		橙色(7.5Y R 6/6)	ナデ		破片	
81	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・灰・茶・透, 小 ~大, 多		にぶい黄褐色 (10Y R6/4)	摩滅, ヘラミ ガキ		破片	
82	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・灰・茶・透, 小 ~大, 多	橙色(5Y R6/ 6)	明黄褐色(10 Y R7/6)	ヘラミガキ		破片	
83	12	12	D地区 1トレ	鋳型				白・茶・透, 小~大, 多		にぶい黄褐色 (10Y R7/4)	ナデ		破片	
94	13	13	D地区 1トレ	銅製品		最大幅 3.7				緑灰色(5C6/ 1)				表面に緑錆
95	13	13	D地区 1トレ	銅製品		最大幅 3.0				緑灰色(5C6/ 1)				表面に緑錆

埴輪観察表 (1)

遺物番号	図版番号	遺構名1	器種	残存部位	復最大径	色調(内面)	色調(外面)	色調(断面)	含有鉱物等(単位はmm)	焼成	口縁部(底部)形態	透孔	凸帯形態	外面調整	内面調整	備考
1	6	C地区6トレ盛土層	朝顔	頸部	(21.5)	浅緑橙色(7.5YR 8/6)	橙色(5Y R 7/6)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/3)	石英(~2.0), チャート(~3.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)			三角形	タテハケ(6条/cm)	ヨコハケ(8条/cm)	粘土接合痕
2	6	C地区6トレ盛土層	円筒	口縁部	(22.0)	灰黄色(2.5Y 6/2)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/4)	暗緑灰色(7.5GY 4/1)	石英(~1.0)	土師質(硬)	直口, 端部平坦, 外端部上へ			ヨコナデ	ヨコナデ	
3	6	C地区6トレ盛土層	円筒	口縁部	(18.5)	橙色(7.5 Y R 5/6)	橙色(7.5 Y R 6/6)	灰黄色(2.5Y 7/2)	石英(~1.5), 長石(~0.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)	直口, 端部平坦, 口縁部に浅い沈線			タテハケ(6条/cm)	指押さえ	
4	6	C地区表探	円筒	口縁部	(22.8)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/3)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/3)	暗青灰色(5B G 4/1)	石英(~1.5)	須恵質(酸化)	直口, 端部平坦			タテハケ(7条/cm)	指ナデ	
5	6	C地区表探	円筒	口縁部	(27.0)	にぶい黄褐色(10 Y R 6/3)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/3)	暗緑灰色(7.5GY 4/1)	石英(~3.0)	須恵質(表面酸化, 断面還元)	直口, 端部平坦, 外端部上へ			タテハケ(7条/cm)	指ナデ	同一個体の可能性あり
6	6	C地区6トレ盛土層	円筒	口縁部	(27.4)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/3)	にぶい黄褐色(7.5Y R 5/4)	暗緑灰色(7.5GY 3/1)	石英(~1.5)	土師質(硬)	直口, 端部平坦, 外端部上へ			タテハケ(6条/cm)	ヨコナデ	
7	6	C地区6トレ盛土層	円筒	胴部		にぶい黄褐色(7.5Y R 5/4)	橙色(5Y R 6/8)	暗緑灰色(7.5GY 3/1)	石英(~2.0)	須恵質(表面酸化, 断面還元)			上端凹面, 凸帯下に間隔をおいてヨコナデ	タテハケ(10条/cm)	指押さえ	
8	6	C地区表探	円筒	胴部	(14.8)	橙色(5Y R 6/8)	橙色(5Y R 6/8)	灰黄色(2.5Y 7/2)	石英(~1.0), チャート(5.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)			上端凹面, 凸帯上下端をヨコナデ	タテハケ(6条/cm)	指押さえ	
9	6	C地区表探	円筒	胴部	(18.7)	橙色(5Y R 6/6)	橙色(5Y R 6/8)	灰黄色(2.5Y 7/2)	石英(~4.0), 長石(~1.0), チャート(~1.5)	土師質(軟)			上端平坦面, 凸帯上下端をヨコナデ	タテハケ(5条/cm)	指押さえ	摩滅顕著
10	6	C地区崖下	円筒	胴部	(19.3)	にぶい黄褐色(10 Y R 5/3)	橙色(5Y R 6/6)	暗緑灰色(7.5GY 3/1)	石英(~2.0), 長石(~1.0), チャート(~2.5)	須恵質(表面酸化, 断面還元)			上端凹面, 凸帯下に間隔をおいてヨコナデ	タテハケ(5条/cm)	指ナデ	
11	6	C地区表探	円筒	胴部	(22.5)	橙色(7.5 Y R 6/6)	橙色(7.5 Y R 6/6)	灰黄色(2.5Y 7/2)	石英(~1.5), 長石(~1.0), チャート(~1.0), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)			上端凹面	タテハケ	指押さえ	摩滅顕著

埴輪観察表 (2)

遺物番号	図版番号	遺構名1	器種	残存部位	復元最大径	色(内面)	色(外面)	色調(断面)	含有鉱物等(単位はmm)	焼成	口縁部(底部)形態	透孔	凸帯形態	外面調整	内面調整	備考
12	6	C地区6トレ盛土層	円筒	胴部	(21.3)	橙色(5Y R6/8)	橙色(5Y R6/8)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-1.0), 長石(-1.0), チャヤ斑粒(-3.5), 赤色斑粒(-1.5), 黒色鉱物	土師質(軟)			薄鋒状, 凸帯下に間隔をおいてヨコナテ	タテハケ(7条/cm)	指押さえ	摩滅頭著
13	6	C地区表採	円筒	胴部	(20.0)	橙色(7.5 Y R7/6)	橙色(5Y R7/6)	暗青灰色(5B G4/1)	石英(-3.0), 長石(-1.5), チャヤ斑粒(-0.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)			上端凹面, 凸帯下端をヨコナテ	タテハケ(6条/cm)	指押さえ, 指ナテ	摩滅頭著
14	6	C地区表採	円筒	胴部	(19.8)	橙色(7.5 Y 6/6)	橙色(7.5 Y R6/8)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-3.0), 長石(-4.0), チャヤ斑粒(-0.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)			上端凹面, 凸帯下に間隔をおいてヨコナテ	タテハケ(6条/cm)	指ナテ	凸帯貼付前に割付沈線
15	6	C地区表採	円筒	胴部	(22.4)	橙色(5Y R6/6)	橙色(5Y R6/6)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-2.5), チャヤ斑粒(-2.5)	土師質(軟)			上端凹面, 凸帯下に間隔をおいてヨコナテ	タテハケ(5条/cm)	指押さえ	摩滅頭著
16	6	C地区東テラス表採	円筒	胴部	(24.0)	灰色オリーブ色(5 Y 5/3)	にぶい黄褐色(10 Y R5/3)	暗緑灰色(7.5 G Y 4/1)	石英(-1.5), 長石(-0.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	須恵質(表面酸化, 断面還元)			上端凹面, 凸帯下に間隔をおいてヨコナテ	タテハケ(5条/cm)	指押さえ	指ナ
17	7	C地区6トレ盛土層	円筒	胴部	(20.0)	にぶい橙色(5Y R6/4)	暗灰黄色(2.5Y5/2)	暗青灰色(5B G4/1)	石英(-3.0), 長石	須恵質(表面酸化, 断面還元)		円形	上端凹面	タテハケ(6条/cm)	指ナテ	
18	7	C地区表採	円筒	胴部	(24.5)	橙色(5Y R6/8)	橙色(5Y R6/8)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-2.5), 長石, チャヤト(-1.0), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)		円形	上端凹面	タテハケ(5条/cm)	指ナテ	
19	7	C地区6トレ土層	円筒	胴部	(25.0)	橙色(5Y R6/6)	橙色(5Y R6/6)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-1.5), 長石, チャヤト(-2.0), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)		円形	上端凹面, 凸帯下に間隔をおいてヨコナテ	タテハケ(5条/cm)	指ナテ	
20	7	C地区表採	円筒	胴部下半	(21.3)	橙色(7.5 Y R6/6)	橙色(7.5 R Y 6/8)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-6.0), チャヤト(6.0), 赤色斑粒(-3.0), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)		円形	上端凹面	タテハケ	指ナテ	摩滅頭著
21	7	C地区6トレ土層	円筒	底部	(19.2)	橙色(5Y R7/8)	黄橙色(7.5 Y R 7/8)	灰黄色(2.5Y7/2)	石英(-3.0), 長石(-3.0), チャヤト(-3.0), 赤色斑粒(-2.5), 赤色斑粒, 黒色鉱物	土師質(軟)		円形	上端平坦	タテハケ	指ナテ	摩滅頭著

龍川五条遺跡Ⅱ

図 版



前池地区 全景

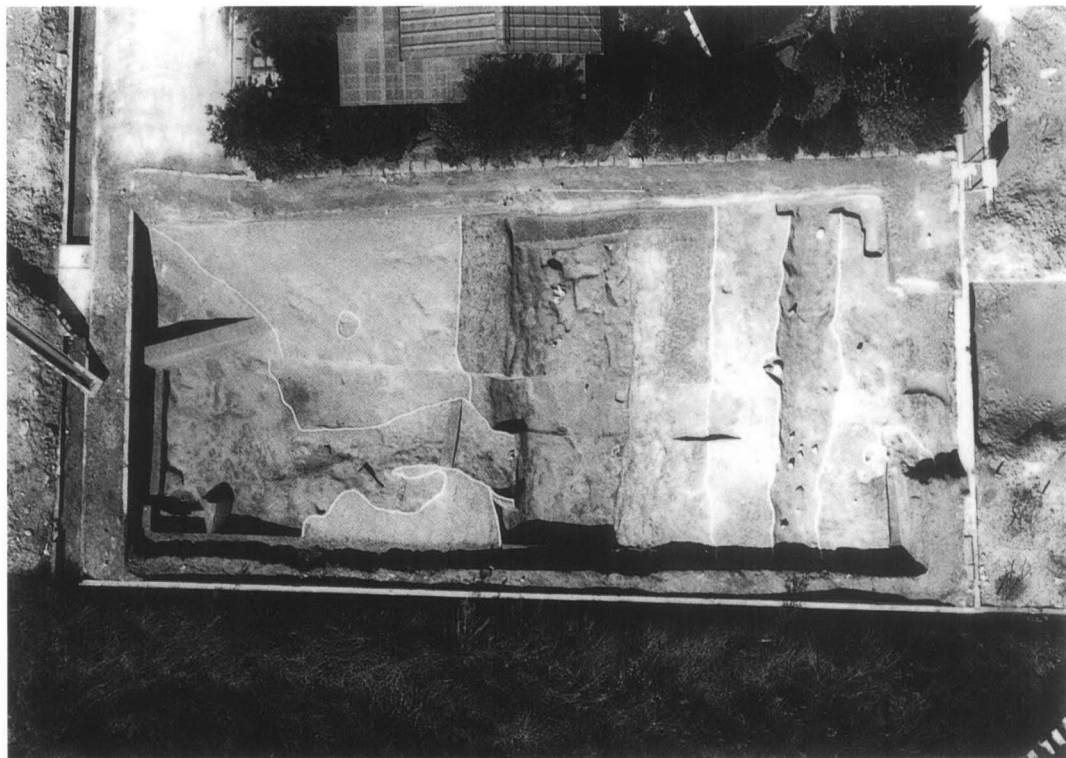


IVB区 全景



V①②区 全景

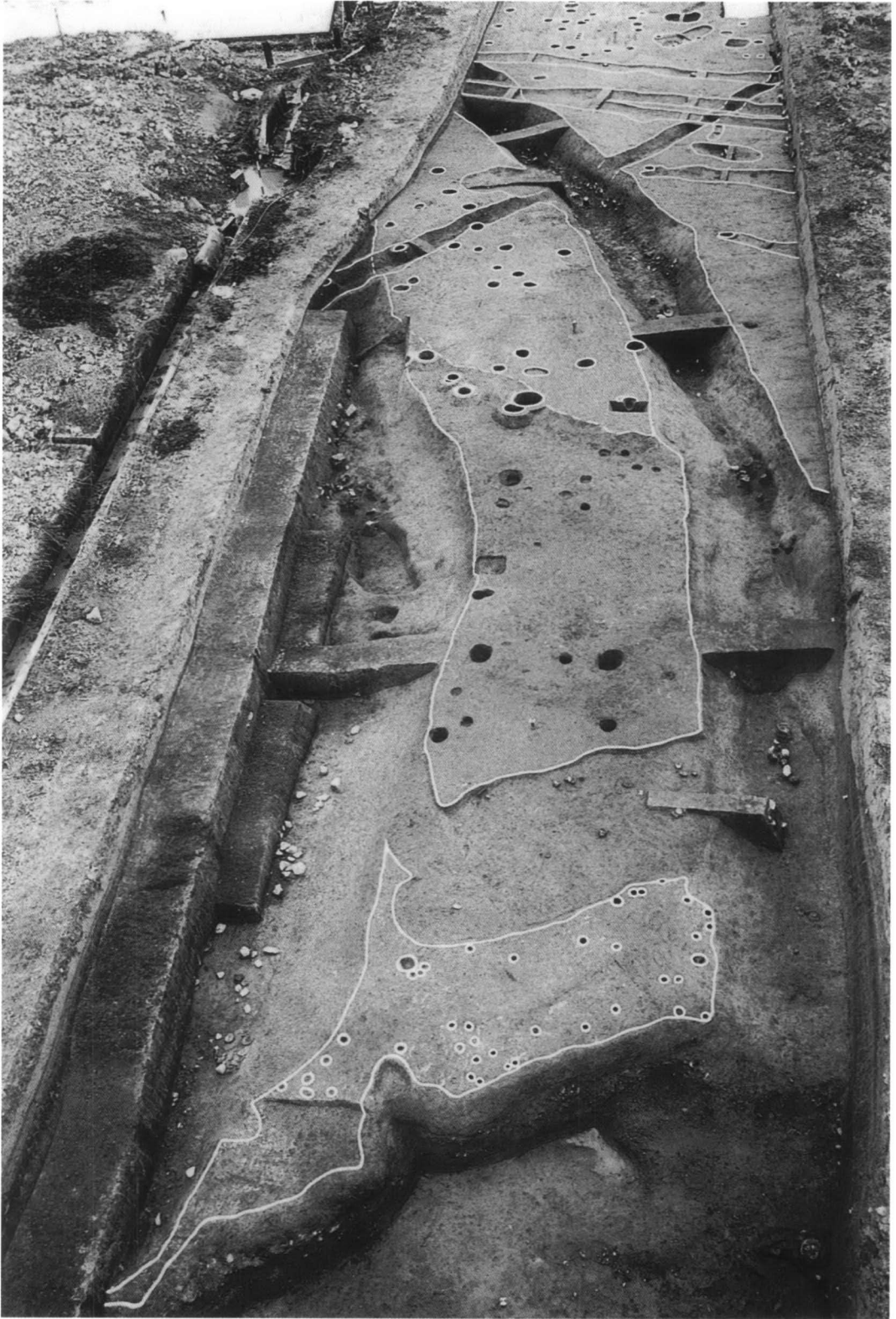
图版 4



(1) V④区 全景

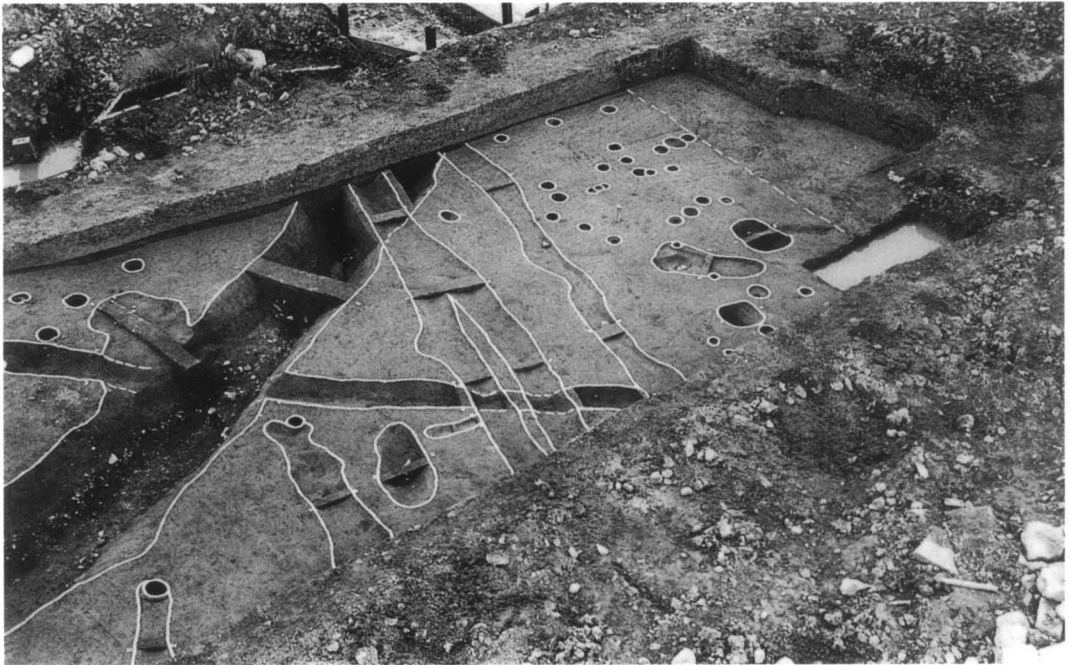


(2) V⑥区 全景



前池地区弥生前期面 全景（西より）

図版 6



(1) 前池地区 東半部 (南より)



(2) 前池地区 SD49 の砂礫層基盤



(1) 前池地区 SD49 土層断面③ (東より)



(2) 前池地区 SR04・SD49 合流部土層断面④ (西より)

図版 8



(1) 前池地区 SD49 最下層土器出土状況 (東より)



(2) 前池地区 SD50 土器出土状況 (東より)

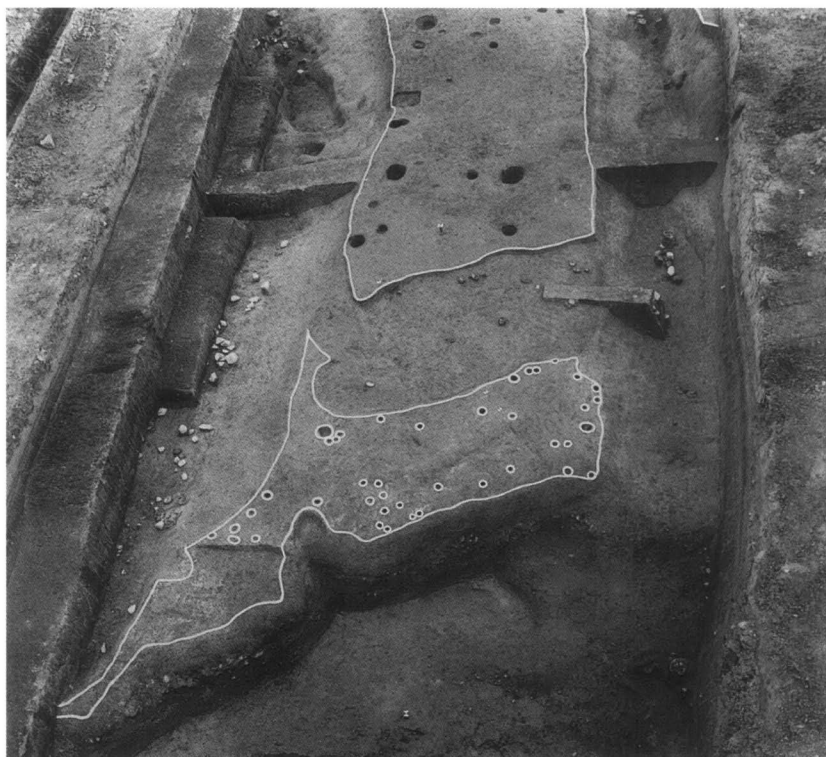


(1) 前池地区 SD50 土器出土状況 (東より)



(2) 前池地区 SR04 (東より)

図版10



(1) 前池地区 SX07及び小ピット群 (西より)



(2) 前池地区 SR04 基盤河川自然木出土状況 (東より)



(1) V④区 SD51 土層断面 (南より)



(2) V④区 SD51 (北東より)



(1) IVB区 SR05 北半河床面 (南より)



(2) IVB区 SR05 土層断面① (南より)

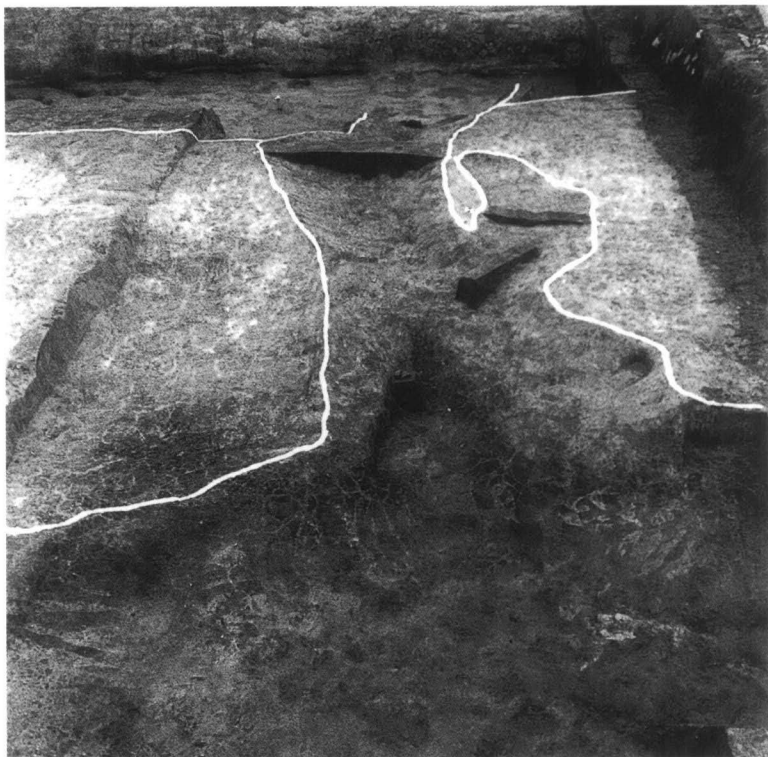


(1) IVB区 SR05 土層断面③ (北より)



(2) IVB区 SR05 土器出土状況

図版14



(1) V④区 SD52 (西より)



(2) V④区 SD52 土層断面 (西より)



(1) V④区 SD52 高杯出土状況



(2) IV区 SR06 全景 (南より)

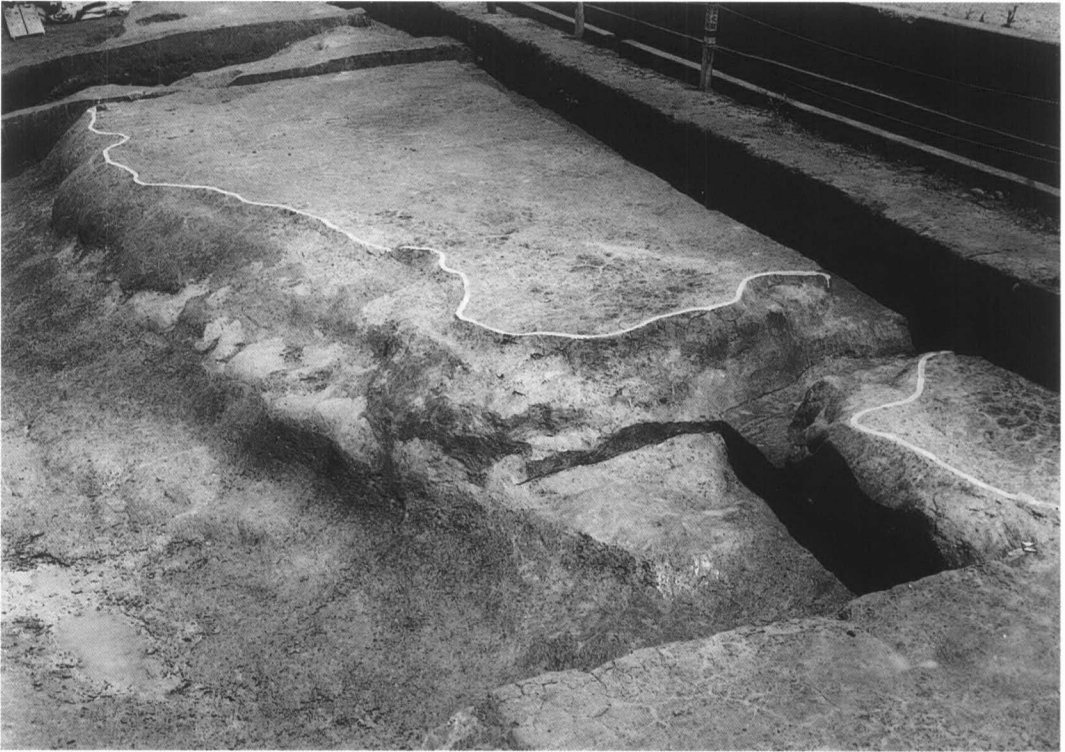
図版16



(1) IVB区 SR06 北半部 (南より)



(2) IVB区 SR06 (南より)



(1) IVB区 SR06 (南より)



(2) IVB区 SR06土層断面② (南より)



(1) IVB区 SR06 土層断面③ (南より)



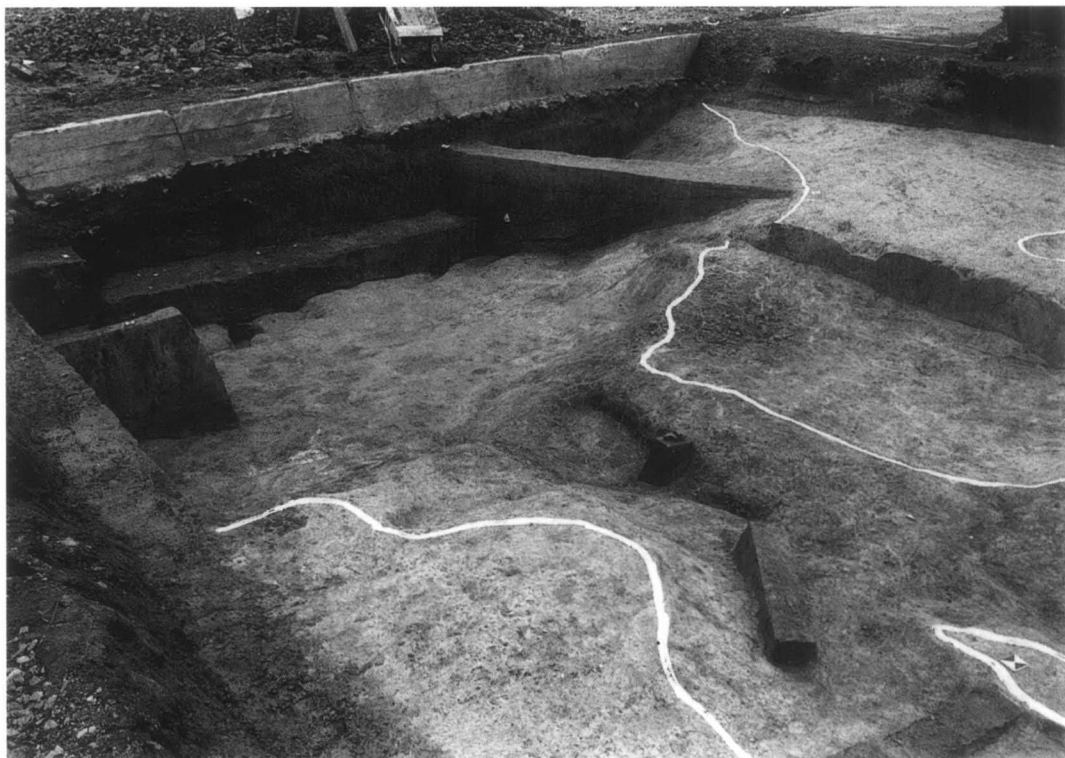
(2) IVB区 SR06 土層断面④ (北より)



(1) IVB区 SR06 土層断面⑥ (南より)



(2) IVB区 SR06 土層断面⑦ (南より)



(1) V④区 SR06 土層断面⑨ (南東より)



(1) V④区 SR06 土層断面⑨ (南より)



(1) IVB区 SR06 木製品等出土状況 (南より)



(2) IVB区 SR06 断面⑥ 木製品 (3465) 出土状況 (南より)